

2011 年 10 月 申請

指導教員：山内啓介教授

2011 年度 博士学位申請論文

# 中日同形語の研究

愛知淑徳大学大学院

コミュニケーション研究科

言語コミュニケーション専攻

何宝年



## 目 次

序章	1
注	6
第一章 「中日同形語」の定義	15
1. はじめに	15
2. 先行研究	15
3. 同形語の分類	17
4. 言語内同形語	17
4.1 中国語同形語	17
4.2 日本語同語	18
5. 言語間同形語	20
5.1 中日同形語と漢字の書き方	20
5.2 中日同形語と漢字語の読み方	20
5.3 中日同形語と送り仮名	21
5.4 中日同形語と文字数	22
5.5 中日同形語と語構成	22
5.6 中日同形語と借用語	22
5.7 中日同形語と複合語・連語	23
5.8 中日同形語の範囲	23
5.9 中日同形語の量	24
6. おわりに	25
注	25
第二章 中日同形語の語義相違の要因	33
1. はじめに	33
2. 先行研究	33
2.1 同形語の形成の要因	33
2.2 同形語の語義相違の要因	33
3. 中日同形語の形成の要因	34
4. 語義の相違をもたらす要因	34



4.1	環境の影響	35
4.2	翻訳や借用時の限定特化	36
4.3	中日での意味用法の変化	37
4.3.1	中国語での意味の変化	37
4.3.1.1	日本に伝わった意味が消え、他の意味が残っていたり、 別の意味に変わったりした言葉	37
4.3.1.2	品詞性に関する意味の変化	40
4.3.1.3	語義の抽象化	41
4.3.1.4	意味の特化	42
4.3.2	日本語での意味の変化	43
4.3.2.1	意味範囲の変化	43
4.3.2.2	語の転義	45
4.3.2.3	動作対象の変化	46
4.3.2.4	語の褒貶義の変化	46
4.3.2.5	品詞性の変化	47
4.3.3	中日とも変化した	48
4.3.3.1	それぞれ別の転義	48
4.3.3.2	意味の減少	50
4.3.3.3	成語に対する理解が違う	50
4.4	略語による違い	51
4.4.1	中日とも略語である言葉	51
4.4.2	日本語だけの略語	51
4.5	日本語での同音漢字の書き換え	52
4.5.1	意味用法に影響が出ない書き換え	52
4.5.2	意味用法に影響が出ない統合	52
4.5.3	意味用法に影響が出る書き換えと統合	53
4.6	漢字の意味による違い	56
4.6.1	中国語の漢字の意味が日本語より多い	56
4.6.2	日本語で漢字の意味に対する理解が変わった	57
4.6.3	日本語で漢字に新しい意味を持たせた	58
4.6.4	漢字の意味が違う	60
4.7	語構成による違い	63
4.8	偶然の一致によって形成した同形語	64
4.9	発音による違い	66
4.9.1	日本語で二つ以上の読み方がある言葉	66
4.9.2	中国語で二つ以上の読み方がある同形語	66



5. おわりに	67
注	68

### 第三章 中日同形語と語構成 101

1. はじめに	101
2. 先行研究	101
2.1 語構成の用語	101
2.2 合成語の分類	101
2.2.1 中国での分類	101
2.2.2 日本での分類	102
3. 筆者の用語と語構成の分類	102
3.1 「根字」と「非根字」	102
3.2 中国語の特殊な「根字」と「非根字」	103
3.3 語構成の分類	103
3.3.1 単純語	103
3.3.2 合成語	103
4. 中日同形語の語構成の分類と比較	104
4.1 同じ構成の中日同形語	104
4.1.1 同じ構成で意味が同じであったり似たりする漢字語	104
4.1.2 同じ構成で意味や用法が違ったりする漢字語	105
4.2 違う構成の漢字語	107
4.2.1 中日両方とも複合語であるが、RとRの結合関係が違う	107
4.2.2 中国語では派生語、日本語では複合語	108
4.2.3 中国語でもともと二種類の語構成の意味用法があったが、現在 中日でそれぞれ違う意味しか使われていない漢字語	109
4.2.4 日本語では合成語で、中国語では合成語でなく、連語である	110
4.3 一方あるいは双方が二種類以上の構成を持っている漢字語	113
4.3.1 中国語で二種類の構成を持っている言葉	113
4.3.2 日本語で二種類の構成を持っている言葉	115
4.3.3 中日とも二種類以上の語構成を持っている言葉	116
4.4 日本語独特な語構成の漢字語	116
5. おわりに	117
注	117



#### 第四章 中日同形語の品詞性比較.....124

1. はじめに.....	124
2. 先行研究.....	124
3. 品詞問題が起こる可能性が低い同形語.....	125
3.1 中日とも、単一の品詞性しか持たない名詞、副詞、接続詞.....	125
3.2 中国語では動詞で、日本語では名詞とサ変動詞である言葉.....	125
3.3 中国語では形容詞で、日本語では名詞・形容動詞である.....	126
4. 品詞問題が起こりやすい同形語.....	126
4.1 中国語では名詞である言葉.....	126
4.2 中国語で動詞である言葉.....	127
4.3 中国語では形容詞である言葉.....	130
4.4 中国語で副詞である言葉.....	132
5. 中日同形語の品詞性の違いの要因.....	133
5.1 品詞性の変化.....	133
5.2 中日同形語を構成する漢字の品詞性に対する意識の違い.....	136
5.3 日本語では漢字に新しい意味を与えた.....	137
5.4 日本人は一部分の漢語の基本義に忠実であるが、中国語では言葉の 基本義からどんどん離れていき、抽象的な派生義が発達していた.....	137
5.5 日本人は物事を動態的に捉え、中国人は物事を静態的に捉える傾向がある.....	138
5.6 日本人は物事のプロセスを重んじ、中国人はプロセスより結果を重んじる 傾向がある.....	138
5.7 自他動詞の違いの要因.....	138
5.8 日本語では漢語の造語要素になった.....	139
5.9 “介詞”は中国語独特な品詞類.....	139
5.10 中国語の一部の意味しか日本語に伝わっていない.....	139
5.11 中国語で動詞の用法が消えたが、日本語ではまだ残っている.....	140
6. おわりに.....	140
注.....	141

#### 第五章 中日同根語について.....161

1. はじめに.....	161
2. 本研究の目的.....	161
3. 先行研究.....	161
3.1 日本での「同根語」研究.....	161



3.2 中国での同根語研究	164
4. 中日同根語	165
4.1 中国起源の中日同根語	165
4.1.1 字形や語形が違ふ言葉	165
4.1.1.1 字形の違い	165
4.1.1.2 語形の違い	166
4.1.2 意味に違いが見られる同根語	167
4.1.2.1 日本に一部の意味しか伝わっていない同根語	167
4.1.2.2 意味に変化が見られる中日同根語	167
4.1.2.3 中国古代の意味が使われなくなったり、狭まったり、 新しい意味が加わったりする中日同根語	168
4.1.3 語用に違いがある同根語	169
4.1.3.1 品詞の違いがある言葉	169
4.1.3.2 語義と品詞の違いがないが、語用に違いがある言葉	170
4.1.3.3 「V+N」で構成される複合語	170
4.1.3.4 中国語の離合詞	171
4.1.4 仏教に由来する同根語	171
5. 日本に起源した中日同根語	172
5.1 書き方、意味用法が全く同じである言葉	172
5.2 文字の形に違いがある言葉	172
5.3 中国語にあった複合語を使い、造られた新しい言葉	173
5.4 日本人の造った言葉は日本で現在漢字の表記が使われていないあるいは あまり使われないが、中国でよく使われている	173
5.5 意味に違いが見られる言葉	173
5.6 語用に違いがある同根語（主に品詞の違いがある言葉）	174
6. おわりに	174
注	174

## 第六章 中日同形語と受身 177

1. はじめに	177
2. 先行研究	177
3. 日本語の中日同形語の受動文に対応する中国語表現	177
3.1 講談社『日中辞典』で受身形と受身の意味で使われた中日同形語	177
3.2 上述した日本語の中日同形語の受動文に対応する中国語表現	179
3.2.1 受動文	180



3.2.1.1 “被”以外の受身マーカー構文	180
3.2.1.2 非情物主語＋自動詞構文	181
3.3 能動文	181
3.3.1 動作主不明	181
3.3.2 動作主あり	182
3.3.3 目的語の前置	183
3.4 無対応文	183
3.5 訳文における中日同形語の使用率	183
3.6 訳文に中日同形語が使用されなかった要因	184
4. 中日同形語の受動文を構築する可能性の比較	185
4.1 中日とも受動文が構築できる中日同形語	185
4.2 中日とも受動文が構築できない同形語	186
4.3 日本語では受動文が構築できるが、中国語では受動文が構築できない 同形語	187
4.4 中国語では受動文が構築できるが、日本語では受動文が構築できない 同形語	188
5. おわりに	189
注	190

## 第七章 時空を表す中日同形語 191

1. はじめに	191
2. 先行研究	191
3. 時空に関する中日同形語の分類	191
3.1 時間を表す中日同形語	191
3.2 空間を表す中日同形語	193
3.3 時空を表す中日同形語	194
3.4 中国語では時間、日本語では空間を表す言葉	196
3.5 中国語では空間、日本語では時間を表す言葉	196
3.6 一方だけが時間だけと関係のある言葉	196
3.7 一方だけが空間と関係のある言葉	197
3.8 時間的なずれがある言葉	198
3.9 空間的な違いがある言葉	199
3.10 時空に関する中日同形語の品詞性	200
4. おわりに	201
注	201



## 第八章 中日同形語と数量詞……………203

1. はじめに……………	203
2. 先行研究……………	203
3. 数量詞と中日同形語……………	203
3.1 中国語の「一」＋量詞の意味……………	204
3.2 「数詞＋名詞」の言葉……………	205
3.3 数量詞の使い方の違い……………	205
3.3.1 日本語での「一」＋量詞の省略……………	205
3.3.2 数量の意味が含まれている日本語表現……………	205
3.3.3 中国語での数量詞の不使用……………	206
3.3.4 意識による数量詞の増加……………	206
3.4 中国語での意味用法が多くかったり使用範囲が広がったりする数量詞……………	207
3.5 動量詞と名量詞……………	208
3.6 日本語の数量詞の意味用法が中国語より多い……………	209
3.6.1 数える対象が多い……………	209
3.6.2 序数詞を兼ねる……………	210
3.6.3 名詞を兼ねる……………	210
3.6.4 副詞やサ変動詞を兼ねる……………	211
3.6.5 読み方が多い数量詞……………	212
3.7 お互いに別の使い方がある……………	212
3.8 意味用法が違う数量詞……………	214
4. 中国語の“个”と日本語の「個」「つ」……………	216
5. おわりに……………	218
注……………	219

## 第九章 「写」のついでいる中日同形語……………227

1. はじめに……………	227
2. 先行研究……………	227
3. 中日両国の「写」に関する言葉……………	227
3.1 中国の「写」に関する言葉……………	227
3.1.1 古典文では使われたが、現代文では使われていない言葉……………	227
3.1.2 古典文でも現代文でも使われて、意味が変わっていない言葉……………	228
3.1.3 現代文でも使われているが、意味が変わった言葉……………	228
3.1.4 現代文に使われている新しくできた言葉……………	228



3.2 日本語の「写」に関する言葉	228
3.2.1 中国から日本に伝来した言葉	228
3.2.1.1 中国の意味をそのまま使っている言葉	228
3.2.1.2 新しい意味を付け加えた言葉	228
3.2.2 日本語にしかない言葉	228
3.2.3 お互いに借用関係のない、偶然に一致する言葉	229
3.3 現在中日両国でよく使われている中日同形語	229
3.3.1 意味が同じである言葉	229
3.3.2 意味に違いがある言葉	229
4. 「写」の意味の比較	229
5. 「写」のついている中日同形語の比較	230
5.1 「ありのままにうつし取る」という意味を表す言葉	230
5.2 「物の像をスクリーンやフィルムに現し出す」という意味を表す言葉	233
6. 「写」の付いている中日同形語の語義の違いをもたらした原因	235
6.1 中国語での「写」の意味の変遷	235
6.2 印刷術の発明の影響	237
6.3 カメラと写真技術の発明の影響	238
7. おわりに	239
注	239

## 第十章 中日同形語の誤用

—中国語で形容詞である中日同形語を中心に—	241
1. はじめに	241
2. 先行研究	241
3. 調査の概要	242
3.1 調査の目的と予想	242
3.2 調査対象と方法	242
3.3 調査語と調査文	242
4. 調査の結果	243
5. 考察	245
5.1 品詞性に違いがある同形同義語	246
5.1.1 中国語で形容詞であるが、日本語で名詞・形容動詞である言葉	246
5.1.2 中国語では形容詞で、日本語では名詞・サ変動詞である言葉	246
5.1.3 中国語で形容詞か名詞・形容詞で、日本語で名詞である言葉	247
5.2 同形異義語	247



5.2.1	日本語で名詞である言葉	247
5.2.2	日本語で形容動詞か名詞・形容動詞である言葉	247
5.2.3	日本語で名詞・サ変他動詞である言葉	248
5.2.4	中国語で形容詞・他動詞である言葉	248
5.3	「～的」をつけた言葉	248
5.3.1	日本語に中国語の形容詞に対応する「～的」がある言葉	248
5.3.2	日本語に中国語の形容詞に対応する「～的」がない言葉	248
6.	中国語の形容詞が日本語と品詞性が違う要因	249
6.1	中国語と日本語の形容詞の定義	249
6.2	中国語での動詞や名詞の形容詞化	249
7.	おわりに	250
	注	250
	終章	257
	参考文献	261
	謝辞	272



## 序章

中国語と日本語は二つの違う言語体系であるが、借用など<sup>(1)</sup>によって、両者の間に大量の同形語<sup>(2)</sup>が存在している。

同形語の研究<sup>(3)</sup>は盛んに行われてきたが、しかし、呼び方が多いし、明確な定義もないので、筆者は、中国語と日本語の間に存在している同形語を「中日同形語」と呼び、次のように定義する。

中日同形語とは、音訓の読み方・文字数・借用関係を問わず、中日両国の文字改革によりもたらされた字体の相違があっても、漢字のもとが同じである、中国語と日本語の間に存在している同形の漢字語である。

以下、「手紙」「鼓動」「迷惑」「検討」の4つの語例について見ていく。

中日同形語の例と言え、よく挙げられるのは「手紙」である。日本語では「用事などを書いて他人に送る文書。書簡。」(『岩波国語辞典』)の意味であるのに対して、中国語では「トイレットペーパー」の意味であるので、大きくかけ離れている。どうして、「手」と「紙」の二つの漢字で構成された「手紙」は、中国語と日本語でこのように違っているのか。それを検討した論文はまだ確認されていない。

筆者は、まず中国で最も権威的な《汉语大词典》をひもといて、“手紙”の項目を調べた。次のような説明と用例が書いてある。

大使用紙。

荆公见屋傍有个坑厕，讨一张手纸<sup>(4)</sup>，走去登东。 《警世通言·拗相公饮恨半山堂》

そして、“登东”という項目を《汉语大词典》で調べると、次の例が挙げられている。

荆公见屋傍有个坑厕，讨一张毛纸；走去登东。 《京本通俗小说·拗相公》

念のため、筆者は《警世通言》など<sup>(5)</sup>の作品を調べて、チェックすると、“手紙”ではなく、“毛紙”が使われていた。つまり“手紙”と“毛紙”が魯魚の誤りであることがわかった。

筆者は中国古籍全録<sup>(6)</sup>で“手紙”を検索してみた結果、《儿女英雄传》<sup>(7)</sup>に7例、《刘公案》《雍正剑侠图》《二十年目睹之怪现状》にそれぞれ1例、《梔杌萃编》に2例がヒットした。全部で12例である。

①旁边丫鬟忙着倒上茶来，吃了一口，又递过手纸去擤鼻涕。随缘儿媳妇便忙着去湿手巾，预备擦脸。 《儿女英雄传》第十二回

②按下这边，再整张金凤这半日合何玉凤讲了万言，嘴也说酸了，嗓子也说干了，连嘴说带手比，袖子也累掉了，袖口里的小手巾儿、手纸掉了一地，柳条儿忙着过来给他拣。

《儿女英雄传》第二十七回

③柳条儿才连忙拿过两张双折儿手纸，上面托着根柳木牙签。

《儿女英雄传》第二十九回



④柜上借了枝笔，他自己花了倒有十来张手纸开条子，可怜我见他那几个跟班儿的，跑了倒有五七荡，一个儿也没叫了来。《儿女英雄传》第三十二回

⑤旁边一个婆儿连忙来拣，看了看，不好下手，便从袖口儿里掏了张手纸，叠了四折儿，把那块姜捏出去。《儿女英雄传》第三十七回

⑥何小姐一面漱口，便叫人搬了张小杌子来，叫他坐下。他且不坐下，只在那里帮着花铃儿放漱口水，揭刷牙散盒儿，递手纸。《儿女英雄传》第三十八回

⑦太太这个当儿是听他说了句“舍不得太太”，早已眼泪汪汪的那儿从袖口儿里掏小手巾擦眼泪，一面又要手纸擤鼻子。《儿女英雄传》第四十回

⑧连忙回转来，接了手纸，才带马子盖出去。《二十年目睹之怪现状》第九十九回

⑨我一见，恭也顾不得出咧，屎也没拉完。你说凑巧多着的呢，偏偏的忘了拿手纸！

《刘公案》第二十三回

⑩不知是从哪儿找来好些用过的手纸，把嘴给堵严了。

《雍正剑侠图》第六十回

⑪贾端甫恐开这几重门惊动人，晓得厨房里口有一块小小的空地，是堆灰的，比毛厕近便些，拿了手纸就到那里出恭(下略)。《梼杌萃编》第一回

⑫说着，就伸手拿了手纸(下略)。《梼杌萃编》第四回

《儿女英雄传》の7つの用例では「トイレットペーパー」として使われたのは一つもない。奥野信太郎<sup>(8)</sup>(1961)は“手紙”の使用場面によって、「ちり紙」を3回、「半紙」を2回、「懐紙」「手拭き紙」をそれぞれ1回ずつ使い、日本語に訳している。中国語では、きっとそのように細かく分類されていなかったと思われる。《二十年目睹之怪现状》《刘公案》《雍正剑侠图》《梼杌萃编》の5例は全部「トイレットペーパー」の意味である。

これらの作品の成立年代<sup>(9)</sup>から言えば、《儿女英雄传》は道光年間(1821~50)に創作されたとされているので、中国で、“手紙”という言葉を使用した文献は、《儿女英雄传》が一番早かったと推測できる。

中国語では“手”に“小巧的,便于携带的”の意味を表すので、“手紙”は「日常的に使いやすい大きさに切られた竹や藁で造られた紙」を指していた。紙は普通の人にとってはお金のかかるものだったので、トイレットペーパーとして一般に使われたとは考えられない。昔、“毛紙”や“手紙”を使えたのは“荆公”や“安老爷”のような、社会的地位が高く、経済的に余裕のある一部分の人に限られた。「トイレットペーパー」の意味として“手紙”が最初に現われたのは20世紀のはじめであると思われる。

一方、日本語では「手紙」という言葉がもっと早く文献に記録されている。『日本国語大辞典』<sup>(10)</sup>の用例によれば、1675年にすでに「手紙」が使われたらしい。また、『日本国語大辞典』の語誌と語源説によれば、日本語の「書簡」「書状」の意味は「贈り物に添えられた簡略な書きつけ」「『手簡』の誤読テカンの転」から生まれたと見られる。

記録された用例では、日本語の「手紙」は中国語の“手紙”よりずっと早く使われているが、双方の間に借用の関係があるかどうかまだ判断できない。ただ、基本の意味が重な



っているところから見ると、偶然の一致とも言えない。

次に、「鼓動」について見ていく。

「鼓動」は意味用法が全く違う「日中同形異義語」<sup>(11)</sup>として扱われている。現在の日本語と中国語の辞書の説明<sup>(12)</sup>を比較してみると、日本語では今ほとんど「心臓が、ときどきと動いて胸に響きを伝えること。その響き。」と比喩的な意味を表しているが、中国語の「羽ばたく」「奮い立たせる」の意味と大きく異なっている。日本語のその意味はどこから生まれたのか、どのように生まれたのか、と疑問を解こうとした。

『明治のことば辞典』を見ると、次の説明がある。

「心を鼓舞する」「おだてる」の意味であったが、心臓の動悸の意へと変化した。末広鉄腸の『花間鶯』(明治 20) 上編・九には「己れの主義を世間に発表し同志を鼓動して」と前者の意で使われ、徳富蘆花の『思い出の記』(明治 33～34) 一の六には「心臓は早鐘を撞鳴らす様に鼓動する、」とある。

『明治のことば辞典』に羅列された「鼓動」を収録した明治時代の辞書の一覧表<sup>(13)</sup>を見れば、「鼓動」の意味が[日本大辞典・明 26]から、「オダテル」「ナリウゴク」「ハズマセルコト」から「鼓ガ響イテ動クヤウナ体ニ動ク(脈ナド)」へ変わったことが分かる。

一方で、中国の古典医学書《黄帝内经》の日本語現代語訳『黄帝内经素問』を見ると、「脈動」の意味を表す「鼓動」があった。

「素問」の「陰陽別論篇 第七」に次の一節がある。

鼓一陽曰鉤，鼓一陰曰毛，鼓陽勝急曰弦，鼓陽至而絶曰石，陰陽相過曰溜。

「鼓」に関する注に「王冰の説『鼓とは鼓動である。』」<sup>(14)</sup>と書いてある。

その注を手掛かりに、《古今圖書集成醫部全錄》<sup>(15)</sup>の《黄帝素問》に関する注釈から全部で次の 22 例を検索できた。

- ①王冰曰：何以知陰陽之病脈耶？一陽鼓動，脈見鉤也。 陰陽別論篇第七
- ②何以然？一陽謂三焦，心脈之腑，然一陽鼓動者，則鉤脈當之，鉤脈則心脈也，此言正見者也。 陰陽別論篇第七
- ③馬蒔曰：此舉五臟之脈體言之也。一陽者微陽也，指下鼓動一陽，而脈即來盛去衰者曰鉤，乃微鉤也，心之脈也。 陰陽別論篇第七
- ④一陰者微陰也，指下鼓動一陰，而脈來輕虛以浮者曰毛，乃微毛也，肺之脈也。 陰陽別論篇第七
- ⑤鼓動陽脈，而其勢勝急不至於太急者曰弦，乃微弦也，肝之脈也。 陰陽別論篇第七
- ⑥鼓動陽脈，而陽脈似絶曰石，乃微石也，腎之脈也。 陰陽別論篇第七
- ⑦三陽者，太陽也。鼓動也，俱搏且鼓者，手足太陽之脈，俱搏擊而且鼓動，陽極而絶無陰之和也。 陰陽別論篇第七
- ⑧三陽者，太陽也。鼓動也，俱搏且鼓者，手足太陽之脈，俱搏擊而且鼓動，陽極而絶無陰之和也。 陰陽別論篇第七
- ⑨凡此之類，皆四肢脈數急，而内鼓動於肺中也。 湯液醪醴論篇第十四



⑩太陰臟搏者，乃太陰之經脈相搏，故見脈象之伏鼓，如二陰之氣相搏，雖至於少陰之腎，止見乎沉而不浮，蓋以脈象之浮沉，以別陰陽之氣以脈體之滑動不實，鼓動而伏，以別陰陽之脈也。經脈別論篇第二十一

⑪蓋風邪之根留於齊下，動之則風氣淫俠而鼓動其水，水溢於上，則小便為之不利矣。腹中論篇第四十

⑫張兆璜曰：寒傷榮，故風寒客於脈中而不去。風乃陽熱鼓動之邪，故與榮氣為熱，而復出於腠肉之外。風論篇第四十二

⑬心主脈，故痹閉而令脈不通，邪薄心下，鼓動而上干心臟則煩，故煩財心下鼓也。肺者心之蓋，而心脈上通於肺，故逆氣暴上則喘而噤乾。痹論篇第四十三

⑭肺者所以行榮衛，治陰陽，故引曰，五臟因肺熱而發為痿躄也，悲則心系急，肺布葉舉，而上焦不通，榮衛不散，熱氣在中，故胞絡絕而陽氣內鼓動，發則心下崩，數溲血也。痿論篇第四十四

⑮王冰曰：外鼓，謂不當尺寸而鼓動於臂外也。肝脈小緩，為脾乘肝，故易治。腎脈小為陰氣不足，搏為陽氣乘之，熱在下焦，故下血也。大奇論篇第四十八

⑯榮衛之氣，由陽明之所生，血脈乃心臟之所主，陽明氣血皆多，其脈當浮大，今脈沉而鼓動帶濇，《靈樞經》曰：濇為少氣。《傷寒論》曰：濇則無血。是血氣虛於內矣。推而外之，胃外以候形身之中，其脈鼓大，大則為虛。大奇論篇第四十八

⑰脈塞而鼓，謂脈始來充塞於指下，旋即鼓動而去，有如省問之客，方及門而即去也。懸，隔也。懸去棗華者，謂相隔於棗華之時而死也。大奇論篇第四十八

⑱王冰曰：脈，謂脈起。厥，謂逆行上衝也。足少陰脈下行，今氣不足，故隨衝脈逆行而上衝也。腎合骨，故骨有邪薄，則骨節鼓動，或骨節之中，如有物鼓動之也。調經論篇第六十二

⑳諸禁鼓慄，如喪神守，皆屬於火者，蓋心藏神，又主火，凡諸有所禁，不能運持，而鼓動戰慄，如喪失守神，皆屬於火，以火極則寒也。至真要大論篇第七十四(下)

㉑兩陽合明，故曰，二陽者陽明也。鼓，謂鼓動。陽明之脈，浮大而短，今弦而沉急不鼓者，是陰氣勝陽，木來乘土也。然陰氣勝陽，木來乘土，而反熱病至者，是陽氣之衰敗也，猶燈之焰，欲滅反明，故皆死。陰陽類論篇第七十九

㉒陰陽類論，論天之道也。若二陽與手太陰少陰之手相類也，二陽者，陽明也，陽明主闔，至手太陰弦而沉急不鼓者，太陰之開，反從陽明之闔，不能鼓動而外出也。是以炅至而為陽明太陰之病者皆死。蓋太陰之氣，主開而反沉，是天氣之不運行矣。陰陽類論篇第七十九

【日本大辞典・明 26】の「鼓ガ響イテ動クヤウナ体ニ動ク（脈ナド）」という意味がちょうど漢方医学の「脈動」に合っているので、日本語の「鼓動」の意味が中国の漢方医学に由来していると判断できる。

ただ、「脈動」は心臓とは限らず、五臓はみな脈動を持っているが、日本語では意味がだんだん特化されて、心臓の鼓動だけに狭まってしまった。そして、さらに「新時代の鼓動



が聞こえる」のように、比喩的に使われ、意味が拡張されていった。

さらに、「迷惑」について中日間の意味用法にほとんど関係がない同形語として扱われているが、しかし、『日本国語大辞典』『広辞苑』と《汉语大词典》の説明<sup>(16)</sup>を比較すれば、中国語の「進むべき道がわからなくて戸惑う」「善し悪しを判断できなくて、どうしたらいいかわからない」などの意味が日本に伝わって、だんだん変わっていったことがわかる。特に「自分が迷惑する」自分の気持ちから「相手が迷惑する」相手の気持ちを中心とする意味へ変化したのは日本文化をよく反映している日本語独特な派生義である。

しかし、筆者は“迷惑”の中国語古典文献での用例を分析した結果、次の4つの意味用法があることがわかった。

①基本義。「道に迷って、方向が分らない。」

管仲、隰朋从于桓公伐孤竹，春往冬返，迷惑失道。管仲曰：‘老马之智可用也。’乃放老马而随之。遂得道。 《韩非子 说林上》

或令人迷惑狂走、堕落坑谷。 《抱朴子・登涉》

经山谷间，迷惑失道。 宋 郭象《睽車志》卷一

②派生義。「人間の道に迷って、行動の指針を失い、善悪が判断できなくなる。」

姦臣之敗其主也、積漸積微、使主迷惑而不自知也。 《管子・明法解》

亡德法，民心无所法循，迷惑失道，上必以为乱无道。 《大戴礼记・盛德》

③惑わす。

变易国常，擅创为令，迷或其君。 《管子・四称》

矫言伪行，以迷惑天下之主。 《庄子・盗跖》

这二妖，乃是多年的龟精，一雌一雄，惯迷惑少年男女。《警世通言・假神仙大闹华光庙》

④惑わされる。

夏姬颜色妍丽，语复详雅，庄王一见，心志迷惑。 《东周列国志》第五十三回  
天地间之物，惟狐最灵，善能变幻，故名狐魅。北方最多，宋时有“无狐魅不成村”之说。又性极奸淫，其涎染着人，无不迷惑，故又名“狐媚”，以比世间淫女。

《二刻拍案惊奇》卷二十九

また、「検討」<sup>(17)</sup>という同形語について、『おぼえておきたい日中同形異義語 300』は意味・用法の異なる同形語として扱っているが、『日中同形異義語辞典』は中国語の“检讨”が日本語の「検討」より意味が多い同形異義語であると見なしている。その違いをもたらした要因について、潘鈞（1995）<sup>(18)</sup>は、日本語の「検討」は中国語の“检讨”の基本義を受け継いでいると指摘したうえで、中国語の“检讨”が20世紀の中国で辿ってきた激変の道程をよく説明した。『日本国語大辞典』の「検討」の項目に白居易の用例が挙げられているし、《汉语大词典》の説明と中国の古典の用例及び日本語での意味を総合してみれば、日本語の意味が中国から伝来したことがわかる。しかし、「検討」は明治時代に哲学用語の訳語として使われたことによって、「研究する」という新しい意味の意味が誕生し、また中国に逆輸入された。今中国語では“检讨”が学術用語として多用されるようになった。



以上、述べてきた「手紙」「鼓動」「迷惑」「検討」のような代表的な同形語は中日言語間の複雑な関係を有している。現在の多くの辞書は今の時代にだけ目を向けているので、その説明だけでは同形語の相互関係が分からない。中日同形語の語義の比較研究は現代語の意味用法を中心にしている辞書だけに頼っては、偏った結論を出しかねない。中日語彙交流の歴史も長いので、中日同形語の語義異同の要因を追究するには通時的研究が欠かせない。また通時的に総合的に分析を進めなければ、安易に同形同義語、同形異義語、同形類義語に分類するのは読者を誤って導く恐れがある。本研究の方法は現在の辞書の説明にとどまらず、できるだけ通時的に言葉の意味用法の変遷をたどったうえで、中日同形語の比較研究を行う。

本研究の目的は中日同形語の語義の異同、品詞性の異同、使い方の異同を明確にし、その違いが生まれた要因を追究し、少しでも中国の日本語学習者の効率的な日本語の習得に、そして、中国人と日本人のコミュニケーションがうまく図れるように役立つことである。

本研究の対象は辞書に収録されている言葉に限らず、それ以外の言葉、例えば、両国で使われている新語、「性」「化」などの接尾字による派生語、数量詞なども含める。

本論文は次の章から成る。第一章「『中日同形語』の定義」では、先行研究を踏まえたうえで、中日同形語を「言語間同形語」と位置づけて、定義する。第二章「中日同形語の語義の異同をもたらした要因」では、自然環境、人文環境、政治制度、外来文化、漢字の意味の多様性などが中日同形語の語義に対する影響を分析する。第三章「中日同形語と語構成」では、語構成の角度から中日同形語の語義の異同を検討する。第四章「中日同形語の品詞性」では、中日同形語の品詞性の異同とその要因を分析する。第五章「中日同根語」では、お互いの借用関係及び意味用法の変化について考察する。第六章「中日同形語と受身」では、中日同形語と受身文の関係を中心に考察する。第七章「時空を表す中日同形語」では、時間と空間に関係する中日同形語の意味用法を詳しく比較する。第八章「中日同形語と数量詞」では、中日量詞と数量詞の意味用法の異同を比較する。第九章「『写』のついでに中日同形語」では、「写」が中国語での意味の変遷を考察し、「写」のついでに中日同形語の意味の異同を比較する。第十章「中日同形語の誤用分析」では、中国語では形容詞である中日同形語を中心に、翻訳の調査を実施して、日本語に訳された場合の品詞性の誤用実態を分析する。

## 注

(1) 陳力衛は同形語を「日本が中国から借用した漢語」と「中国が日本から借用した漢語」に分類し(2001)て、同形語の形成の原因は「借用」とであると指摘しているが、偶然の一致によって形成された同形語もある。

(2) 荒屋勸(1983)によれば、香坂順一編《中国語常用語辞典》に収録された約 3800 語中、約 1900 語が日中同形語であるということだ。

曾根博隆(1988)は、《現代汉语频率词典》に収録された 8,441 語中、3,395 語が日中同



形語であるとした。

橘純信(1994)は、《漢語水平詞匯大綱》の8,822語(連語、成語など含む)を対象に一般に用いられている国語辞典に照らして中日同形語4,683語を探し出した。

(3)同形語に対する呼び方と研究者一覧表

	種類	用語	使用者
日 本 で の 文 献	1	日・中両国語間の同形語	望月八十吉(1974)
	2	同形異義語	望月八十吉(1974)
	3	日中同形語	荒川清秀(1975)、荒川清秀(1977)、守屋宏則(1979)、 荒屋勸(1983)、香坂順一(1983)、劉凡夫(1988)、曾 根博隆(1988)、高偉建(1989)、大塚秀明(1990)、西 川和男(1991)、宮島達夫(1993)、高偉建(1995)、高 曉綱(2000)、林玉惠(2001) <sub>1</sub> 、林玉惠(2001) <sub>2</sub> 、莊嚴 (2001)、李楠(2001)、林玉惠(2002) <sub>1</sub> 、林玉惠(2002) <sub>2</sub> 、 DengMeihwa(2002)、荒川清秀(2002)、曹櫻(2003)、 秦春芳(2004)、土佐朋子(2004)、赤平恵里(2004)、 赤平恵里(2006)、陶芸(2006)、李愛華(2006)、橋本 美和子(2006)、趙曉(2007)、林玉惠(2007)、橋本美 和子(2007)、秦春芳(2008)、大井京・齋藤洋典(2009)、 林玉惠(2009)、東海林万結美(2009)、王燦娟(2011)
	4	同形語	劉宏娟(1988)、王蜀豫(1998) <sub>1</sub> 、王蜀豫(1998) <sub>2</sub> 、王蜀 豫(1999)
	5	日中同形異義語	遠藤紹徳・武吉次郎(1990)、吉田則夫・支洪濤(1997)、 李薇(2003)、林翠芳・黄力游(2004)、下平芳久 (2004)、西谷まり(2004)、大西智之(2006)、大西智 之(2006)、王永全・小玉新次郎・許昌福(2007)、小 森和子・玉岡賀津雄・近藤安月子(2008)、大西智之 (2008)
	6	同形同義語	顧明耀(1991)、竹中佐英子(2006)、早川杏子(2010)
	7	中日同形語	橘純信(1994)、李抗美(2003)、王曉(2005)、何宝年 (2008)、何宝年(2009)、何宝年(2010) <sub>1</sub> 、何宝年 (2010) <sub>2</sub> 、錢紅日(2010)、侯仁鋒・鞠娟(2011)、何宝 年(2011) <sub>1</sub> 、何宝年(2011) <sub>2</sub> 、関西大学中国語教材研究 会(2011)
	8	日中両国語における同形異義語	王蜀豫(1996)
	9	日中両国語における同形語	王蜀豫(1996)、王蜀豫(1997)



	10	日中両国語間の同形異義語	張軍(2003)
	11	中日同形詞	余翌珍(2004)
	12	日中同形類義語	竹田治美(2005)
	13	中国語との同形語	畠三輝子(2006)
	14	日中語	五味政信・今村和宏・石黒圭(2006)
	15	日本語と中国語の同形語	徐彩華(2007)、陳仲鵬(2009)
	16	中日同形異義語	党碧芸(2010)
中国 での 文 献	1	日中両国語の同形語	香坂順一(1980)
	2	日漢同形詞	趙福全(1980)、高原(1988)、崔叔萍・張乐山(1990)、 王健宜・王彦良(1995)、侯仁鋒(1998)、高麗(2002)、 高麗(2003)、魯宝元(2004)、商洪博(2006)、張福旺 (2006)、崔忠(2007)、張福旺(2007)、張豫(2007)、 余賢鋒(2007)、甘能清(2009)、張雪梅(2011)
	3	中日兩國同形詞	李進守(1983)
	4	中日同形詞	趙福堂(1983)、何培忠、馮建新(1986)、潘鈞(1995)、 吳侃(2000)、王曉(2004)、舒小沙(2005)、李素杰 (2006)、李蕊(2006)、劉萍(2006)、黃鶯(2006)、徐 琦(2007)、崔崑(2008)、李冰(2008)、劉齊文(2008)、 沈國威(2008)、王映哲・笠原(竹田)ゆう子(2009)、 孫琳娜(2009)、王燦娟(2009)、李慶安(2010)、胡媛 媛(2010)、劉偉(2010)、金菁琳(2010)、李麗(2010)、 江慧浩(2010)、劉文靜・高春燕(2011)、
	5	漢日同形詞	赫鍾祥(1989)、劉富華(1998)、翟東娜(2000)、李娜 (2001)、宋春菊(2003)、蓋利亞(2003)、任江輝(2005)、 高立群・黎靜(2005)、呂曉軍(2007)、顏景義(2007)、 趙雪瑩(2008)、周艷梅(2009)、朱勇(2009)、楊紅 (2010)、張南薰(2011)、張園園(2011)
	6	日漢同形異義詞	方明禮(1990)、靳學軍(1996)、佐藤芳之(2010)、楊 麗華(2010)
	7	漢日同形近義詞	魯曉琨(1990)、柳納新(1997) <sub>1</sub> 、柳納新(1997) <sub>2</sub>
	8	中日文同形詞	徐冰 洪杰(1994)、高亮(2007)
	9	中日同形語	潘鈞(1994)、于慧麗(2007)
	10	日漢“同形詞”	范淑玲(1995)、
	11	漢日同形異義詞	王曉伯(2001) <sub>1</sub> 、王曉伯(2001) <sub>2</sub> 、楊麗華(2008)、鄭鯤 騰(2011)、



12	中日同形类义词	孙绍红(2001)、樊慧颖(2008)
13	中日同形汉字	张旭婷(2001)
14	中日同形語	朱京偉(2005)
15	同形汉字词	王建英・高宁(2007)
16	日汉同形词汇	李敏 刘颖 于泽(2007)、李敏(2010)、彭燕(2010)
17	中日同形汉字词	方江燕・王诗婧(2008)、赵娟利(2009)、杨剑(2010)
18	日汉同形类义词	糜玲(2009)
19	日中同形词	董杰(2009)
20	日中同形語	杜丽娜(2009)
21	汉日语同形词	常梅(2010)
22	中日语同形词	唐千友(2011)
中国での文献は《中国知网》によるものである。		

(4)「手紙」についている下線は、筆者が付けた。以下、用例の中の下線は筆者。

(5)それぞれ次のように書いてある。

荊公見屋傍有箇坑廁，討一張毛紙，走去登東。

《明鏡公案/警世通言》

荊公見屋傍有個坑廁，討一張毛紙，走去登東。

《警世通言》

荊公見屋傍有個坑廁，討一張毛紙，走去登東。

《京本通俗小説等五種》

(6)中国古籍全録のホームページは<http://guji.artx.cn/>である。

(7)《儿女英雄传》の序の“时光绪戊寅阳月，古辽闾圃马从善偶述。”によれば、刊行されたのは“光绪戊寅”つまり1878年であることがわかる。創作の時期は不詳であるが、『日本大百科全書』によれば、道光年間（1821～50）、満州旗人の費莫文康が『紅樓夢』に対抗して執筆したものである。

(8)奥野信太郎、常石茂、村松暎訳(1960)『儿女英雄伝上』平凡社。

奥野信太郎〔ほか〕訳(1961)『儿女英雄伝下』平凡社。

(9)百度百科によれば、《雍正剑侠图》は、また《童林传》と呼ばれ、20世紀20年代に清末の講談師常杰森によって天津で創作されたのである。

百度百科によれば、《二十年目睹之怪现状》は“清末长篇小说，也是一部带有自传性质的作品，是吴趼人的代表作。它最初连载于1903年～1905年《新小说》杂志上面，1906年起由上海广智书局出版分册的单行本。”である。

中国古籍全録によれば、《梼杌萃编》は、清末の“钱畅宝”によって創作され、民国五(1916)年“汉口中亚印书馆”によって出版されたのである。

(10)『日本国語大辞典』は「手紙」について次のように説明してある。

①手元において雑用に使う紙。縦が短く横に長い和紙。はんきりがみ。

\*随筆・柳亭記〔1826頃か〕上「手とはそばまわりへ常におく形のちいさき物をいふ〈略〉手紙もかたはらへおき万事につかひ捨るの雑紙、字をかきて他へおくるべき物にあらず」



②用事などを書いて他人に送る文書。ふみ。書簡。書状。

\*雑俳・独吟一日千句〔1675〕第八「いかでか見すて給ふくすり屋、二条通り節季  
節季は手帋にて、お城の衆に売懸もあり」

\*消息往来〔1793〕「書状手紙取扱文字」

\*雑俳・柳多留 - 五〔1770〕「手紙には狸台には鯉をのせ」

\*浄瑠璃・伊賀越道中双六〔1783〕九「私でも読める様に仮名交りの此手紙」

\*人情本・春色梅児誉美〔1832～33〕初・二齣「先剋の手紙（テガミ）を手めへ裏  
前へ頼んでやるのじゃあねへか」

\*小学読本〔1873〕〈榊原芳野〉二「然れども、互ひに、面会を得ざるときは、手紙  
を贈答して、ともに、安否を、知ることを得るなり」

郵便はがきに対して、封書の郵便をいう。

#### 【語誌】

②は「貞丈雑記 - 九」によると室町時代には「小文（こぶみ）」といった。「手紙」  
の語が見られるのは近世初期からで、もとは挙例の「雑俳・柳多留 - 五」のよう  
に贈り物に添えられた簡略な書きつけなどであったことが分かる。

「小文」といった当時、広く手紙を指したのは「文（ふみ）」で、「手紙」に取って  
代わられた明治期でも「ふみ」は特に恋文（こいぶみ）を意味することがあった。

#### 【語源説】

テガミ（書紙）の義〔和訓栞・大言海〕。

手元に置く紙の意〔俚言集覧〕。

「手簡」の誤読テカンの転〔貞丈雑記〕。

(11) 王永全等（2007）編『日中同形異義語辞典』に収録されている。

(12) 日本語と中国語の辞書の「鼓動」に関する説明を次に並べておく。

『日本国語大辞典』：

①太鼓の響き。

②ふるえ動くこと。また、大きな音を立てること。どよめくこと。

③（一する）ふるわし動かすこと。鼓舞。

④（一する）心臓が収縮運動によって律動的にどきどきと動いて胸に響き  
を伝えること。また、その響き。動悸（どうき）。

『広辞苑』：

①ふるえ動くこと。ふるわし動かすこと。

②心臓の律動的な運動。また、それが胸に伝える響き。

③比喩的に、内にある強い動きが外に伝わること。「新時代の一」

『大辞林』：

[1] 心臓の律動的な動き。また、その響き。動悸(どうき)。

[2] 内面にひそむものが活力を得て動き出すこと。ふるえ動かすこと。



『明鏡国語辞典』:

〔名・自サ変〕

- ①ふるえ動くこと。ふるわし動かすこと。また、その動き。
  - ②心臓が血液を送り出すためにドキドキと脈打つこと。また、その音。
- ◇ある活動が始まろうとするきざしにたとえる。

『岩波国語辞典』:

〔名・ス自〕心臓が、ドキドキと動いて胸に響きを伝えること。その響き。▷比喩的にも言う。

『講談社日中辞典』:

こどう【鼓動】(～する) 心脏跳动; 搏动。

- ◆心臓の～がとまった／心脏停止了跳动。
  - ◆心配のあまり～が激しくなった／由于过度的担心, 使心跳得很厉害。
- “鼓动” gǔdòng は「奮いたたせる」の意味。

『講談社中日辞典』:

【鼓動】 gǔdòng [動]

- (1) ばたつかせる。ばたばたさせる。
  - (2) 扇動する。奮い立たす。そそのかす。
- ～学生罢课／学生を扇動して授業をボイコットさせる。

《汉语大词典》

- (1) 鼓之使动; 吹动。(筆者訳: 風を吹いて動かす; 羽ばたく)
- (2) 用语言、文字等激发人们的情绪, 使人们行动起来。  
(筆者訳: 奮い立たせる; 掻き立てる)
- (3) 煽动。(筆者訳: 扇動する、唆す)
- (4) 激动。(筆者訳: 感激する。)
- (5) 引动。(筆者訳: 引き起こす)
- (6) 颤动。(筆者訳: 震え動く。鼓動する)
- (7) 更鼓振响。指夜晚。(筆者訳: 時報の太鼓の音が響く。)

《现代汉语词典》

**动** ①扇动 ②用语言、文字等激发人们的情绪, 使他们行动起来。

- (13) 『明治のことば辞典』に挙げられた「鼓動」を収録した明治時代の辞書:

[布令必携新聞字引・明初] オダテル。

[漢語字類・明2] オダテル。

[漢語便覧・明3] オダテル。

[新撰字類・明3] おだてる。

[布令字弁・明1～5] オダテル。

[漢語字林大成・明9] 鼓舞ニ同。



[増補漢語字引大全・明9] オダテアゲル。

[増補漢語字類・明9] オダテル。

[小学課程書字引・明10] ウゴカス、キヲヒキタテル。

[新撰玉篇・明10] オダテル。

[小学読本字引・明12] ウゴク。

[必携塾字集・明12] オダテル。鼓舞。

[小学読本字書・明13] ナリウゴク。

[実用漢語活益字典・明25] ハズマセルコト。

[日本大辞典・明26] 鼓ガ響イテ動クヤウナ体ニ動ク(脈ナド)。——「胸ノこどう」

[日本大辞典・明29] 心臓などのどきどきと動く事。

[新編熟語字典・明33] ハズマセルコト。

[新編漢語字林・明37] サカンニウゴク。

[早繰辞書・明37] 心臓ノミヤクノウツコト、人ノ心ヲ動カシタテルコト。

[新式以呂波引節用辞典・明38] 鳴り動くこと(動気などに)。

[辞林・明44] 心臓の血液循環によりて、胸にこたふるひびき。「胸の一」。

[新式辞典・大1] 血液循環によつて応へる心臓のひびき。

[ローマ字索引国漢辞典・大4] なりうごくこと。「心臓の鼓動」。

(14) 現代語訳『黄帝内経素問』上巻 p152

(15) 筆者は、次のホームページで検索したうえで、『古今圖書集成医部全録』で22例の原文をチェックした。

<http://pbcm.pbcm24.co.cc/myhome/zhong-yi-dian-ji/gu-jin-tu-shu-ji-cheng-yi-bu-quan-lu/huang-di-su-wen/>

(16) 『日本国語大辞典』は「迷惑」について次のように説明している。

①(一する) どうしてよいかわからないで途方にくれること。とまどうこと。

②(形動)(一する)ある行為によって、不利益、負担、または不快さなどを感じること。  
また、そのさま。

④自分自身に及んだ結果そうなる場合。いやだ、断りたい気持ちだ、などの気持ちを込めて用いる。

⑤相手に及んだ結果そうなる場合。気の毒である。申し訳ない、などの気持ちを込めて用いる。

③ある結果生ずる、不利益、負担等。

『広辞苑』は「迷惑」について次のように説明している。

①どうしてよいかわからないで迷うこと。

②困り苦しむこと。難儀すること。

③他人からやっかいな目にあわされて困ること。

『汉语大詞典』は次の二つの意味だけを挙げている。



(1) 辨不清是非；摸不着头脑。

百姓迷惑而国家不治。 《管子·任法》

曾烦毒以迷惑兮，羌孰可与言己？ 《后汉书·张衡传》

经山谷间，迷惑失道。 宋 郭象《睽车志》卷一

周萍迷惑地望着父亲同侍萍 曹禺《雷雨》第四幕

(2) 使迷惑。

变易国常，擅创为令，迷或其君。 《管子·四称》

矫言伪行，以迷惑天下之主。 《庄子·盗跖》

这二妖，乃是多年的龟精，一雌一雄，惯迷惑少年男女。《警世通言·假神仙大闹华光庙》

这岛子确实有股迷惑人的力量。 杨朔《巴厘的火焰》

(17) 「検討」と「检讨」について、それぞれ次のように説明している。

『おぼえておきたい日中同形異義語 300』：

中：①〔動〕反省する，自己批判する。

②〔名〕反省，反省書。

日：〔動〕研究；讨论。

中国語の“检讨”の対象は必ず「誤り」や「欠点」であるが、日本語では、全ての問題を「検討」の対象にできる。

『日中同形異義語辞典』：

日検討【けんとう】〔同〕ある問題を詳しく調べ、よいかどうかを考えること：

检讨。研究。

中检讨①〔同〕日本語と同じ。②〔異〕欠点や過ちを見出して自己批判すること。

『日本国語大辞典』：

調べ究めること。吟味すること。哲学字彙「Test 検討」

\*金〔1926〕〈宮嶋資夫〉二二「推理と打算に誤りのないように、幾度か原因に立ち戻った。さうしてまた新らしく、彼は飽きもななく検討した」

\*白居易 - 与元九書「僕数月来、検討囊囊中、得新旧詩」

《汉语大詞典》：

(1) 查核，整理。（筆者訳：調べて、チェックする。整理する）

仆数月来，检讨囊囊中，得新旧诗，各以类分，分为卷目。

唐 白居易《与元九书》

仁宗庆历初，尝诏儒臣检讨唐故事，日进五条，数谕近臣，以为有补，其后久废。

宋 叶梦得《石林燕语》卷一

(2) 总结研讨。（筆者訳：総括して検討する）

(3) 指检查自己的错误言行。（筆者訳：自己の間違った言行を反省する）

(4) 官名。宋有史馆检讨。明时始属翰林院，位次于编修，与修撰编修同谓之史官。（官職名）



(18) 潘鈞 (1995) 「検討」について次のように論じている。

据考,“日语中的“検討”一词的确是继承了古汉语中的“检讨”的基本语义的。唐宋时期,汉语中的“检讨”为查找、查考、整理之意,后来又派生出研究的义项来。然而,到了本世纪三、四十年代,“检讨”的词义在解放区发生了转义,由研究义派生出剖析的意思。随后,继而又进一步派生出自我批评之意。1949 年新中国成立以后,这一用法又扩大至全国,而“检讨”的本意逐渐被遗忘。另一方面,解放区以外的地区包括台港澳地区以及某些年长者的书面语中还仍然使用“检讨”的本意即研究之意。耐人寻味的是,改革开放以后,随着大陆与台港澳地区以及使用华语的其他地区的接触、交流的日益频繁,“检讨”的本意又有了复苏的趋势。



## 第一章 「中日同形語」の定義

### 1. はじめに

中日両国で日本語学習者と中国語学習者が急増するにつれて、中日同形語<sup>(1)</sup>の研究が以前にもましてもっと広い角度から盛んに行われるようになり、おびただしい研究成果が集積されてきた。最初の語義の異同の比較から、用法の違い、品詞性の違い、文体の違い、褒貶色彩の違い、語感の強弱の違い、同形語の形成原因、そして語構成へと研究が深められている。また、関係の辞書<sup>(2)</sup>が何冊も出版され、収録の語彙数も増えている。しかし、数多くの研究者<sup>(3)</sup>が「中日同形語」を簡単に定義したり、定義しなかったりしている。そして、論文は「同形異義語」「同形類義語」に対する研究がほとんどである。潘鈞(1995)<sup>(4)</sup>が早くも指摘したように、“至今未有一个为诸家所公认的、明确的关于同形词的定義”(筆者訳：今までにみんなに認められている、同形語に関する明確な定義が一つもない)。この同形語はもちろん中日両言語の間に存在している同形語を指している。潘鈞(1995)の指摘からすでに16年間も過ぎ、同形語に関する研究の量が増え続け、範囲も広がっているが、定義の問題はまだ解決されていない。「中日同形語」に対する研究が深められるにつれて、その定義はもはや避けて通れない問題になった。そこで、本稿はいくつかの同形語に関する表現を考察した上で、「中日同形語」の定義を下してみたい。

### 2. 先行研究

本稿では主に大河内康憲、宮島達夫、呉侃、竹田治美の同形語に関する表現を取り上げたい。

大河内康憲(1992)<sup>(5)</sup>の「同形語」に関する論述は次の五点にまとめられる。

- ①日・中で字面が同じ単語である。
- ②借用関係を問わず、双方同じ漢字(簡体字は問わない)で表記されるもの。
- ③一字で音訓いずれにも使われるものは含まない。
- ④二字(ときには三字以上)の字音語で、表記のみならず語構成が問題になるものである。
- ⑤語構成における共通性が同形語といわれる所以であり、したがって借用関係が問題になるところである。

この論述は非常に分かりにくい。次の疑問点がある。

- (1) 借用関係の有無について、②と⑤が矛盾している。
- (2) 訓読の漢字語が同形語ではないか。
- (3) 同形語の語構成が同じでなければならないのか。

大河内康憲の説に対して、潘鈞(1995)<sup>(6)</sup>が基本的に肯定しながら、「取(り)締(ま)



り」や「手続(き)」のような和語も同形語であること、借用、同源の関係がなく、偶然に形成した「手紙」や「洋行」などの同形語もあることを指摘した。しかし、その指摘は潘鈞(1995)の唱えた「同形語を認定する三つの必須条件」とは相矛盾しているし、日本語では「送り仮名」が無視できない和語を構成する要素である。

潘鈞(1995)の唱えた「三つの必須条件」は次のとおりである。

①表記が同じである漢字<sup>(7)</sup>(簡体字と繁体字の差異、送り仮名、形容動詞の語尾などの非漢字要素を無視する)。

②共同の出自や歴史的なつながりを持っている言葉。

③現在中日両国の言語の中で共に使われている言葉。その中で、二字語が一番多い、ほかに三字語、四字語などがある。

大河内康憲(1992)の定義はしばしば部分的に引用されたり、表現を変えられたりして多くの研究者<sup>(8)</sup>に影響を与えてきた。

宮島達夫(1994)<sup>(9)</sup>は次のように、漢語だけでなく、訓読みの和語も「日中同形語」であると唱えている。

「日中同形語」というとき、ひろい意味では、日本で訓よみされる和語もふくまれるが、ここでは対象を漢語にかぎる。

呉侃(1995)<sup>(10)</sup>は「同形語」について次のように述べている。

同形词既有汉语词，也有“立场、手续、手纸”等和语词。除汉语词外，因双方都使用汉字，某些和语词也可以看作同形词。如“住む”，只要它用汉字书写，就可以看作与中文“住”相同。  
(『日语词汇研究』p191)

日本語訳：同形語は漢語もあれば、「立場、手続、手紙」のような和語もある。漢語のほかに、双方がともに漢字を使っているので、一部の和語も同形語とみなすことができる。例えば、「住む」、漢字表記さえ使えば、中国語の「住」と同じであるとみなすことができる。(筆者訳)

この定義は非常に曖昧で、日本語の送り仮名が同形語の一部として扱うのは合理的ではない。それに、漢字の日本語での意味は送り仮名によって大きく変わるので、学習者に混乱をもたらすおそれがある。また送り仮名がついている言葉を同形語として扱ったら、同形語の数量が膨大な数に上ってしまう。

竹田治美<sup>(11)</sup>(2005)は「漢字の構造」を使って、定義している。

日本語と中国語で漢字の構造が同一である単語のことを「日中同形語」と呼ぶ。中国語では「中日同形词」と呼ばれている。

竹田治美(2005)はまた「漢字の構造」を使って、曾根博隆(1988)の研究を次のように要約した。

①漢字の構造と意味が同様であるもの。いわゆる「同形同義語」



②漢字の構造は同様であるが、全く意味がまったく異なるもの。いわゆる「同形異義語」

③漢字の構造が同様であり、一部が共通するもの。いわゆる「同形類義語」

曾根博隆(1988)は「日本語と中国語において同じ漢字によって表記される単語」という表現を使っていたが、「漢字の構造」を使っていないので、おそらく「漢字の構造」は竹田治美の造語であろう。しかし、「漢字の構造」という言葉が一つの漢字に使えるが、二つ以上の漢字で構成される漢字語にふさわしくない。また漢字の構成要素は形だけでなく、音と義も考えられるので、曾根博隆(1988)の原文を読まなければ、とても「漢字の表記」とは理解できないだろう。

### 3. 同形語の分類

日本語学界で「同形語」が使われる場合、普通日本語と中国語の間に存在している同じ形の言葉を指しているが、中国の中国語学界でも「同形語」<sup>(12)</sup>の研究が盛んになされている。つまり中国語の中に「同形語」が存在している。ここで、ある言語の中に存在している同じ形の言葉を「言語内同形語」と、二つの言語の間に存在している同じ形の言葉を「言語間同形語」<sup>(13)</sup>と名づける。

### 4. 言語内同形語

言語内同形語とはある言語の内部に存在している同じ形の言葉である。ここでは、中日同形語とかかわりのある中国語と日本語の言語内同形語にしばって、考察していきたい。

#### 4.1 中国語同形語

卢英顺(2007)<sup>(14)</sup>は中国語の同形語について次のように述べている。

所谓“同形词”是指在书写形式上完全相同的一组词，如“打”(量词，一打信封)和“打”(动词)。就单音节词而言，当然指书写形式相同；就双音节词而言，不仅是每个音节书写形式相同，而且还要每个音节的书写顺序也相同，如“地道”(地道战)和“地道”(他的上海话说得很地道)。而“人情—情人”，“网球—球网”，“文盲—盲文”等等就不能算做同形词。同形词根据其读音形式是否相同，可以分为同音同形词和异音同形词。

日本語訳：いわゆる「同形語」は書き方が全く同じ一組の言葉を指す。例えば、「打」(助数詞、封筒などを数えるときに使う)と「打つ」(動詞)。単音節のことは(一文字の漢語)書き方が同じであればいいが、双音節の言葉は(二字漢語)は各音節の書き方だけでなく、音節の順(字順)も同じでなければならない。例えば「地道(地下道)」と「地道(本場らしい)」「彼の上海語は本場らしい」。「人情—情人(愛人)」、「网球(テニス)—ネット(球网)」、「文盲—盲文(点字)」のように字順が違ふ言葉は同形語とは言えない。同形語は発音によって、同音同形語と異音同形語に分けられる。



同音同形語として次の例が挙げられる。

花 出品 吃水 安心 人家 心灵 生气 送气 多事 土方 满月 转机 说法

以上の言葉は中国語で発音が同じであるが、品詞性や語構成が違うので、意味が違っているのである。中国の辞書では違う言葉として扱われている。中国語の“花”が、具体的な“花”を指す場合は名詞で、「(時間が) かかる・(時間を) かける」を指す場合は動詞で、両者は語源的にも違うのである。“打”はもともと動詞だったが、助数詞としての意味は英語からの訳語である。“出品”“吃水”“人家”“心灵”“生气”“送气”“多事”“土方”“满月”“转机”“说法”は二種類の語構成を持っているので、意味が違っているのである。

異音同形語として次の例が挙げられる。

长 折 同行 大人 精神 正当 大意 东西 地方 转向

中国語の漢字に多音字が多い。発音が全く違ったり、四声の違いだったり、軽声の違いだったりしているので、非常に複雑である。発音の違う異音同形語でも語構成が違う可能性がある。

#### 4.2 日本語同形語

日本語の中の同形語はまだあまり研究されていない。日本語は表記文字の複雑性によって、同形語の種類が同じ言語内では一番多いのではないと思われる。筆者は漢字・平仮名・カタカナ・アルファベット・連語によって6種類の同形語に分類してみた。

ただし、「多音語」と「多義語」は同形語から除外しなければならない。二つ以上の読み方があり、どちらで読んでも、意味用法に影響がない言葉は多音語と呼ぶことにする。例えば、「梅雨 (つゆ・ばいう)」、「大地震 (だいじしん・おおじしん)」、「幾人 (いくたり・いくにん)」、「幾年 (いくとせ・いくねん)」、「幾度 (いくど・いくたび)」。注意しなければならないのは中国語の多音語の意味がみんな異なることである。いくつかの意味を持ち、しかも意味と意味の間に何かのつながりを持っている言葉を多義語と呼ぶことにする。

日本語の辞書では語構成が違っても同じ言葉として扱われている。例えば、「被害」という言葉は「損害や危害を受けること。また、受けた損害や危害。」(『大辞泉』)と解釈されている。二つの意味は明らかに語構成の違いによるものなので、別々の言葉として扱ったほうが合理的であろう。しかし、もしそのように別々に言葉の項目を立てたら、もとより分厚い日本語の辞書はさらに膨らむことになるだろう。

##### ①漢字の同形語

同じ漢字でも日本語で2種類以上の読み方を持ち、意味も違っている言葉が多くある。次の例が挙げられる。

間 (あいだ・ま) 床 (とこ・ゆか) 大家 (たいか・おおや) 大手 (おおて・おおで)

過言 (かげん・かごん) 寒気 (かんき・さむけ) 悪心 (あくしん・おしん)

大勢 (おおぜい・たいせい) 成敗 (せいはい・せいばい) 来日 (らいじつ・らいにち)



頭数 (あたまかず・とうすう) 町中 (まちなか・まちじゅう)  
 心中 (しんじゅう・しんちゅう) 下手 (しもて・したて・へた)  
 人気 (じんき・にんき・ひとけ) 上手 (かみて・うわて・じょうず)  
 一時 (いちじ・いつとき・ひととき) 男女 (おとこおんな・だんじょ・なんによ)  
 日中 (にっちゅう・にっちゅう・ひなか)  
 上下 (うえした・かみしも・じょうか・じょうげ)

## ②「漢字+平仮名」の同形語

空く (あく・すく) 開ける (あける・ひらける) 歪む (いがむ・ひずむ・ゆがむ)  
 怒る (いかる・おこる) 抱く (いだく・だく) 埋める (うめる・うずめる)  
 埋まる (うまる・うずまる) 脅かす (おどかす・おびやかす)  
 被る (かぶる・こうむる) 潜る (くぐる・もぐる) 汚れる (けがれる・よごれる)  
 堪える (こたえる・こらえる・たえる) 細やか (こまやか・ささやか・ほそやか)  
 盛る (さかる・もる) 注ぐ (そそぐ・つぐ) 弛む (たゆむ・ゆるむ)  
 突く (つく・つつく) 解く (とく・ほどく) 止める (とめる・やめる・とどめる)

上のような言葉は同じ表記でありながら、違う読み方をしている。それぞれの意味用法は全く違ったり、部分的に違ったりしているので、日本語学習者にとっては非常に習得しにくい。ただし、同じ漢字でありながら、送り仮名によって、読み方が違う言葉の数も少なくない。次の言葉は非常に紛らわしいが、同形語として扱えない。

上 (あ) がる—上 (のぼ) る	歩 (ある) く—歩 (あゆ) む
映 (うつ) る—映 (は) える	老 (お) いる—老 (ふ) ける
訪 (おとず) れる—訪 (たず) ねる	囲 (かこ) む—囲 (かこ) う
着 (き) る—着 (つ) く	触 (さわ) る—触 (ふ) れる
頼 (たの) む—頼 (たよ) る	捕 (つか) まえる—捕 (と) らえる
浸 (つ) かる—浸 (ひた) る	鳴 (な) く—鳴 (な) る
放 (はな) す—放 (はな) つ	惚 (ぼ) ける—惚 (ほ) れる
見下 (みお) ろす—見下 (みくだ) す	破 (やぶ) く—破 (やぶ) る
弱 (よわ) まる—弱 (よわ) る	割 (わ) る—割 (さ) く
凍 (こお) る—凍 (こご) える—凍 (い) てる	

## ③平仮名の同形語

漢字の表記が使われない平仮名だけの同形語が見つからなかった。

## ④カタカナの同形語

例：コート バット ベース ホーム バス パス

## ⑤アルファベットの同形語

例：DV



## ⑥連語

例：その後（そのご・そのあと・そののち）

## 5. 言語間同形語

世界には、漢字を使う国が多く存在している。それらの国を総称して、漢字文化圏と呼ぶ。同じ漢字を使いながら、国や地域によって、言語体系が違ふ。このように違ふ言語の間に存在している同じ形の漢字語は「言語間同形語」に所属すると思われる。中日同形語のほかに日韓同形語、中韓同形語なども言語間同形語の範疇に属する。

中日同形語の定義を下す前に、中日同形語の定義と密接な関係のある漢字の書き方、読み方、借用関係、固有名詞、複合語と連語、文字数・数、範囲などについて詳しく考察していきたい。

### 5.1 中日同形語と漢字の書き方

言語内同形語は全く形が同じでなければならないが、言語間同形語の「同形」は言語内同形語ほど絶対的なものではなく、柔軟に「同形」という概念を処理しなければならない。なぜならば、同じ漢字でありながら、各国の言語改革などによって、漢字の書き方に変化が現れた。それで今使われている漢字は全く同じ形のものもあれば、多かれ少なかれ形が変わったり、筆順が違ったりしている漢字も少なくない。また字体の違いもある。現在中国語では一般的に宋体が使われているのに対して、日本語では明朝体が使われている。しかし、それらの言葉が同形語であることは同形語の研究者たちに認められている。つまり、漢字の形や筆順<sup>(15)</sup>や字体に多少の違いがあっても、漢字のもと<sup>(16)</sup>が同じである言葉は中日同形語であるとみなされているわけである。

歴史的な原因などによって、漢字の形は中国では非常に複雑である。中国大陆で使われている簡体字（もちろん、一部分の中国古典文献を研究する人の間では繁体字も使われている）と台湾・香港・マカオなどで使われている繁体字が併存している。中国大陆、台湾、香港、マカオがそれぞれ日本とのかかわり方が違ってきたので、中日同形語の形と意味用法も異なっているのである。本研究は大陸で使われている漢字（簡体字が多く含まれている）を中心に展開されている。

### 5.2 中日同形語と漢字語<sup>(17)</sup>の読み方

従来の中日同形語の定義は「漢語」<sup>(18)</sup>を使っているが、「漢語」は日本語では音読みの言葉だけを指しているので、中日同形語の範囲が大幅に狭められてしまった。現存の同形語の辞書<sup>(19)</sup>には音読み以外の言葉も大量に収録されているので、中日同形語は音読みの漢語に限らず、訓読み、湯桶読み、重箱読み、熟字訓、当て字などの言葉も中日同形語に属するので、それらを総称して、「漢字語」と呼ぶ。また、日本語教育の現場では、音読み以外の漢字語も、教える側にとっても学ぶ側にとっても問題になっている。



もちろん、日本語の中の漢字語は音読みであっても中国の言葉の発音と違う。日本語の漢字語の読み方は音と訓の組み合わせがやや複雑で、覚えにくい、発音自体が中国語ほど難しくない。

次のような訓読み、湯桶読み、重箱読み、熟字訓、当て字などの言葉が中日同形語であると認められている。

#### ①訓読みの言葉

間（あいだ・ま） 床（とこ・ゆか） 嫁（よめ） 湯（ゆ） 水（みず） 鬼（おに）  
命（いのち） 牙（きば） 鎖（くさり） 嘴（くちばし） 角（つの・かど）  
車（くるま） 腕（うで） 城（しろ） 娘（むすめ） 餅（もち） 門（かど）  
床板（ゆかいた） 革靴（かわぐつ） 手紙（てがみ） 出口（でぐち） 新手（あらて）  
上手（かみて・うわて） 赤身（あかみ） 秋風（あきかぜ） 頭数（あたまかず）  
石頭（いしあたま） 大男（おおおとこ） 大女（おおおんな） 大風（おおかぜ）  
大方（おおかた） 大口（おおぐち） 大手（おおて・おおで） 声音（こわね）  
顔色（かおいろ） 心得（こころえ） 空手（からて） 死水（しにみず） 手足（てあし）  
下手（しもて・したて・へた） 外表（そとおもて） 手心（てごころ） 小銭（こぜに）  
白酒（しろざけ） 人手（ひとで） 二手（ふたて） 平手（ひらて） 焼餅（やきもち）  
山里（やまざと） 横幅（よこはば）

#### ②湯桶読みの言葉

大勢（おおぜい） 大家（おおや） 片面（かためん） 潮気（しおけ）

#### ③重箱読みの言葉

後手（ごて） 地頭（じあたま） 地板（じいた）  
地道（じみち） 順手（じゅんて） 土方（どかた）

#### ④熟字訓

祝詞（のりと） 土産（みやげ） 留守（るす）

#### ⑤当て字

得体（えたい） 得手（えて） 女将（おかみ）  
切手（きって） 出来（でき） 真面目（まじめ）

以上の例はみんな中日同形語として認められているので、その定義をするとき、「漢字語」を使うほうが適切であると思われる。

### 5.3 中日同形語と送り仮名

中日同形語の研究対象は漢字語である。送り仮名のついている言葉はもう漢字語ではなく、「漢字+仮名」の混種語になるので、中日同形語として扱うのは不合理である。ただし、日本語の中の音読み以外の言葉を表記する場合、送り仮名がついてもつかなくてもいい言葉は少なくない。送り仮名がつかない場合、中日同形語と認めてもいいと思われる。例え



ば、「打ち消し」「打消し」「打消す」と“打消”は中日同形語にはならない。「打消」と書かなければ、同形語とは認められない。

#### 5.4 中日同形語と文字数

これまで二字の同形語に研究が集中されているが、四字複合語の比較研究も部分的になされている。三字の漢字語は中国語に少ない原因か、三字の中日同形語の数があまり多くない。五字以上の中日同形語は収集が難しいので、あまり研究されていないのが現状である。

残っているのは一字の漢字語である。大河内康憲は「同形語といっても「山、人、大、少」など一字で音訓いずれにも使われるものは含まない。」と主張していたせい、一字の漢字語を同形語として研究した人があまりいなかった。

しかし、一字の中日同形語<sup>(20)</sup>が存在しないわけではない。日本語での読み方が音読みか訓読みかにかかわりなく、中国語と日本語で両方とも独立して使われる一文字の漢字語も中日同形語であると認めるべきである。日本の新しい常用漢字表に照らして、中日とも独立して使える一字の中日同形語を統計し、意味用法などを比較する必要がある。

したがって、中日同形語に字数の制限を設けるべきではない。独立できる単語や連語であれば、文字数の多寡にかかわらず、中日同形語であることは認めるべきである。

#### 5.5 中日同形語と語構成

同形語の語構成が同じなければならないと大河内康憲が主張しているが、おそらく借用語との関係の角度から言っているのだろう。しかし、いわゆる借用語でも、違う言語環境に入ったら、語構成などが変わってしまうのも当然である。

筆者は、中日同形語の語構成が必ずしも同じであるとは限らないと思う。中日同形語の語構成を分析した結果、むしろ語構成の違いが語義の違いをもたらす大きな要因であることがわかった。中日同形語の語構成が中日両国の異なる言語環境でそれぞれ発展してきたので、語構成が違うのは当たり前である。中日同形語の語構成について第三章で詳述する。

#### 5.6 中日同形語と借用語

借用語と中日同形語の関係について、筆者は「借用語は中日同形語の一部に過ぎない」と考えている。いわゆる借用語は、いったん異なる言語環境に入ったら、その意味用法が新しい言語環境に応じて変わってしまう。借用関係を研究するのはもちろん大切であるが、ここでは借用関係を問わず同じ形をしている漢字語をすべて中日同形語と呼ぶ。

また、借用関係があっても、日本語では音読みとは限らない。

中国語から日本語に入った音読みでない言葉として次の例が挙げられる。

紫陽花 (あじさい)	雨具 (あまぐ)	銀杏 (いちよう)	田舎 (いなか)
胞衣 (えな)	白粉 (おしろい)	大人 (おとな)	
啄木鳥 (きつつき)	蟋蟀 (きりぎりす・こおろぎ)	香醋 (こうず)	



禅寺（ぜんでら） 雑木（ぞうき） 七夕（たなばた） 梅雨（つゆ）  
天窓（てんまど） 二十歳（はたち） 羽衣（はごろも）  
雲雀（ひばり） 土産（みやげ）

日本語から中国語に入った音読みでない言葉として次の例が挙げられる。

後手（ごて） 立場（たちば） 出口（でぐち） 場合（ばあい）

そして、借用関係がなく、偶然に一致した漢字語も少なくない。次の例が挙げられる。

石頭 女将 基因 球技 球場 境内 献花 研究生 行楽 心地 心得  
潮気 失職 車間 就職 出力 出頭 上場 送信 走路 手勢 手心  
当面 土方 独女 熱線 破船 発信 平手 満車 無心 床上 床下

## 5.7 中日同形語と複合語・連語

中国語の漢字が日本語より相対的に独立性が強いし、漢字と漢字の接続関係が複雑なので、日本語では複合語であっても中国語では複合語の範囲を超えてしまい、連語であるものが少なくない。

たとえば、日本語の「切手」は『日中同形異義語辞典』に収録されているが、中国語に“切手”という複合語が存在していない。連語としても認められにくい。というのは、中国語では“切”と“手”の間に“了”か“到”が入らなければ、意味が通じないからである。

また「怪我」はほとんどの同形語の辞書に同形語として収録されているが、中国では一般の辞書にも収録されていない。なぜなら、“怪我”は合成語ではないからである。

## 5.8 中日同形語の範囲

その言葉は辞書に載っているか否かにかかわらずなく、インターネットを含めて、現代の中日両国の日常生活やさまざまな分野で使われている同形漢字語はすべて中日同形語である。

ただし、次の漢字語は同形語として扱うのは適切ではない。

①演歌や俳句や和歌などで特別な読み方をする漢字語。

それらの漢字語は特別な訓読みを宛てられているので、一般的に通用しないから、中日同形語の範囲から除外すべきである。

例えば、「娘」は普通「むすめ」と読まれるが、演歌では「こ」と訓読みされる場合がある。「こ」と読む「娘」、「とき」と読む「青春」のような漢字語は同形語として扱ったら、日本語学習者に大きな混乱をもたらしかねない。

②固有名詞。

人の名前、地名、店や会社の名前などの固有名詞はそのまま翻訳することができる。そしてその数が多すぎる。中日同形語として研究してもほとんど意味がないので、中日同形語とみなすべきではない。



例えば、「朽木」は一般名詞として「きゅうぼく」と「くちき」の二通りの読み方があるが、そのほかに日本人の名字に「朽木」が使われている。中国人が「朽木」という名字を見たら、誰でも思わず笑いたくなるだろう。名字は一種の記号にすぎないので、別に特別な意味が込められていない可能性がある。

### ③字順が違う漢字語

中日同形語は字順が同じでなければならない。中日両言語の言語内と言語間に字順が違う言葉が多数存在している。字順が違くと、語構成が変わってしまい、その意味合いにも多少の変化をもたらす場合が多い。

もちろん、類義か同義の漢字で構成された言葉は字順が逆でも意味に影響がない可能性もある。例えば、「紹介」と“介绍”、「運搬」と“搬运”、中国の古代では両方とも使われたが、今中日にそれぞれ一つしか残っていない。意味が同じでも、字順が違うので、中日同形語と認めるべきではない。

### ④違う漢字の言葉

日本語で常用漢字以外の漢字を書き換えたり、代用字を使ったりしている言葉が少なくない。それらの言葉に使われている漢字と元の漢字は中国語で別々に使い分けられているので、中日同形語と認めるべきではない。

次の例が挙げられる。以下「日本語—中国語」の順番で並べていく。

気分—气氛	摸索—摸索	探検—探险 (探險)
媒酌—媒妁	欠点—缺点	活発—活泼 (活潑)

### ⑤元の漢字が違う漢字語

中国語では同じ漢字に簡略化され、日本語ではまだ使い分けられている漢字がある。例えば、「發」と「髮」が今全部「发」に簡略化されている。それによって、現代中国語に「散发 (sànfa)」と「散髮 (sǎnfà)」という同形語が生まれた。しかし、日本語ではそれぞれ「散發」と「散髮」になっているので、日本語に対応して中国語の発音と意味を使い分けなければならない。したがって、「散发 (sàn fā)」と「散髮」、「散发 (sàn fà)」と「散發」を中日同形語として扱ってはならない。正しい対応関係は次の通りである。

繁体字	日本語	中国語
散發	散發	散发 sànfa
散髮	散髮	散发 sǎnfà

## 5.9 中日同形語の量

同形語の量に関する統計は荒屋勸(1983)、曾根博隆(1988)、橘純信(1994)などがあるが、それらはみなある辞書に絞って、統計されたデータであるので、あくまでも相対的な量である。辞書に収録されていない言葉も数えきれないほどある。例えば、「性」や「化」などの接尾辞が他の言葉と結合してできた派生語は膨大な数にのぼる。数量詞は複合語の一種



で、数量自身に限りがないので、数量詞の量は当然数えきれない。したがって、中日同形語の絶対量は無数である。

## 6. おわりに

同形語は「言語内同形語」と「言語間同形語」に分けられる。中日同形語は中国語と日本語という二つの違う言語体系の間にある「言語間同形語」である。

中日同形語は音読みの「漢語」とは限らず、訓読み、湯桶読み、重箱読み、熟字訓、当て字などの言葉も中日同形語に属する可能性がある。また中日同形語は借用語とも限らず、偶然の一致で形成したものも少なくない。語構成から見ると、中日同形語の語構成は必ずしも同じであるとは限らない。そして、日本語で複合語であるが、中国語で連語である中日同形語も少なくない。

よって、筆者は、中日同形語を次のように定義する。

中日同形語とは、音訓の読み方・文字数・借用関係を問わず、中日両国の文字改革によりもたらされた字体の相違があっても、漢字のものが同じである、中国語と日本語の間に存在している同形の漢字語である。

### 注：

- (1)「中日同形語」はほかに「日中同形語」、「日漢同形語」などの呼び方もある。
- (2)同形語の語義の比較に関する辞書と書籍が数多く出ているが、次のものが挙げられる。
  - ①汪大捷・張静容等(1986)《中日两用日漢双解同形异义日语汉字词典》
  - ②上野恵司・魯曉琨(1993)『日中同形異義語 300』
  - ③黄力游・林翠芳(2004)《日汉同形异义词词典》
  - ④王永全・小玉新次郎(2007)『日中同形異義語辞典』
- (3)守屋宏則(1979)が次のように簡単に述べただけである。

御承知のように日本語と中国語は表記においてともに漢字を使用しているため、漢字表記による同形語が数多く見られる。

曾根博隆(1983)が「日本語と中国語において同じ漢字によって表記される単語」を「日中同形語」と呼んだ。

荒屋勸(1983)「日中同形語」で「旧字体」という言葉を使って、「同形語」を説明した。

日中の同形語に焦点を当てる場合、現行の形の上での細かい違いを問題にしては研究の範囲が狭まり、的を得ないことになる。それで旧字体(いわゆる康熙字典体)で同じものは同形とみなし香坂純一氏編《中国語常用語辞典》(収録語彙約 3800)中における同形語を、久松潜一・佐藤謙三編《角川国語辞典》に収録される範囲で選定したところ、約 50% (約 1900 語) が同形語であった。



大塚秀明(1990)が「日中同形語について」で次のように述べているが、まとまった定義とは言えない。

こうして古代においては日本語が漢字を含めた中国文化を大量に受け入れたことにより、また近代においては中国語が日本で翻訳された漢字語を分野の偏りはあるにせよ、受け入れたことにより、今日の両国語には、意味や発音、更に当用漢字と簡体字という字形の違いはあるが、表記された文字は「同じ」という現象がみられる。本稿のいう同形語とはこれをいう。

そして、大塚秀明(1990)は注2)で英語と中国語には発音によって意味が違う同形語が存在していること、同形語の「定義が容易ではない」ことを指摘した。

王蜀豫(1997)は「日中両国語における同形語についての対照的研究—時間語彙における意味のずれを中心に—」で次のように述べている。

日中同形語の“同形”というのは、本稿の場合、広義的な同形であり、つまり、字形が相似していることを指す。

西川和男(1991)は「日中同形語」を「同形同義語」「異形同義語」「同形異義語」の三種類に分類したが、「日中同形語」の定義についての叙述がなかった。

上野恵司・魯曉琨(1993)の「同形語」の意味は明確ではない。

日中同形同義語とは、日本語と中国語の意味と用法が完全に同じである同形語を指す。

日中同形異義語とは、日本語と中国語とで、意味や用法が異なる同形語を指す。

橘純信(1994)も同形語の定義について触れなかった。

曹櫻(2003)は「日中同形語について」という論文でこれまでの同形語の研究をまとめたが、定義について一切触れない。

そのほか、劉凡夫(1988)、顧明耀(1991)、許羅莎(1997)、吉田雅子(2005)、加藤稔人(2005)なども同形語の定義に触れていない。

林翠芳・黄力游(2004)が「日中同形異義語における誤用に関する一考察」で「同形語」と「同形異義語」を間違えてしまった。

「日中同形語」とは言うまでもなく、日本語と中国語において、外形が同じで意味が違う漢語のことをいう。しかし、同形と言っても一部の漢字には表記上の違いが見られ、その差異は小さいものから大きいものがある。

(4)《日语学习与研究》1995年03期 p19

(5)同形語(中国語で“同形词”)とは何か。一言で言えば「政治、文化」のように日・中で字面が同じ単語であるが、この呼び方が中国で使われだしたのは比較的最近のこのように思う。勿論日本での呼び名は中国語をうけている。概念の定義は違うが、従来“日语借词”と呼ばれてきたものが主としてこれに相当する。これを拡大して、この“日语借词”と古来中国語にある語(同じようにいえば日本における漢語借詞)とを合わせ、



いずれがいずれを借用したかを問わず、双方同じ漢字（簡体字は問わない）で表記されるものを同形語と呼ぶようになったと思われる。1970年代になって、中国の日本語研究者の間で一般化したもののように思う。したがって、同形語といっても「山、人、大、少」など一字で音訓いずれにも使われるものは含まない。「文化、経済、克服、普通」のような二字（ときには三字以上）の字音語で、表記のみならず語構成が問題になるものである。語構成における共通性が同形語といわれる所以であり、したがって借用関係が問題になるところである。

『日本語と中国語の対照研究論文集』 pp179-180

(6) 原文は次のとおりである。

「以为应该将那些本属“和语”、但如果将送假名等因素抛开不计的话、其字形（汉字）与汉语中的某个词构成同形对应关系的词也纳入同形词考察范围。例如：取（り）締（ま）り、手続（き）等。并且，此类词在词源上往往具有借用、同源的关系。

综上所述，笔者以为在判定同形词时应该依据以下三个必要条件：

①表记为相同的汉字（繁简字体差别及送假名、形容动词词尾等非汉字因素均忽略不计）；②具有共同的出处和历史上的关联；③现在中日两国语言中都使用的词。其中以双音节词（二字音语）为最多，另有三音节四音节词等。

“此外，需要补充的是，另有一类词，…即不具有借用、同源关系，但由于偶然的因素导致中日双方二者词形相同，即所谓的“殊途同归”型的词。尽管数量极有限，也应该列入同形词考察范围里。例如：手纸、洋行等”。

《日语学习与研究》1995年03期 pp19-20

(7) 中日漢字の字形の違いについて、拙論の「中日漢字の字形比較研究」を参照されたい。

(8) 次の研究者の定義が大河内康憲の影響を受けたと思われる。

①西谷まり(2004)は直接大河内康憲(1992)の表現を引用した。

大河内康憲(1997)は「いずれがいずれを借用したかを問わず、双方同じ漢字で表記されるものを同形語とよぶ」と定義している。(p412)

②李薇(2003)は「現代日中同形異義語」について次のように述べたが、大河内康憲(1992)の影響を受けている。

現代日中同形異義語とは現代日中言語における同じ漢字表記でありながら、それぞれの持つ意味が異なる漢語のことを言う。(p79)

③朱京偉(2005)は「中日同形語」を使っているが、大河内康憲(1992)の影響を受けている。

中日同形語とは、日本語と中国語の両方で同じ字面を持つ漢語（漢字音読語）のことをいう。(p276)



④莊巖(2001)

「同形語」といえば、形が同じであることは一番の前提となっているはずであるが、実際、漢字の字形について、日本と中国ではそれぞれ幾たびの文字改革が行われてきた結果、両者が必ずしも一致しているとはかぎらないものが多い。ただ、それぞれ昔の字体に戻して考えれば、同じ語となるから、字体が同じであるというより、語構成が同じであることは同形語のいわれである。(p67)

(9)宮島達夫(1994)『語彙論研究』むぎ書房 (p283)

(10)魯宝元(2005)の次の見方は呉侃(1995)とほとんど同じである。

日汉同形词指的是日语和汉语中使用汉字相同的词。有的是所用汉字完全相同的词，有的是日语或汉语因汉字简化造成不同，但还原成原来的汉字字形相同，也视为同形词。有的是因为日语为了表示词性加了平假名的词尾，与汉语词汇造成不同，但单看汉字部分相同，从方便对日本学习者教授汉语的角度看，也可以视为同形词。(p70)

(11)竹田治美(2005)「日中同形類義語」について『人間文化研究科学年報』20 (p335)

(12)“同形词”という言葉は中国で使われ始めたのである。许威汉(2000)は“同形词的探讨”について次のように指摘している。

早在新中国成立之前，王力就提出关于同形词的见解。1955年11月《汉语讲话》写了这样的话：“同形词，是指字音形皆同，惟字义各异而言。”

(13)「言語内同形語」と「言語間同形語」という言葉は筆者が2008年始めごろにすでに考え付いた。そして、2008年8月に関東学院大学での集中講義で紹介した。偶然に、「言語間同形語」という言葉は大井京・齋藤洋典(2009)にも使われた。

(14)卢英顺(2007)《现代汉语词汇学》p179

(15)《现代汉语通用字笔顺规范》と『新しい国語表記ハンドブック』によれば、次の漢字は形が全く同じように見えるが、筆順が微妙に違う。

九 万 方 右 出 田 由 有 机 后 など

(16)漢字の字形・字体などについて、《康熙字典》がよく「もとの漢字」の根拠とみなされているが、中国語で現在使われている宋体は《康熙字典》以前になるので、筆者は「漢字のもと」を使ったのである。

(17)「漢字語」という言葉は文化庁(1978)の『中国語と対応する日本語』にすでに使われている。

日本語の漢語と同じ漢字語が中国語に存在しないもの。(p113)

(18)『大辞林』では「漢語」が次のように説明してある。

日本語として使われる語のうち、漢字音でよまれる語。また、漢字の熟語。「火事(かじ)」「大根(だいこん)」のように、和語に当てた漢字を音読した和製の漢語もある。」  
ちなみに、『大辞林』の挙げた「火事」と「大根」は昔中国語にあった言葉である。《漢



語大词典》に“火事”が収録されている。

失火事故。

郭宪从南郊含酒，东北三噉，云：‘齐失火，以厌之。’后齐果上火事。

《太平御览》卷八六八引晋周斐《汝南先贤传》

君看刘郎最多智，昨者火事几焚巢。

宋 黄庭坚《戏简朱公武刘邦直田子平》诗之二

“大根”は中国語で木や蓮根などの「大きな根」を指しているが、日本語では意味が特化された。『莊子』にすでに用例が出ている。

俯而視其大根，則軸解而不可為棺槨

『莊子・内篇』

(19) 汪大捷・張静容(1986)等が編纂した《中日两用日汉双解同形异义日语汉字词典》に 1792 組の中日同形語が収録されている。その中に次の言葉が入っている。

#### ①訓読みの言葉

一口（ひとくち） 一山（ひとやま） 一切（ひとときり） 一切（ひときれ）  
一本（ひともと） 一打（ひとうち） 一色（ひといろ） 一角（ひとかど）  
一息（ひといき） 一番（ひとつがい） 人中（ひとなか） 人心（ひとごころ）  
人手（ひとで） 人形（ひとがた） 人事（ひとごと） 人数（ひとかず）  
人様（ひとさま） 入会（いりあい） 大方（おおかた） 大手（おおて）  
大手（おおで） 大字（おおあざ） 小字（こあざ） 大年（おおとし）  
大家（おおや） 下書（したがき） 三毛（みけ） 土方（どかた）  
下手（しもて・したて） 上火（うわび） 下火（したび）  
口重（くちおも） 口軽（くちがる） 口裏（くちうら） 上辺（うわべ）  
上手（かみて・うわて） 上前（うわまえ） 小米（こごめ）  
上書（うわがき） 上薬（うわぐすり） 切口（きりくち） 切身（きりみ）  
切紙（きりがみ） 天晴（あっぱれ） 日々（ひび） 心算（つもり）  
中腰（ちゅうごし） 戸口（とぐち） 手下（てした） 手心（てごころ）  
手形（てがた） 手足（てあし） 手紙（てがみ） 手短（てみじか）  
手摺（てすり） 手籠（てかご） 月白（つきしろ） 玉石（たまいし）  
古物（ふるもの） 出口（でぐち） 出水（でみず） 出来（でき）  
出花（でばな） 目下（めした） 白水（しろみず） 外方（そつぽ）  
白白（しらしら・しらじら） 白面（しらふ） 赤金（あかがね）  
生物（なりもの・なまもの・いきもの） 早早（はやばや）  
早出（はやで） 年下（としした） 年頭（としがしら） 名子（なご）  
気短（きみじか） 舌長（したなが） 血筋（ちすじ） 手輕（てがる）  
床（とこ・ゆか） 床上（ゆかうえ・とこあげ） 里子（さとご）



身形（みなり） 青菜（あおな） 声色（こわいろ） 折紙（おりがみ）  
床下（ゆかした） 床板（ゆかいた） 鉢（はち） 舅（しゅうと）  
節目（ふしめ） 節節（ふしぶし） 腰板（こしいた） 襖（ふすま）  
微温湯（ぬるまゆ） 続飯（そくい） 餅（もち） 鼻薬（はなぐすり）  
頬紅（ほおべに） 顔色（かおいろ） 親子（おやこ） 姑（しゅうとめ）  
板床（いたどこ） 空手（そらで・からて） 前頭（まえがしら）  
活魚（いけうお） 紅（べに・くれない） 後山（あとやま） 後手（うしろで）  
風声（かざごえ） 骨節（ほねぶし） 高足（たかあし） 悄悄（しおしお）  
娘（むすめ） 乾葉（ひば） 乾飯（ほしいい） 黒人（くろうと）  
得手（えて） 細細（ほそぼそ・こまごま） 黒子（ほくろ・くろこ）  
猫背（ねこぜ） 猪頸（いくび） 壺（つぼ） 棚（たな）  
朝夕（あさゆう） 齒形（はがた） 湯（ゆ） 遠見（とおみ）  
新手（あらて） 焼飯（やきめし） 焼餅（やきもち）

#### ②湯桶読みの言葉

天辺（てっぺん） 空穴（からけつ） 赤地（あかじ） 心地（こち）  
日日（ひにち） 白地（しらじ・しろじ） 出銭（でせん） 生地（きじ）  
下地（したじ） 手勢（てぜい） 大勢（おおぜい） 手本（てほん）  
請人（うけにん） 湯銭（ゆせん） 新盆（あらぼん） 風気（かざけ）  
親兄弟（おやきょうだい） 高調子（たかちょうし）

#### ③重箱読みの言葉

両手（りょうて） 本身（ほんみ） 本場（ほんば） 半間（はんま）  
半身（はんみ） 半道（はんみち） 地道（じみち） 後手（ごて）  
面子（めんこ） 親身（しんみ） 不出来（ふでき） 不為（ふため）  
茶壺（ちゃつぽ） 茶棚（ちゃだな） 茶飯（ちゃめし）

#### ④熟字訓

今朝（けさ） 女将（おかみ） 一寸（ちよっと） 下手（へた）  
虎子（おまる） 忠実（まめ） 所以（ゆえん） 檻樓（ぼろ）  
留守（るす） 挿頭（かざし） 最早（もはや） 糸瓜（へちま）  
熨斗（のし） 破落戸（ならずもの） 強請（ゆすり）

#### ⑤送り仮名がついている言葉

切れ切れ（きれぎれ） 切り合い（きりあい） 折り合い（おりあい）  
手押し（ておし） 半張り（はんばり） 手重い（ておもい）  
手痛い（ていたい） 手軽い（てがるい） 被い（おおい）  
船中り（ふなあたり） 不入り（ふいり） 人好き（ひとずき）



利落ち（りおち） 角落ち（かくおち） 花生け（はないけ） 棚上げ（たなあげ）  
 肩上げ（かたあげ） 取り回し（とりまわし） 相乗り（あいのり）  
 骨折り（ほねおり） 細作り（ほそづくり） 飽き（あき） 飽き飽き（あきあき）  
 茶の湯（ちゃのゆ） 虎の子（とらのこ） 身の上（みのうえ）  
 空き間（あきま） 有り気（ありげ） 当り年（あたりどし）  
 下し薬（くだしぐすり） 作り物（つくりもの） 当り前（あたりまえ）

⑥中国語では地名である。 天津（あまつ） 天津（てんしん）

⑦中国語では複合語ではない。

必死（ひっし） 快作（かいさく） 快晴（かいせい） 要用（ようよう）  
 怪我（けが） 無傷（むきず） 新調（しんちょう）

上野恵司・魯曉琨(1993)が編纂した『日中同形異義語 300』に次の訓読み語が収録されている。

戸口（とぐち） 皮靴（かわぐつ） 手紙（てがみ） 立場（たちば）  
 出口（でぐち） 大家（おおや） 命（いのち） 水（みず）  
 床（とこ・ゆか） 湯（ゆ） 嫁（よめ） 婆（ばば）

黄力游・林翠芳(2004)が編纂した『日汉同形异义词词典』に次の言葉が含まれている。

#### ①訓読みの言葉

石頭（いしあたま） 上辺（うわべ） 大方（おおかた） 大家（おおや）  
 顔色（かおいろ） 門口（かどぐち） 金（かね） 靴（くつ）  
 組合（くみあい） 心得（こころえ） 逆子（さかご） 立場（たちば）  
 玉（たま） 手紙（てがみ） 出来（でき） 出口（でぐち）  
 手心（てごころ） 手袋（てぶくろ） 戸口（とぐち） 床（とこ）  
 中程（なかほど） 広場（ひろば） 節目（ふしめ） 孫子（まごこ）  
 祭（まつり） 水（みず） 娘（むすめ） 焼餅（やきもち） 湯（ゆ） 嫁（よめ）

#### ②湯桶読みの言葉

大勢（おおぜい） 片面（かためん）

#### ③重箱読みの言葉

地道（じみち） 心地（こち） 親身（しんみ）

#### ④熟字訓

女将（おかみ） 土産（みやげ） 所以（ゆえん） 留守（るす）

#### ⑤中国語では複合語ではない言葉。

我慢（がまん） 要請（ようせい）



⑥漢字が違う言葉

気分（きぶん）—气氛

王永全・小玉新次郎(2007)が編纂した『日中同形異義語辞典』の収録語に、訓読み、湯桶読み、重箱読み、熟字訓、当て字などの言葉が115語にのぼる。

①訓読み語：

秋風（あきかぜ） 石頭（いしあたま） 立場（たちば） 出口（でぐち） 新手（あらて）

②湯桶読み語：

得体（えたい） 大勢（おおぜい） 片面（かためん） 黒字（くろじ）

③重箱読み語：

新手（しんて） 後手（ごて） 地道（じみち） 親身（しんみ）

④熟字訓語：

今朝（けさ） 女将（おかみ） 下手（へた） 土産（みやげ） 祝詞（のりと）

⑤当て字語：

怪我（けが）

(20) 日本語に音読みの一文字漢字語が多く存在している。次の例が挙げられる。

愛 案 悪 胃 陰 円 艶 活 渴 急 虚 凶 狂 苦 険 行 巧 香 硬 差  
雑 酸 斜 醜 柔 重 小 生 正 専 素 対 大 短 長 軟 難 熱 煩 晚  
美 密 妙 満 乱 涼 累 霊



## 第二章 中日同形語の語義相違の要因

### 1. はじめに

中日同形語の語義の違いが言葉によって、差異の程度が違う。その違いの把握は日本語学習者だけでなく、同形語の研究者にとってもなかなか難しいものがある。そこで、どうしてそのような違いが生まれたのか、その要因を明確にすることによって、意味理解の一助になれば、日本語学習者の効率的な習得にもつながると思われる。

### 2. 先行研究

#### 2.1 同形語の形成の要因

荒屋勸(1983)は「同形語の成り立ち」で、「過去における交流の歴史をみ」たうえで、日本語の中の漢語と中国語との借用関係、とくに「五四前後に大量の日訳語が中国へ流れ込んだ」ことが「日本と中国に同形語が多い一つの理由である」と指摘した。

陳力衛(2001)は日中同形語の形成の原因を「日本が中国から借用した漢語」と「中国が日本から借用した漢語」の二つにまとめた。

なぜ、こんなにも共通の字形をもつ語彙が存在するだろう。最大の原因は、日本が中国語から漢字、漢語を大量に借用し、今日に至っているからである。「登山」「読書」「学問」などの漢語は、もともと中国から借用した外来語であるが、すっかり日本語の中に溶け込み、もはや外来語という印象がなくなっている。<sup>(1)</sup>

#### 2.2 同形語の語義相違の要因

大河内康憲(1992)は日本語で形容動詞になる同形語の意味用法の違いについて、次のように指摘している。

同じ漢字で表記されるといっても、それぞれに全く異なる言語の語彙のなかにあるわけで、違いがあっても当然だが、多くの場合借用関係にある、出自を同じくする漢字語であり、本質には同じ語が異なる文化、言語の中で異なる運用されてきた結果の差異と言える。<sup>(2)</sup>

潘鈞(1995)<sup>(3)</sup>は同形語の語義相違の要因を、語義自身の変化によるものと語義以外の要因によるものとに分けて考察した。そして、語義自身の変化による違いをさらに「転用」、「借用時の特化」、「語義の派生と借用時期のずれ」、「社会生活の影響」の4種類に下位分類し、語義変化以外の要素による違いを、「語構成」、「中国古代語義の残存」、「日本語での読み方による違い」、「同音漢字の書き換え」、「語素の意味の違い」、「社会文化による違い」、「字訓による違い」の7種類に下位分類して、通時的要因と共時的要因を分析した。

潘鈞(1995)の研究は大いに参考になったが、その分類は合理性に欠けている面もあり、説明の語例<sup>(4)</sup>も少ない。例えば、「語素の意味の違い」も語構成に属するので、語構成の類



にまとめるべきである。語構成の例として「人選」を挙げているが、中国語にはこのような“偏正结构”<sup>(5)</sup>の例はほかに見ないので、特別な修飾構造とみなすべきである。ちなみに、「人選」は日本語から輸入した言葉で、中国語で「選ばれた人」を意味し、日本語の「適当な人をえらぶこと」<sup>(6)</sup>とは違っている。

また、一部の例は適切であるとは思われない。例えば、「洋行」という言葉は中国語でも日本語でもほとんど使われなくなったので、同形語として挙げても意味がない。「悪女」という言葉は「あくじょ」以外の読み方が確認されていない。中国語では“恶女”は古い言葉で、現在は使われていない。

「市場」に関する説明も適切ではないところがある。《汉语大词典》に南唐時代の用例<sup>(7)</sup>が挙げられているので、日本人によって使われ始めたとは言えない。

### 3. 中日同形語の形成の要因

中日同形語が形成された最大の要因はお互いの借用関係にある。そのほかに、お互いに借用関係が確認できず、偶然の一致でそれぞれ独自の道を歩んだ言葉も少なくない。例えば、次の例が挙げられる。

赤身 石頭 得体 開学 怪人 街道 火気 架空 学芸 較差 隔壁 起毛 球技  
球場 狂言 狂人 境内 激怒 激動 公道 公認 後年 公約 行楽 婚期 字画  
失職 社長 出頭 出力 順路 唱歌 正気 商談 進水 善戦 前年 増幅 走路  
帯出 耐性 手心 鉄腕 手袋 天狗 展翅 天井 導管 土方 独女 難聴 入手  
熱湯 念書 念頭 納入 破船 抜糸 発案 発毛 平手 毛頭 孫子 麻薬 満床  
満車 満室 薬種 床上 床下 要員 養家 立案 老公 老婆 運動員 感染力  
研究生 老废物 高校教師 女性問題<sup>(8)</sup>

偶然の一致で形成した同形語は語構成が違ったり日本語で訓読みだったりする言葉が少なくない。

また、日本語では発音の変化と当て字の使用によって、同形語を形成した例もある。例えば、「堪能」はもともと「深くその道に達して上手なこと」を表したが、「足りヌの音便足ンヌの転訛」による当て字として、「十分にみちること。あきたりること。また、気のすむようにすること。」という意味も表すようになった。「新米」はもともと「今年収穫した米。」だけを意味したが、「しんまえ(新前)」の発音に近いので、「新たにそのことに従って、まだ慣れない者。」の意味を表すのに転用された。しかし、「新しく収穫した米」の味と香りから、どうしてもその意味とは結びつかない。

### 4. 語義の相違をもたらす要因

筆者が中日同形語を比較研究した結果において、潘鈞(1995)の挙げた要因の他に、環境の影響、略語、中国語での意味の変化が激しいこと、日本語で漢字に新しい意味が生まれたことなどがあるので、以下、詳しく考察していく。



#### 4.1 環境の影響

環境の違うこととその変化が言葉の意味用法に大きな影響を与える。環境は、自然環境と社会環境に分類できる。

自然環境は人々が生存するための基礎であるから、言葉の基本義の誕生に大きな影響を及ぼしてきた。言葉は必要によって生まれるが、自然環境が違えば、人々に意識されたイメージも違い、誕生した言葉の意味用法、言葉の数も違ってくる。また、その基本義から派生された抽象義、比喩的な意味も異なってくる。「落花流水」<sup>(9)</sup>はその代表的な例と言える。

日本の自然環境の特徴として挙げられるのは海に囲まれること、山が多いこと、平野が狭いことなどである。日本列島の四方が海なので、海や魚に関する言葉が非常に多い。例えば、「高潮」は日本で誕生した言葉で、中国に輸入された。日本語での意味は中国語より多いので、双方の違いがある。また「赤身（あかみ）」は日本語では普通「魚の赤い肉」を指しているが、中国語では「服を着ていない裸の状態になる」意味を表す。

王朝の交替、革命、外来文化の影響などは、全部社会環境の変化に属する。歴史上、王朝が変わるにつれて、言葉も微妙に変化する。20世紀のプロレタリア革命の影響は最も大きいと言える。伝統文化が否定され、大量の言葉が死語となり、多くの言葉の意味も大きく変えられた。さらに、今のインターネットは、言葉の革命を巻き起こしたと言えるほど言葉を変えている。言葉は、社会環境の変化とともに変わっているのである。中国語での“写”と、“写”を含む言葉の意味変化<sup>(10)</sup>は、その代表的な例と言えるだろう。

最近の中国での新語も注目されるべきである。中国の経済が発展するにつれて、従来の言葉が足りなくなったので、また日本語から輸入したり、新しく造語したり、従来の言葉に新しい意味を与えたりした言葉が中国語で増える一方である。《新华新词语词典》に収録された新語に中日同形語が132語<sup>(11)</sup>もある。

その中で、「安楽死」「不可抗力」「長考」「対決」「個展」「過労死」「空港」「量販店」「売場」「人気」「商戦」「瘦身」「特売」「物流」「物語」「写真」「新鋭」「研修」「蒸発」「直撃」「著作権」などが、明らかに日本語から来た言葉である。しかし、「瘦身」と「直撃」は日本語と意味が変わった。「瘦身」は日本語では「痩せた身体」の「V+N」の修飾構造の名詞で、中国語では「V+N」の動賓構造の動詞で、「体を痩せさせる」意味を表す。「直撃」は、もともと日本語では「爆弾などが直接にあたること。」「直接に攻撃すること。直接おそうこと。」を表しているが、中国語では“直接触及。特指电视等媒体以现场采访、拍摄的方式直接报道。（筆者訳：直接触れる。特にテレビなどのメディアが生中継で報道することを指す。）”という意味に変わった。

もともとあった言葉に新しい意味が生まれた例として、「第三者」「放電」「放水」「訪問」「火」「品位」「熱線」「透析」「消化」「演繹」<sup>(12)</sup>などが挙げられる。これらの新しい意味は日本語の同形語の意味と大きく異なっている。



上述の語例の中で、“热线”について見てみよう。日本語の「赤外線」の意味もあったが、ほとんど使われない。今は次の3つの意味がある。①首脳間のホットライン。②大勢の人が利用する電話回線。③人気のある観光ルート。

国際的な地位が上がると、首脳間の交流が増え、緊密な連絡を取るために、「ホットライン」が必要になる。経済が発展すると、人々の住生活も改善される。家を買うために、不動産屋へ電話が殺到する。「電話回線が熱くなる」のは当然である。ある程度の経済力がつくと、みんな旅行を楽しもうとしているので、観光の“热线”が現れたのである。

“第三者”はもともと日本語と同じく「当事者以外の者。その事柄に直接関係していない人。」を指していたが、今は「夫婦の間に割り込む第三者」「愛人」という意味が現れた。

#### 4.2 翻訳や借用時の限定特化

翻訳は、ある言葉の全ての意味を訳するのではなく、その言葉がある文章のある文脈で使われている意味を翻訳するのである。そのプロセスで、ある意味用法が優先されて、特化されがちである。その結果、他の意味用法が無視されてしまう可能性がある。潘鈞(1995)も外来語の語義の限定特化について「一般的に言えば、ある言葉が外来語として他の言語に入る時、その言葉の意味が様々な要素によって限定され、ひいては特化されてしまう。」<sup>(13)</sup>と指摘している。

英語と中国語、英語と日本語の間の翻訳は違う文字で行われている概念の借用であるのに対して、中国語と日本語の間の漢字語はそのまま借用されている。中国語あるいは日本語での意味が多い言葉は、その意味について全て借用するわけにはいかないで、双方の語義などの違いをもたらしたわけである。

例えば、“修”は古くから“兴建；建造”<sup>(14)</sup>の意味もあったが、日本語に伝わってこなかった。“修筑”の“修”は“筑”と同じ意味を表す可能性がある。もともとあったものを“修筑（修築する）”場合は「修繕する」を意味するが、もともとないものを“修筑（修築する）”場合は明らかに「修理する」「修繕する」意味が入っていない。現在の“修筑”は、「今までなかったもの」として例えば「道路」「鉄道」「ダム」「空港」「橋梁」などを対象にする「築造する」「建造する」の意味を表している。この意味が日本語に伝わっていないので、日本語の「修築」は「建物・橋・堤防などをつくろい直すこと。」にとどまっているのである。

また、最初の意味が伝わった後に、新しい意味が生まれた場合、その新しい意味が伝わりにくい。

“汤”は唐代にすでに「スープ」<sup>(15)</sup>の意味があったが、日本語に伝わっていない。

中国語の今の“严重”の意味が日本語と大きく違っているので、中国語母語話者が日本語の「嚴重」の意味用法をよく間違える。しかし、どうして両者に違いが出たのか、中国語と日本語の関係だけを見ては答えが見つからないだろう。



20 世紀はじめごろのロシアとその後のソビエトが中国に与えた影響は非常に大きかった。それは言葉にも反映されているはずである。王力<sup>(16)</sup>は、中国語の“严重”の意味がロシア語の影響を受けていると指摘している。訳者がロシア語を翻訳する時、“严重”と“重大”の二つの意味を持っているロシア語の言葉を全部“严重”に訳してしまったということである。《汉语大词典》は“严重”<sup>(17)</sup>に関して7つの意味を挙げている。

(1) 指地位高、威势重的人。(2) 敬重。(3) 严肃稳重。(4) 犹严酷；严厉。(5) 重大。(6) 形容情势紧急危险。(7) 过于笨重。

(1) ～ (4) と (7) は古い意味で、古典の用例が挙げられているが、(5) と (6) は新しい意味で、古典の意味との関連性が見いだせない。李大钊<sup>(18)</sup>の用例を挙げている点からも、ロシア語の影響がうかがえる。今中国語では“严重”の古い意味がほとんど消え、ロシア語からの意味しか残っていない。一方、日本語の「嚴重」は中国語の古い意味とも違っているので、中日双方の意味が大きく異なっているのである。

ロシア語の影響を受けた言葉は“严重”だけではないだろう。20 世紀に中国語の語義の変化が激しすぎた一面もある。中国語における日本語からの借用語の研究が盛んに行われているが、ロシア語とその翻訳が現代中国語に与えた影響について研究を深める必要がある。

「嚴重」のほかに、翻訳の影響によって、意味が違う中日同形語は「王道」「婚期」「破門」「美声」などが挙げられる。

日本語の「王道」はもともと中国語と同じく「儒家の理想とした政治思想で、古代の王者が履行した仁徳を本とする政道」と「最も正統な道・方法」の意味を表していたが、英語の「royal road」の訳語としての意味が加わったので、中国語と違うのである。

日本語の「婚期」<sup>(19)</sup>は英語の「Puberty」の訳語で、「結婚に適当な年頃」という意味を表しているが、中国語では「婚礼の期日」を指す。

「破門」はキリスト教から来た可能性が大きい<sup>(20)</sup>。日本語では「師弟の縁を絶って門人から除くこと」「信徒としての資格を奪って宗門から除き去ること」の意味を表すが、中国語では「ドアを打ち破る」「破れた門かドア」を意味していたが、最近はサッカー用語としての「ゴールに入る」という新しい意味が誕生した。

中国語の“美声”はイタリア語からの訳語で、声楽用語の一つで、「ベルカント」という意味である。日本語の「美声」は一般的な言葉で、「美しい声」を意味する。

#### 4.3 中日での意味用法の変化

##### 4.3.1 中国語での意味の変化

中国語での変化は次の4類に下位分類できる。

①日本に伝わった意味が消え、他の意味が残っていたり、別の意味に変わったりした言葉  
②品詞性に関する意味の変化③語義の抽象化④意味の特化

以下、詳しく見ていく。



#### 4.3.1.1 日本に伝わった意味が消え、他の意味が残っていたり、別の意味に変わったりした言葉

もともと中国語で使われた意味が日本に伝わって、日本語でずっと受け継がれているが、中国語でその意味用法が逆に消滅して、他の意味が残っていたり、別の意味に変わったりしているので、現在の双方の違いが生じたのである。表面上双方の意味用法に関係がないように見えるが、言葉の源流をたどってみれば、双方の間に密接な関係があることがわかる。次の同形語が挙げられる。

暗算 恩賜 競走 合算 懸念 光臨 辞去 事情 師弟 新聞 整列 絶境 葬送  
地歩 調剤 追尾 独眼竜 風流韻事 平淡 勉励 来臨 凌駕

“暗算”はもともと「道具を借りずに頭（心）の中で数える」意味だったが、明の時代<sup>(21)</sup>にすっかり「ひそかにわなをしかけて、人を殺害したり陥れたりしようとする」意味に変わり、ずっと受け継がれてきた。他動詞で、受身の形で多用される。「ひそかにたくらむ」「陰謀をたくらむ」と訳すのは適切ではない。一方、日本語では「筆算や珠算の方法によらないで、頭の中で計算すること。」という意味がずっと保たれている。

“恩賜”は、もともと“朝廷的賞賜”つまり「皇帝が臣下に官職や物品などを賜る」意味だったが、中国は君主制の国家ではないので、中国語で“上蒼的恩賜”“上天的恩賜”“上帝的恩賜”“神的恩賜”“大自然的恩賜”“政府恩賜”“美国恩賜”“别人恩賜”などのように使われ、「施す」「施しを与える」意味を表す。日本は天皇制なので、日本語に「天皇・君主から物を賜ること。」の意味用法がまだ残っているのである。

中国語の“新聞”と日本語の「新聞」の意味の違いはよく知られているが、日本語の「新聞」の意味が中国から伝わったことは中国人にはほとんど知られていない。《汉语大词典》<sup>(22)</sup>によれば、中国語で“新聞”という言葉は唐の時代から既に使われ始め、宋の時代に日本語の「新聞」の意味が現れた。

“独眼龙”は、もともと「片目を瞑って矢を射る」名人を褒め称えた言葉だったが、今は「片目を失明した人」を皮肉って、言っている。日本語では「独眼竜」は「片目の英雄。」を指し、特に「伊達政宗」を指している。

中国語では、“光臨”の意味は変わっていないが、“降临”“来临”の意味用法が変わったので、日本語と異なっている。“来临”は「新年、夏休み、春等の時」や「暴風雨や嵐などの気象現象」の到来を表す。“降临”は昔の「神仏などのあまくだる」と「貴人が来訪する」意味が消え、「夜の帳や災難などが訪れる」というマイナス的な意味になってしまった。

“合算”は、もともと日本語と同じく「合計する」意味を表したが、現在は「合計する」意味がほとんど使われなくなり、形容詞として「少ない代価で大きな収益を上げる」「採算が合う」という意味を表す。字面からどうしてその意味が生まれたかまだ答えが見つからない。おそらく「何かをする前に支出と収入を合わせて計算して、利益があるかどうか見積もる」ところから生まれたのであろう。



“悬念”は、もともと「心配する」意味だったが、現在その意味がほとんど消え、その代わりに“挂念”等が使われる。“悬念”は現在“欣赏小说、电影、戏剧或其他文艺作品时的一种心理活动。即关切故事发展和人物命运的期待心理和紧张心情。（筆者訳：小説、映画、戯曲あるいは他の文芸作品を鑑賞する時の心理活動。読者がストーリーの展開と登場人物の運命に関心を寄せ、ある期待を持っている心理と緊張感）”を意味する。

“辞去”は、中国語では「別れを告げて去る」から「辞めて去る」「辞める」意味に変わった。日本語ではまだ「わかれを告げて立ち去ること」の意味が保たれている。

“事情”は、もともと日本語と同じく「物事の真相、実情」「物事がある状態になった、細かな様子・次第。」を表していたが、だんだん“情”の意味が脱落して、“事”の意味だけが残ってしまい、「事。事柄」「仕事」「用事」の意味を表すようになった。一方、日本語は中国語から入った意味がずっと保たれているので、双方の語義が異なっているのである。

“地步”<sup>(23)</sup>は「区域」「位置」「地位」「余地」「境地」「程度」などの意味があったが、「（主として悪い）境地」「程度」がまだ使われ、他の意味用法が消えてしまった。日本語では「地步」は「自己のいる地位。活動する上での立場。立脚地。位置。」を意味しているので、中国語から伝わった意味がまだ保たれているのである。

“追尾”は、もともと「後を付けて追う」意味を表し、“尾追”とも言われた。“尾”は“追”と同じ意味を表す動詞であったが、「後の車が前の車の後尾に接触する」「追突する」という新しい意味が生まれた。日本語では中国語から来た「あとをつけて行く」「追跡する」の意味が保たれているが、中日とも「尾」に対する理解が「うしろ」「あと」の名詞に変わった。

“勉励”は、他動詞としての「励ます」と自動詞としての「励む。力を尽くす」二つの意味用法があったが、中国語では他動詞の用法しか残っていない。日本語では「職務に勉励する」のように「つとめはげむこと」の意味を表すサ変自動詞である。『日本国語大辞典』に収録された《漢書》の用例<sup>(24)</sup>は明らかに“劝勉鼓励”の他動詞の意味であるが、自動詞として理解されたせいか、「勉励する」は日本語でサ変他動詞として使われていないのである。

《汉语大词典》によれば、“凌驾”<sup>(25)</sup>は（1）“超越；高出”と（2）“驾驶，驾驭。”の二つの意味があった。（1）の意味が日本に伝わり、「他社を凌駕する」「総合力で他チームを凌駕する」「前作を凌駕する売れ行き」「性能で従来品を凌駕する新型カメラ」「品質において他を凌駕する」などの用例のように、いい意味で使われている。中国語でも“其史党附本朝，思欲凌驾前作。”のような使い方があったが、今はほとんど“凌驾于法律之上的特权”“凌驾于群众之上”のように「法律の制約を受けない」「他者に優先する」という悪い意味が使われている。“凌驾”を日本語で「支配する」「君臨する」「圧倒する」などと訳するのは適切ではない。



“调剂”<sup>(26)</sup>の“剂”は、「調節する」「調合した薬」などの意味があるので、“调剂”全体は「調節して治療する」「仲裁する」「調整する」「薬を調合する」などを意味したが、日本語に「薬を調合する」意味しか伝わっていないらしい。中国語では、「バランスがとれるように調整する」「調節する」意味を表すようになった。

“风流韵事”は、もともと「風雅なこと」「趣のある雅やかな遊び」を意味したが、現在その意味が消え、「男女のロマンス」という意味に変わってしまった。「風流」も「男女の情事にかかわる」意味が増え、多用されている。

“整列”は、もともと日本語と同じく「列を作ってならぶこと。また、ならばせること。行列をととのえること。」の意味だったが、現在は「一列全体」の意味に変わった。“整”に「全体の」という形容詞的な意味用法が現れた。“整体”も同じような用法である。日本語では「整」は他動詞の「整える」の意味として使われているので、「整体」「整列」の意味が違うのである。

中国語の“师弟”は、「同じ師に学んでいる後輩の男性」「師匠の息子の中で自分より年下の男性」「父親の弟子の中で自分より年下の男性」「師と弟子」の四つの意味があったが、現在「同じ師に学んでいる後輩の男性」しか使われない。日本語では「師と弟子。先生と生徒」を意味している。

“平淡”は中国語でもともと「人の品格や詩文などがあっさりして気取っていないさま」をほめた言葉だったが、のちに「平板で、味わいがない」意味に変わってしまった。褒め言葉からマイナス評価の意味に変わる稀な例である。

中国語で意味が変化した漢字と言え、ば、「走」が挙げられる。もともと「走る」を意味していたが、今はほとんど「歩く」意味に変わった。まだ「走る」「逃げる」意味を保っている言葉もある。例えば、“奔走”“东奔西走”“逃走”“败走”などが日本語と同じ意味を表しているが、“疾走”は文脈によって「走る」意味の可能性も「歩く」意味の可能性もある。“走路”“竞走”“快走”<sup>(27)</sup>などの“走”が「歩く」意味なので、日本語の「走路」「競走」「快走」と意味が違うのである。ただ、日本語「走」を含む言葉で「蟻走感」<sup>(28)</sup>の一語だけが例外である。

#### 4.3.1.2 品詞性に関する意味の変化

中国語の言葉の品詞性の変化が激しい。品詞性が変わった言葉の多くは全体的に意味も変わるので、日本語へ翻訳される際、問題が起こりやすい。自動詞から他動詞へ、動詞や名詞から形容詞へ、実に多種多様である。日本語から輸入した言葉の品詞性の変化も看過できない。

ここで“瓦解”“绅士”“下落”“性感”“大意”“鱼肉”などの言葉を見てみたい。

“瓦解”<sup>(29)</sup>は、もともと「瓦が崩れ落ちるように分裂する」意味を表す自動詞だったが、現代になって、「瓦解させる」「崩す」の意味を表す他動詞としての用法が現れた。

“绅士”“性感”“大意”は、名詞から形容詞化したが、“性感”だけもとの名詞の用法を失い、日本語の「セクシー」に当たる。“绅士”と“大意”は名詞と形容詞を併せ持



っている、日本語より複雑である。“紳士”は、中国語では、もともと「地方にいる官吏」または「退官した人」の意味であった。日本語では、「紳士」が明治時代に英語 gentleman の訳語<sup>(30)</sup>として使用され、上流社会の男性へと意味が転じた。「品格があつて礼儀正しい男子」を指すようになった。しかし、英語の訳語としての“紳士”は中国語に定着しなかった。中国語に“紳士”に当たる“先生”があつたからである。また中国の男性と“紳士”のイメージがなかなか合わないのも一因であろう。それで、中国語では“紳士”は「紳士」ではなく、「紳士に近い」「紳士のような」という形容詞の意味が誕生したのである。

“大意”は「大意」の意味のほかに、「いい加減である」「不注意である」「迂闊である」の形容詞の意味が増えた。おそらく基本義の「大体の意味」から「大体でいい」「細かいところにこだわらなくてもいい」へ、さらに「まじめにやらなくてもいい」「いい加減だ」へと変わった。語源の由来に関する資料がまだ確認されていない。

“下落”は、「高いところから落下する」意味を表す動詞であつたが、「物が落ちたところ」に着目して、「物のありか」さらに「人の行方」を表す名詞に変えられたのである。日本語では「下落」の意味が抽象化し、「物価、相場、価値、等級などが下がること。」を表す。具体的な意味は「落下」で表す。

“鱼肉”のもともとの意味は日本語と違っていた。中国語では「魚と肉」を指し、日本語では「魚の肉」を意味する。中国語で名詞から他動詞化し、“鱼肉百姓”のように「百姓を魚と豚肉とみなす」「庶民から利益を搾取する」意味を表す。この意味用法もだんだん消えていくと思われる。また、日本語と同じ「魚の肉」を指す用法も現れた。

“固执”の動詞の用法として“固执己见”しか残っていないが、他の場合はすべて形容詞で、人の「頑固である。強情つ張りである。」性格を表す。日本語では「自説に固執する」のように、「固執」は名詞とサ変動詞として使われているので、“固执”の形容詞の意味用法に対応していないのである。

動詞の名詞化も中国語の一つの特徴である。特に、人の動作を表す動詞が人や物を表す名詞に変わった語例として、“出纳”“看守”“会计”“经理”“同道”“同调”<sup>(31)</sup>“最爱”などが挙げられる。日本語の「看守」も中国語と同じく「刑務所・拘置所などにおいて巡視・警備、その他刑事施設事務に従事する法務事務官。」を意味し、人を指している。

“同調”は、中国語で「志向や主張が同じ人」を指す名詞で、日本語の「同調者」に当たる。日本語の「同調」は、名詞とサ変自動詞で、「調子が同じであること。」「他と調子を合わせること。他人の主張に自分の意見を一致させること。」「機械的振動体または電氣的振動回路などが、外部から与えられる振動に共振するように、その固有振動数を調節すること。」の意味を表す。

#### 4.3.1.3 語義の抽象化

中国語で言葉の意味が基本義から離れて、抽象的な意味だけを表したり、基本義と抽象義が併存したりしているが、日本語では基本義にとどまっている。“輸送”“埋葬”“口径”“放电”などの言葉について見てみたい。



“輸送”は、中国語では具体的な「(貨物などを)運ぶ」意味から抽象的な「(人材などを)送り出す。輩出する」意味に拡大された。日本語では「車や船・航空機などで人や貨物を運ぶこと。」意味を表し、人も対象になれるが、具体的な動作にとどまっている。

“埋葬”も具体的な意味から抽象化された。“埋葬遗体(遺体を埋葬する)”のように具体的な動作を表すと同時に、“埋葬了美国的奴隶制。”“埋葬纳粹主义的决心。”“埋葬殖民主义统治”などのように抽象的な名詞も“埋葬”の対象になれる。この“埋葬”は日本語の「葬り去る」「廃除する」「粉碎する」などに当たる。

“口径”は、もともと円い器物の口の直径を指していたが、円筒形の望遠鏡などの直径、銃砲などの円筒形の内径をも指すし、さらに「話し方。意見」と「規格。仕様」の意味をも表すようになった。例えば、“统一口径”は「口裏を合わせる」意味で、“俩人口径不一致”は「二人の話には食い違いがある。」意味を表す。

中国語の“放电”は、日本語の「放電」の意味の他に“用眼睛传情”「(男女間で)色目を使う。秋波を送る。」という新しい意味が増えた。

空間の意味から時間的な意味、抽象的な意味に変わった言葉も少なくない。詳しくは第7章を参照されたい。ここで「前景」について見てみたい。

“前景”は、中国語の典拠が確認されていない。日本語から来た可能性がある。日本語では「観る人の前にある景色。」と「絵画・写真・舞台装置などで、手前の方に配置された光景。」の二つの意味を表すが、どちらも具体的な景色である。中国語では“前景”の意味が抽象化され、空間的な意味から時間的な意味に変わり、将来の「見通し。見込み。将来性。未来図」の意味を表している。

#### 4.3.1.4 意味の特化

意味の特化とは、意味や使用範囲が広がった言葉が特定の対象に限定されたり特定の意味だけを表したりするようになる現象である。中国語では次の同形語が挙げられる。

爱情 短见 芳名 芳心 红颜 绝食 入团 入党 同居 吸引 先生

日本語では「愛情」は「相手に対して向ける愛の気持。深く愛するあたたかな心。」「異性を恋い慕う感情。」の意味で、「愛する」対象は異性に限らず、普通の人や物事にも使える。中国語では今“爱情”は「異性に対する愛の気持ち」だけを指し、意味が特殊化された。したがって、中国語では“母亲对儿子的爱情(母親が息子への愛情)”“对工作有爱情(仕事に愛情を持つ)”とは表現しにくい。

“短见”は「浅はかな見識」から「自殺」の意味が派生された。基本義と派生義が両方使われている。

“芳心”“芳名”“红颜”<sup>(32)</sup>などの言葉はもともと男女の性別を問わず幅広く使われたが、今は女性だけに使われるようになった。

「吸引」は、中日とも具体的な動作と抽象的な意味に使われている。中国語では具体的な動作の場合、日本語の「酸素を吸引する」「痰を吸引する」「麻薬を吸引する」のように「吸引(する)」を使うのではなく、「吸」だけを使う。「吸引力」は日本語では具体的



な動作に使われるが、中国語ではほとんど抽象的な意味に使われる。したがって、日本語の「吸引力」は中国語の“吸力”“引力”に相当し、中国語の“吸引力”は普通日本語の「ひきつける力」「魅力」に当たる。「この掃除器は吸引力が強い」は中国語で“这台吸尘器吸力强。”と訳さなければならない。

「絶食」は、「食物を絶つこと。食物を体内に入れないこと。」を表し、「胃の検査のため絶食する」「絶食療法」のように積極的でない意味であるが、中国語では、“绝食”はもともと「食糧がなくなる」「食事を拒む」意味を表したが、今「抗議や自殺のためのハンスト」の意味を指している。

“入团”と“入党”は、それぞれ普通「共産主義青年団に加入する」、「共産党に加入する」意味を表す。

“同居”は「同じ家に住む」「同じ街に住む」意味を表していたが、今は「異性同士が同棲する」意味が多用されている。

“先生”の意味は日本語とずいぶん違う。20世紀前半、一部の学識のある地位の高い女性に使われたが、歴史上ほとんど男性を指す。今は一般的な男性に使われるようになった。日本語の「主人」「ご主人」に当たる意味もある。

#### 4.3.2 日本語での意味の変化

##### 4.3.2.1 意味範囲の変化

意味範囲の変化は「意味範囲の拡大」と「意味の特化」に分類できる。

意味範囲が拡大された例として「現役」が挙げられる。中国語では“現役”は「現在兵役に服していること。またその状態」を意味するが、日本語では「常備兵役の一つ。常時軍務に服し、戦時部隊の骨幹とされる役種。」だけでなく、「現にある職務に従事して活躍している人。」「浪人に対して、在校中の受験生。」をも指すようになった。日本語では専門用語の一般化がよくある現象である。

『広辞苑』などの辞書<sup>(33)</sup>は「人」や「受験生」などの名詞を使って説明しているが、「現役投手」や「現役で合格した」などの用例から見ると、日本語の「現役」も「現在活躍している状態（にある）」「在校中の状態（にある）」と解釈すべきだと思われる。

中国語では一般的に使われ、日本語では意味用法が特化された言葉が少なくない。次の同形語が挙げられる。

愛人 境内 献花 勾引 湿布 建立 出馬 説話 喘息 調理 投身 料理

“爱人”は中国語でもともと「人を愛する」意味であった。名詞としての使い方は日本語から来た可能性が大きい。今は「夫か妻」つまり配偶者を意味する。

『大辞林』の〔補説〕によれば、「愛人」は「sweet heart, lover などの訳語として幕末から使われた」らしい。最初は「愛する人。恋人」を意味していたが、「第二次大戦後、新聞等で『情婦』『情夫』を避けてこの語を使い、『恋人でなく愛人だ』のような表現も生じた。」<sup>(34)</sup>のである。それにしても、「愛するいい人」を表すべき「愛人」の意味を変えてしまったのは漢字文化に対する冒瀆と言っても過言ではない。もちろん「愛人」



の意味の変化には日本人の婉曲的に表現する「ぼかし」文化と戦後のアメリカ文化の影響がうかがわれる。

“境内”は、「国境の内」を意味するが、日本語では今「神社・寺院の敷地の内。」を指している。

“建立”<sup>(35)</sup>は、古代の中国語では「設立する」「制定する」「建造する」「樹立する」「位に就かせる」「功績を立てる」「成立する」などたくさんの意味があったが、日本語に入って、「こんりゅう」と読まれ、「寺院・堂塔などを建設すること。」の意味に限定されてしまった。今の中国語では“建立邦交（国交を樹立する）”“建立政权（政権を樹立する）”“建立了深厚的感情（厚い友情を結んだ）”“建立新的规章制度（新しい規約と制度を確立する）”のように抽象的な動作を指している。

“湿布”は、普通の「湿った布」を指すが、日本語では「フランネル・ガーゼなどを水や湯または薬液などに浸して患部に当て固定すること。また、その布。多く炎症の治療に用いる。」を意味し、名詞だけでなく、サ変動詞としても使われる。日本語の「湿布」は中国語で古くから“膏药”“狗皮膏药”などと呼ばれてきた。

“出馬”は、もともと「馬を出す」意味であった。昔、馬に乗る武将が多かった。対戦の双方が陣地を構えてから、武将が先に一对一で戦うのは一般的であった。戦場に赴く武将がまず自分の陣地から馬を出さなければならない。それを「出馬する」と言う。後に「地位のある人が自らその場に出向いて交渉などに当たる」意味に転じた。日本語では更に「選挙に立候補すること」という特別な意味が増えた。

“献花”は、「霊前などに花を供えること。また、その花。」を意味しているが、中国語の“献花”は人にも使われ、「花束を贈る」意味を表す。

“说话”<sup>(36)</sup>は動詞で、「話す」「よもやま話をする」「議論する」「文句を言う」などの意味を表している。宋元時代に「（物語を）講談する」意味があったが、日本語に入って、名詞化され、「講談する内容」つまり「はなし。ものがたり。特に、神話・伝説・童話などの総称。」の意味に特化された。

“喘息”<sup>(37)</sup>は、中国語では「あえぐ」「一息入れる」などの意味を表すが、病気だとは思われていない。日本語では「発作的に呼吸困難を起こす病気」を指している。

“調理”は、もともと「よい状態になるように整える」意味を表したが、漢方医学の「治療する」「養生する」、「しつける」、「管理する」「やりくりする」などの意味が派生された。日本語では「料理を作る」意味に限定されてしまった。

“投身”<sup>(38)</sup>は、もともと「大義のために命を軽んじて身を捨てる」「献身する」意味だったが、今は「積極的に参加する」意味を表す。日本語では「大義」とは関係なく、個人的な原因で「入水する」意味に特化された。

“投身”の形式は必ずしも「入水する」とはかぎらなかった。春秋時代の呉の有名な刺客要離と戦国末期の楚の愛国詩人屈原は江に身を投げたが、「戦国末期の魏の侯嬴は信義



を重んじ、剣で命を絶った」「釈迦牟尼が成仏する前に自分の身体を飢えた虎に食べさせた」などの“投身”もあった。

“料理”<sup>(39)</sup>は古代で「処理する」「整理する」「しつける」「修理する」など多くの意味を表したが、日本語では「食物をこしらえること。また、そのこしらえたもの。調理。」の意味に特化された。中国には古くから「民以食为天（民は食をもって天となす。）」とされているが、日本語での「調理」「料理」の意味の特化は同じく食生活の重要性を反映している。

“勾引”は、中国語で「不正を働くよう誘惑する」「邪道に誘い込む」などの意味を表すが、日本語では「かどわかす」「ひきよせる」の意味が消え、法律用語として、「被告人・証人その他の関係人を一定の場所に引致する強制処分。召喚に応じない場合などに限り、勾引状によって行う。」の意味になった。

「球」は、もともと「ボール」全体を指していたが、日本語では「野球」だけを指す言葉が少なくない。「球場」「好球」「打球」「投球」「球速」などの同形語が挙げられる。野球が国民的なスポーツで、日本人の生活に多大な影響を与えていることを物語っている。

“情事”は、中国語で“事情”の意味の他に、“情意”の意味もあった。現在は「事情。事実。事例」の意味を表しているが、“事情”ほど多用されていない。日本語で「情」の意味は「ありさま」から「異性にひかれる心。男女間の愛。」に変わってしまったので、双方の語義が異なっている。

#### 4.3.2.2 語の転義

日本語で語義が転じ、特に意味が抽象化したことによって、中国語との違いをもたらした同形語が少なくない。次の言葉が挙げられる。

魂胆 脱帽 閉口 無心 放置 翻弄 薬缶 名門 野心 有数 風化

“魂胆”は、もともと「きもったま」を意味して、“失魂胆”のように使われたが、後に分解されて、“魂飞胆破”“失魂丧胆”と表現されるようになった。日本語に入って、今「たくらみ。策略。」の意味を表しているが、「魂胆」の字面からどうしてもその意味とは結び付かない。

“閉口”は、中国語で「口を閉じる」の具体義にとどまっているが、日本語では「相手の出方やその時の状況などのために、手の打ちようもなく困らされること。どうにも参ること。」という意味に転じた。

「名門」は、もともと中国語と同じく「由緒ある家柄。有名な家門。名家。」を指していたが、最近「有名な学校」をも指すようになった。

「薬缶」は、もともと「薬罐」と表記され、「薬を煎じるのに使われた土鍋」であったが、今は「銅・アルマイトなどで鉄瓶の形に造った容器。湯沸し。」を指すようになった。

「無心」は、中国語の「する気がない」の意味が日本語に伝わらず、「邪念のないこと。」が日本語に伝来して、次第に意味が変わり、「心ないこと。何の考えもないこと。思慮・分別のないこと。」から「遠慮なく物をねだること。」の意味が生まれたのであろう。



“有数”は、中国語で「数が少ない」意味を表しているが、日本語で「とりたてて数えられるものの中に入るほどおもだっていること。ゆびおり。屈指。」という意味に狭まってしまった。中国語で他に動詞として「よくわかっている」「よく把握している」意味もある。

「脱帽」「風化」「放置」「翻弄」は日本語で基本義から抽象化された。「脱帽」は、日本語で①「敬意を表するために、帽子をぬぐこと。」から②「比喩的に、その相手にはとてもかなわないとして敬意を表すること。」の意味が派生されたが、中国語では①にとどまっている。「風化」はもともと「良俗」を指していたが、日本語で「地表およびその近くの岩石が、空気・水などの物理的・化学的作用で次第にくずされること。岩石が土に変わる変化の過程。」の意味が誕生して、中国に輸入された。日本語ではまた「心にきざまれたものが弱くなって行くこと。」という比喩的な意味が派生された。

「放置」は、「かまわずに、そのままにしておくこと。」を意味し、中国語の「置く」とは意味が違う。中国語の“放置”は、“放”も“置”も「置く」意味で、「V+V」の連合構造であるが、日本語の「放置」は、「放っておく」と訓読みされ、「置」が補助動詞的な意味と理解されるので、「V+V」の補足構造である。

中国語の“放置”は、動作にとどまり、対象は物に限るが、日本語の「放置」は「放置」した後の状態に注目している。「放置された」ことにより、人が迷惑したり、損を蒙ったりしてしまう。また、「放置する」は、具体的な物（例えば、自転車、車など）だけではなく、「病人」「けが人」「負傷者」のような人、更に「状況」「現状」「事態」「問題」「外来種の侵入」「病気の進行」など抽象的な言葉と連語も目的語に取ることができる。

ちなみに中国語の“放置不用”“长期放置”などに日本語の「放置する」の意味が入っている。

“翻弄”は、「書籍や雑誌などのページをめくる」の具体的な動作を表しているが、日本語では「荒波に舟が翻弄される」「運命に翻弄される」のように、「思うままにもてあそぶこと。てだまにとり、なぶりものにすること。」という比喩的な意味を表している。

#### 4.3.2.3 動作対象の変化

日本語で動作の対象が中国語と変わった同形語は「駆使」と「拝見」が挙げられる。

中国語では“駆使”の対象は人で、よく受身文で使われる。日本語では人から「技術」「パソコン」「外国語」などの物に変わった。

“拝見”は、中国語ではもともと「人に謁見する」意味だったが、日本語では「お手紙を拝見する」「中身を拝見する」などのように、対象が人から物に変わった。

#### 4.3.2.4 語の褒貶義の変化

同形語の褒貶義の変化は、日本語習得の難点の一つであると言えよう。日本語で中性的な意味からプラス的な意味とマイナス的な意味に変わったり、マイナス的な意味からプラス的な意味に変わったり、プラス的な意味が中性的に変わったりした言葉が少なくない。

「感化」「忌憚」「結果」「女流」「野心」「腕力」などの同形語が挙げられる。



「結果」は、もともと「よい結果」と「悪い結果」の二つの可能性があったが、「結果を出したい」「努力しているのだが、なかなか結果が出ない」のように「よい結果」だけを表す場合が少なくない。ちなみに「結果」は中日とも接続詞として使われるが、日本語では前件の文末に置かれるが、中国語では後件の文頭に置かれる。

「腕力」は、もともと「うでのちから」を意味したが。今は「腕力をふるう」「腕力に訴える」のように「暴力」という意味に変わってしまった。

「感化」は、もともと「人により影響を与えて、心を変えさせる」意味だったが、「人に影響を与えて心を変えさせること。」という中性的な意味に変わった。「悪友に感化されて非行に走る」の例では、マイナス的な意味はすぐわかるが、「兄の感化を受ける」「先輩に感化される」だけでは褒貶義の判断は難しいので、前後の文脈を見なければ、中国語に翻訳しにくい。

“忌憚”は、中国語でも日本語でも打ち消しとともに使われるが、中国語では“肆无忌惮（やりたい放題をする。ほしいままにふるまう）”のように、人の無礼さを表すが、日本語では「どうぞ忌憚のないご意見を」のように相手に積極的な意見を求める場合にも使われる。

「女流」<sup>(40)</sup>は、もともと中国語では男性が女性を差別したり女性が自分の弱い立場を強調したりするときに使われる言葉であったが、日本語では「女流作家」「女流棋士」などのように、芸術家・技術家などを表す語につき、「優れた女性」の意味に変わった。

“野心”は、もともと「豺狼の子は、人に飼われても山野を忘れず、馴れ親しまないで、飼主をも害しようとする荒々しい心」を意味したが、比喩的に「権勢利益に対する身分不相応な食欲」を表すようになった。日本語では「大きな飛躍を望んで、新しいことに大胆に取り組もうとする気持」という意味が派生され、プラス的に変わった。

#### 4.3.2.5 品詞性の変化

日本語で品詞性が変わった同形語も数多くある。ここで「査証」「始末」「前後」「餞別」「奮発」「有志」について見てみたい。

「査証」は、日本語で「調査して証明を与えること」から「審査した結果発行する旅券の裏書証明。ビザ。」の意味に変わったが、“査証”は、中国語ではまだ動詞として「調査して証明する」意味を保っている。

“奋発”は、中国語では自動詞で、「気力をふるいおこすこと。」を意味するが、日本語ではサ変他動詞化して、「祝儀を奮発する」「プレゼントを奮発する」のように、「思い切りよく金品を出すこと。」の意味を表すようになった。

反対の意味を表す漢字が構成した複合語で、「左右」「前後」「東西」「南北」「上下」「首尾」「始終」「縦横」などが挙げられる。「東西」「南北」「首尾」は中日とも名詞で、「始終」は中日とも名詞と副詞である。「左右」は、中国語では名詞と他動詞で、日本語では名詞とサ変他動詞である。「上下」は、中国語では名詞と自動詞で、日本語では「うえした」「かみしも」と読む場合は名詞で、「じょうげ」と読む場合は名詞とサ変自



他動詞である。「前後」は、日本語では名詞とサ変自動詞であるが、中国語では名詞だけである。「縦横」は日本語では名詞だけで、中国語では自動詞でもある。

“餞別”<sup>(41)</sup>は、もともと「酒席を設けて送別する」意味を表したが、日本語で「餞別」は「遠くへ旅立つ人や転任・移転する人などに、別れのしるしとしてそれを贈ること。」の意味になり、さらに動作の意味から、「贈る金品。」という物を指す意味に変わった。

「有志」は、もともと「ある事柄についての関心やそれに関係する意志を持っていること。」を意味していたが、最近「志を持っている人」「有志者」の意味に変わった。“有志”は中国語で今合成語ではない。

「気味」「以前」は日本語で名詞から接尾語的に変わった。

“气味”は、もともと「物の香と味」を表したが、「意趣や情調」「物腰」の意味が敷衍され、さらにマイナスのな「性格」「趣味」「気配」に変わってしまった。日本語では「心持。気持」の意味に変わり、さらに「いくらかその傾向をおびていること。そのような様子であること。」の意味が派生され、「飽き気味」「風邪気味」「困惑気味」「遅れ気味」などのように、接尾語的に使われている。

“以前”は、中国語で名詞だけであるが、日本語では名詞の他に、「入社試験は面接以前の段階でふるい落とされた」のように、「それより前の段階」を表し、また「文学以前の稚拙な作品」のように、「通常の段階に達していないことを非難するという語。」としても使われている。その他に「常識以前の事柄」「能力以前」などの意味は日本語学習者にとって理解しにくい、全部接尾語的に使われていると思われる。

#### 4.3.3 中日とも変化した

##### 4.3.3.1 それぞれ別の転義

基本義が同じであるが、それぞれ違う転義が生まれたり、別の意味に変わったりした同形語が少なくない。次の言葉が挙げられる。

岐路 好材料 公道 根底 充電 醸成 脱皮 背景 火種 鞭撻 保守

「岐路」は、日本語で意味が「本道から分かれ出た道。えだみち。」から「進路が分かれるところ」に変わった。例えば、「人生の岐路に立つ」という表現がある。「これからどの道を歩むか選択を迫られているときにある」意味を表すので、まだ「岐路に入っていない」はずである。

中国語では“岐路”より“歧路”が多用されている。意味は「分かれ道」「小道」から「邪道」「まちがった方向・道」に変わった。例えば、“人们对物质利益的追求是无止境的，容易走上歧路（筆者訳：人々の物質的利益への追求はきりがないので、邪道に踏み迷いやすい）”のように、“歧路”が比喩的な意味を表すのは一般的である。

“好材料”は、もともと中日とも「ある事をするのにちょうど適した材料」を意味していたが、中国語で「よい素材」の転義の他に、「可能性のある人材」を喩えて言う用法もある。日本語では取引用語として「相場を騰貴させる原因となる条件」の転義が多用されている。



「公道」は、もともと中日とも「公正な道理」を意味したが、中国語ではその基本義の名詞から形容詞化し、「公正である。公平である」「（値段が）適正である」の意味を表すようになった。日本語では元の意味と全く関係がない「公の道路」「私道に対して、公物としての道路。国道・都道府県道・市町村道など。」という意味を表すようになった。

“根底”は、中国語で「基礎」「くわしい事情。内情。人の素性」などを指しているが、日本語では「物事の土台となっているところ・事柄。ねもと。こんぼん。」の意味を表し、打消し表現が多用される。

“充電”は、比較的新しい言葉である。最近中日とも比喩的な意味が生まれたが、双方に微妙な違いがある。中国語での“電”は、「知識や技能の知的なパワー」を指し、日本語の「電」は「休養して回復する体力的なパワー」を意味する。全体では、“充電”は「知識や技能を蓄積するために各種の教室に通ったり進学したりする」意味を表し、「充電」は「一定期間休養し、将来に備えて活力を蓄えること。」を指す。

“醸成”は、もともと「発酵作用を応用して酒・醤油などを造りあげる」を意味したが、中国語では「（好ましくない事態や結果を）引き起こす。招く。もたらす。」というマイナス的な意味に変わった。日本語では「和やかな空気が醸成される」「社会不安を醸成する」のように、「機運・雰囲気などを次第に作り出すこと。かもし出すこと。」という中性的な意味を表している。

中国語の“脱皮”は、日本語の「脱皮する」と違っている。“脱皮”は「皮がむける」意味を表し、「脱皮」は基本義の「爬虫類・昆虫類などが成長するにつれて、古い皮（表皮またはクチクラ層）をぬぎ捨てること。」と比喩的な意味の「古い考えや習慣を脱して進歩すること。」を表す。日本語の「脱皮」の基本義は中国語では“蜕皮”と言うが、比喩的な意味は中国語にない。

どうして“脱皮”と「脱皮する」の意味が違っているのか。もともと中国語では“脱皮”と“蜕皮”の二つの言葉があった。“蜕皮”は蟬や蛇などの虫だけに使われた。“脱皮”は人間にも用いられたが、抽象的な「俗人の骨・胎を取り換えて仙人になる」意味を表したのである。ところが、現代の中国語で“脱皮”は人間に使われた場合、具体的な「皮がむける」意味を表すようになった。虫の「脱皮する」は“蜕皮”より“蜕皮”が多用されている。

一方、日本語に「脱皮」も「蜕皮」も入ったが、両方とも変化した。「脱皮」に比喩的な意味が増やされ、「蜕皮」は「もぬけがわ」と読まれ、名詞として「脱皮した皮。ぬけがら。」を意味するようになった。

“背景”と「背景」は、ともに「絵画・写真などで、その主要題材の背後の光景。後景。」「舞台正面に描かれた景色。書割かきわり。」「人や事件などの背後にあるもの。」の三つの意味を表せるが、「背後から支えるもの。」の意味では違い、中国語では「靠山及支持者」つまり人である「後ろ盾」を指すが、日本語では「強大な経済力」「軍事力」「武力」などを指す。また使われるときの構文が違う。日本語では「背景に～がある」というが、中国語では“有背景”（後ろ盾がある）と表現する。



“火种”の基本義は「火をおこすもとにする少しの火。たねび。」である。“火种”は原始時代から今までずっと大事なものとして扱われてきたので、“奥运会圣火火种”“革命的火种”“节日的礼花点燃起我心中的火种。”<sup>(42)</sup>などのようなプラス的な意味しか使われない。日本語で「ひだね」と読まれ、「紛争の火種」「内紛の火種」「問題の火種」「混乱の火種」「怨念の火種」「対立の火種」などのように「事をおこすもとになるきっかけ。」というマイナス的な意味を表している。

“鞭挞”の基本義は「むちでうつこと。処罰して戒めること。」であったが、中国語で「(他人の行動や言論を)攻撃する。非難する。」意味が派生され、いい意味には使われないが、日本語では「いましめはげますこと。督励。」の意味を表し、いい意味に使われている。

“保守”<sup>(43)</sup>は、もともと「敵の攻撃から守る」意味だったが、次第に「失わないように守る」「失わないように保存する」などの意味が敷衍された。日本語で「革新」の対義語として使われ、「旧来の習慣、制度、組織などを維持しようとする」という新しい意味が生まれ、中国語に逆輸入されて、形容詞化し、「保守的だ」「控え目だ。内輪だ」の意味を表すようになった。動詞としての用法が狭まり、“保守机密”のように「漏れないようにする」という意味に変わった。一方、日本語では「正常な状態などを保ち、それが損じないようにすること」<sup>(44)</sup>の意味を表し、「機械を保守する」「エレベーターの保守」など具体的な動作に使われている場合が多い。

#### 4.3.3.2 意味の減少

中日とも意味が減少した同形語は非常に少ない。「痛恨」以外の例はまだ確認されていない。“痛恨”は中国語で「ひどく恨む」と「非常に後悔する」の二つの意味があったが、二つの意味とも日本に伝わったが、現在中国語では「ひどく恨む」意味しか残っていないのに対して、日本語では「ひどく残念に思うこと。非常にくやしがること。」の意味だけが残っている。

#### 4.3.3.3 成語に対する理解が違う

同じストーリーの「朝三暮四」の話から敷衍された意味が違うのである。中国語では猿に餌を与える狙公の行為に重きを置いて、「(人が)移り気であることのたとえ。また、考えや方針が定まらず、当てにならないこと。」という意味を表すようになった。日本語での意味を『広辞苑』が三つ挙げている。

①目の違いにばかりこだわって、同じ結果となるのに気がつかないこと。朝四暮三。

②口先でうまく人をだますこと。

③生計。くらし。「一の資たすけ」

①は明らかに猿の立場から敷衍された意味である。

“天衣无缝”は、《太平廣記》卷第六十八<sup>(45)</sup>の「天女の衣には縫い目がない」という伝説から来た成語である。後に「物事特に詩文が完璧に出来上がった様子」を形容するのに使われた。ひいては「悪いことがだれにもばれていない様子」「協力する人同士の阿吽の



呼吸がぴったり合う様子」「チームワークが非常にいい」意味を表すようになった。日本語では中国語から借用した「詩歌などに、技巧をこらしたあとがなく、いかにも自然で完美であるさま。」を形容する意味は変わっていないが、「物事が完全無欠である」意味から「人柄が天真爛漫でかざりけのないさま。」の意味が派生されたので、中国語の現在の意味用法と異なっているのである。

#### 4.4 略語による違い

略語といっても、「北大」「東大」<sup>(46)</sup>のような固有名詞の略語も少なくない。本稿では人名や地名など固有名詞を考察の対象から外し、『広辞苑』『岩波国語辞典』『明鏡国語辞典』に収録されている普通名詞の略語に絞って考察していく。

略語と関係のある中日同形語を「中日とも略語である言葉」と「日本語だけで略語である言葉」の二種類に分けられる。

##### 4.4.1 中日とも略語である言葉

中日同形語の中で、略語としての意味が同じである言葉が少なくない。以下の語例が挙げられる。

外債 化繊 魚雷 空調 血沈 校医 高専 索道 人文 脊椎 点滴 普選 電話  
特訓 南極 物証 物流 北極 流感 淋巴 有機物

意味が違う略語の典型的な例として「高校」「高検」「中学」「無期」等が挙げられる。

「高校」は、日本語では「高等学校」の略語で、中国の“高级中学”“高中”に相当する。中国語の“高校”は“高等学校”“高等院校”を指し、日本の大学に相当する。それによって、「高校教師」の意味も違うのである。「高検」は日本語では「高等検察庁」を指すが、中国語では“最高人民检察院”を意味する。「中学」は日本語では「中学校」の略称であり、中国の“初中”に当たるが、“中学”は中国語では“初级中学”と“高级中学”両方を指すので、特に注意が必要な言葉である。「無期」は「無期懲役」「無期禁固」の略であるが、中国に“无期禁锢”がないので、“无期”は“无期徒刑”だけを意味する。

##### 4.4.2 日本語だけの略語<sup>(47)</sup>

日本語だけに略語としての意味用法があるので、中国語との語義の違いをもたらしている。次のような言葉が挙げられる。

一浪 衛星 英文 往復 快速 回転 外来 管制 喫茶 金口 警察 刑事 携帯  
現物 蝙蝠 国体 小包 重文 三脚 三種 浄土 常務 水彩 清朝 先勝 争議  
総体 宋朝 総評 大戦 中華 中部 跳躍 定期 抵抗 丁字 電工 投擲 特急  
熨斗 破竹 一重 富強 文庫 平安 保険 無線 明朝 明細 夜行 予備 連合  
短距離 中距離 長距離 扁桃腺<sup>(48)</sup>

「球技」も特殊な略語であると言えよう。日本語では「ボールを用いて行う競技。」の意味であるが、「技」を「競技」の意味で使われる例はほかに見ない。中国語では「ボールを処理したり支配したりする技術やテクニック。」の意味を表し、「技」は一般的に「技術」として使われている。



#### 4.5 日本語での同音漢字の書き換え

日本語では常用漢字ではない漢字が同音の漢字によって書き換えられている。それは一般的に同音漢字の書き換えと呼ばれているが、一部の言葉について、書き換えというより、二つの言葉が統合されたといったほうがもっと適切ではないかと思われる。以下、「意味用法に影響が出ない書き換え」「意味用法に影響が出ない統合」「意味用法に影響が出る統合と書き換え」の三種類に分けて考察していく。

##### 4.5.1 意味用法に影響が出ない書き換え

中国語でも同じように漢字を書き換えたので、意味用法に影響が出ていないと考えられる。次の言葉が挙げられる。

意向 回廊 管弦楽 飢餓 凶悪 凶器 凶暴 元凶 色欲 刺激 食欲 性欲 日食  
発酵 物欲

##### 4.5.2 意味用法に影響が出ない統合

この種類の統合は「中日で同じ言葉に統合された」「中日で別々に統合された」「日本語だけで統合された」の三種類に分けられる。

###### (1) 中日で同じ言葉に統合された

安逸 安佚 ⇒安逸 險阻 嶮阻 ⇒險阻 根底 根柢 ⇒根底 雇用 僱傭 ⇒雇用  
駿才 俊才 ⇒俊才 消夏 銷夏 ⇒消夏 消沈 銷沈 ⇒消沈 暖炉・煖炉 ⇒暖炉  
注解 註解 ⇒注解 注釈 註釈 ⇒注釈 繁殖 蕃殖 ⇒繁殖  
抵触 牴触 舐触 ⇒抵触 熔解 鎔解 溶解 ⇒溶解

中国語では“雇用”“僱傭(僱傭)”“雇用”“僱傭(僱傭)”のような四つの言葉があったが、意味が同じなので、今日本語と同じく“雇用”に統合された。

中国語には“俊才”と同じ意味を表す言葉が多くあった。例えば、“俊材”“僞才”“僞材”“隼才”“隼材”“駿才”“駿材”などはみな「才知のすぐれた人」を表せる。

中国語では「金属類などが熔ける」意味を表す場合、“溶解”も使えるが、“熔化”のほうが多用されている。

###### (2) 中日で別々の言葉に統合された。

日本語	中国語
決別 訣別 ⇒決別	訣別 決別 ⇒訣別
車輛 車両 ⇒車両	车辆 车两 ⇒车辆
編集 編輯 ⇒編集	編集 编辑 ⇒编辑
略奪 掠奪 ⇒略奪	掠夺 略夺 ⇒掠夺

《康熙字典》によれば、もともと“訣”と“決”“集”と“輯”、“略”と“掠”は一部の意味を表す時、通用していたのである。“車”を数えるとき、最初は“兩”を使っていたが、後に「輛」が使われるようになったのである。つまり、「決別」と「訣別」、「車輛」と「車両」、「編集」と「編輯」、「略奪」と「掠奪」はもともと同じ意味を表していたので、それぞれ別々に統合されても、影響がないと思われる。ただ、中国語の“編



輯”は日本語の「編集」の意味のほかに、編集作業をする人をも指す。

「古」と「故」も通用していたので、「古老」は形容詞の使い方の他に、「故老」のような名詞の意味用法もあった。中国語では今「故老」という言葉が使われなくなったが、「古老」は「古い」意味を表す形容詞として使われている。日本語では「故老」と「古老」を「古老」に統合して、「昔からの事に通じている老人。」の意味を表しているので、中国語と違っているのである。

日本語の「斬新」に違和感を覚える中国人が少なくないだろう。中国語では“崭新”が使われている。“斬”にあまりいいイメージを持っていない。しかし、中国古籍全録と《康熙字典》を調べた結果、唐代までに“斬新”と“崭新”が通用していたのである。日本語に「斬新」しか入らなかった可能性がある。

(3) 日本語だけで統合された。

扇動 煽動⇒ 扇動

「扇動」と「煽動」は日本語で「扇動」に統合されたが、中国語ではまだ使い分けられている。ただ“扇动”に“煽动”の意味が含まれているので、中国語母語話者にとってはこの統合は問題にならないだろうと予想される。

#### 4.5.3 意味用法に影響が出る書き換えと統合

(1) 違う意味の言葉が一つに統合された。

もともと意味用法が違った言葉をその中の一つに統合すると、表記上確かに楽になったが、中国語母語話者はその統合を知らなければ、意味理解に支障をきたすのは言うまでもないであろう。また、中国語でずっと使い分けられてきた二つ以上の言葉がその中の一つに意味を集約されるのに抵抗を覚えるだろう。統合される前の中日同形語に微妙な違いのある言葉だったら、問題はもっと複雑化してしまう。

衣装	衣裳	⇒衣装	陰影	陰翳	⇒陰影	回復	恢復	⇒回復
収集	蒐集	⇒収集	奇形	畸形	畸型⇒奇形	昂奮	亢奮	興奮⇒興奮
昂揚	高揚	⇒高揚	媾和	講和	⇒講和	十分	充分	⇒十分
悖理	背理	⇒背理	边境	边疆	⇒边境	哺育	保育	⇒保育
放棄	拋棄	⇒放棄	諒解	了解	⇒了解			

日本語では「陰翳」を「陰影」に統合したのは中国人にとってはなかなか納得しにくいであろう。「荫翳(陰翳)」は「樹木が生い茂っている様子」あるいは「生い茂っている樹木に覆われている様子」を表すので、「陰翳礼讃」のように、「陰翳」に美を感じたのだろう。「陰影」は「暗い影」で、マイナス的なイメージが多いので、全く美を感じないのである。中国語では二つの正反対のイメージの言葉なので、中国語母語話者にとって、「陰影」に「陰翳」の意味があることを習得するのはなかなか難しいだろう。

日本語では「回復」と「恢復」を「回復」に統合し、中国語の“回复”と同形語になっている。中国語の“回复(回復)”は日本語の「もとのとおりになる。」意味の他に、「返答する」等の意味も持っている。つまり、中国語の“回复(回復)”の意味は一部しか日本に伝



わらなかった。一方、「恢復」は中国語の“恢复”と同じくサ変他動詞として「一度失ったものをとりもどす(こと)。」を表していた。日本語では意味が違う「回復」と「恢復」を「回復」に統合したが、中国語ではまだ使い分けているので、お互いの意味用法の複雑な対応関係を形成してしまったのである。

日本語では「奇形」のもともとの「普通と異なった珍しい姿・形。」の意味がほとんど使われなくなり、「畸形」だけの意味が残っているし、具体的な意味にしか使われない。一方、中国語では“奇形”と“畸形”が並存しているし、“畸形”は抽象的な比喩の意味にも使われる。

日本語では「鞏固」と「強固」を「強固」に統合したが、中国語ではまだ使い分けられている。そして、日本語では「鞏固」と「強固」はともに形容動詞で、統合されても、言葉に影響がないが、中国語では“強固”は形容詞で、“巩固”は形容詞と他動詞で、意味用法に違いがある。

中国語では“高揚”に“昂扬”の意味を含んでいるので、日本語で「高揚」に統合されても差し支えないと思われる。ただし、中国語ではまだ別々に使われ、“高揚”は動詞で、“昂扬”は形容詞である<sup>(49)</sup>。また、「高揚する」は日本語でも自他動詞であるが、「士気を高揚する」のように「士気」を目的語にすることができるが、一方、“高揚”は中国語でも自他動詞であるが、“士气”の場合は「士気が高揚する」しか使えない。

中国語では「媾和」と「講和」は両方使われている。「媾和」は書き言葉で、「交戦国あるいは交戦した双方が互いに協定を結んで戦争をやめ、平和を回復する」を意味するが、「講和」は話し言葉的で、「個人どうしの和解・中直り」にも使われる。

日本語では「昂奮」「亢奮」を「興奮」に統合したが、中国語では三者は微妙な違いがある。「昂奮」は「意気が上がり、奮い立つ」状態を表すが、プラス評価である。「亢奮」は「極めて興奮している状態」である。「亢奮」と「興奮」は中性的な言葉である。

中国語では“蒐集”は“搜集”に簡略化されて、“收集”と微妙な違いがある。“搜集”は「広範囲に探しながら集める」意味で、いろいろな場所から苦心して探し出すことに重点がある。その対象は物品でも、具体的あるいは抽象的事物でもよい。“收集”は「一カ所に集める」意味で、単に集めることに重点がある。比較的集めやすい物品や具体的事物・人物などを対象とする。日本語では「収集」に統合されたので、中国語母語話者にとってかえって習得しやすくなったと言えるだろう。

“哺育”と“保育”は中国語ではまだ使い分けられている。“哺育”は「動物の親が乳等を与えたりして、愛情をこめて育てる」意味であるが、“保育”は「親以外の人が保護し育てる」の意味を表し、「保育園」などで使われるのは一般的である。“哺育”と“保育”は中国語では感情の差異がある言葉なので、「保育」だけでは表わせるとは思われない。

日本語では「悖理」と「背理」が「背理」に統合されたが、中国語ではまだ両方存在している。普通通用できるが、両者は微妙な違いがある。《汉语大词典》の説明は次のとお



りである。

悖理：违反逻辑规则或公式的推理。

ロジック規則や公式の推理に違反する。（筆者訳）

背理：违背天理或伦理；不合理。

天理や倫理に違反する。道理に合わない。（筆者訳）

「悖理」は論理学の用語で、学术论文で多用されるのに対し、「背理」は日常生活で使われる。

日本語の「了解」は非常に複雑な言葉であるので、簡単に「諒解＋了解」では説明できないであろう。『岩波国語辞典』と『明鏡国語辞典』に「了解」と「諒解」のほかに、「領解」「領会」の表記も示されている。しかし、中国語の“了解”“諒解”“领会”のどれとも対応していない。

## (2) 別の違う意味の言葉に書き換えられた

饗応⇒供応 交叉⇒交差 撒水⇒散水 撒布⇒散布 抒情⇒叙情 象嵌⇒象眼

伸暢⇒伸長 搏動⇒拍動 篇⇒編 輔⇒補 理窟⇒理屈

《康熙字典》によると、古代の中国語では「饗」と「響」が通用していた。「饗應」と表記されても、「響應」を意味していただろう。しかし、日本語に「響應」という言葉が伝来せず、「饗應」しか伝わってこなかった可能性が大きい。今「供応」に書き換えられて、「酒食を供して、もてなすこと。」という意味を表している。一方、中国語では、“響應”とは別に“供應”という言葉があったのである。それぞれ“响应”“供应”に簡略化されている。“供應”の意味は最初から日本語に入った「饗應」と違っているので、今の「供応」と“供应”の語義の違いをもたらしたのであろう。

中国語では“交叉”と“交差”は全く違う意味を表わす言葉だった。“交差”は「仕事を終えて、復命する」意味であるが、日本語では「交叉」を「交差」に書き換えてしまったので、中国語母語話者に語義の混乱を引き起こしている。

中国語にもともと“散水”という言葉があったが、“散水”は、建物の基礎を保護するために、建物の周囲に石・れんが・瓦・コンクリートなどを敷いた排水用のものを指している。「水を撒く」意味を表すのは“洒水”であるが、“撒水”という言葉はない。“撒布”と“散布”は別々の言葉である。日本語にもともと「散布」という言葉がなかったので、今の「散布」は中国語の“撒布”と同じ意味で、中国語の“散布”は「撒き散らす」と「散在する」という二つの意味を持っている。

日本語では「抒情」が「叙情」に書き換えられたが、中国語では「抒情」が常用されている。「叙情」は昔よく使われたが、文章で感情を述べ表すより、面と会って久しぶりに会った今までの経緯を話し合っ、友情を深めたり、お互いに思い合う愛情を述べたりすることを表すのに多く使われた。今「叙情」は単独ではあまり使わなくなって、「共叙情意（お互いに情意を述べあう）」「叙情詩」のように他の言葉と一緒に使う場合が多い。

「象嵌」と「象眼」について、『明鏡国語辞典』は次のように説明している。



「象眼」「象嵌」は本来別語だが、混同されて同じ意に使われた。今は「象眼」を使う。

中国語では“鑲嵌(鑲嵌)”が使われてきているが、“象嵌”という言葉は確認されていない。また“象眼”は「象の目」の意味の他に、中国将棋の用語である。中国将棋では「象」が「田」の形の対角の交差点に飛べるが、まん中の交差点に駒があったら、象が動けなくなる。それで、まん中の交差点は“象眼”と呼ばれているのである。

「伸暢」は《汉语大词典》に収録されていないし、古い用例もあまり確認できなかった。「伸長」は具体的に伸びる或いは伸ばす場合に使われるが、日本語の「学力」や「日本語」、抽象的なものには使わない。また自動詞の場合は、物が主語になるが、他動詞の場合は対象が「手」「腕」「首」などに限る。

“搏动”は中国語でまだ日本語の「拍動する」と同じ意味で使われているが、“拍動”は“小鸟拍动双翼”“拍动坐下马”のように「鳥などが羽を上下に動かす」「馬を叩いて動かす」意味を表している。

日本語では「篇」が「編」に書き換えられた。中国語ではまだ使い分けられている。「篇」は名詞か助数詞で、「編」は動詞である。

日本語では「輔」と「補」は同じく「ほ」と発音するし、「甫」の旁を持っているので、同音代替が行われた。しかし、中国語では「輔」と「補」は、発音も違うし、意味も全然違う。中国語に「輔佐」と「輔導」があるが、「補佐」「補導」がないので、まだ問題にならないが、もともと「補助」も「輔助」もあったので、日本語を習得するとき、混乱を起こしやすいのは想像に難くない。“补助”は他動詞と名詞で、「補助する」と「補助金。補助物資。」を意味するが、“辅助”は他動詞と形容詞で「補佐する。助ける。」と「補助的な」の意味を表す。“补助”の中心目的語は物であるのに対し、“辅助”の目的語は人である。

“理窟”と“理屈”は、正反対の意味を表していると言える。《汉语大词典》によれば、“理窟”は“义理的渊薮(義理の集まっている所)”と“义理的奥秘(義理の奥義)”の意味を表していたが、使われなくなった。“理屈”は「理に欠ける」と「道理で相手を屈服させる」意味であったが、現在は「理がない」「理に欠ける」「道理に合わない」の意味だけが残っている。「窟」と「屈」は全く違う漢字なので、中国人として日本語の「理屈」の意味を誤解するのも無理がない。

#### 4.6 漢字の意味による違い

##### 4.6.1 中国語の漢字の意味が日本語より多い

中国語では、漢字の意味用法がどんどん変わって来た。特に、接辞としての用法が日本語との違いをもたらした原因の一つである。たとえば、“头”“面”“上”“下”“子”を含む次の中日同形語の意味用法が違うのである。

石頭 骨頭 舌頭 前頭 枕頭 念頭 外面 地上 頭上 口上 車上 地下 妻子



その中で“外面”“地下”“妻子”<sup>(50)</sup>は二通りの読み方があるので、日本語の意味との対応関係が複雑である。ちなみに、日本語でも「妻子」<sup>(51)</sup>が妻だけを指した用法があった。

「骨頭」は、日本語では医学用語で、普通の辞書にほとんど収録されていないが、「骨の頭」を意味し、骨の方向性を重んじている。中国語では“骨头”は日常的な言葉で、「骨」の意味を表す。

中国語では“老婆”の「老」は接頭辞で、親しさや親近感を示す。「婆」は中国語で「年を取った女性」のほかに、「既婚の女性」「妻」の意味をも表せる。“老婆婆”の意味は日本語の「老婆」と同じである。

「記帳」の「帳」は中国語で、「帳簿」のほかに「出納の記載」や「貸借勘定」の意味があるので、「記帳」の意味が日本語より多い。

#### 4.6.2 日本語で漢字の意味に対する理解が変わった

中国語の複合語の漢字が別の意味に理解された言葉の例として「失火」「幅員」「用事」「平身低頭」が挙げられる。

「失火」「失敗」の「失」の意味は中国人でも分かりにくい。「失火」の「失」は“没有把握住或控制住”つまり「制御できない」という意味で、“失足”“失笑”などと同じ用法である。この意味解釈は日本語の辞書では確認されていない。日本語の辞書では「失」を「過失」「過ち」と解釈しているのが一般的である。「失火」全体は「過って火災を起こすこと。また、その火災。」という意味になる。一方、中国語では、“失火”は、「火をコントロールできなくなって、火事になった」という意味で、火事の原因は「過失」とは限らない。

《汉语大字典》によれば、“用”は“古代特指杀人以祭或杀牲以祭。”の意味があった。《汉语大词典》は“用事”<sup>(52)</sup>の意味について、次のように説明している。

(1) 谓有所事。指行祭祀之事。 (2) 谓有所事。指执法行刑。

(3) 谓有所事。指起兵；使用武力。 (4) 执政；当权。

(5) 指执政者。 (6) 当令。 (7) 指文学作品中引用典故。 (8) 办事。

為政者は何をするのにも、まず天意を問う必要があったのである。おそらく“用事”の最初の意味は「人や動物を犠牲として天を祭る」で、だんだん他の意味を派生したのであろう。今は(8)の「事を行う」しか使われない。

中国語の“用事”の難しい意味が日本語に伝わらず、「用」を「事」と同じように理解してしまって、そこからどんどん新しい言葉が生まれて、中国語と違って来たわけである。例えば、日本語で「用」が「する必要のある仕事」の意味で使われている中日同形語は次の言葉が挙げられる。

用 急用 公用 私用 商用 所用 俗用 多用 他用 無用 用事 要用<sup>(53)</sup>

中国語の“用”に「仕事」の意味がないので、上の同形語の意味が異なっているのである。

“平身”は中国語で“行跪拜礼后起立站正”つまり「臣下が皇帝など会うときの礼儀。



跪いてから立ち上がり、平常のように直立する」意味を表していたが、日本語で「体を平らげて、お礼をする」と理解されてしまった。『日本国語大辞典』は次のように説明している。

①（一する）体をかがめること。平伏すること。

②普通のからだ。あたりまえのからだ。

そして、①の用例として中国の清の洪昇の《长生殿》を挙げている。

長生殿 - 定情「旦進拝介、臣妾貴妃楊玉環見駕、内侍、平身」

これは明らかに意味を誤解している。「臣妾貴妃楊玉環見駕」は楊貴妃が皇帝に会うとき、跪いてお礼をしながら、言った言葉である。「内侍」は皇帝に仕えた宦官で、「平身」は「内侍」が楊貴妃に言った言葉である。つまり、「内侍」が跪いてお礼をしている楊貴妃に「立ちなさい」と言っているのである。すでに跪いている楊貴妃にまた「平伏しなさい」と言うわけにはいかない。中国語の“平身”に対する誤解から日本語の「平身低頭」のような意味が生まれたのかもしれない。

《汉语大词典》は“幅員（幅員）”について、“指疆域。广狭称幅，周围称员。”と説明している。《康熙字典》の“員”に関する説明に“【正韻】周也，幅員，亦作幅隕。”と書いてある。つまり、古代では“員”は“圓”と通用し、「まわり」を意味していた。日本語に伝わって、「員」は「数」に理解されてしまった。『日本国語大辞典』は「「幅」ははば、「員」はかずの意」と説明しているが、次の二つの用例に当てはまるとは思われない。

\* 剪燈余話 - 胡媚娘伝「念幅員之既広、慨狐魅之滋多」

\* 江戸繁昌記 [1832～36] 四・新梅園「園、墨水の東に在り、白髭の祠に隣す。

幅員万畝、地形環の如し」

『岩波国語辞典』も「幅員」の「員」を「かず」と解釈しているが、『広辞苑』と『大辞泉』は「まわり」と解釈している。辞書の漢字の意味に対する理解が分かれているが、「幅員」の意味は中国語の「領土の面積」と違い、「船や道・橋などの横の長さ。はば。」を指しているので、注意が必要である。

#### 4.6.3 日本語で漢字に新しい意味を持たせた

漢字が日本語に入ってから、日本の社会環境に溶け込んで、日本的な新しい意味が誕生するのは当然である。上述の「用」も代表的な例であるが、その他に、「引」「着」「快」「業」「句」「歌」「地」「場」「床」などが挙げられる。

「引」は、日本語で他動詞だけでなく、自動詞としても使われる。「引火」という言葉はうっかりすれば、中国語と日本語で同じ意味だと思われがちである。中国語ではずっと昔から「火を付ける」「火をおこす」の意味を表してきた。「引」は他動詞的な用法で、人間の意図的な動作である。日本語では「引火」は「可燃性の物が、他の火・熱によって燃え出すこと。」という意味で、「引」は自動詞的な用法で、人間の意図的な動作ではなく、何かの原因で、おのずから火がついたという意味を表す。



「着」は日本語で多くの新しい意味が創られた。

『明鏡国語辞典』の「着」の項目に8つの意味が並べてある。

ちやく【着】(造)

①衣服などを身につける。きる。「一衣・一用」

②衣服の数を数える語。「スーツ二」

③くっつける。くつつく。「一眼・一色・一床」「執一・接一・定一・密一」

④ある場所にゆきつく。とどく。「一信・一席・一陸」「帰一・終一・先一・発一」

「盛岡—十一時の新幹線」

⑤到着した順番を数える語。「マラソンで三になる」

⑥きまりがつく。おちつく。「一実」「沈一」

⑦物事を始める。「一工」

⑧囲碁で、石を打つこと。「失一・敗一」

②④⑤⑦の意味は中国語の辞書で確認できなかった。日本人が「着」という漢字に多くの新しい意味を付け加えたと言える。しかし、もともとの「着」の意味とまったく無関係なわけではない。むしろ②は①から、④⑤は③から、⑦は「着手」から派生した可能性が大きい。

「着」の新しい意味は「一着」という言葉によく現れている。

『明鏡国語辞典』の「一着」の項目に次の4つの意味が並べてある。

いっちゃく【一着】(名)

①競走・競泳などで、一番早く到着すること。第一位。一等。

②衣服の数え方で、一つ。また、そのひとそろい。「一しかない背広」

③囲碁で、石を一つ盤面に打つこと。一手。「勝敗を分けた一」

④『他サ変』改まって衣服を着ること。着用。

中国語には③しかない。①②は「着」の新しい意味による違いであるが、④は漢字の意味の多様性と強い結合力による意味の違いと言えるだろう。

“地”について、《汉语大字典》の(15)番目の意味項目に“花纹图案或文字的衬托面;底子”と書いてある。“白地”“红地”“质地”“素地”などは「布の下地の色」を表す言葉で、“质地”はその他に、「人の品質」をも表していたが、今は使われなくなった。しかし、中国語にはこのような意味で使われている複合語が少ないし、“地”の意味も限られている。それに対して、日本語で「加工する前の材料や土台。紙・布などの模様のない部分。」の基本義から「後に加えられたものに対して、基本的・本質的なもの。」「うまれつきの性質。もちまえ。」「文章の、会話の部分に対して、作者の説明した部分。」などたくさんの意味が敷衍された。中日同形語としては「生地」「下地」「地力」が挙げられる。「生地」は二つの読み方があり、「せいち」と読むとき、中国語と同じ意味を表すが、「きじ」の場合は意味が違う。「地力」も「じりき」と「ちりよく」の二通りの読み



方があり、「ちりよく」と読む場合、中国語と同じ意味を表すが、「じりき」は日本語独特な用法である。

「上場」の「場」は中日とも「あることが行われるところ」であるが、日本語では一般的に「証券取引所または商品取引所」を指すが、中国語では「運動場」や「舞台」などを意味する。「場」の「証券取引所または商品取引所」の意味は日本語独特な使い方である。

日本語の「文」は「文章」という意味は中国語と共通しているが、「ある完結した思想内容を表す一続きの語のまとまり。センテンス。」という意味は中国語にないので、「例文」「短文」などの言葉全体の意味が異なっているのである。「句」「歌」は日本語で「俳句」「和歌」を指す場合が多いので、中国語と違っている。

「業」は普通「暮らしのためのしごと。」「職業」を意味するが、日本語の「就業」では「業務」の意味をも指す。

“善戦”は、中国語では「戦うのが上手だ」「戦いに長ける」意味で、“善”は「長じる」「長ける」の意味で、その結果は往々にして「勝利を挙げる」ことである。日本語では「善」は「結果がよいように。うまく。たくみに(する)。」という意味を表し、「善戦」は「実力を出し尽くしてよく戦うこと。」という意味を表し、敗れた結果より、戦う過程での「戦いぶり」を強調している。

#### 4.6.4 漢字の意味が違う

ほとんどの漢字は複数の意味を持っている。日本語と中国語ではそれぞれ別の意味が採用されているので、語義の違いをもたらしたのである。代表的な漢字は次の例がある。

庄 案 役 火 検 公 産 商 信 場 職 整 送 本

中国語では“发信”の“信”は「手紙」を指し、“送信”の“信”に「手紙」の他に、「便り。知らせ」の意味がある。しかし、どちらも人が郵便局や届け先に行かなければならない。日本語では「発信」「送信」の「信」は「手紙」の意味がなく、「便り」や「メール」などの信号を指し、本人が足を運ばなくても、パソコン等で済ませることができる。

「火」を含む中日同形語がたくさんある。例えば「火、火気、火急、火災、火勢、火力、火薬、火種、火柱、火花、漁火、引火、上火、鬼火、篝火、失火、出火、消火、情火、戦火、耐火、着火、点火、灯火、導火線、野火、発火、噴火、放火、砲火、防火、萤火、猛火、欲火、烈火」などが挙げられるが、その中で「火」の意味が違う言葉は「火気」「上火」「消火」「出火」「発火」<sup>(54)</sup>で、意味用法が違う言葉は、ほかに「火種」「引火」「失火」「着火」<sup>(55)</sup>などがある。

漢方理論によれば、人体の健康状態は、陰陽のバランスによって維持されている。「陽」が「陰」より強いと、「火」が起こる。「陰」が正常な状態にあり、「陽」が強すぎる場合、「実火」と呼び、「陽」が正常な状態にあり、「陰」が相対的に弱い場合、「虚火」と呼ぶ。それぞれの症状に対応する治療法を取らなければならない。人間が怒ると、血液がどんどん上のほうへ上る。「火」の性質は「炎上する」ことであるので、中国語では、人間が「かっとなつてのぼせてしまう」ことをも“火”と表現する。それによって“上火”



“発火” “火気” “出火”などの意味が日本語と違うのである。漢方医学が言葉に対する影響の大きさをよく物語っている。

“案”は古くから「訴訟や違法に関する事件」を指している。《康熙字典》は次のように説明している。

【正字通】凡官府興除成例及獄訟論定者皆曰案。

「案」のこの意味は日本語ではほとんど使われていないが、中国語では次の言葉はすべてこの意味で使われているが、日本語では「考え」「考えから」「アイデア」「計画」などを意味する。

案件 一案 勘案 原案 懸案 公案 新案 断案 鉄案 発案 翻案 名案<sup>(56)</sup>

“懸案”は「未解決の事件」の意味として使われる場合が多いが、「懸案」は「解決を迫られながら解決されずにある問題」を意味する。

中国語では“服役”の“役”は「労役」と「兵役」を意味するが、「懲役」の意味がない。日本語の「服役」は「夫役・兵役・懲役などに服すること。」を指すので、「役」の意味が中国語より広い。

「一役」は、「一つの役目」の意味を表すが、中国語では「一回の戦役」を指す。中国語で、“役”に“职责”“职分”の意味もあったが、使われなくなった。

「検」は、中日とも「取り調べる」「検査」「制約する」「検査機関の略」などの意味を持っているが、「送検」「検挙」の「検」はともに「検察機関」などを意味しているので、中国語と違っている。

中国語では“送检”は「関係担当機関へ検査に送る」意味を表し、“检举”は「（一般の民衆が）関係の機関や組織に告発する」を意味するが、日本語では「送検」は「犯罪容疑者や捜査書類・証拠物件などを警察から検察庁に送ること。」<sup>(57)</sup>を意味し、「検挙」は「検察官・司法警察職員などが容疑者を特定し、刑事事件として処分するに足る捜査を完了すること。また、その容疑者を関係官署に連行すること。」<sup>(58)</sup>を表す。

「公」の意味が中日で大きく違っているので、「公」を含む同形語全体の意味が異なる言葉は少なくない。ここで、「公認」「公用」「公約」「公館」について見てみたい。

“公認”<sup>(59)</sup>は「公衆が認める」「みんなが認める」意味であるのに対して、日本語の「公認」は「国家・社会・政党などが正式に認めること。」を意味している。「公用」「公館」の「公」は「統治機関」「役所」「国」「公共団体」などを意味する。中国語では“公认”“公用”の“公”は「公衆」「一般の人みんな」を指すが、“公館”の“公”は「官僚や富豪私人」を指していた。“公館”は今旧居の名前に使われているだけである。

“公約”と「公約」も大きく違う。“公約”は「多国間で締結した条約」と「みんなできっしょに作って守らなければならない規約」の二つの意味を持っている名詞であるが、日本語の「公約」は「公衆に対してある事（政策など）を約束すること。また、その約束。」を意味する名詞とサ変他動詞である。両者の語構成も異なっている。

“运动员”と「運動員」の意味が違う。「運動」は「物体が時間の経過につれて、その



空間的位置を変えること。」「体育・保健や楽しみのために身体を動かすこと。スポーツ。」  
「目的を達するために活動すること」などの意味を指し、中国語の“运动”とほぼ変わらないが、「運動員」と“运动员”を構成する時、それぞれ「目的を達するために活動すること」と「スポーツをする」意味を取っているので、両者の違いが生まれたのである。

「商」は中日とも「はかる。相談する。物事を比べて考える。」と「あきなう。売り買いして利益を得る。」の意味があり、それぞれの意味を使う「商業、商店、商人、商品、通商」と「商量・商議・協商」は中日で同じ意味を表すが、「商談」の「商」に対する理解が違っている。日本語は「商売。取引」の意味を採用して、「商談」は「N+N」になり、「商売や取引をまとめるための話合い。」を表すが、中国語では「V+V」の語構成で、相談する」意味を表す。

中国語の“生息”は、「生活する。生きる」の意味以外に、「利息を生む」の意味がある日本語の「生息」の「息」は「生きる。生存する。」意味だけで、「利子」の意味がない。中国語の“生息”は「V+V」と「V+N」の二種類の語構成を持っている。

中国語の“生气”も二種類の語構成を持っている。「N+N」の場合、日本語と同じくは「生气」「活気」「活力」を表すが、「V+N」の場合、「怒気が生じる」「怒る」の意味を表す。日本語の「生气」の「気」は「生命の原動力。精神力。」を意味するが、しかし、人間が怒る時、漢方で、生命力の根源とされる気が血とともに頭の方に上り、「怒気」に変わってしまうので、中国語の“气”に「怒気」「怒る」「怒らせる」等の意味が生まれたのである。日本語にも「頭に来る」という連語があるが、「来る」の主語は「怒気」のようなものであろう。

「仮」は「一時的なまにあわせ。」「本物でないもの。」「かりに。臨時に。まにあわせにかり。」などの意味があるが、中国語では「本物でない」意味が多用されているので、「仮装」「仮設」などの同形語は意味用法が異なるのである。

「装」は、日本語で「衣服をつけて身ごしらえをする。よそおう。よそおい。」「しかけをとりつける。ととのえる。かざる。」「書物の体裁。」などを意味するが、中国語では「衣服」と偽り装う」などが多用されているので、「仮装」「男装」「女装」「服装」「武装」「盛装」「正装」「武装」<sup>(60)</sup>などの同形語は意味用法が異なるのである。

「壇」は中日とも「他より一段高くした設備」と「学芸の専門家の社会」の意味を持っているが、「教壇」は日本語では前者の意味であるのに対して、中国語では後者の意味である。「歌壇」の「壇」は同じく「社会」の意味であるが、「歌」は日本語で「和歌」「歌人」を指している所以、中国語の「歌手」と違うのである。「歌」「句」などは日本語で意味が特化されている。

「本」の意味が非常に多い。中国語では「木の根」の意味から「物事のはじまり。物事の根本・根源」「本来の。もともとの」「もともと。元来」「自分の。我が」「現在の。この」「に基づいて」などの意味がどんどん敷衍されてきた。古代では植物を数える量詞として「株」と同じ意味を表していたが、今は使われなくなった。一方、日本語に伝わっ



て、「おもととである。主体である。中心。」「草木のように細長いもの（を数える語）。」「この。当の。」の意味が多用され、さらに「正式。まこと。」という新しい意味が誕生した。それによって、「本名」「本校」「本場」「本店」「本案」などの中日同形語の意味が違っているのである。

日本語の「本名」は「号・芸名・筆名などに対して、まことの名。実名。」の意味であるが、中国語では現在の名前に対する「もともとの名前」の意味である。

日本語の「本校」は「分校に対して本体である学校。」と「この学校。当校。」の二つの意味を表すことができるが、中国語では「我が学校」の意味だけである。

「本場」は日本語では普通「ある物の本来の産地。」を指しているが、中国語では「この（試合や公演など）」という連体修飾語である。

「本店」は、日本語で「営業の本拠である店。」を意味するが、中国語では「わが店」という意味である。

「本案」は、「この案」と「民事訴訟において、付随的・派生的な事項に対し、本来的な事項を指す語。最も普通には、訴えの形式的な適法性に対して、請求の内容の実体法上の可否を指す。本案審理・本案判決の類。」の二つの意味があるが、中国語では「この訴訟事件」全体を指す。

「本家」は、中国語でもともと「もとの家」「原籍・本籍」を意味していたが、「父方の祖先を同じくする者。同族。一族」の意味に変わり、現在も使われている。日本語では「おもとになる家筋。いえもと。宗家。」「分家から見てその分かれ出たもとの家。」の意味である。

“送”は、中国語では「届ける」「贈る」の意味がある。“送信”は「手紙を届ける」意味で、“转送”は、「人からもらったお土産などを他人に贈る」意味である。「奉送」は、日本語で「貴人を見送る」意味で、あまり使われないが、中国語では「進呈する。献呈する」「ただであげる」意味を表し、よく使われている。

日本語の「拔糸」は、「手術などの切口がなおってふさがった時、縫合糸を抜き取ること。」意味で、「糸」は本物の「いと」であるが、「拔糸」という言葉の歴史はそんなに長くはない。中国語の“拔丝”は、明代の小説にすでに使われている。“丝”は本当の「いと」ではなく、「いとのようなもの」の意味である。“拔丝”は二つの意味がある。「（金や銀のような金属材料を引き延ばして）頭に飾る飾り物をつくる」と「油で揚げた果物などの材料を、砂糖を煮つめてあめ状にしたものに入れてからめた料理（食べるとき、箸で挟んで、引っ張ったら、あめが細い糸のように見えるから“拔丝”と呼ばれたのである）」である。

#### 4.7. 語構成による違い

語構成の違いが中日同形語の語義の違いをもたらす要因の一つである。詳しくは第三章に述べる。ここで「改正」「画像」「口角」「閃光」「備忘」「養家」「一個人」「各個人」「継続審議」などの同形語を見てみたい。



日本語の「改正」は「V+V」の連合構造で、「改」と「正」が類義を表しているが、中国語の「改正」は「V+A」の補足構造で、全体の意味は“正”のほうに傾いている。

“画像”は「V+N」の動賓構造と修飾構造の二種類の語構成があるので、「肖像画を描く」動詞と「描いた肖像画」名詞の二つの意味を表している。日本語の「画像」は、中国語の名詞と同じ意味を表す場合もあるが、多くの場合「機械的处理により、感光材料・紙・スクリーン・テレビ・ブラウン管などの上にうつし出された像。」を表している。

“口角”は中国語で“kǒujiǎo” “kǒujué” の二つの読み方があり、“kǒujiǎo”と読まれる場合、「N+N」の語構成で、日本語と同じく「口の左右のあたり。」の意味を表すが、“kǒujué”と読まれるとき、「N+V」の語構成で、「口論する」「口げんかする」意味を表す。“角”は「競う」「争う」意味を持っている。

「備忘」の意味について、『広辞苑』は「忘れた時の用意に備えること。」と説明している。この意味の説明では日本語の「備忘」の語構成が理解できなくなってしまう。中国語では“备忘”の“备”は他動詞で、「防備する」「防ぐ」の意味を表す。“忘”も他動詞で、「忘れる」を意味する。“备忘”は「V+V」の動賓構造で、「忘れるのを防ぐ」意味で、日本語の「忘れるのに備える」と同じである。

“养家”は「V+N」の動賓構造で、「家族を養う」意味を表すが、日本語の「養家」は「養子縁組によって入った家。養子先の家。養方。」を指しているので、「N+N」の修飾構造である。

“闪光”は、「V+N」の動賓構造と「V+N」の修飾構造で、「瞬間的に光を放つ」「きらめく」と「瞬間的に発する光」「きらめく光」を意味するが、日本語では「閃光」は「V+N」の修飾構造だけで、中国語の名詞の意味の他に、「鉱物の結晶中に微細な含有物などが一定方向に配列して生じる、内部からの回折光。」の意味もある。

“一个人”と「一個人」は語構成が違うので、語義に微妙な違いが生じた。“一个人”は“一个+人”つまり「数量詞+名詞」の修飾構造で、人数を数える数量詞になり、「一人」の意味を表す。「一個人」は「一+個人」の「数詞+名詞」の修飾構造で、「地位・職業など公の面を離れて考えた、一人の人。また、全体の中での一人の人間。」という意味を表す。

“各个人”は“各个+人”の修飾構造で、「全ての人」全体を指すが、日本語の「各個人」は「各+個人」の修飾構造で、「一人一人」「それぞれの個人」を指している。

“继续审议”は「V+V」の動賓構造の連語で、「審議すること続ける」意味を表すが、日本語の「継続審議」は「V+N」の修飾構造の名詞で、「議決するに至らなかった案件を次の会議に持ちこして審議すること。」を意味する。

#### 4.8 偶然の一致によって形成した同形語

偶然の一致で形成した中日同形語は3. で挙げたように数多くあるが、それぞれ意味が違うのはむしろ当然であると思われる。ここで、次の言葉について考察を加えたい。

得休 起毛 仰天 香油 新人 耐性 展翅 独女 発毛 感染力 老废物



日本語の「得体」の由来は定説がないが、『広辞苑』は「(一説に「<sup>ていたく</sup>為体」の音読イタの転。」「得体」とも書く) <sup>しやうたい</sup>正体。<sup>ほんしやう</sup>本性。」と説明している。中国語の“得体”は「言動が規範に合うさま」「適切である」意味を表し、“体”は「言動が社会的な規範や道理に合うこと」を意味する。

“起毛”は「毛が起こる」「けばだつ」の意味で、布地の品質がよくないと思われるが、日本語の「起毛」は「織物や編物などの表面の繊維をかきたててけばを立てること。」の意味を表し、「羅紗ラシャ・フランネル・メリヤスなどの仕上げに応用」される。中国ではだれでも着物に“起毛”の現象が起こってほしくないものであるのに対して、日本では人為的にわざと「起毛」をさせている。

“仰天”と「仰天」は非常におもしろい同形語である。“仰天”は中国語でほとんど「人の意志的な動作」を表し、“仰天大笑”“仰天太息”“仰天顿足”“仰天叫屈”のように「自ら進んで、空を仰いで、胸の内を披歴する」場合が多い。“仰天跌倒”の使い方もあるが、「仰向けに倒れた」の意味はやはり日本語と違う。日本語の「仰天」は「驚いて天を仰ぐ」つまり「びっくりして、腰を抜かして、地面に座った時、受身的に空を仰ぐ。」意味である。単独で使われる場合が少なく、「びっくり仰天」のように使われるのは一般的である。また、最近では名詞の修飾語として形容動詞的に使われている「仰天ニュース」「仰天エピソード」などがよく見られる。

“香油”と「香油」は「においのよい油」の意味で通じているが、用途が違う。“香油”は食用の「ゴマ油」を指し、「香油」は「毛髪などにつける、においのよい油。」を意味する。

“耐性”は「忍耐強い性格」「根気」「忍耐力」を指し、古くから使われてきた。日本語の「耐性」は「一般に、環境条件や化学物質などに対する抵抗性。特に、薬物などに対して生物が示す抵抗性。抗生物質に対する細菌の抵抗力など。」を指し、比較的新しい言葉である。“耐性”は人に使われるのに対して、日本語の「耐性」は人ではなく、生物や菌類に用いられる。

“独女”は中国語で「一人っ子としての娘」を意味し、「箱入り娘」のイメージが強いが、日本語では最近できた言葉で、「独身女性」を意味している。

“发毛”は「身の毛よだつ」「ぞっとする」を意味するが、日本語では「発毛」は「髪の毛が生えること」を意味している。

“感染力”と「感染力」は語構成が同じであるが、“感染”と「感染」の意味が違うので、同形語の意味が異なっている。“感染”は「感染する」「うつる」のほかに「(言葉や行為によって)影響する」「感化する」意味がある。“感染力”は「感化力」「影響力」を指し、特に「人の感情を高ぶらせる力」「人に共鳴させる力」を意味する。日本語の「感染力」は「病気やウイルスが伝染する力」の意味を表す。

“老废物”は“老+废物”の語構成で、「老废物」は「老廃+物」の語構成である。“废物”は「役立たないもの」だけでなく、比喩的に「役立たない人」にも使われたので、“老



废物”は「役立たない老人」をのしる言葉で、『紅樓夢』<sup>(61)</sup>に既に使われている。一方、日本語では「老廢」が「物」を修飾しているので、人の意味がなく、「物質代謝によって生じ、体外に排出される物質。」を意味する。

#### 4.9 発音による違い

多音字と多音語は中国語と日本語にともに大量に存在している。二種類以上の読み方を持っている同形語も少なくない。多くの場合、発音や読み方が変わると、意味も異なってくる。以下日本語と中国語に分けて見ていく。

##### 4.9.1 日本語で二つ以上の読み方がある言葉

日本語で二つ以上の読み方がある同形語は次の言葉が挙げられる。

頭数 熱湯 新手 菖蒲 一時 一度 市場 一味 一方 上下 黄金 大勢 大手  
大家 男女 音色 風車 寒気 顔色 気質 気色 国境 好事 工場 降伏 戸口  
小人 小屋 声色 声音 作物 下手 十分 祝詞 地力 白馬 人事 人気 心中  
人体 生魚 成敗 生物 旋風 宝物 中日 帳面 梅雨 天火 同行 特種 床  
床板 熱気 分別 牧場 末期 目下 真面目<sup>(62)</sup>

読み方そのものが日本語習得時の難点になっているものが少なくない。そのうえ、読み方によって、日本語での意味が微妙に違うので、中日同形語の対応関係の複雑さを増している。例えば、「頭数」は「とうすう」と読む場合、中国語と同じ意味であるが、「あたまかず」と読む場合、人の数を数えることができるのは中国語にない意味である。

「一味」は「いちみ」と読むとき、「仏説は時と所に応じて多様であるが、その本旨は同一であること。」「事または理の平等をいう。」「味方すること。また、その人々。仲間。同志。現代では、特に悪事の集団にいう。」「漢方で薬種の一品。」「独特の味わいがあること。」などの意味を表すが、「ひとあじ」と読む場合、「ちょっとした味。微妙な味加減。」の意味を表す。中国語では読み方が「yīwèi」だけで、「漢方薬の一種類」と副詞としての「一筋に」「ひたすら」の意味を表す。

二つの読み方があるが、意味用法に違いがない言葉の例として、次のものが挙げられる。

下半期 黒土 塩水 海辺 乳房 頭蓋骨 馬糞<sup>(63)</sup>

##### 4.9.2 中国語で二つ以上の読み方がある同形語

中国語の多音同形語の特徴として四声の違いによるものが多数を占めていることが挙げられる。四声だけが違う言葉は次の例が挙げられる。

大方 大人 大意 地道 地方 地下 東西 多少 幹事 告訴  
好事 教授 精神 妻子 傾倒 人家 外面 下水 丈夫<sup>(64)</sup>

ある字の発音が全く違う同形語の例として次の言葉が挙げられる。

便宜 空调 口角 同行

「便宜」は日本語で「べんぎ」と読まれ、「ある事をするのに都合のよいこと。便利なこと。また、そのおり。」「適宜の処置。」を指すが、中国語での“便宜”は「biànyì」と読む場合、「適宜である。都合がよい。」を指すが、「piányì」と読む場合、形容詞と



しては、「値段が安い」を、名詞としては「(手に入れるべきでない) 得」「利益」、他動詞としては「(相手に) 得をさせる。」を表す。もともと意味が多い「piányi」に「biànyí」が加わると、日本語との関係がもっと複雑化してしまう。

「同行」は日本語でも「どうぎょう」と「どうこう」の二つの読み方があるので、中国語との対応関係が非常に複雑である。日本語で「どうぎょう」と読むときは名詞だけで、「共に行くこと。また、その人。」「相伴って神仏に参詣する人々。巡礼者の道づれ。」「文章また五十音図などの同じ行。」などを意味するが、「どうこう」と読むときは名詞とサ変自他動詞で、「連れだって一緒に行くこと。また、その人。道連れ。」を意味する。「同行」は「tóngháng」と読む場合、動詞としての「同じ職業に就いている」と名詞としての「同業者」を意味し、「tóngxíng」と読む場合、自動詞として「一緒に行く」「同行する」意味を表す。日本語の「どうこう」は「部下を同行する」のようなサ変他動詞の用法があるので、注意が必要である。

“空調”は kōngtiáo と読むとき、日本語の「空調」と同じく「空気調節の略。エア - コンディショニング。」を意味するが、kōngdiào と読むとき、「空路を通して調達し輸送する」「空輸する」意味を表す。

## 5. おわりに

中日同形語が形成された最大の要因はお互いの借用関係にあるが、偶然の一致や日本語での当て字の使用も無視できないことがわかった。

中日同形語の語義相違の要因はいろいろあるが、根本的な要因は「環境の違い」と「漢字の意味の多様性」と「漢字の造語力の違い」にあると思われる。環境的な要因として、「自然環境や人文環境の違い」「政治制度の違い」「言語政策」「科学技術（例えば、デジタル技術やインターネットなど）の発展」「外来文化（特に欧米文化）の影響」などが挙げられる。それらによって、基本的な語彙と発音が誕生したり、偶然の一致が生じたり、語義や品詞性などの意味用法が変化したりした。言語間の翻訳や借用のとき、意味用法が固定されやすいが、同形語の意味の特化は日本語の表記の多様性にも関係していると思われる。中国語で一つの言葉で賄うことができるのに、日本語では「和語」「漢語」「外来語」の多種類の語彙で使い分けられている。例えば、“中心”は日本語で「中心」のほか「センター」があり、“圧力”は日本語の「圧力」「プレッシャー」「ストレス」などに対応している。“精神”は日本語との対応関係が非常に複雑である。中国語の“精神”の意味を含意する言葉は多くある。例えば、「精神」の他に「意気」「気」「気分」「気持ち」「気力」「元気」「心」「エートス」「カタルシス」「ストレス」「スピリット」「スランプ」「トラウマ」「プレッシャー」「マインドコントロール」「メンタリティー」「メンタル」などのたくさんの言葉は中国語に翻訳されるとき、“精神”が使える。したがって、中国語の“精神”を日本語に翻訳するのは非常に難しい。



また、もともとのしり言葉の少ない日本語が相手の気持ちに配慮するばかり表現の多用と婉曲化によって、言葉の含意と重みにずれが生じた。それも中国語母語話者にとって大きな壁になると思われる。

言葉は環境の変化とともに変わっていく。特にテレビやインターネットなどのメディアの影響は計り知れない。有名人の影響（例えば、芸能人や政治家など）、言語学者、日本語教師などの影響力も無視できないと思われる。

## 注

(1) 陳力衛 (2001) p353

(2) 大河内康憲 (1992) p179

(3) 潘鈞 (1995) は同形語語義の違いの要因を次のように分類している。

### I、词义本身发生变化导致词义分歧

(1) 词义的比喻转用和俗用性转用

(2) 借用导致词义的特定化

(3) 词义分化及借用时间上的先后差异导致词义发生变化。

(4) 社会生活的变迁对词义的影响

### II、由于词义变化以外的因素导致词义分歧

(1) 词构成不同导致歧义

(2) 古代汉语词义还保留在一国的词语里

(3) 读音不同词义也随之改变

(4) 同音汉字的转写导致歧义

(5) 词素意义不同导致歧义

(6) 国情制度文化，社会诸背景不同导致词义不同

(7) 字训（字义）不同导致歧义

(4) 潘鈞 (1995) は次の言葉を挙げている。

市場 暖流 死角 細胞 対象 前線 道具 敷衍 検討

人選 激動 顔色 分配 高潮 作物 大家 悪女 了解 老婆 洋行 正月 警官

(5) “偏正结构”とは「修飾構造」である。語を構成する成分に地位の差があり、前の成分が後の中心成分を修飾するのは一般的な構成である。例えば、「洋酒」「国旗」は「N+N」の、「美人」「暖流」「高学歴」は「A+N」、「握力」「産婦」は「V+N」の修飾構造の複合語である。「人選」は日本語の文法の語順によって構成された言葉である。中国語では「N+V」であとのVが前のNを修飾するのは他に見ない現象である。

(6) 「人選」の意味の説明は『広辞苑』を参照した。以下、中日同形語の日本語の説明について、注を含めて、出典を示さなければ、『広辞苑』を参照する。

(7) 《汉语大词典》は“市场”の意味項目(1)に“商品买卖的场所。”と解釈して、次の用例を挙げている。



每阅市场，登酒肆，逢人即与相喜。 南唐 尉迟偓《中朝故事》

新开各处市场宽，买物随心不费难。 清 兰陵忧患生《京华百二竹枝词》

(8) 一部の中日同形語の語義の違いを次に紹介する。

石头 shítou 石。

石頭 いしあたま

① 石のようにかたい頭。

② 考え方がかたくて融通のきかないこと。また、そういう人。

怪人 guài ren 変わった人。

怪人 かいじん 正体の分からない、怪しい人。

『明鏡国語辞典』

街道 jiēdào 大通り。街路。

街道 かいどう 各都市間を結ぶ主要道路。

狂言 kuángyán 誇大妄想の話。大言壮語。

狂言 きょうげん

① 道理にかなわない言葉。② 戯れに言う言葉。ざれごと。

③ 科白と劇的行動を伴う芸能。歌舞中心の能・踊などに対する。例外に壬生狂言のような無言劇もある。

④ 能狂言。猿楽の笑いの要素を洗練した科白劇。

⑤ 歌舞伎狂言。歌舞伎劇の演目。また、劇そのもの。

⑥ うそのことを仕組んで人をだます行為。

激怒 jīnù (他動詞で) 怒らせる。

激怒 げきど 激しく怒ること。

激动 jīdòng

① [形] (感動・感激して) 心が揺り動かされている。

② [動] 感動させる。心を動かす。

講談社『中日辞典』

激動 げきどう 激しくゆれ動くこと。

行乐 xínglè 楽しいことを行う。楽しいことをして遊ぶ。楽しむ。 講談社『中日辞典』

行楽 こうらく 野や山に出かけて楽しみ遊ぶこと。

失职 shīzhí 職責を果たさない。

(筆者)

失職 しっしょく ① それまでの職を失うこと。失業。② 職務上の失策。

社长 shèzhǎng 旅行社・通信社・出版社などの長。

(筆者)

社長 しゃちょう ① 社団などの長。会社の最高責任者。

② 他人を親しみ、または、からかつて呼ぶ称。

出头 chūtóu (1) 苦境から脱する。日の目を見る。(2) ぬきんでて優れる。

(3) 顔を出す。(4) (数量がある整数を超えて) 端数が出る。

(1) (3) (4) は講談社『中日辞典』、(2) は筆者。

出頭 しゅつとう 本人自ら、ある場所、特に役所など公の場に出向くこと。



进水 jìnshuǐ 水が入る。 (筆者)

進水 しんすい 新しく建造した艦船を造船台から滑らせて水上に浮かばせること。

走路 zǒulù (1)道を歩く。(2)去る。立ち去る。 講談社『中日辞典』

走路 そうろ 競走の路。コース。

帶出 dàichu ①人を連れ出す。②育て上げる。③芋づる式に出る。 (筆者)

帶出 たいしゅつ 備品・書籍などを、身につけて外に持ち出すこと。

手心 shǒuxīn ①手のひら。たなごころ。②支配下。手中。 講談社『中日辞典』

手心 てごころ 手もとに残っている感じ。身についたわざ。転じて、事情に応じて物事を程よくあんばいすること。また、寛大な取扱いをすること。手加減。

鉄腕 tiěwàn (1)強力な手腕 (2)強力な統治。 講談社『中日辞典』

鉄腕 てつわん 人並はずれて働く、鉄のように強い腕。

手袋 shǒudài [名][方] (多く女性用の)ハンドバッグ。 講談社『中日辞典』

手袋 てぶくろ 寒さや汚れ・外傷を防ぐため、また盛装のために手にはめる袋状のもの。手套。

天井 tiānjīng (四方を建物で囲まれた)空き地。 (筆者)

天井 てんじょう

①室内の上部の小屋組または床組を隠すために張った板壁。組入天井・小組格天井・竿縁天井・鏡天井などがある。洋式では漆喰塗が普通。

②物の内部の最も高い所。③相場の最高値。

難聴 nántīng [形]

①(音声が)耳障りである。聞くに耐えない。

②(言葉が粗野で)聞き苦しい。聞くに耐えない。

③外聞が悪い。世間体が悪い。

講談社『中日辞典』

難聴 なんちょう 聴覚が低下し、音や声がよく聞こえないこと。

入手 rùshǒu (〜に)手を入れる。着手する。手をつける。始める。 (筆者)

入手 にゅうしゅ 自分の手に入れること。物を受け取ること。落手。

破船 pò chuán 壊れた船。ぼろぼろの船。 (筆者)

破船 はせん 難破した船。

发案 fā'àn [動] 事件が起きる。

講談社『中日辞典』

発案 はつあん

①(計画などを)新しく考え出すこと。「一者」

②議案を提出すること。ほつあん。

平手 píngshǒu 引き分け。

講談社『中日辞典』

平手 ひらて ①平らに開いた手。②将棋で、駒落ちでない、双方が互角の手合。

毛头 máotóu 未成年の男子。男の子。子供。

(筆者)

毛頭 もうとう (多く下に打消の語を伴って)毛の先ほども。少しも。いささかも。



満床 mǎnchuáng ベッドいっぱい。ベッドに満ちる。 (筆者)  
 満床 まんしょう 病院で、入院患者用のベッドがすべてふさがっていること。  
 満車 mǎnchē バスやトラックなどの車にいっぱい入っている。 (筆者)  
 満車 まんしゃ 駐車場が車両でいっぱいこれ以上駐車できる余地のないこと。  
 床上 chuángshang ベッド。ベッドの上。 (筆者)  
 床上 ゆかうえ 床の上。  
 床下 chuángxià ベッドの下。 (筆者)  
 床下 ゆかした 床の下。縁の下。

要員 yàoyuán 要人。 講談社『中日辞典』

要員 よういん ある物事のために必要な人員。

立案 lì'àn (1)登録する。登記する。(2)〈法〉立件する。  
 (3)事件や重要な出来事について専門の調査機関を設ける。

講談社『中日辞典』

立案 りつあん 案を立てること。草案を作ること。計画を立てること。

女性問題 nǚxìngwèntí 女性の悩ましい病気。婦人病。 (筆者)

女性問題 じょせいもんだい

①社会機構によって生じた女性の差別、抑圧、疎外などの問題の総称。

②男性の浮気問題。 (筆者のまとめ)

(9)「落花流水」について詳しくは拙論の「中日同形語の『落花流水』考」を参照。

(10)詳しくは第九章に述べている。

(11)中国語の発音のアルファベット順で並べておく。

安楽死 包装 氷点 剥離 不可抗力 不作為 財産保全 長考 充電 処方薬 低迷  
 低調 低層住宅 地価 第三者 断層 対決 悪評 二次汚染 法律援助 放電 放水  
 訪問 孵化 富栄養化 幹細胞 幹細胞移植 高層住宅 高尚 個人所得税 個展  
 公示 公選 構想 骨髓移植 観照 光汚染 国家公務員 国家賠償 国税 国有企業  
 国有資産 過労死 核拡散 環境難民 環境権 火 加盟 家庭暴力 解読 禁漁  
 精算 空港 口蹄疫 酷評 理念 量販店 流動人口 隆鼻 売場 美容 目標管理  
 内需 尿検 漂流 品位 旗艦 旗艦店 前衛 全天候 欠席判決 強暴 傾斜 熱線  
 熱汚染 人気 認知科学 融資 入場券 軟着陸 砂漠化 煽情 商機 商圈 商戦  
 生存権 生態科学 生態農業 生物多様性 聖火 失業保険 湿地 食品安全 視点  
 視界 室内環境 室内空気汚染 瘦身 特売 特殊教育 特質 透明度 透析 外需  
 外援 物流 物語 物権 現代農業 消費税 消化 肖像権 写真 新鋭 新生代  
 研修 眼球 演繹 陽光 硬着陸 有機食品 再生資源 造血 増幅 蒸発 整合  
 知名度 志願者 直撃 著作権 最愛 作為

(12)「放水」「訪問」「火」「品位」「透析」「消化」「演繹」などの語義を次に紹介する。



包装 ほうそう

①品物などをつつむこと。また、そのうわづつみ。「一紙」

②輸送・保管のために、種々の資材を用いて品物を保護すること。荷造り。

『明鏡国語辞典』

包装 bāozhuāng (1) 日本語の①と同じ意味を表す。

(2) “比喻对人或事物的形象给予装扮、美化，使更具有吸引力或商业价值。”

《新华新词语词典》

[喻] 装飾を施す。イメージ作りをする。外見。装い。

氷点 ひょうてん

水が氷結しようとし、あるいは氷が融解しようとする温度。水の凝固点。1気圧の下ではセ氏0度。

氷点 bīngdiǎn

原指水の凝固温度。新义：比喻不引人关注，受到冷落的事物或方面。相对于“热点”。

《新华新词语词典》

もともと日本語の「氷点」と同じ意味である。「注目されずに、冷遇されている物事」を喩える意味が加わった。

剥離 はくり

はぎはなすこと。はがれはなれること。

剥离 bōlí

原指组织、皮层、覆盖物等脱离，分开。新义：比喻企事业单位精简机构、调整职能，

将富余人员分流出去，将某些职能转移出去。

《新华新词语词典》

もともと日本語と同じく「組織、表皮、覆いなどがはがれはなれる」「歯切れ話す」意味を表したが、「企業と事業体がリストラを実施し、余った人員を他の部門に異動させ、一部分の職能も移管する。」という新しい意味が加わった。

低調 ていちょう

①調子が低いこと。内容が充実していないこと。

②十分に調子の出ていないこと。盛り上がりに欠けること。

低调 dīdiào

[名] やわらかい論調。沈んだ口調。

[形] 控えめだ。遠慮気味だ。謙虚だ。

原指低的调门儿。新义：比喻处事、为人低姿态，不张扬的作风。

「低調」は「低い調子」の名詞から形容詞化した。

日本語では「調子が低いこと」と理解されているので、語の重心が「調」ではなく、「低」にあることが分かる。中国語では「低」が「調」を修飾しているので、語の重心が「調」にある。

放水 ほうすい



① を流し出すこと。②水を勢いよく出して遠くへ飛ばすこと。

放水 fàngshuǐ [動]

在多层体育比赛中，参赛者违反体育道德而串通作弊，人为地控制或改变比赛结果，使其中的一方或第三方受益。

《新华新词语词典》

もともとは灌漑や疎水や敵に対する攻撃など様々な目的で「水を高いところから低いところへ流す」意味を表したが、最近の「(スポーツの試合で)八百長をする」意味が加わった。

訪問 ほうもん

人をたずねること。おとない問うこと。

访问 fǎngwèn

原指有目的地去看望、拜访。新义：对网络上特定的资源对象进行查看、浏览。

《新华新词语词典》

もともと日本語と同じ意味を表したが、「サイトを訪問する」「アクセスする」意味が加わった。日本語でもこの意味用法が増やされた。

孵化 ふか 発生中の胚が卵膜または卵殻を破って外に出ること。卵がかえること。また、卵をかえすこと。

孵化 fūhuà 孵化する。

新义：比喻培育、培养，使发展出新事物。

《新华新词语词典》

育成する。扶植する。新しい事物を誕生させる。

高尚 こうしょう

学問・言行などの程度が高く、上品なこと。

高尚 gāoshàng [形]

(1) 気高くて立派である。崇高である。(2) 高尚である。

講談社『中日辞典』

新义：住宅等高雅时尚。

《新华新词语词典》

住宅などが高級で、モダンである。

火 huǒ 中国語での“火”はもともと名詞と動詞で、日本語より意味が多かったが、最近また形容詞化して、“兴旺(盛んである)”“受欢迎(人気がある)”などの意味を表すようになった。例えば、

生意很火/商売が繁盛している。

很火的一个视频/非常に人気のある動画。アクセスが殺到する動画。

解説 かいどく

①解釈しながら読むこと。

②普通には読めない文章・暗号などを読み解くこと。「古代文字の一」

解读 jiědú



中国語の“解读”はもともと日本語と同じ意味だったが、最近「自分に有利な情報を得るために分析する。」「自分のこれからの行動の参考になるために政府の政策に関する書類などを理解する」意味が増やされた。

解读美国就业数据／アメリカ就職データを分析する (例文と訳は筆者)

解读中央1号文件／中央政府第1号文書を理解する (例文と訳は筆者)

精算 せいさん

金額などを細かに計算すること。また、計算して過不足などを処理すること。

乗り越し料金を精算する／补车费

精算 jīngsuàn

运用数学、统计、会计等方面的知识和多种金融工具对经济活动进行计算、分析和预测。

《新华新词语词典》

数学、統計学、会計学など多方面の知識と各種の金融道具を用いて経済活動に対する計算、分析、予測などを行う。主に保険業、各種の保障業務に用いる。例えば、保険料率や保険金額を算出する。 (《现代汉语词典》の解釈を訳した。)

漂流 ひょうりゅう

①海上・水上をただよい流れること。「一記」

②あてもなくさすらい歩くこと。

漂流 piāoliú もともと日本語と同じ「漂流する」「さすらい歩く」意味を表していたが、最近「ラフティング」の意味が増やされた。

品位 ひんい

①人に自然にそなわっている人格的価値。ひん。品格。「一を欠く」「一の無い人」

②金銀の地金または金銀貨に含まれる金および銀の割合。

③鉱石中に含まれる有用成分の割合。

品位 pǐnwèi

“指人的修养层次、物品质量或文艺作品的水平等。”

《新华新词语词典》

日本語の②③のほかに、「官吏の等級」の意味もあった。最近は日本語の①と同じ意味が使われ、更に物の品質や文芸作品のレベルをも指すようになった。

傾斜 けいしゃ

①かたむいて斜めになること。また、その度合。かたむくこと。かたむき。

②心などが一定の方向に引きよせられること。

③〔地〕地層面などと水平面との角度。クリノメーターで測定する。勾配。傾斜角。

傾斜 qīngxié 原指歪斜。新义：比喻对某一方面有所偏重和支持。《新华新词语词典》

もともと「傾く」を意味して、比喩的に「悪い方向に傾く」使い方もあった。今は政策や制度が積極的にある方面に重点を置き、サポートする。

入場券 にゅうじょうけん

会場・式場・競技場などに入るための切符。鉄道駅に入るための入場券もある。



入场券 rùchǎngquàn [名]

日本語の「入场券」の普通の意味と同じであったが、最近「(スポーツの世界大会や決勝戦への) 出場権」のも指すようになった。例えば、

获得奥运会入场券／五輪への切符をつかむ。

中国男篮夺得奥运会入场券不成问题／中国男子バスケが五輪への出場は問題がない。

特殊教育 とくしゅきょうい

「特別支援教育」の意味を表す。種々の障害のある児童・生徒に、その種類・程度に応じた支援を行う教育。2006 年学校教育法等の改正により特殊教育から改称。障害児教育。

特殊教育 tèshūjiàoyù

狭義の“特殊教育”は日本語と同じ意味であるが、広義の“特殊教育”は天才や不良少年に対する教育も含む。

透明度 とうめいど

湖や海の水の透明さを表す値。直径約 30 センチメートルの白色円板などを水中に沈めて、見えなくなる深さで示す。日本語でも「政治の透明度」のように比喩的に使われている。

透明度 tòumíngdù [名]

日本語の「透明度」と同じ意味を表すが、ただ中国語の自然環境の影響で、具体的な意味の「湖や海の水の透明さ」があまり使われない。その代わり、翡翠などの鉱物ガラスなどの材料によく使われる。もっともよく使われるのは比喩的な意味である。

提高上市公司的管理水平和财务透明度／上場会社の管理水準と財務の透明度を高める。

增强了司法活动透明度／司法活動の透明度を増した。

增加税费征收透明度／税金徴収の透明度を高める。(例と訳文は筆者)

透析 とうせき (dialysis)

①硫酸紙・セロファン膜・コロジオン膜などの半透膜がコロイド粒子を通さず、通常の分子およびイオンを通過させる性質を利用して、コロイド溶液を精製する方法。

②人工透析の略。

透析 tòuxī [動] (1) 「透析する」 (2) 徹底的に分析する。 講談社『中日辞典』

(1) の意味は日本語と同じであるが、(2) が最近新しく誕生した意味である。(1) と (2) の語構成が違う。(1) は「V+V」の連合構造で、(2) は「A+V」の修飾構造である。

消化 しょうか

① [周書蘇綽伝] 物が消えうせて変化すること。原形をなくして変化させること。

② [生] (digestion) 栄養物質を、細胞によって利用し得る単純な形態に変化させる過程。脊椎動物では消化管内で消化液の分泌により行われる。細胞外消化。

③ 転じて、読みまたは聴いた説などを十分に理解して自分の真の知識とすること。

④ 処理すべき事物を残らず始末すること。「日程を一する」「売物を一する」



消化 xiāohuà

日本語の②③と同じであるが、①の意味が使わなくなった。④の意味がない。最近「あまった労働力を配置する」「不安材料を克服する」「滞った商品を販売する」などの意味が増えた。

新生代 しんせいだい

(Cenozoic Era)地質年代の一つ。最も新しい時代で、約 6500 万年前から現在に至る。

哺乳類・顕花植物が最も著しい発達を遂げ、アルプス・ヒマラヤ・アンデスなどの大山脈が形成された。→地質年代(表)

新生代 xīnshēngdài

日本語の意味に、「ニュージェネレーション。新しい世代。」の意味が増えた。

眼球 gǎnqíu

脊椎動物の視覚器。球形で、眼窩がなか内に入り、外には強膜・角膜、中間に脈絡膜・毛様体および虹彩こうさい、内に網膜の3層から成り、その内部に水晶体および硝子体などを含む。眼球の周囲に付着している眼筋によって運動する。光線は透明な角膜を通り、虹彩のかこむ瞳孔を経て内部に入る。水晶体はレンズの働きをし、網膜に像が映り、視神経を経て大脳に伝えられる。めだま。→水晶体→虹彩→瞳孔。

眼球 yǎnqiú

基本義は日本語と同じであるが、最近「注意力」という新しい意味が生まれた。例えば、「五一特价」之类的促销手段,自然吸引了很多市民的眼球/「メーカー特価」のようなセール手段は、当然多くの市民の視線を引きつけた。

“眼球经济”は新しい言葉で、“注意力经济”とも呼ばれ、「人々の注意力を利用する経済活動」の意味である。

演繹 えんえき

①[朱熹、中庸章句序]意義を推し広げて説明すること。

②(deduction)推論の一種。一定の前提から論理規則に基づいて必然的に結論を導き出すこと。通常は普遍的命題(公理)から個別的命題(定理)を導く形をとる。数学の証明はその典型。演繹法。

演绎 yǎnyì

日本語の意味の他に、「演出する」「繰り広げる」「発揮する」「表現する」「描き出す」などの意味が増やされた。

陽光 yángguāng

①太陽の光。「一を浴びる」

②真空放電の際、二つの電極の中央付近にあらわれる美しい光芒。

阳光 yángguāng

(1)[名]日光。陽光。

阳光充足的房间/日当たりのよい部屋。



(2) [形] 陽気である。明朗快活である。青春の活力に満ちた。

我们很阳光／われわれは青春の活力に満ちている。

(例と訳文は筆者)

(3) 公開されている。透明である。明朗である。

阳光工程／腐敗のない工事

(例と訳文は筆者)

阳光交易／不正のない交易

(例と訳文は筆者)

阳光工资／明細が記録された公務員の給料

(例と訳文は筆者)

講談社『中日辞典』

増幅 ぞうふく ①振幅を増加させること。

②振動電流または電圧の振幅を増加させて大きいエネルギーの振動とすること。

③比喩的に、物事の程度を強め大きくすること。「うわさが不安を一する」

増幅 zēngfú [名] 増加幅。

“増幅”は最近頻繁に使われるようになった新語である。中国語では名詞だけで、日本語では名詞とサ変他動詞なので、双方の意味用法の違いに注意する必要がある。

整合 せいこう (consistence)

①ととのい一致すること。きちんと合わせること。

②理論の内容に矛盾がないこと。〈哲学字彙初版〉

③[地] (conformity)二つ以上の地層が平行に連続的に堆積しており、その間に時間間隙がないと考えられる状態。

④[電] (matching)二つの異なる電気回路を接続して電力を送る場合、回路を適当な条件にすると最大の電力を送ることができる。このとき二つの回路が互いに整合しているという。また、接続点で反射波の発生しない条件を満たすことをいう場合もある。

整合 zhěng hé ばらばらの物事を整理し統合する。整理再編する。

整合产业链／産業リンケージを整理再編する。

整合内部机构，提高工作效率／内部の機関を再編し、仕事の能率を高める。

加快整合流通网络／流通ネットの統合再編を加速する。

(例と訳文は筆者)

志願者 しがんしゃ

あるものになることを望み、進んで申し出る人。特に上級の学校への進学を志望する生徒や学生を指す。(筆者のまとめ)

志願者 zhìyuànzhe ボランティア。

日本語では進学する時希望する進学先は「第一志望」「第二志望」と言うが、中国語では“第一志愿”“第二志愿”などと言う。の意味はむしろ、中国語の“志愿”と一致している。“志愿”と「志願する」は同じ意味なのに、「志願者」と“志愿者”の意味が異なるのはユニークな現象である。

最愛 さいあい

①最も深く愛すること。「一の品」

②特に男女が親しみむつぶこと。「一の妻」



最爱 zuìdài [名] 最愛の人や物。一番のお気に入り。

講談社『中日辞典』

日本語の「最愛」と中国語の“最爱”はともに名詞であるが、日本語では「愛すること」を意味し、中国語では「愛する対象」を表す。中国語での「動詞からの名詞化」である。  
(13) 潘鈞(1995)の原文は次のとおりである。

一般而言，当某个词作为外来词进入到另一国（种）语言当中时，其词义会由于种种因素而受到一定程度的限定乃至特定。 p21

(14) “修”が“兴建；建造”を意味する用例として、次のものが挙げられる。

钟鼓不修。——《吕氏春秋·先己》

乃重修岳阳楼。——宋·范仲淹《岳阳楼记》

修堤梁，通沟浚。——《荀子·王制》

<http://tool.httpcn.com/Html/Zi/21/PWAZILTBPWILFEE.shtml>

(15) “汤”の「スープ」の意味について、第五章「中日同根語」を参照されたい。

(16) 王力(2004)の原文は次のとおりである。

由於中蘇文化的交流，漢語也吸收了一些俄語所特有的詞語。例如我們常說的“基本上”是由俄語的 *BOCHOBOM* 來的。我們又說“嚴重的任務”，這“嚴重”也是從俄語的 *Серьёзный* 來的<sup>①</sup>。  
《漢語史稿》p611

注の原文は次の通りである。

①俄語 *Серьёзный* 一詞，有時應譯為“嚴重”，有時應譯為“重大”或“重要”。“嚴重的任務”本來只是“重大的任務”的意思，由於“嚴重”和“重大”在俄語裏同用一個詞，所以譯者把它們混同了。假使不受俄語的影響，這種混同就不會產生。譯文對漢語的影響是大的。不論在好的方面和壞的方面都是如此。 《漢語史稿》p611

(17) 《汉语大词典》の“严重”の項目は次のとおりである。

(1) 指地位高、威势重的人。

故禁不胜于亲贵，罚不行于便辟，法禁不诛于严重，而害于疏远……而求令之必行，不可得也。 《管子·重令》

(2) 敬重。

诸公以故严重之，争为用。《史记·游侠列传》

正统中，王振怙宠，凌公卿，独严重驥，呼‘先生’。《明史·魏驥传》

吴趋故严重王敬臣，纤儿妇人，皆呼王孝子。清 钱谦益《吴中名贤表扬续议》

(3) 严肃稳重。

蒜为人严重，动止有度，朝臣太尉李固等莫不归心焉。《后汉书·清河孝王庆传》

苏氏既大家，而姑王夫人，太尉文正公之息女也，严重有识。宋 苏轼《刘夫人墓志铭》

顾都御史佐，性严重，声望伟然，未尝口毁誉人。明 叶盛《水东日记·顾都御史声望》

黄陶菴先生性严重，馆牧斋家，不肯和柳夫人诗。清 袁枚《随园诗话》卷八

(4) 犹严酷；严厉。古者肉刑严重，则人畏法令。 《后汉书·杜林传》

有军兵，则军法尤严重，杀人如草芥焉。 康有为《大同书》辛部第十四章



(5) 重大。在我们中国今日的劳动界，尤其应该令这个日子含有严重的意义。

李大钊《五一纪念日于现在中国劳动界的意义》

(6) 形容情势紧急危险。

等到她明白事情十分严重的时候，她就毫无主意地痛苦起来。 巴金《灭亡》

第十六章四外岗楼的探照灯闪来闪去，敌情很严重。 杨朔《我的改造》

(7) 过于笨重。世宗命满州护军习之，号车骑营，然其制严重，难以通行。

清 魏源《圣武记》卷十一

(18) 李大钊 (1889-1927) は中国共産党の初期の指導者で、日本の早稲田大学に留学したことがあるが、ロシアのプロレタリア革命の影響を強く受けていた。

(19) 『日本国語大辞典』は「婚期」について次のように説明している。

婚期【こん - き】〔名〕結婚をするのにふさわしい年ごろ。結婚適齢期。

\*改訂増補哲学字彙〔1884〕「Puberty 婚期」

(20) 仏教の典籍に「破門」という言葉が確認されなかった。『日本国語大辞典』は次のように説明している。

①師が弟子に対して、その弟子であるという関係を断ち、門人の列から除くこと。門人を除名すること。

\*歌舞伎・幼稚子敵討〔1753〕六「向後はもん致て其元の弟子に成ませう」

\*雑俳・滑稽癡句類題集〔1817～31〕上「三味の弟子破門の分は師をくどき」

\*キタ・セクスアリス〔1909〕〈森鷗外〉「これが若し琴を以て身を立てようとする人であつたら、師匠に破門せられて、別に一流を起すといふ質（たち）かも知れない」

②信徒を宗門から除名すること。

\*奉教人の死〔1918〕〈芥川龍之介〉一「『ろおれんぞ』が破門されると間もなく」

\*袖珍新聞語辞典〔1919〕〈竹内歆郎〉「破門 Excommunication 教会より除名すること」

③こわれた門。

\*羅 - 送張逸人詩「牀頭殘葉鼠偷尽、溪上破門風擺斜」

④植物「からだいおう（唐大黃）」の異名。

\*重訂本草綱目啓蒙〔1847〕一三・毒草「大黃〈略〉破門〔和方書〕」

(21) 中国古籍全録で検索した結果、明より前の用例が確認されなかったし、明の時代の用例は全部「ひそかにわなをしかけて、人を殺害したり陥れたりしようとする」意味で用いられている。

(22) “新聞”について、唐より前の時代の用例が確認されなかった。

《汉语大词典》は次のように説明している。

(1) 新近听来的事。社会上新近发生的事情。

旧业久抛耕钓侣，新闻多说战争功。 唐 李咸用《春日喜逢乡人刘松》诗

吴俗坐定，辄问新闻。此游閒小人，入门之渐，而是非媒孽交搆之端也。



明 陈继儒《安得长者言》

当下哄动街坊，众人当作一件新闻传说。 《红楼梦》第一回

连长连长，大新闻哪，你这个大活人成了烈士了！ 袁静《伏虎记》第四十回

(2) 新知识。新闻妙无多，旧学闲可束。 宋 苏轼《次韵高要令刘湜峡山寺见寄》

(3) 宋时指有别于正式朝报的小报。

朝报，日出事宜也。每日门下后省编定，请给事叛报，方行下都进奏院报行天下。其有所谓内探、省探、衙探之类，皆衷私小报，率有漏泄之禁，故隐而号之曰新闻。

宋 赵昇《朝野类要·文书》

(4) 指报纸。亦指报纸、广播电台、电视台对新近发生的事情的报道。

吾并将此文译为英、佛、露、独各文，送各国新闻登之。 宋教仁《宋渔父日记》

长辛店大战的新闻，买报瞧瞧长辛店大战的新闻！ 老舍《茶馆》第二幕

我都想过，画报上一定登那么老大的照片，我的，胡四的，我们俩的，报纸每天登着我们蜜月的新闻。 曹禺《日出》第二幕

(23) 《汉语大词典》の“地步”に関する説明は次のとおりである。

(1) 地段；位置。

于是都水使者孟揆，移拨十八埭官兵，分地步修筑。 《宋史·河渠志五》

(2) 犹地位。

虎（周虎）、轸（彭轸）时皆为将官，独震（夏震）方为帐前佩印官。郭（郭逮）曰：‘周彭地步或未可知，震安得遽尔乎？’ 宋 周密《齐东野语·耿听声》

华亭公罢相归，其堂联云：‘庭训尚存，老去敢忘佩服；国恩未报，归来犹抱慙惶。’  
虽自占地步，然词旨谦抑，胜张（张居正）之夸诩多矣。 明 沈德符《野获编·内阁·宰相对联》

申祥甫道：‘他也要算停当的了。若想到黄老爹的地步，只怕还要做几年的梦。’

《儒林外史》第二回

(3) 回旋的余地。

这正是会作诗的起法，不但好，而且留了写不尽的多少地步与后人。

《红楼梦》第五十回

可是陈三癞子并不留点地步：他当着胡大的面也一样的说那些。张天翼《包氏父子》

(4) 程度；境地。就好到这般地步！ 清 李渔《比目鱼·耳热》

但是要作到这个地步，却也颇不容易。 《儿女英雄传》

缘起首回祥子落了泪！他不但恨那些兵，而且恨世上的一切了。凭什么把人欺侮到这个地步呢？ 老舍《骆驼祥子》

二老头子要活着，我那小子狗儿要都活着……我、我怎么也不会落到这样地步啊！

杨沫《青春之歌》第二部第九章

(24) 『日本国語大辞典』の《漢書》の用例は次のとおりである。

\*漢書 - 循吏伝序「二千石有治理效、輒以璽書、勉厲、増秩賜金」



「輒以璽書、勉厲」の「、」を取り、「輒以璽書勉厲」と読まなければならない。

(25) 《汉语大词典》の“凌驾”に関する説明は次のとおりである。

(1) 超越；高出。

其史党附本朝，思欲凌驾前作。 唐 刘知几《史通·断限》

人人诚能从自厉，虽一跃而凌驾世界诸先进国可也。 梁启超《立宪政体与政治道德》

然而凌驾这一切的却是一个大的希望。 巴金《春》二八

(2) 驾驶，驾驭。

凡人梦寐之中，若能凌驾沧海，遨遊八极，随意造象，离奇百端，盖其神遇也。

清 百一居士《壶天录》卷下

当曲折的山路被这天边的花云遮盖了的时候，我们就象坐在十一只首尾相接的轻舟之中，凌驾着骀荡的东风。 冰心《樱花和友谊》

(26) 《汉语大词典》の“调剂”に関する説明は次のとおりである。

(1) 调治。

今日病虽稍苏，而元气已竭，调剂无方，将至不起。 《明史·许相卿传》

景初大骇，急止之曰：‘师姑少耐，我能调剂之，不久可用。’

清 和邦额《夜谭随录·闵预》

虽经督抚大吏悉心调剂，无如积弊已深，迄未能收实效也。 《清史稿·食货志三》

(2) 调解。

总理熊文灿许之，处其众数万于四郊，居民汹汹欲窜。之钿至，尽心调剂，民稍安。

《明史·忠义传四·阮之钿》

然里中凡有繇役争讼之事，君未尝不为之调剂，或片言立解。

清 顾炎武《常熟陈君墓志铭》

(3) 调节；调整。

今以三途并进，科第也，军功也，捐纳也。仕途愈杂，吏治愈难。督抚上司者，务求调剂，于是视官廨如传舍。 清 王韬《平贼议》

我们读田园诗觉得有兴趣，只是一种头脑上的调剂，这情形和都市的有钱人故意花了钱到乡间去旅行一次一样。 夏丏尊 叶圣陶《文心》

八西房里是农会委员会开会计划调剂房子，东房里是支部开会研究党员与群众几个不一致的意见。 赵树理《邪不压正》

(4) 药物制剂的配制。

以唐、虞、三代之帝王为之医，以皋、夔、稷、契、伊尹、周公为之调剂，以井田学校封建为之药饵，以仲尼、孟轲为之针砭，如是而子之疾其瘳矣乎！

清 戴名世《忧庵记》

(5) 调济；照顾。屡遇大狱及逮系言官，委曲调剂。孝宗仁厚，多纳溥等所言。

《明史·徐溥传》

我这大关的差事，明明是藩台有了交情，他有心调剂我的。



(27)「競走」「快走」の中日の違いは次のとおりである。

競走 jìngzǒu [名] 競歩。

講談社『中日辞典』

競走 きょうそう 一定距離を走って速さを競うこと。陸上競技の一つ。はしりくらべ。

また、車についてもいう。「障害物―」「自転車―」

快走 kuàizǒu 話し言葉で、相手に早く歩くように催促したり、早く逃げるように勧めたりする場合、使われる。(筆者のまとめ)

快走 かいそう 気持よいほど速く走ること。「ヨットが沖を一する」

(28)「蟻走感」とは「皮膚の表面に蟻ありが這っているように感じる異常感覚。知覚神経刺激症状で、神経疾患の際に見られる。」

(29)“瓦解”について、《汉语大词典》は次のように説明している。

(1)瓦片碎裂。比喻崩溃或分裂、分离。(2)谓使对方的力量崩溃。

(2)の用例として筆者は次の例を挙げたい。

运用分化瓦解、各个击破之策。

『ccl 语料库』

分裂瓦解させ、各個撃破する策を用いる。(筆者訳)

(30)『明治のことば辞典』p272

(31)“出纳”“会计”“经理”“同道”“同调”の中日の違いを以下に紹介する。

出纳 chūnà [名] (1) 出納。(2) 出納係。(3) 広く、物品の出し入れをする仕事。

講談社『中日辞典』

出納 すいとう

①出すことと入れること。だしいれ。すいのう。しゅつのう。

②金銭または物品の収入と支出。「一係」

③蔵人所に属し、財物・文書の出納などをつかさどった職。

会计 kuàiji 会計業務。会計

Kuàiji 会計係。

講談社『中日辞典』

会計 かいけい (「会」は総勘定、「計」はかぞえる意)

①金銭・物品の出納の記録・計算・管理。また、その担当者。

②企業の財政状態と経営成績を取引記録に基づいて明らかにし、その結果を報告する一連の手続。また、その技術や制度。企業会計。

③官庁組織の単年度の収支を予算との対比で把握する予算決算。また、その技術・制度・単位。官庁会計。

④飲食店などで代金を勘定して支払うこと。「お―」

经理 jīnglǐ [動] 経営する。[名] 企業の経営者・管理責任者。 講談社『中日辞典』

経理 けいり

①おさめととのえること。

②会計に関する事務。また、その処理。「一に明るい」「一部」



同道 tóngdào [動] 同行する。

〔名〕 (1) 志を同じくする人。 (2) 同一の職業の人。同業者。 講談社『中日辞典』

同道 どうどう

一緒に行くこと。同行。同伴。「部下を一する」「母に一する」

中国語の“同道”は自動詞で、日本語の「同道する」はサ変自他動詞なので、注意が必要である。

同調 tóngdiào [名] [喩] 志向や主張が同じ人。

講談社『中日辞典』

同調 どうちょう 名詞とサ変自動詞

①調子が同じであること。

②他と調子を合わせること。他人の主張に自分の意見を一致させること。

③機械的振動体または電氣的振動回路などが、外部から与えられる振動に共振するように、その固有振動数を調節すること。

(32) 「芳心」「芳名」「紅顔」の中日での違いは次のとおりである。

芳心 fāngxīn [名] 若い女性の心。女心。

講談社『中日辞典』

芳心 ほうしん 親切な心。また、親切をつくすこと。

芳名 fāngmíng (1) (女性に対して用いる) お名前。 (2) よい評判。名声。

講談社『中日辞典』

芳名 ほうめい ①誉れのある名。よい評判。②他人の名の尊敬語。お名前。御氏名。

紅顔 hóngyán 美人。

講談社『中日辞典』

紅顔 こうがん 女性の美しい容貌。また、年若い頃の血色のつやつやした顔。

「一の美少年」

(33) 『岩波国語辞典』は、「現役」について「ある社会で現に活動中のもの。」「浪人」(2)(イ)に対し、在校中の者、または浪人せずに進学した者。」と解釈している。

『明鏡国語辞典』は、「現役」について「現在、ある地位や職に就いて活躍していること。また、その人。」「高校在学中に大学の入学試験を受ける者。◇受験浪人に対していう。」と説明している。

(34) 『岩波国語辞典』の解釈を引用した。

(35) 《汉语大词典》の“建立”に関する説明は次のとおりである。

(1) 設置；設立。

稽疑，择建立卜筮人，乃命卜筮。 《书・洪范》

及歆亲近，欲建立《左氏春秋》及《毛诗》、《逸礼》、《古文尚书》，皆立于学官。

《汉书・刘歆传》

今欲于湖南地方建立试院。 清 叶名沔《桥西杂记・湖广省分闈乡试》

(2) 古代立国君、皇后、太子，均可称为建立。

(君)不忘先君之好，辱收其逋迁裔胄而

建立之，以主其祭祀……其谁不傲惧于君之威，而欣喜于君之德？《国语・晋语三》



及邓皇后败，而田贵人见幸，桓帝有建立之议。奉以田氏微贱，不宜超登后位……上书谏……帝纳其言，竟立窦皇后

《后汉书·应奉传》

今陛下以神宗皇帝大渐之际，宰臣蔡确等启迪圣心，建立储贰，传授大宝。

宋 司马光《辞转官札子》

(3) 制定；订立。

人善其所私学，以非上之所建立。 《史记·秦始皇本纪》

时有司不能广宣主恩，建立法度，徒学细微小事以塞诏书而已。

汉 荀悦《汉纪·成帝纪》

在这些区别上建立我们的政策。 毛泽东《论政策》

(4) 兴建，建设。

前者诏建宫殿，那礼、工二部官员奏请卜基，恰好在宝志长老塚边。太祖着令迁去别所埋葬，以便建立。

《英烈传》第六十回

我们正在消灭剥削和贫困，正在建立繁荣幸福的社会主义社会。

谢觉哉《团结谦虚进步》

(5) 犹建树。

及秦既死，用之为台谏，则不过能论贪污而已，于国家大计亦无所建立。

《朱子语类》卷四四

愿后起而任之，必能有所建立，以利国家。 《金史·许古传》

孺子倘力学，将来建立，何啻老夫！ 清 侯方域《曹秀才墓志铭》

(6) 成立。君可速潜逃，建立门户，妾自留狱，代君塞咎。 《后汉书·列女传·盛道妻》

(7) 开始产生；开始形成。如：建立信心；建立外交关系。

(36) 《汉语大词典》の“说话”に関する説明は次のとおりである。

(1) 用语言表达意思；发表见解。

唐 白居易《老戒》诗：“矍铄夸身健，周遮说话长。”

《三国志平话》卷上：“关公见飞非草次之人，说话言谈，便气和酒尽。”

丁玲《梦珂》三：“于是这羞惭竟把她弄得麻木了起来，她不知应如何说话和动作了。”

《〈王西彦小说选〉自序》：“一个作家总是用作品向读者说话，他无须在作品以外再多事絮叨。”

(2) 闲谈。

元 周德清《红绣鞋·赏雪偶成》曲：“共妾围炉说话，呼童扫雪烹茶。”

《红楼梦》第十九回：“咱们斯斯文文的躺着说话儿。”

(3) 说理；交涉。

元 吴弘道《上小楼·闺庭恨别》曲：“若到家，下的马，如何干罢，和这喫敲才慢慢的说话。”

《二刻拍案惊奇》卷十九：“你好好去看养。若瘦了牛畜，要与你说话的。”

(4) 指责；非议。



《醒世恒言·杜子春三入长安》：“我受了亲眷们许多讪笑，怎么那老者最哀怜我的，也发起说话来。”

(5)泛指议论，评说。

鲁迅《花边文学·看书琐记（三）》：“厨司做出一味食品来，食客就要说话，或是好，或是歹。”

(6)话；言辞。

宋 辛弃疾《丑奴儿近·博山道中效李易安体》词：“旧盟都在，新来莫是，别有说话？”

元 王晔《桃花女》第二折：“我有说话，要和你讲哩。”

明 王守仁《传习录》卷上：“此是古人不得已，补偏救弊的说话。”

胡适《跋朱我农来信》：“此次读了老兄的长函，我觉得增长了许多见识，没有什么附加的意见，也没有什么可以驳回的说话。”

(7)即近代的说书。唐 宋人称“说话”。

唐郭湜《高力士传》：“每日上皇与高公亲看扫除庭院，芟荆草木，或讲经论议，转变说话。”

鲁迅《中国小说史略》第十二篇：“说话者，谓口说古今惊听之事，盖 唐 时亦已有之。”

(8)话本。《初刻拍案惊奇》卷十二：“此本说话，出在祝枝山《西樵野记》中。”

(9)(对人、对事)认为不对因而不满意的想法、看法。

明冯梦龙《挂枝儿·自悔》：“这几日，与冤家有些儿说话，他不来便不来，我也不伏气去叫他。”

《二刻拍案惊奇》卷十一：“起初满生在家，大郎无日不与他同饮同坐，毫无说话。”

(10)说话的一会儿时间。比喻时间相当短。

郭小川《昆仑行》诗：“祖国一旦有事，我们说话就到！”

邓友梅《那五》十二：“你看这局势，说话不就改天换地了？”

(11)指不正常的男女关系。

《二刻拍案惊奇》卷十一：“有一等轻薄的道：‘那女儿闻得先与他有须说话了，后来配他的。’”

(12)事情。赵树理《李有才板话》八：“如今就想不出这么个可出头的人来。有几个能写能算、见过世面、干得了说话的，又差不多跟人家近，跟咱远。”

(37)《汉语大词典》の“喘息”に関する説明は次のとおりである。

(1)呼吸。

视喘息，听音声，而知所苦。《素问·阴阳应象大论》

若鱼遊釜中，喘息须臾之间耳。《后汉书·张纲传》

惟贯所卧室户正开，犹奄奄然喘息。宋 吴曾《能改斋漫录·神仙鬼怪》

(2)急促的呼吸；急促呼吸。

今夫繇者，揭镢畲，负笼土，盐汗交流，喘息薄喉。《淮南子·精神训》

挨到晚上，痰响了一阵，喘息一回，呜呼哀哉。《儒林外史》第二十回



(3) 指紧张活动中的短暂休息。

家人喘息定了，方唤几个生力庄客，打着火把，复身去抓寻。

《醒世恒言·灌园叟晚逢仙女》

他轻轻坐在椅子上，喘息了一阵又说：‘……请把灯捻小点。’

杨沫《青春之歌》第二部第二章

(38) 《汉语大词典》の“投身”に関する説明は次のとおりである。

(1) 犹舍身。

（要离）言讫遂投身于江。 汉 赵晔《吴越春秋·阖闾内传》

专诸、荆卿之感激，侯生、豫子之投身，情为恩使，命缘义轻。 《后汉书·朱晖传论》

己不能投身饿虎，割肉饲鹰，云何反更噉他身分？ 南朝 梁武帝《唱断肉经竟制》

投身烈火，防止爆炸。 陈毅《向秀丽歌》

(2) 置身，加入。

僚吏惊呼呵叱，狂辞不变如初，投身属吏，慷慨吐丹诚。 宋 曾布《水调歌头》词

复不能投身游侠之林，抗志虚无之党。 柳亚子《二十世纪大舞台发刊词》

被最初的晨光照射，投身在光明的行列，直到谁也看不见你。 艾青《启明星》诗

(39) 《汉语大词典》の“料理”に関する説明は次のとおりである。

(1) 照顾；照料。

冲尝谓徽之曰：‘卿在府日久，比当相料理。’ 《晋书·王徽之传》

君妇若我妇也，宁得不料理之。 一引 唐 戴孚《广异记》

苗生初夏时，料理晨夕忙。 元 陈高《种橐花》诗

而且我这样大年纪的人，难道还不能料理自己么？ 朱自清《背影》

(2) 安排；处理。

处遇料理，反胜劳人。 《宋书·吴喜传》

（生光）乃为料理纳贿，某中官若干，某衙门若干，庶万一可以弥缝。

明 冯梦龙《智囊补·杂智·噉生光》

（邑令）料理家事，井井有法。

清 青城子《志异续编·某邑令》

黄茅亭子小楼台，料理溪山煞费才。

郁达夫《游愚园》诗

(3) 整治；整理。

榆生，共草俱长，未须料理。

北魏 贾思勰《齐民要术·种榆白杨》

既料理淮南，仍诏建康守臣治城壁，修宫阙，立官府，创营房，使粗成规摹以待翠华之幸。

宋 李纲《奉诏条具边防利害奏状》

种种不祥之语，皆是亡国之征，我也没口答应他，且去料理谏章便了。

清 李渔《玉搔头·极谏》

(4) 提拔；提携。

（母）语康伯曰：‘汝若为选官，当好料理此人。’

南朝 宋 刘义庆《世说新语·德行》



愿明天子去常格料理之。 宋 周焯《清波别志》卷上

(5) 指点；教育。其人朝宿郑州，因谓张曰：‘君受我料理，可倍行数百。’

唐 段成式《酉阳杂俎·怪术》

他并不是溺爱，只是没有耐心去料理他们，他们便不能成材了。 朱自清《背影·儿女》

(6) 修理。

内库有琵琶二面，号大忽雷，小忽雷，因为题头脱损，送在崇仁坊南赵家料理。

唐 段安节《琵琶录》

（刘卞功）曰：‘人破尚可修，矧甕耶。’语未绝，钉校者至，相与料理，顷之如新。

宋 赵与时《宾退录》卷一

(7) 排遣；消遣。

为逢桃树相料理，不觉中丞喝道来。

唐 韩愈《饮城南道边古墓上逢中丞过赠礼部卫员外少室张道士》诗

穷愁正要诗料理，莫问春来酒价高。

金 段克己《鹧鸪天·和答寻正道》词

休叹散迹江湖，天教料理，世外闲风月。

清 江昱《湘月·嘉定赵饮谷自北归爱倚其声赠之》词

(8) 料想。

欲折以寄远，无此长臂攘。料理竹下人，应少寒枝香。

明 徐渭《筠石篇》

(9) 日语汉字词。烹调。亦借指肴馔。

她听说我早饭、午饭都没有吃，便赶快又叫了些日本料理来。

郭沫若《脱离蒋介石以后》十一

(40) 《汉语大词典》の“女流”に関する説明は次のとおりである。

妇女；妇道人家。

今杭城有女流熊保保及后辈女童皆效此，说唱亦精。

宋 吴自牧《梦粱录·妓乐》

知县看他容貌不差，问道：‘既是女流，为甚么不守闺范？’《儒林外史》第四一回

家里只有我一个女流，你表弟年纪又小。 巴金《家》三二

(41) 《汉语大词典》の“饯别”に関する説明は次のとおりである。

设酒送别。

英豪若云集，饯别塞城闾。

唐 韦应物《送宣州周录事》诗

他有了三十万银子，一般财主体面，况又沾亲，岂可不去饯别。

《醒世恒言·杜子春三入长安》

我怀疑着，一面向母亲说着今天饯别的光景。

冰心《往事二》

(42) 日本語の「火種」と中国語の“火种”の意味に違いがあるので、この三つの文は日本語

に訳しにくい。しかし「火種」以外にふさわしい言葉もないので、敢えて「火種」を使うことにした。

节日的礼花点燃起我心中的火种／祝日の花火が私の希望の灯に火を付けてくれた。

奥运会圣火火种／オリンピック聖火の火種



(43)《汉语大词典》の“保守”に関する説明は次のとおりである。

(1) 保卫守护。

燕将惧诛，遂保守聊城，不敢归。 《战国策・齐策六》

叔陵聚兵仅得千人，欲据城保守。 《南史・陈始兴王叔陵传》

孔明曰：‘非云长不可。’即时便教云长前去襄阳保守。 《三国演义》第五三回

(2) 保护；保藏。

凝神而神爽，养气而气清；保守胎根，含藏命带。 唐 裴铏《传奇・陶尹二君》

今宋朝第六帝也，更后九年，当有疾。汝可持吾药献天子。此药人臣不可服，服之有大责，宜善保守。 宋 沈括《梦溪笔谈・神奇》

(3) 保住，保持使不失去。

盖夫天下至大器也，非大明法度，不足以维持；非众建贤才，不足以保守。

宋 王安石《上时政疏》

汝若真为那个驱壳的己，必须用这箇真己，便须常常保守着这箇真己的自体。

明 王守仁《传习录》卷一

他很谨慎的保守他的出身的秘密。 老舍《四世同堂》

(4) 特指维持旧状态，不求改变或改进。

北派喜保守，南派喜破坏。 梁启超《中国学术思想变迁之大势》第三章第二节

人，一上了年纪，就爱固执己见，偏重保守了！

梁斌《红旗谱》

(44)『岩波国語辞典』の解釈を引用した。

(45)《太平廣記》卷第六十八 p138

徐視其衣並無縫。翰問之。謂翰曰。天衣本非針綫爲也。

(46)「北大」は「北海道大学」を意味するが、中国語では「北京大学」の略称である。「東大」は日本語では「東京大学」を意味するが中国語では南京にある「東南大学」か瀋陽にある「東北大学」の略称である。

(47)日本語では略語の意味以外に他の意味もあるが、ここでは問題にしないことにする。

(48)日本語だけの略語ともとの言葉を次に並べておく。

一浪 一年浪人	衛星 衛星放送
英文 英文学 英文学科	往復 往復切符
快速 快速電車	回轉 回轉競技
外来 外来患者	管制 航空交通管制
喫茶 喫茶店	金口 金口タバコ
警察 警察署	刑事 刑事係巡査
携帯 携帯電話	現物 現物取引
蝙蝠 こうもりがさ	国体 国民体育大会
小包 小包郵便	重文 重要文化財



三脚 三脚いす	三種 第三種郵便物
浄土 浄土宗	常務 常務取締役 常務理事
水彩 水彩画	清朝 清朝活字
先勝 先勝日	争議 労働争議
総体 総合体育大会	宋朝 宋朝体
総評 日本労働組合総評議会	大戦 世界大戦
中華 中華料理 中華そば	跳躍 跳躍競技
定期 定期乗車券 定期預金	抵抗 電気抵抗
丁字 丁字形	電工 電気工業
投擲 投擲競技	特急 特別急行 (列車)
熨斗 のしあわび	破竹 破竹の勢い
一重 ひとえもの	富強 富国強兵
文庫 文庫本	平安 平安京 平安時代
保険 健康保険 「生命保険」や「地震保険」も可能。	無線 無線電信 無線電話
明朝 明朝体	明細 明細書
夜行 夜行列車	予備 予備役
連合 全日本民間労働組合連合会 日本労働組合総連合会	短距離 短距離競走
中距離 中距離競走	長距離 長距離競走
扁桃腺 扁桃腺炎	

(49) 講談社『中日辞典』の説明は次のとおりである。

高揚 gāoyáng [動]

(1) 高揚する。士気～／士気が高揚する。 歌声～／歌声が響きわたる。

(2) 高く評価する。称賛する。

昂揚 ángyáng [形] (気持ち) 高揚するさま。(意気が) 揚がるさま。

情緒～／気分が高揚する。

(50) “外面” “地下” “妻子” の読み方と意味は次のとおりである。

外面 wàimiàn [名] 表面。見た目。見かけ。外見。

wàimian [名] 外。外側。表。

講談社『中日辞典』

外面 がいめん 外部に向いた面。そと側。うわべ。うわつら。「一を飾る」

そとづら ①外側の面。がいめん。

②他人との応対・交際の時に見せる顔つきや態度。「一のよい人」



「wàimiàn」と読む場合、日本語の「外面（がいめん）」と同じ意味を表す。日本語の「外面（そとづら）」は「他人との応対・交際の時に見せる顔つきや態度。」という別の意味を持っているので、注意が必要である。

地下：dìxià [名] 地下。[形] 非合法の。地下の。

dìxià [名] 地面。床（ゆか）。

講談社『中日辞典』

地下 ちか

①大地の下。「一街」「一に眠る」

②社会運動・政治運動などにおける非合法面。「一活動」「一出版物」

妻子：qīzǐ [名] 妻と子供。妻子。

qīzǐ [名] 妻。女房。

講談社『中日辞典』

妻子 さいし

①妻と子。つまこ。「一を養う」

②妻。源氏物語帯木「なつかしき—とうち頼まむに…恥かしくなん見え侍りし」

(51)『日本国語大辞典』は「妻子」について、「妻と子。妻児。つまこ。また、単に妻をいう。」と説明している。

(52)《汉语大词典》は“用事”について次のように説明している。

(1) 谓有所事。指行祭祀之事。

过大山川，则用事焉。《周礼·春官·大祝》郑玄注：“用事，亦用祭事告行也。”  
(蔡昭公)归，乃用事乎汉。《谷梁传·定公四年》范宁注：“用事者，祷汉水神。”

(2) 谓有所事。指执法行刑。

晋文公将欲明刑，以亲百姓，于是合诸侯大夫于侍千宫，颠颉后至，吏请其罪，君曰：‘用事焉。’吏遂断颠颉之脊以徇。《商君书·赏刑》

(3) 谓有所事。指起兵；使用武力。

且秦复得志于天下，则齟齬首用事者坟墓矣。《汉书·田儼传》颜师古注：“首用事，谓起兵而立号者也。”

天宝中，逆胡用事，銓與西幸，贵妃死于马嵬驿 五代 罗隐《谗书·书马嵬驿》  
既破虜而平晋，遂用事于燕，不克而还，自此虜复为中国之患。

宋 曾巩《本朝政要策·契丹》

(4) 执政；当权。

今秦，太后、穰侯用事，高陵、泾阳佐之。《战国策·秦策三》

灵、献之世，阉宦用事，羣奸秉权。 晋 葛洪《抱朴子·审举》

方介甫用事，呼吸成祸福。凡有施置，举天下莫能夺。

宋 司马光《刘道原<十国纪事>序》

(5) 指执政者。子胥专愎彊谏，沮毁用事，徒幸吴之败以自胜其计谋耳。

《史记·伍子胥列传》

(6) 当令。



无射者，阴气盛用事，阳气无馀也。 《史记・律书》

方春少阳用事，未可大热。 《汉书・丙吉传》

桃李用事辰，鲜明夺云绮。 宋 秦观《春日杂兴》诗之九

(7) 指文学作品中引用典故。沈侯文章用事，不使人觉，若胸臆语也。

北齐 颜之推《颜氏家训・文章》

天下书虽不可不读，然慎不可有意于用事。

宋 周密《齐东野语・诗用事》

宋人用事，虽种种魔说，然中有绝工者，如梅昌言：‘亚夫金鼓从天落，韩信旌旗背水陈’，冠裳伟丽，字字天然，此用事第一法门也。

明 胡应麟《诗薮・宋》

(8) 办事。吏部奏请急选郎中，奉旨照例用事。 《红楼梦》第一〇一回

(53) 「急用」や「公用」などの同形語の意味の違いは次のとおりである。

急用 jíyòng 急に必要になる。急な物入りになる。 講談社『中日辞典』

急用 きゅうよう 急ぎの用事。「一ができる」

公用 gōngyòng 共同で使用する。共用する。 講談社『中日辞典』

公用 こうよう

①国家や幕府・役所など公共の用務。また、勤務先などの、個人のものでない用事。

浄瑠璃、丹波与作待夜の小室節「一勤める馬方が」。「一で出張する」

②国家や公共団体などが使用すること。「一の施設」

私用 sīyòng もともとは「自分で使う」意味であったが、今は「横領する」「無断で使う」意味になった。 (筆者)

私用 しょう ①個人的な用事。「一で出掛ける」 ②私事に使用すること。「一禁止」

商用 shāngyòng 商務に用いる。 講談社『中日辞典』

商用 しょうよう 商売上の用事。商売上に使うこと。「一で出掛ける」

所用 suǒyòng 複合語ではない。「所用的时间」「所用的方法」のように、後の名詞を修飾し、「用いた」「用いられた」の意味を表す。 (筆者)

所用 しょうよう

①用いること。用いるもの。②用向き。用事。「一があって欠席する」③入用。「一品」

俗用 súyòng 日本語の②と同じ意味である。 (筆者)

俗用 ぞくよう

①俗世間のわずらわしい雑事。俗事。

②本来の用法ではないが世間一般に慣用として許容されていること。

多用 duōyòng 複合語ではない。多く用いる。 (筆者)

多用 たよう

①用事の多いこと。いそがしいこと。多事。多端。「御一中恐縮ですが」

②多く用いること。「カタカナ語を一した文章」

他用 tāiyòng 本来の目的以外のことに使用されること。 (筆者)

他用 たよう



①ほかの用事。「一で出かける」

②ほかのことに使用すること。他人に使用させること。「一に供する」

无用 wúyòng [形] 役に立たない。

講談社『中日辞典』

無用 むよう

①役に立たないこと。必要でないこと。「一な食器」「心配一」

②してはならないこと。「天地一」「口外一」

③用事がないこと。「一の者入るべからず」

要用 yàoyòng 複合語ではない。用いようとする。使わなければならない。(筆者)

要用 ようよう ①必要なこと。肝要。須要。②大切な用事。「右一のみ」

(54)「火気」「上火」「消火」「出火」「発火」の中日の違いは次のとおりである。

火気 huǒqì

(1)漢方理論では、人体の陰陽のバランスが崩れ、「陽」が「陰」より強い状態で血脈に伴う気(の流れ)。「のぼせ」とは違う。

(2)怒気。怒り。(筆者)

火気 かき ①火があること。火のけ。「一厳禁」 ②火の勢い。「一にあおられる」

上火 shànghuǒ

(1)人体の陰陽のバランスが崩れ、「陽」が「陰」より強い状態になる。

(2)怒る。かっとなる。(筆者)

上火 うわび 料理あるいは菓子をオーブンなどで焼くとき、上方から当てる熱。

消火 xiāohuǒ “消火”は辞書に収録されていないが、日常的に使われている。「人体の陰陽のバランスがとれるようにする」。ただ、“消火栓”は「消火栓」と同じ意味である。(筆者)

消火 しょうか 火を消すこと。特に、火災を消すこと。「一にあたる」

出火 chūhuǒ 「火起こし」「性欲を発散する」意味があったが、今「怒りだす」意味が残っている。(筆者)

出火 しゅっか 火事を出すこと。火災をおこすこと。「2階から一する」「一原因」

发火 fāhuǒ

(1)怒りだす。かっとなる。かんしゃくを起こす。

(2)(弾丸が点火されて)爆発する。発射する。

(3)〈方〉火事になる

講談社『中日辞典』

発火 はっか

①火を発すること。燃え出すこと。

②銃砲に実弾を用いず、火薬だけをこめて発射すること。「一演習」

(55)着火 zháohuǒ 火事になる。

講談社『中日辞典』

着火 ちゃっか 火をつけること。火がつくこと。点火。

(56)「案件」などの中日同形語の意味を次に並べておく。



案件 ànjàn 事件。訴訟事件。

講談社『中日辞典』

案件 あんけん 処理されるべき事柄。議題とされる事案。「重要—を処理する」

一案 yí'àn (話題に取り上げられている) この事件。 (筆者)

一案 いちあん

いくつかある中で考慮の対象とする価値のある一つの案。一つの考え方。

「確かにそれも一だ」

勘案 kān'àn 辞書に収録されていない。事件現場に行って調べたり、審理したりする。

(筆者)

勘案 かんあん あれこれを考え合わせること。「諸事情を一して立案する」

原案 yuán'àn まだ裁判所の法律上の手続きを経ていない最初の訴状。 (筆者)

原案 げんあん もとの案。多く、修正案に対していう。「一通り可決する」

公案 gōng'àn

昔「役所で官吏が裁判事件を審理するときに使われた大机」、「公文書」、日本語の②の意味もあったが、今は「難しい裁判事件」の使い方がまだ残っている。(筆者)

公案 こうあん

①公文書の下書。官府の調書。訴訟の目安めやす。

②禅宗で、参禅者に対して言葉で与える課題。先人の言行などを内容とする難問を与え、それを思考させることを通じて、とらわれの心から脱却させ悟りの世界に入らせることを目的とする。

③(転じて)工夫。思案。風姿花伝「一して思ふべし」

新案 xīn'àn 新しく起こった事件。 (筆者)

新案 しんあん あたらしい思いつき・考案。また、それによって作られたもの。

断案 duàn'àn

(1) [動] 事件を審理して裁決する。

(2) [名] 〈哲〉 (三段論法の) 結論。

講談社『中日辞典』

断案 だんあん

①案を断定すること。また断定した案。「一を下す」②[論] 結論。

鉄案 tiě'àn 確固たる証拠があり、覆すことができないある事件に対する結論や判決。

(筆者)

鉄案 てつあん 動かすことのできない断案。しっかりとした意見。

名案 míng'àn 有名な事件。

(筆者)

名案 めいあん よい思いつき。「それは一だ」「一が浮かぶ」

(57) (58) 『明鏡国語辞典』の解釈を引用した。

(59) “公認”と「公認」の意味用法は微妙に違っている。

(1) 中日の辞書の説明

中国語での意味：



《现代汉语词典》：“大家一致认为。”

《汉语大词典》：“公众所承认，大家所承认。”

日本語での意味：

『大辞泉』：「おおやけに認めること。国家・団体・政党などが正式に認めること。」

『大辞林』：「おおやけに認めること。国・官庁や政党などが正式に認めること。」

『日本国語大辞典』の説明：「おおやけの認定。国家、社会、政党などが正式に認めること。また、一般に、親、世間などが認めること。」

『広辞苑』：国家・社会・政党などが正式に認めること。「一候補」

『明鏡国語辞典』：名・他サ変。国・団体・政党などが正式に認めること。また、多くの人が公然と認めること。「一記録」「一の仲」

『岩波国語辞典』：名・ス他。おおやけにみとめること。国家・政党などが正式に認めること。「文部省一洋裁学校」「共産党一候補」

## (2) 中国語と日本語の語構成の違い

中国語では“公认”は「公が認める」という主述構成（主谓结构）で、「公」が複合語の主語になり、「公衆」・「大衆」・「みんな」を意味する。それに対して、日本語の「公認」の「公」は「政府。官庁。また、国家。」と「個人の立場を離れて全体にかかわること。社会。公共。世間。」の二つに解釈できる。それによって、語構成も二つに分かれる。「おおやけに認める（向社会表示認可）」の場合、語構成は「対象＋動詞」（动补结构）であり、「国家、社会、政党などが正式に認めること。」の場合、主述構成（主谓结构）になる。

## (3) 用例

中国語

- ①这是公认的事实／これはみんなが認めている事実です。
- ②他是群众公认的好医生／彼は大衆がこぞって認める立派な医者です。
- ③其史料价值为人们公认／その史料価値はみんなに認められている。
- ④他的敬业精神是大家公认的／彼のまじめな仕事ぶりはみんなに認められている。

日本語

日本語に対応する訳語は主語によって違う。大きく次の4種類に分けられる。

(ア)「国、政府、官庁」などの場合は“认定”、“批准”、“注册”などに訳せる。

- ①公認会計士／注册会计师。
- ②公認監理技師／注册监理工程师。
- ③公認ネットカフェ／注册网吧。
- ④アメリカで医薬品として公認されている発毛剤／在美国被批准为药品的生发剂。

(イ)「政党」の場合は“拥立”などの訳語が使える。

- ⑤党が公認した候補者／政党拥立的候选人。

(ウ) 後の名詞を修飾して複合語を構成する場合、“正规”“正式”などに訳せる。



⑥公認試合／正式比賽

⑦公認記録／（經權威機構認定的）正式記錄。

⑧公認ボール／（經某權威組織認可的）正規比賽用球。

（エ）その他は“認可”などの訳語が使える。

⑨Ｊリーグ公認のファンサイト／日本足球聯盟認可的球迷網站。

⑩本學の公認サークルは、50 団体あります／本大學認可的俱樂部有 50 個。

⑪全國ラジオ体操連盟公認指導者／全國廣播操聯盟認可的指導人員。

⑫家族公認の恋人同士／家里人認可的戀愛關係。

⑬兩家の兩親公認のお付き合い中／雙方父母同意的交往。

⑭2 人はすでに兩親公認の仲だ／兩個人的交往已經得到了父母的許可。

⑮兩親公認のボーイフレンド／得到父母認可的男朋友。

⑯兩親公認の合鍵生活／經父母認可的同居生活。

⑰お互いの兩親公認で結婚を前提に同棲させてもらっていた／得到雙方父母認可，以結婚為前提而同居。

#### （4）注意

中國語の“公認”は「みんなが認める」意味で、「みんな」が主語である。日本語の「公認」は「みんなに認める」か「国・官庁や政党などが正式に認める」意味である。日本語の「公認」を中國語に訳すとき、決して“公認”を使ってはならない。主語によって、“認可”、“認定”、“批准”などから中國語の言語習慣に合っている訳語を選ぶ必要がある。

（60）「仮装」などの中日同形語の意味を次に並べておく。

假裝 jiǎzhuāng [動] …を装う。…のふりをする。

講談社『中日辞典』

仮装 かそう

①仮の扮装。②相手をあざむくため、いつわりよそおうこと。「一空母」

男裝 nánzhuāng [名] （1）紳士服。（2）男裝。男のなり。 講談社『中日辞典』

（2）の意味は“女扮男裝”の場合に限る。“男裝”だけでは（2）の意味を表せない  
ので、厳密に言えば、（2）の意味を取るべきである。

男裝 だんそう 女性が男性の姿に装うこと。「一の麗人」

日本語では「男裝」はサ変自動詞として使えるので、要注意である。

女裝 nǚzhuāng [名] （1）婦人服（2）女裝。

講談社『中日辞典』

（2）の意味は“男扮女裝”の場合に限る。

女裝 じょそう 男が女のよそおいをすること。

服裝 fúzhuāng [名] 衣服。服裝。身なり。

講談社『中日辞典』

中國語では、多くの場合、具体的な「衣服」を指す。

服裝 ふくそう 衣服および装身具の総称。みなり。衣服のよそおい。服飾。

盛裝 shèngzhuāng [名] 盛裝。晴れ着。華やかな装い。

講談社『中日辞典』



盛装 せいそう はなやかに着飾ること。また、そのよそおい。「—して出かける」  
中国語の“盛装”は名詞だけで、日本語の「盛装」は名詞とサ変自動詞である。また、  
“盛装”は人の華やかな姿に限らず、町や都市の華やかに飾られた姿を形容できる。「盛  
装」は人にしか使われない。

正装 zhèngzhuāng 名詞だけで、「正式の衣服」を意味する。

正装 せいそう 儀式などに着る正式の服装。また、それを着ること。

日本語では名詞だけでなく、「正装して列席する」のようにサ変自動詞として使えるの  
で、注意が必要である。

武装 wǔzhuāng

〔動〕武装する。武装させる。(比喩的にも用いる)

〔名〕(1) 武装。軍事装備。(2) 武装した軍隊

講談社『中日辞典』

武装 ぶそう 戦闘のための装備をすること。また、その装備。

“武装”は「武装」より意味用法が多い。

①他動詞としての使い方が日本語にない。

②比喩的な使い方が日本語より多用される。

③「武装した軍隊」の意味がある。

(61) “贾母道：‘什么福，不过是个老废物罢咧！’”

《红楼梦》第三九回

(62) これらの同形語の日本語での読み方は次のとおりである。

熱湯	あつゆ	ねっとう	新手	あらて	しんて	菖蒲	あやめ	しょうぶ
一度	いちど	ひとたび	市場	いちば	しじょう	一方	いっぽう	ひとかた
黄金	おうごん	こがね	大勢	おおぜい	たいせい	大手	おおて	おおで
音色	おんしょく	ねいろ	風車	かざぐるま	ふうしゃ	寒気	かんき	さむけ
顔色	かおいろ	がんしょく	気質	かたぎ	きしつ	気色	きしょく	けしき
国境	くにざかい	こっきょう	好事	こうじ	こうず	工場	こうじょう	こうば
降伏	こうふく	ごうぶく	戸口	ここう	とぐち	小屋	こや	しょうおく
声色	こわいろ	せいしょく	声音	こわね	せいおん	作物	さくぶつ	さくもつ
十分	じゅうぶん	じゅっぶん	祝詞	しゅくし	のりと	白馬	しろうま	はくば
人事	じんじ	ひとごと	心中	しんじゅう	しんちゅう	人体	じんたい	にんてい
生魚	せいぎょ	なまごかな	成敗	せいはい	せいばい	生物	せいぶつ	なまもの
旋風	せんぷう	つむじかぜ	宝物	たからもの	ほうもつ	中日	ちゅうにち	なかび
帳面	ちようづら	ちようめん	梅雨	つゆ	ばいう	天火	てんか	てんぴ
特種	とくしゅ	とくだね	床	とこ	ゆか	床板	とこいた	ゆかいた
熱気	ねっき	ねつけ	分別	ふんべつ	ぶんべつ	牧場	ぼくじょう	まきば
末期	まっき	まつご	目下	もっか	めした			
大家	おおや	たいか	たいけ			男女	おとこおんな	だんじょ
小人	こびと	しょうじん	しょうにん	下手	したて	しもて	へた	



真面目 しんめんぼく しんめんもく まじめ  
一時 いちじ いちどき いっとき ひととき  
上下 うえした かみしも しょうか じょうげ  
人気 じんき にんき ひとけ ひとげ

(63) これらの同形語の日本語での読み方は次のとおりである。

海辺 うみべ かいへん 塩水 えんすい しおみず 下半期 かはんき しもはんき  
黒土 くろつち こくど 頭蓋骨 ずがいこつ とうがいこつ  
乳房 ちぶさ にゅうぼう 馬糞 ばふん まぐそ

(64) これらの同形語の中国語での読み方は次のとおりである。

大方 dàfāng [名] [書] 専門家。識者。

講談社『中日辞典』

dàfāng [形]

- (1) 物惜しみしない。気前がよい。
- (2) ゆったりと大らかである。おうようである。
- (3) (デザインや色合いが) 洗練されている。上品だ。しゃれている。

講談社『中日辞典』

大方 おおかた

名

- ①物事のほぼ全体。大体。大部分。あらまし。「参加者の一は女性だ」
- ②世間一般。「一の評判」「一の御教示を請う」

副

- ①(数量的に)ほとんど。だいたい。「一出来上がった」
- ②(下に打消の語を伴って)いっこうに。全然。
- ③おそらく。多分。「一そんなことだろう」

大人 dàrén [名] [書] 目上の人に対する尊称。

講談社『中日辞典』

大人 dàren [名]

- 1 おとな。2 [旧] 地位の高い官吏などに対する尊称。大人(たいじん)。

講談社『中日辞典』

大人 おとな

- ①十分に成長した人。(元服または裳着もぎが済み)一人前になった人。成人。
- ②考え方・態度が老成しているさま。分別のあるさま。
- ③子供がだだをこねたりせず、おとなしいさま。「いい子だから一になさい」

大人 だいにん

おとな。成人。年齢によって料金を変える場合などにいう。

大意 dàyi [名] 大意。大筋。

講談社『中日辞典』

dàyi [形] 油断する。注意が足りない。

講談社『中日辞典』



大意 たいい

①大体の意義。あらましの意味。おおよそのわけ。「一を理解する」

②大きな意思。大志。

地道 dìdào [名] 地下道。(多く軍事上のものをさす)。

講談社『中日辞典』

didao [形]

(1) 本場の。(2) 純粹の。正真正銘の。(3) 手堅い。しっかりしている。

講談社『中日辞典』

地道 じみち

①普通で速度で歩むこと。馬を普通で速度で進ませること。

②手堅く着実な態度。まじめなこと。じみ。「一な努力」「一に稼ぐ」

地道 ちどう

①大地にそなわる道理。②地下に造った道。地下道。トンネル。

地方 dìfāng (1) 地方。(2) 地元。その地。

講談社『中日辞典』

地方 dìfang (1) 所。場所。(2) 箇所。点。

講談社『中日辞典』

地方 ちほう

①国内の一部分の土地。「関東一」 ②首府以外の土地。いなか。「一へ転勤する」

東西 dōngxī [名] (1) 東西。東と西。(2) 東西間の距離。

講談社『中日辞典』

dōngxi [名] (1) (具体的な) 物。品物。(抽象的な) 知識。作品。

(2) 人をののしったり軽蔑したり子どもや動物をかわいがったりする言葉。

講談社『中日辞典』

東西 とうざい

①東と西。「一を見失う」(方角がわからなくなる)。

②東と西にのびる方向。「一に長い」

③東の地方と西の地方。東洋と西洋。「一文化」

『岩波国語辞典』

多少 duōshǎo

[名] 数。多少。多寡。

[副] (1) 多かれ少なかれ。いくらか。(2) 多少。少し。若干。

duōshao [代]

(1) いくつ。どのくらい。

(2) (不定の数量を表す) どれだけか。いくらか。いくらでも。

多少 たしょう

㊦ [名]

①多いことと少ないこと。また、多いか少ないかの程度。「一にかかわらず」

②ちょっとした分量。少しであること。「一の誤りは仕方ない」

㊦ [副]

いくらか。幾分か。すこしは。「一心得がある」



干事 gànshì 連語である。仕事をする。

gànshi [名] 幹事。

講談社『中日辞典』

講談社『中日辞典』

幹事 かんじ

①主となって事務を担当すること。また、その人。「一長」

②世話人。まとめ役。「同窓会の一」

告诉 gàosù 〈法〉[動] 告訴する。

講談社『中日辞典』

gàosu [動] 告げる。知らせる。伝える。教える。

講談社『中日辞典』

告诉 こくそ

①告げ訴えること。

②〔法〕犯罪の被害者、その法定代理人などが、捜査機関に対して、口頭または書面で、犯罪事実を申告して犯人の処罰を求めること。→告発。

好事 hǎoshì

(1) よいこと。世の中に役立つこと。慈善事業

(2) めでたい事。慶事。

(3) 特に男女の密会や婚約・結婚を指す。

(4) 道教で道士が福を祈り厄払いをすること。仏教で死者の冥福を祈ったり死者の霊を済度したりする法事。

(5) 反語として「とんでもないこと」を指す。

(筆者)

好事 hàoshì

〔形〕もの好きである。余計なお世っかいをしたがる。要らぬ世話を焼きたがる。

講談社『中日辞典』

好事 こうじ よいこと。めでたいこと。

好事 こうず かわった物事を好むこと。風流を好むこと。ものずき。

教授 jiàoshòu [名] 教授。

講談社『中日辞典』

jiāoshòu [動] (学術・技芸などを) 教授する。教える。

講談社『中日辞典』

教授 きょうじゅ

①学術・技芸などを教えること。養護・訓練とならぶ教育上の基本的な活動・作用。

②大学・高等専門学校などの高等教育機関で、専門の学術・技芸を研究し教える人。

その官名または職名。

精神 jīngshén [名] (1) 精神。心。(2) 主旨。真意。

講談社『中日辞典』

jīngshen (1) 〔形〕はつらつとしている。生き生きしている。元気である。

(2) 〔名〕元気。活力。

講談社『中日辞典』

精神 せいしん

①(物質・肉体に対して)心。意識。たましい。

②知性的・理性的な、能動的・目的意識的な心の働き。根気。気力。「向学の一」

③物事の根本的な意義。理念。「建学の一」



④個人を超えた集団的な一般的傾向。時代精神・民族精神など。

⑤多くの観念論的形而上学では、世界の根本原理とされているもの。例えばヘーゲルの絶対精神の類。

傾倒 qīngdǎo [動] (1) 傾き倒れる。(2) 感服する。傾倒する。講談社『中日辞典』

qīngdào [動] (1) 中身をすべて出す。(2) 全部吐き出す。講談社『中日辞典』

傾倒 けいとう 名詞とサ変自動詞

①傾き倒れること。傾け倒すこと。

②さかさにして、中にある物を出しつくすこと。酒を酌みつくすこと。

③ある人や物事に心を傾けて熱中すること。「万葉集に一する」

人家 rénjiā [名] (1) 人家。(2) 家庭。家柄。(3) 嫁入り先。

rénjia [代] (1) 他人。よその人。人様。(2) あの人。あの人たち。

(3) (親しい間柄で、またふざけて用いる) 私。 講談社『中日辞典』

人家 じんか 人の住む家屋。「一も稀な山中」

下水 xiàshuǐ (1) 水に入る。(2) (布を縮ませるために) 水につける。水に浸す。

(3) [喩] 悪事をはたらく。 講談社『中日辞典』

xiàshui (食用家畜の) 臓物。内臓。はらわた。(地方によってはヒツジやブタ

の胃や腸のみを意味する) 講談社『中日辞典』

下水 げすい よごれた雨水または家庭や工場などから流れる使用済みのよごれた水。

また、その汚水を流す溝。

丈夫 zhàngfū [名] 立派な男子。成年男子。ますらお。 講談社『中日辞典』

zhàngfu [名] 夫。 講談社『中日辞典』

丈夫 じょうふ

①(周尺の1丈を男子の身長としたところからいう)一人前の男子。ますらお。

②[正字通] 才能が人よりすぐれた立派な男。大丈夫。

じょうぶ

①達者。健康。「一な体」「一に育つ」

②こわれにくいこと。しっかりしていること。「一な造り」



## 第三章 中日同形語と語構成

### 1. はじめに

中国では日本語学習者が増える一方である。しかし、中国語母語話者の日本語学習者にとって、中日同形語の意味用法は必ずしも習得しやすいとは限らない。中には、非常に把握しにくいものも少なくない。中日同形語に関する研究も盛んになされているが、語構成からの比較研究が不足しているのが現状である。少しでも中国の日本語学習者の能率的な習得に役立ち、日本語教育に携わっている先生方の参考になるように、本研究を始めた次第である。

### 2. 先行研究

#### 2.1 語構成の用語

一般に「語」は構成要素から大きく単純語と合成語に分けられる。「単純語」と「合成語」の下位分類の時、用語が分かれている。日本語の漢語特に二字漢語を語構成の角度から分析する時、多くの研究者<sup>(1)</sup>が「語基」<sup>(2)</sup>を使用しているが、「形態素」、「語素」、「語根」、「前部分」と「後部分」、「前字」と「後字」などを使う研究者<sup>(3)</sup>もいる。しかし、「語基」は「インド-ヨーロッパ語などで、語から屈折語尾や派生語をつくる接辞などを取り除いた残りの基本的な部分。意味・形式からみて、それ以上分析できない究極の要素となるもの。」<sup>(4)</sup>を意味するので、屈折語尾がない漢字語、音訳外来語（例えば、「基督」）、連綿詞<sup>(5)</sup>などの語構成分析に合わないと思われる。「形態素」、「語素」、「語根」は「語基」と同じく、西洋の言語学からの訳語で、一つ一つの漢字で表記し、屈折語尾のない漢字語に必ずしも当てはまるとは限らない。そして「前部分」と「後部分」はあいまいで、「前字」と「後字」は三字以上の漢字語を分析する時、限界がある。

#### 2.2 合成語の分類

語構成を具体的に分析し、下位分類する際、単純語は分解不可能なので、問題にならないが、合成語は各構成要素間の関係が複雑すぎて、分類が分かれている。次に中日両国での分類を見ていく。

##### 2.2.1 中国での分類

合成語の下位分類で、特に注目すべきなのは卢英顺(2007)である。卢英顺(2007)は合成語の構成方法を“复合法”、“派生法”、“类派生法”の三種類に分けた。普通の「複合語」と「派生語」以外に、“类派生词”を設けた。そして、“初、非、可、本、超、次、半、反、泛、伪”を“类前缀”に、“者、家、员、手、师、族、界、热、度”を“类后缀”に分類した。“类派生词”の“类”は日本語の「准」に当たる。“类派生词”の言い方は合理的な一面を持っていると思われるが、本稿では採用しないが、これからの研究課題にしたい。

複合語の下位分類について、葛本仪(2001)は「复合词」を大きく“联合式”、“偏正式”、



“补充式”、“动宾式”、“主谓式”、“重叠式”の六類に分類しているのに対して、卢英顺(2007)は“联合式”“附加式”“补充式”“陈述式”“支配式”の五類に分類している。両者を比較すれば、次のことが分かる。

(1) 葛本仪(2001)は卢英顺(2007)より「重叠式」が多い。

(2) 同じく“联合式”“补充式”を使っている。他の用語に違いがあっても、“偏正式”＝“附加式”、“动宾式”＝“支配式”、“主谓式”＝“陈述式”のように、基本的に対応している。

## 2.2.2 日本での分類

斎賀秀夫(1997)は山田孝雄と松下大三郎の分類法を参照したうえで、語結合の意味的關係を次の6種類に分類した。

(1) 並立関係 (2) 主述関係 (3) 補足関係 (4) 補助関係 (5) 修飾関係 (6) 客体関係

そして、「この実例に当て検討すればわかるように、各結合要素間の意味的關係は極めて複雑で、それを完全に分類し尽くすのは不可能に近い。」<sup>(6)</sup>と指摘した。

他の研究者の漢語の語構成についての論文も数多くあるが、中国語の漢語と日本語の漢語特に中日同形語を、語構成の角度から考察したものはまだ確認できていない。

## 3. 筆者の用語と語構成の分類

### 3.1 「根字」と「非根字」

吕叔湘(1962)が「汉语词汇的基本单位还是一个一个的单字。应该把现代汉语中最有活力的两千来个字(估计不超过此数)给学生讲清楚。不能把汉字只看成符号,像对待外国语的字母那样。」<sup>(7)</sup>と指摘したように、西洋言語学の用語や理論で、屈折・活用を持たぬ言語である中国語の語構成を分析するのに限界があることに気付いた学者が多い。そして、近年、中国では、「以字为汉语基本结构单位的语言研究思路(字を中国語基本構成単位とする言語研究の考え方)」である「字本位」<sup>(8)</sup>のブームが巻き起こった。

そこで、筆者は「語根」、「前字」、「後字」、「漢字」、「音字」、「字本位」などを総合して、漢字語の基本構成単位を「根字」と「非根字」に分けてみた。「根字」、「非根字」について、次のように定義する。

根字: 単独で「一字漢字語」として使われたり、接字と結合して派生語を構成したり、「根字」と結合して「複合漢字語」を構成したりして、語の根幹的な意味形成に寄与する漢字。「根字」は「R」<sup>(9)</sup>で表すことにする。

名詞的根字 (N)	花 球 手 案
動詞的根字 (V)	読 修 増 求
形容詞的根字 (A)	大 多 新 重
副詞的根字 (M)	最 極 再 特
中国語の代名詞	我 他
数詞	一 十 百



非根字：単独で使えず、「一字漢字語」や「複合漢字語」にくっついて、補助的な働きを果たしたり、他の「非根字」と結合し、意味理解の時、分解不可能な漢字語を構成したりする漢字。

「非根字」は「U」で表し、さらに次のように下位分類できる。

#### ①接字

接頭字 (P)：老 第 初 接尾字 (S)：子 化 性

#### ②音字<sup>(10)</sup>

音訳外来語で音を表すだけで、二つ以上で、あるまとまった意味を表し、一つの分解できない漢字語を構成する漢字。

#### ③連綿字

単独で意味をなさないが、連綿詞を構成する漢字。

#### ④日本語の当て字<sup>(11)</sup>

怪我 我楽多

#### ⑤量詞（助数詞） 数詞の後にくっつく場合に限る。

「一具」の「具」 「一周」の「周」 「三冊」の「冊」 「五本」の「本」

### 3.2 中国語の特殊な「根字」と「非根字」<sup>(12)</sup>

中国語と日本語の品詞分類は大きく異なる。次の漢字が助詞、助動詞、介詞であるとき、日本語ほど造語力が強くないので、構成できる合成語は限られている。

助詞（非根字）：的 着 了 過 見 得

助動詞（根字）：能 会 可 要

介詞（根字）：自 從 在 被 向

したがって、日本語では合成語であっても、中国語では合成語ではなく、「連語」<sup>(13)</sup>であるものが少なくない。その場合、語構成というより、「句構成」の範疇に属すると思われる。

### 3.3 語構成の分類

語は全部単純語と合成語に分類できる。

#### 3.3.1 単純語

(1) Rが単独で構成した一字漢字語。

(2) 二つのUから構成した漢字語

例えば、介詞としての「根拠」「依拠」「通過」、接続詞としての「<sup>ゆえん</sup>所以」、音訳語の「<sup>キリスト</sup>基督」「<sup>ガス</sup>瓦斯」、連綿詞の「芙蓉」「牡丹」などが、単純語に属する。

#### 3.3.2 合成語

合成語のパターンは文字数が増加するにつれ、複雑になるので、ここで二字合成語を中心に分析を進めていく。三字以上の合成漢字語<sup>(14)</sup>に関する詳しい分析は別の機会に譲る。

(1) 補助型の派生語

P (U) + R 第一

R+S (U) 椅子 突然



## (2) 複合語

二字複合語：R+R 道路 読書 美観 壮大

同じRを繰り返す「人々」「年々」「個々」のような疊語も複合語に属する。

本稿ではRとRの結合関係により二字複合語を次の六種類に下位分類する。

### ①連合型<sup>(15)</sup>

類義であつたり対義だつたりするRが結びついて、複合語を構成する。「N+N」「V+V」「A+A」の三種類がある。

### ②修飾型

前のRが後のRを修飾して、複合語を構成する。「N+N」「V+N」「A+N」「A+V」の4種類がある。

### ③主述型 N+V

前のRと後のRが主語と述語の関係を成し、複合語を構成する。

### ④補足型 V+A

後のRが前のRに対し補足的な説明を成し、複合語を構成する。

### ⑤動賓型<sup>(16)</sup> V+N

後の根字が前の根字の目的語になり、複合語を構成する。

### ⑥主語後置型<sup>(17)</sup> N+V

後の根字と前の根字が主述関係を成し、複合語を構成する。

## 4. 中日同形語の語構成の分類と比較

語構成を検討するので、「一字語」は対象にならず、本稿は「二字中日同形語」を中心に展開していく。

語構成の角度から、中日同形語を大きく、「同じ構成の漢字語」、「違う構成の漢字語」、「一方あるいは双方が二種類以上の構成を持っている漢字語」、「日本語独特な語構成の漢字語」に分類できる。

### 4.1 同じ構成の中日同形語

同じ構成の中日同形語はさらに次の二種類に分けられる。

①意味が同じであつたり似たりする漢字語

②意味や用法が違っている漢字語

#### 4.1.1 同じ構成で意味が同じであつたり似たりする漢字語

##### (1) 補助型の派生語

P+R：第一

N+S：様子 椅子 扇子 帽子 調子 種子 冊子 餃子 面子

接尾辞(S)の「子」は日本語での読み方が次の三種類に分けられる。

①「す」 様子<sup>ようす</sup> 椅子<sup>いす</sup> 扇子<sup>せんす</sup> 金子<sup>きんす</sup>

②「し」 帽子<sup>ぼうし</sup> 調子<sup>ちょうし</sup> 種子<sup>しゅし</sup> 冊子<sup>さつし</sup> 因子<sup>いんし</sup>



③中国語の発音のまま 餃子<sup>ぎょうざ</sup> 面子<sup>めんつ</sup>

## (2) 複合語

R と R の結合関係を「連合型」「修飾型」「主述型」「補足型」「動賓型」「主語後置型」の6種類に下位分類できる。

### ①連合型

N+N: 階級 子孫 夫妻 人々 人魚

V+V: 援助 教育 進歩 彫刻

A+A: 盛大 巨大 多少 貧富

「上半身が人間（多くは女人）で、下半身が魚の形をした想像上の動物」<sup>(18)</sup>である「人魚」は特別な連合型である。

### ②修飾型

N+N: 英語 液体 海軍 税金

V+N: 作品 食料 住宅 燃料

A+N: 青年 勇氣

A+V: 輕視 重視

### ③主述型

「N+V」の主述型の同形語として「意向」「国立」「地震」「市営」などが挙げられる。「意向」はもともと「意が向う」意味で、今一つの名詞的複合語として、「心の向かう所。おもわく。（どうするかの）かんがえ。志向。」の意味を表す。「国立」「地震」「市営」はそれぞれ「国が設立する」「地が震える」「市が経営する」の主述構造である。

### ④補足型

「V+A」の補足型の同形語は「改善」「減少」「縮小」「増強」「増大」などが挙げられる。「善」「少」「小」「強」「大」などの形容詞的根字は前の動詞の結果を補足すると理解できる。<sup>(19)</sup>

### ⑤動賓型

「V+N」の動賓型の同形語は「成功」<sup>(20)</sup>「演劇」「営業」<sup>(21)</sup>「革命」「決意」「延期」「衛生」「同情」などが挙げられる。

### ⑥主語後置型

「V+N」の主語後置型の同形語は「変質」「変心」「変色」「変形」「出血」「降雨」「発病」などが挙げられる。例えば、「変質」は「性質または物質が変化する」を意味する場合、主語と述語の順番が明らかに逆になっている。「変質」は「変じた性質や物質」を意味する場合、語構成が変わり、「V+N」の修飾型になる。このような同形語は「存現文」<sup>(21)</sup>の短縮と考えられるが、「A+N」で構成する「高額」「敏感」のような漢字語にも「主語の後置」が確認できた。

## 4.1.2 同じ構成で意味や用法が違ったりする漢字語

この種類の中日同形語を結合関係により、「連合型」「修飾型」「修飾型」「主述型」「補足



型」「故事成語」の六種類に下位分類できる。

①連合型

N+N：前後 始末

V+V：拝見 納入<sup>(23)</sup> 請求<sup>(24)</sup> 結束 合同 喘息 提示<sup>(25)</sup> 分別 散布  
幫助 樹立 評判 奨励 進行 駆使 麻痺

A+A：円滑 潔白 嚴重

②修飾型

N+N：眼下 境内 婚期 外傷 球技 独女

V+N：愛人 用量 圧力 遺恨

A+N：暖流 熱湯 快報 好球 紅顔

A+V：悲観 遠投 痛恨

M+A：最近 最高 最低

③動賓型

V+N：開局 看病 献花 翻案 指名 投球 用心 懸念 用意 発話 立案 出品

④主述型

N+V：公認 水平

⑤補足型

V+V：放出 伝来 招来 造成 醸成 踏破 走破 読破

「V+V」構造の補足型は「V+A」構造の補足型と違い、二つのRはどちらもVであるが、前のVが語の中心で、後のVの「出」「来」などは日本の補助動詞に当たり、方向や動作の完了などの意味を付け加える補足的な役割を果たす。

⑥故事成語

「落花流水」、「行雲流水」、「朝三暮四」、「一刀両断」などが中国から日本に伝来した故事成語である。語構成が変わっていないが、日本人によりそれらの語義が敷衍されて、新しい意味用法が生まれたのである。

「落花流水」<sup>(26)</sup>は中国語では「晩春の景色を形容する」「惨敗して落ちこぼれている様子をたとえる」「話が大げさで実際の状況に合わないことをたとえる」の三つの意味を表すが、日本語では「(落花に情があれば、流水にもまた情があつてこれを載せ去るの意から)男に女を思う情があれば、女にもまた男を慕う情の生ずること。相思相愛。」を意味している。

「一刀両断」はもともと「ひとたちでまっふたつに斬る」意味であつたが、中国語では「きっぱりと関係を断つ」を形容するのに使われるが、日本語では「断固たる処置をすること。決断の速やかなさま」を表す。

「行雲流水」は中国語では「空行く雲や流れる水のごとく、詩文などが自然そのもののびのびしていること」を形容するのに使われるが、日本語では「空行く雲や流れる水のように、一事に執着せず、自然にまかせて行動すること。」を意味する。

「朝三暮四」は中国語で「移り気であることのたとえ。また考えや方針が定まらず、当



てにならないこと。」の意味を表すが、日本語では「目の違いにばかりこだわって、同じ結果となるのに気がつかないこと。」「口先でうまく人をだますこと。」「生計。くらし。」などの意味を表す。

## 4.2 違う構成の漢字語

### 4.2.1 中日両方とも複合語であるが、RとRの結合関係が違う

この類の同形語は数多くあるが、「隔壁」「激怒」「行楽」「失火」「商談」「進水」「打点」「望見」「放置」「養成」などの例を見てみたい。

#### 隔壁

日本語：修飾型複合語。V+N。「間をへだてる壁。仕切り。」

中国語：動賓型複合語。V+N。「壁を隔てる隣」

#### 激怒

日本語：修飾型複合語。A+V。「激しく怒ること。」

中国語：連合型複合語。V+V。「刺激して怒らせる。刺激を受けて怒る」

「激」はもともと「水の流れが石などにぶつかり、阻まれることによって、しぶきを飛ばすほど勢いをつける。はげしく勢いこませる。」意味であった。そこから「刺激を与えて感情を高ぶらせる」「刺激を受けて感情が高ぶる」意味に拡大したのである。「激動」も同じ意味で使われている。「激動」と「激怒」の「激」は日本語では全部「激しく」と理解されているので、全体の語義が異なっているわけである。

#### 行楽

日本語：連合型複合語。V+V。「行って（旅をして）楽しむこと。」

中国語：動賓型複合語。V+N。「楽しいことを行う。」

#### 失火<sup>(27)</sup>

日本語：修飾型複合語。N+N。

「過失から火事を出すこと。また、その火事。」

中国語：動賓型複合語。V+N。

「火をコントロールできなくなる。」「火事が起こった。」

#### 商談

日本語：修飾型複合語。V+N。「商売や取引をまとめるための話し合い。」

中国語：連合型複合語。V+V。「相談する」

#### 進水

日本語：動賓型複合語<sup>(28)</sup>。V+N。

「新しく建造した艦船を造船台から滑らせて水上に浮かばせること。」

中国語：主語後置型複合語。V+N。

「船に水が漏れる。水道水が出る。水がパソコンなどにこぼれる。」

#### 打点

日本語：修飾型複合語。V+N。



①野球で、打者が安打・犠打・四死球などによって自軍にもたらした得点。得点打。

②テニスなどで、ボールを打つ位置。「一の高いサーブ」

中国語：連合型複合語。V+V。

①準備する。手配する。支度する。

②つけ届けをする。賄賂を贈る。

#### 放置

日本語：補足型複合語。V+V。「かまわずに、そのままにしておくこと。」

中国語：連合型複合語。V+V。「置く」

#### 望見

日本語：連合型複合語。V+V。「遠くからのぞみ見ること。」

中国語：補足型複合語。V+V。「見ることが出来た。見えた。」

中国語では、“見”は感覚・知覚・嗅覚などの知覚動詞の結果補語として用いられるが、品詞分類はなされていない。

#### 養成

日本語：連合型複合語。V+V。

「養育して成長させること。養い育てること。」

「体力を養成する」「教員を養成する」

中国語：補足型複合語。V+V。

「(いい習慣などを)身につける。」

“成”は完了の「あげる」を意味する。

#### 4.2.2 中国語では派生語、日本語では複合語

「頭」「面」「上」「下」などが中国語では接尾字(S)である場合もあるが、日本語では「心頭」以外はほとんどRである。次の語例が挙げられる。

石頭 後頭 骨頭 舌頭 前頭 念頭 枕頭

##### 念頭

日本語：修飾型複合語。N+N。「こころ。胸のうち。心頭。」

中国語：派生語。N+S。「考え。思い。意図。心づもり。」

日本語は「念のある場所」である「頭」か「心」に重きがあるが、中国語は「頭」が接尾字(S)で、「念」に重きがある。

##### 骨頭

日本語：修飾型複合語。N+N。医学用語。

「大腿骨頭(だいたいこっとう)」のように、骨の上に向いている頭の部分。

中国語：派生語。N+S。

人や動物などの骨。骨の硬さから「人格、気骨」の意味が敷衍された。

「面」を含む中日同形語は非常に多いが、中国語で「面」が接尾字として使われるのは方向を表す漢字語に限る。次の語例が挙げられる。



外面 裏面 南面 前面

「上」は中国語で、接尾字として使われる場合、前の根字の場所の表面か周りを指す。

山上 頭上 地上 身上

中国語で「下」が接尾字(S)として使われる例はごくまれで、「地下」が挙げられる。「地上(dìshàng)」と「地下(dìxià)」が同じく「地面」を指すのはユニークな現象と言えるだろう。

#### 4.2.3 中国語でもともと二種類の語構成の意味用法があったが、現在中日でそれぞれ違う意味しか使われていない漢字語

次の語例が挙げられる。

関門 環視 帰還 求人 親友

関門

日本語：修飾型複合語。N+N。

「関所の門」

中国語：動賓型複合語。V+N。

①動詞。「ドアを閉める」「閉店する」

②形容詞。意味が拡張して、形容詞化し、「最後の」という意味を表す。

環視

日本語：修飾型複合語。V+V。

まわりをとりまいて見ること。

中国語：修飾型複合語。V+V。

視線が回って、(周りを)見る。

日本語の「環視」の「環」は「ぐるりとまわりをとり囲む。」意味であるが、中国語の“环视”の“环”は「一回りまわる。めぐる。」を意味する。どちらも「視る」を修飾している。

親友

日本語：修飾型複合語。A+N。「信頼できる親しい友。仲のよい友人。」

中国語：連合型複合語。A+N。「親戚と友人。」

求人

日本語：動賓型複合語。V+N。

「人材を求める」「雇い入れるため、人を探し求めること。」

中国語：動賓型連語。V+N。「人に頼む。」

帰還

日本語：連合型複合語。V+V。

遠方の地から帰ってくる。戦地から故郷・基地に帰着くこと。『大辞林』

中国語：連合型複合語。V+V。

返す。返却する。「帰」も「還」も他動詞である。



#### 4.2.4 日本語では合成語で、中国語では合成語でなく、連語である

日本語では合成語で、中国語では連語である漢字語が数多くある。『日中同形異義語辞典』に収録された“出城”<sup>(29)</sup>“切手”“怪我”などは中国語では合成語ではない。

##### ①否定を表す「不」、「無」、「非」、「未」

「不」、「無」、「非」、「未」は日本語では全部接辞として扱われているが、中国語では「不」と「未」は副詞で、「無」は「動詞・接続詞」であり、「非」は最も複雑で「動詞・接頭詞・副詞」である。つまり、「不」、「無」、「非」、「未」は日本語で品詞として自立できないのに対して、中国語では全部自立できるのである。したがって、日本語で「不」、「無」、「非」、「未」の付いている合成語は中国語で合成語でない可能性がある。次に主に「無」と「不」について例をあげながら考察していく。

「無」は日本語で「…を持たないで(～した)」という意味用法がある。「無銭」「無資格」「無責任」「無記名」などがその例である。中国語で「無」はもともと「…がない」「…を持っていない」ので「…ができない」という意味を表し、日本語と大きく異なっている。

##### 無銭

日本語：派生語。P+N。

金銭を持っていないこと。また、金銭のいないこと、あるいは金銭を支払わないこと。ただ。

中国語：連語。V+N。「お金がない」

##### 無銭飲食

日本語：飲食店で代金を払わずに飲み食いすること。

中国語：飲食するお金がない。

##### 無資格

日本語：派生語。P+N。 「資格のないこと。」「資格をもたないこと。」

中国語：連語。V+名詞。 「資格がない。」

##### 無資格診療

日本語：資格を持たないで診療を行うこと。

中国語：診療する資格がない。

「不」は中国語で副詞なので、普通直接名詞の前に来ることができない。日本語では接字(P)で、名詞の前に来、評価判断の意味を表すことができる。「不結果」の例を見てみよう。

##### 不結果

日本語：派生語。P+名詞(V+N)。

「結果が良くないこと」「思わしくない結果。不首尾。」

中国語：連語。 M+V+N。 「実を結ばない。」

②中国語で介詞の「自」、「在」は動詞的根字の後にくっつきにくい。

出自 混在



「自」は起点を示す語で、日本語で「より」「から」に当たるが、品詞分類は難しい。したがって、「出自」という語は一つのまとまりとして扱われている。中国語では「V+介詞」の構成で、語として成立しにくい。「混在」も同じように考えられる。

③中国語で受け身を表す介詞「被」。「被害」の一例が挙げられる。

日本語：動賓型と修飾型。V+N。

「損害をこうむること。危害を受けること。また、受けた損害。」

中国語：連語。受身を表す介詞+V。「殺害される。」

「被害」は「災害を被る」も意味したが、今は「殺害される」の意味しか残っていない。

④中国語で助詞である「着」

「着」は助詞として使われる場合、補助的な役割を果たすことができるが、他の R と結合して、語を構成する働きが弱い。日本語では R として使われ、語を構成することができる。次の例が挙げられる。

愛着 活着 吸着 試着 装着 弾着 漂着 落着 恋着

中国語では「着」の意味用法が複雑である。これらの言葉の「着」は助詞で、動作の結果・状態の持続を表し、「ている」か「である」にあたる。つまり、これらの言葉は「V+助詞」の構成で、複合語でなく、連語の類に入る。日本語では「V+V」の構成である。「着」は複合動詞の後項の働きをし、「行きつくこと」か「衣服などを身につけること」の意味を表す。

愛着

中国語：補足型連語。V+助詞。「愛している。」

日本語：V+V の構造であるが、サ変動詞として使われない。

「人や物への思いを断ち切れないこと。」

漂着

中国語：補足型連語。V+助詞。「水面などに漂っている。」

日本語：連合型複合語。V+V。「海上をただよい流れて岸につくこと。」

試着

中国語：補足型連語。V+助詞。「ためしに～てみる。」

日本語：連合型複合語。V+V。

「身につけるものが体に合うかどうか、買う前にためしに着てみる。」

⑤中国語の助詞である「了」

「完了」「満了」「読了」「投了」

中国語では「完了」などは「V+助詞」の構成で、連語である。「了」は動態助詞として用いられ、軽声に発音し、動作・行為の実現・完了などを表す。日本語では、「完了」などは「V+V」の連合型複合語で、「了」は「終わる」「済む」の意味を表すVである。

⑥中国語の助詞である「過」

「看過」「読過」は中国語では「V+助詞」の構成で、複合語ではなく、連語である。「V



「+過」は中国語で「したことがある」という意味を表す。日本語では「看過」、「読過」などは「V+V」の連合型複合語で、「過」は「気にとめないで～てしまう」という意味を表し、複合動詞を構成する根字である。

#### ⑦中国語の助動詞の「要」

「要用」は中国語では「(義務や意志などを表す助動詞) +V」の構成で、「…をしようとする」「…しなければならない」などを意味する。連語の類に入る。日本語では「A+N」の修飾型複合語で、「必要なこと。肝要。須要。」「大切な用事。」を意味する。

#### ⑧中国語の助詞である「所」

「所」で始まる中日同形語は数多くある。以下に並べる。

所有（あらゆる）所謂（いわゆる） 所為 所依 所演 所縁 所課 所懷 所学  
所轄 所感 所願 所記 所期 所見 所作 所作 所載 所在 所産 所司  
所志 所思 所持 所収 所従 所出 所述 所掌 所信 所生 所説 所蔵  
所属 所帶 所知 所長 所定 所伝 所得 所念 所變 所望 所由  
所有（しゅゆう） 所与 所要 所用 所論 所以（ゆえん）

「所」は中国語では助詞として、動詞の前に用い、名詞句を作る働きをしている。書き言葉に用いることが多い。つまり「所+V」は動詞として使えず、後の名詞を修飾する用法しかない。この点は日本語と違っている。

『広辞苑』第五版の「所（しよ）」の項目で次のように説明している。

③行為・動作などの内容を示す語。…するところ、…するもの。「所感・所蔵」

④受身の意を示す語。…されること。…されるもの。「所載・所与」

上に挙げた大部分の日本語の漢語は③の説明に所属し、ほとんど中国語の使い方と同じであるが、「所轄、所感、所管、所持、所属、所蔵、所有、所用」などが動詞として使えるので、日本語の独特な使い方であると言える。

④の「所」は受身の意味を表す時、中国語で「爲」と共起しなければならないので、「所」だけでは「受身の意を示す」ことができないと思われる。『広辞苑』第五版で「所載」について「書き載せてあること。新聞・雑誌などに記事がのっていること。」と説明しているので、受身の意味がとれないが、「所与」の「与えられること。」「一般に、研究などの出発点として異議なく受け取られる事実・原理。」の説明に「受身」の意味が含まれるところから、日本人の「所+V」の構成に対する感じ方が中国人と大きく違っていると言える。

そして、「所以」は日本語で名詞だけであるが、中国語では名詞の他に、因果関係の意味を表す接続詞として多用されている。

#### ⑨四字漢字語

一喜一憂 学習漢字 執行命令 不易流行 予防戦争

これらの四字漢字語は日本語では複合語として意識されているが、中国語では連語に所属する。

「一喜一憂」（一喜＋一憂）



日本語：連合型複合語。動詞＋動詞。

「状況が変わるたびに喜んだり心配したりして落ち着かないこと。」

中国語：連合型連語。名詞＋名詞。

「二つの知らせがある。一つは良い知らせで、一つは悪い知らせである。」

学習漢字（学習＋漢字）

日本語：修飾型複合語。動詞＋名詞。

義務教育期間に読み書きを学習すべき漢字。小学校学習指導要領に学年別漢字配当表を掲載する。

中国語：動賓型連語。動詞＋名詞。

「漢字を学習する」

不易流行（不易＋流行）

日本語：連合型複合語。名詞＋名詞。

「(芭蕉の俳諧用語) 不易は詩の基本である永遠性。流行はその時々の新風の体。」

「共に風雅の誠から出るものであるから、根元においては一つであるという。」

中国語：修飾型連語。形容詞＋動詞。

「流行しやすくない」

執行命令（執行＋命令）

日本語：修飾型複合語。動詞＋名詞。

「法律を執行するために必要な細則を定めた政令・省令など。」

中国語：動賓型連語。動詞＋名詞。

「命令を執行する。」

予防戦争（予防＋戦争）

日本語：修飾型複合語。動詞＋名詞。

「相手国が自国に脅威を与えているという理由で、先制してしかける戦争。」

中国語：動賓型連語。動詞＋名詞。

「戦争を予防する。」

#### 4.3 一方あるいは双方が二種類以上の構成を持っている漢字語

##### 4.3.1 中国語で二種類の構成を持っている言葉

中国語で二種類の語構成を持っているが、日本語で一種類だけの語構成である言葉は次の例が挙げられる。

外面 学会 好学 向上 耕地 最近 在学 重責  
生氣 積雪 走向 地下 定価 出口 入神  
学会

日本語：修飾型複合語。N+N。「学術研究をする学者の会」

中国語：①日本語と同じである。

②連語。V+V。名詞が目的語になる。 「学んで出来るようになる。」



例：学会日语／日本語ができるようになる。

③連語。V+助動詞的 R。動詞が後に来る。「学んで出来るようになる。」

例：学会开车／車の運転ができるようになる。

#### 好学

日本語：動賓型複合語。V+N。「学問を好むこと。」

中国語：

①動賓型複合語。hàoxué V+V。 「学ぶのを好む」

②修飾型複合語。hǎoxué A+V。 「学びやすい。」

#### 向上

日本語：動賓型。V+N。

「上に向かって進むこと。前よりすぐれた状態に達すること。進歩。」

中国語：①動賓型。V+N。 「向上する。」

②連語。介詞+N。 後の動詞を修飾する。「上に向かって」「上を向いて」

例：人生一路向上爬／人生の道をずっと上に向かって登る。

#### 重責

日本語：修飾型。A+N。「重大な責任。」

中国語：①修飾型。A+N。「重い責任。」

②修飾型。A+V。「厳しく責める。厳しく罰する。」

#### 生氣

日本語：修飾型。V+N。「いきいきした気力。活気。」

中国語：①動賓型か主語後置型。V+N。「氣を生じる。」「氣が生じる。」「怒る。」

②修飾型。V+N。「いきいきした気力。活気。」

#### 积雪

日本語：修飾型。V+N。「ふりつもった雪。」

中国語：①主語後置型。V+N。「雪が積もる。」

②修飾型。V+N。「積もった雪。」

#### 走向

日本語：修飾型複合語。V+N。

「傾いた地層面と水平面とが交わって作る直線の示す方向。地層の続いている方向。」

中国語：①連語。V+介詞。「～に向かって歩く」「～に向かって進む。」

②日本語と同じである。

#### 定価

日本語：修飾型複合語。動詞的根字+名詞的根字。

「商品の、前もって決めてある売値。」

中国語：

①動賓型複合語。V+N。 「値段を決める。」 ②日本語と同じである。



出口

日本語：修飾型複合語。V+N。「外へ出る口。」

中国語：①動賓型複合語。V+N。「言葉が口を出る。」「(船が) 港を出る。」「輸出する。」

②日本語と同じである。

中国語では「口」は「くち」の意味が基本である。「港」は「港口」と呼ばれるので、「船が港を出る」ことを「出口」と表現するのである。また対外貿易は明の時代海路を通して、盛んに行われてきたので、「出口」に「輸出」の意味が生まれたのであろう。

入神

日本語：動賓型複合語。V+N。

神に入る。技術が上達して靈妙の域に達すること。

中国語：①主語後置型か動賓型複合語。V+N。

精神を入れる。精神を集中する。精神が入る。

②日本語と同じである。

#### 4.3.2 日本語で二種類の構成を持っている言葉

日本語で二種類の語構成を持っているが、中国語で一種類の語構成しかない言葉として、「降雨」「製薬」「打球」「多用」「提案」などが挙げられる。

降雨

日本語：①主語後置型複合語。V+N。「雨の降ること。」

②修飾型複合語。V+N。「ふる雨。」

中国語：主語後置型複合語。V+N。「雨が降る。」

製薬

日本語：①動賓型複合語。V+N。「医薬品を製造すること。」

②修飾型複合語。V+N。「製造した薬剤。」

中国語：動賓型複合語。V+N。「医薬品を製造する。」

打球

日本語：①動賓型複合語。V+N。「野球・ゴルフなどで、たまを打つこと。」

②修飾型複合語。V+N。「打ったたま。」

中国語：動賓型複合語。V+N。「ボールを使うスポーツをする」

多用

日本語：①主語後置型複合語。A+N。「用事の多いこと。」

②修飾型複合語。A+V。「多く使用すること。」

中国語：修飾型連語。A+V。「多く使用する」

提案

日本語：①動賓型複合語。V+N。「案を提出すること。」

②修飾型複合語。V+N。「提出した案。」

中国語：修飾型複合語。V+N。「提出した案。」



#### 4.3.3 中日とも二種類以上の語構成を持っている言葉

「好事」「定義」「提議」「投影」「同行」などの例が挙げられる。

##### 好事

日本語：①「こうじ」と読む。修飾型複合語。A+N。

「よいこと。めでたいこと。」

②「こうず」と読む。動賓型複合語。V+N。

「かわった物事を好むこと。風流を好むこと。ものずき。」

中国語：①hǎoshì 修飾型複合語。A+N。

「よいこと」「めでたい事。慶事」「とんでもないこと。」

②hàoshì 動賓型複合語。V+N。

[形] もの好きである。余計なおせっかいをしたがる。

##### 定義

日本語：①動賓型複合語。V+N。

「概念の内容を明確に限定すること。」

②修飾型複合語。V+N。

「限定した概念の内容。」

中国語：①動賓型複合語。V+N。

「概念の内容を明確に限定する。」「定義する」

②修飾型複合語。V+N。

「限定した概念の内容。」

##### 提議

日本語：①動賓型複合語。V+N。

「意見・議案を提出すること。」

②修飾型複合語。V+N。

「提出した意見・議案。」

中国語：①動賓型複合語。V+N。

「意見・議案を提出する。」

②修飾型複合語。V+N。

「提出した意見・議案。」

##### 同行

日本語：①修飾型複合語。M+V。「つれだって行くこと。」

②修飾型複合語。A+N。「同じ銀行。」

中国語：①修飾型複合語。tóngháng A+N。「同業である。」

②修飾型複合語。tóngxíng M+V。「一緒に行く。」

#### 4.4 日本語独特な語構成の漢字語

「短縮」「軽減」「肉食」などの漢字語は一見日本語の文法構造に見えるので、和製漢語



として、扱われる可能性があるが、《汉语大词典》に収録されているし、古い用例もあるので、もともと中国にあった漢字語であると判定できる。語構成から見れば、「短縮」「軽減」は「A+V」の修飾型複合語に見えるが、「短」「軽」は形容詞以外に、他動詞としても使われたので、「V+V」の連合型複合語とみなすべきである。

日本語にある独特な語構成を持つ中日同形語は次の四種類があげられる。

①当て字を使用した漢字語：怪我 出来

②複合動詞から来た漢字語：取消

③仏教用語から来た漢字語：我慢 無心

上の三種類は分解して理解できないので、中国語の「連綿語」に似ている。

④独特な修飾関係：男<sup>おとこ</sup>女<sup>おんな</sup>

『日本国語大辞典』は「男女」について次のように説明している。

〔名〕男でありながら女のような、また、女でありながら男のような、性徴や特質をもつもの。男と女。男も女も。夫婦。また、恋愛関係にある男女。

連合型複合語として、こんなに様々な意味に解釈できる漢字語はこれ以外にないだろう。

## 5. おわりに

中日同形語の語構成を分析し、分類した結果、次のことがわかった。

日本語で合成語であるが、中国語では合成語でなく、連語である漢字語が少なくない。中日同形語の語構成と語義は密接な関係を持っている。意味の違いをもたらす原因として、挙げられるのは語構成の違いである。中日同形語の語構成の違いをもたらす原因はいろいろあるが、漢字の語義と品詞性の多様性、漢字の造語力の違い、日本人と中国人の漢字の意味用法に対する理解の違いや文化的な背景の違いなどが挙げられる。

これらの結果と従来の研究<sup>(30)</sup>及び長年の日本語教育の経験から、語構成と習得の難易度の関係について次のように判断できる。語構成が同じで意味も同じである中日同形語はもっとも習得しやすい。語構成がまったく違う中日同形語も比較的習得しやすい。二種類以上の語構成をもっている中日同形語は語義の複雑さが増すので、やや習得しにくい。構成が同じで意味が違う中日同形語は習得しにくい。構成が同じで意味用法が似ている中日同形語は最も習得しにくい。語構成の角度からの中日同形語に対する分析は日本語学習者の効率的な習得に寄与できる。

## 注

(1) 野村雅昭、森岡健二、荒川清秀、沈国威などが「語基」を使用している。

(2) 荒川清秀が、「語基」と「接辞」だけで漢語の語構成が分析しきれないと指摘した。

(3) 野村雅昭はまた「語素」を使ったり、「形態素」を使ったりしている。

斎賀秀夫は「語構成の特質」という論文で語構成要素について、「漢語」、「同義語」、「類義語」、「対義語」、「前部分」、「後部分」など数多くの用語を使っている。



朱京偉は「構成要素の分析から見る中国製漢語と和製漢語」の中で二字漢語の結合関係を分析する時、「前字」「後字」を使ったが、「三字词内部结构的中日比较」で「語素」を使っている。

(4) 松村明(1988)『大辞林』三省堂, p850

『国語学大辞典』は「形態素」について、次のように説明している。

複合語を構成する上のこの機能の違いから、構成要素である形態素を分けると、形態素は次の三種に分類される。第一種の語基は、派生語・屈折語の基幹となる形態素で、自立形式もあれば結合形式もある。第二種の接辞(1)は、派生語をつくる形態素で、すべて結合形式である。第三種の接辞(2)は、屈折語をつくる形態素で、すべて結合形式である。形態論は、右のような形態素に基づいて語の構造を記述するが、研究する事項は、(1) 形態素の種類、(2) 形態素の配列順序、(3) 構成された語の特徴、(4) 形態素の変化ということになる。

p271

『日本語文法大辞典』は「語基」について次のように説明している。

base の訳語。語構成要素のうちの基本的部分。「父上」「ご祝辞」「春めく」「近づく」の「父」「祝辞」「春」「近」がこれに当たり、語基の前又は後に接辞を伴って派生語を構成する。古代語にあっては「さやに」の「さや」も語基と認めることができる。このように、ある共時態の中で、語が構成される場合に基幹と意識される部分をいう。これに対して、語根と語幹は、歴史的な分析の結果として認定されるものをいう。一般的にいうと、語の基幹的要素となるもので、共時的に認識されるものが語基、通時的に認定されるものが語根である。従って、語基は、語根をその中に含むか、語根と一致するかのどちらかになる。(秋元守英)

p252

(5) 中国語では今連綿詞として扱われている同形語は以下のものがある。

日本語	茉莉	芙蓉	葡萄	菖蒲	芭蕉	薄荷	枸杞	牡丹	林檎	杜鵑
中国語	茉莉	芙蓉	葡萄	菖蒲	芭蕉	薄荷	枸杞	牡丹	林檎	杜鹃

日本語	鸚鵡	蜘蛛	鴛鴦	駱駝	麒麟	蝙蝠	螳螂	蜈蚣	鼯鼠	珊瑚
中国語	鸚鵡	蜘蛛	鸳鸯	骆驼	麒麟	蝙蝠	螳螂	蜈蚣	鼯鼠	珊瑚

日本語	孔雀	伶俐	從容	俾倪	仔細	依稀	蔓延	荒唐	蒙昧	英雄
中国語	孔雀	伶俐	从容	优柔	仔细	依稀	蔓延	荒唐	蒙昧	英雄

日本語	籠絡	混沌	漂泊	瀟洒	浪漫	滑稽	氾濫	潑刺	徘徊	彷徨
中国語	笼络	混沌	漂泊	潇洒	浪漫	滑稽	泛滥	泼辣	徘徊	彷徨

日本語	彷彿	循環	瑪瑙	琉璃	琥珀	玳瑁	玲瓏	琵琶	拮据	朦朧
中国語	仿佛	循环	玛瑙	琉璃	琥珀	玳瑁	玲珑	琵琶	拮据	朦胧



日本語	膀胱	丁寧	咆哮	呻吟	嗚呼	呐喊	叱咤	喇叭	吝啬	骨董
中国語	膀胱	叮咛	咆哮	呻吟	嗚呼	呐喊	叱咤	喇叭	吝啬	古董

日本語	恍惚	慷慨	憧憬	憔悴	忸怩	慙慙	硫磺	婀娜	婆娑	妊娠
中国語	恍惚	慷慨	憧憬	憔悴	忸怩	怱怱	硫磺	婀娜	婆娑	妊娠

日本語	姑息	委蛇	逡巡	邂逅	逍遥	連理	宇宙	狡猾	狼狽	猶豫
中国語	姑息	逶迤	委蛇	邂逅	逍遥	连理	宇宙	狡猾	狼狽	犹豫

日本語	狼藉	躊躇	蹂躪	蹉跎	跋扈	齷齪	齷齪	髑髏	纏綿	紛紜
中国語	狼藉	躊躇	蹂躪	蹉跎	跋扈	齷齪	齷齪	骷髏	缠绵	纷纭

日本語	継続	経綸	錦綉	饅頭	賄賂	陸離	鄭重	曖昧	殷勤	辟易
中国語	继续	经纶	锦绣	馄饨	贿赂	陆离	郑重	暧昧	殷勤	辟易

日本語	霹靂	零乱	翡翠	襁褓	痙攣	酩酊	醍醐	誹謗	爛漫	誇張
中国語	霹雳	零乱	翡翠	襁褓	痉挛	酩酊	醍醐	诽谤	烂漫	夸张

日本語	敷衍	乖戾	唐突	斟酌	凌駕	犠牲	切磋	周章	推敲	
中国語	敷衍	乖戾	唐突	斟酌	凌驾	牺牲	切磋	周章	推敲	

(6) 斎賀秀夫(1997)「語構成の特質」, p37

(7) 吕叔湘(1963)《语文常谈》, 载《吕叔湘全集》第6卷, 辽宁教育出版社 2002。

「中国語語彙の基本単位はやはり一つ一つの単漢字である。現代中国語の中の最も活力のある二千あまりの漢字を学生にはっきり説明すべきである。漢字を外国語のアルファベットのように記号として扱ってはいけない。」(筆者訳)。

(8) 「字本位」とは「一つ一つの漢字が中国語の基本構成単位である」という意味である。

(9) 本稿で便宜のために語構成の漢字用語を次のようなアルファベットに省略する。

根字=R 非根字=U 名詞的根字=N 動詞的根字=V 形容詞的根字=A

副詞的根字=M 接頭字=P 接尾字=S

(10) 《汉语大词典》は“音字”について次のように解釈している。

用以注音的同音或音近的汉字。

然则先儒音字，比方为音。 唐 张守节《史记正义・论音例》

郑康成注‘六经’，高诱解《吕览》、《淮南》，许慎造《说文》，刘熙制《释名》，始有譬

况，假借以证音字。 清 王鸣盛《蛾术编・论反切所自始》

例えば、「梵」について、《康熙字典》は「帆」を使って、「梵」の発音を説明している。



【唐韻】【韻會】扶泛切，音帆。

本稿では発音を表す漢字は全部音字と呼ぶことにする。特に外国語や外来語の音訳に使われた漢字を指す。

音訳字が使われている同形語として、次の言葉が挙げられる。

鴉片(あへん) 阿弥陀(あみだ) 和尚(おしょう) 伽藍(がらん) 伽羅(きやら)  
沙弥(しゃみ) 沙門(しゃもん) 修羅(しゅら) 招提(しょうだい) 刹那(せつな)  
卒塔婆(そとば) 兜率(とそつ) 奈落(ならく) 南無(なむ) 菩薩(ぼさつ)  
娑婆(しゃば) 般若(はんにゃ) 浮屠(ふと) 菩提(ぼだい)  
摩訶(まか) 牟尼(むに) 弥勒(みろく) 弥撒(ミサ)

「万葉仮名」も音字の一種である。

漢字は一般的に表意文字とされているが、必ずしもそうとは限らない。音字は音だけを表すが、その他に「形だけ」を表す場合もある。例えば、形だけを表す場合もある。

日本語：八 十 大 丁 川

中国語：丁 十 工 米 田 国

#### (11)「当て字・宛て字」

漢字の本来の意味とは関係なくその音や訓を借りてあてはめた漢字のうち、その語の表記法として慣用のできたもの。また、そのような用字法。「目出度(めでた)い」「野暮(やぼ)」「呉呉(くれぐれ)」の類。借字。『大辞林』

次の当て字の例が挙げられる。

浅墓(あさはか) 当前(あたりまえ) 囲炉裏(いろり) 我楽多(がらくた)  
怪我(けが) 気配(けはい) 鴨頭(こうとう) 四股(しこ) 洒落(しゃれ)  
猪口(ちょく) 呑気(のんき) 馬鹿(ばか) 卑怯(ひきょう) 不憫(ふびん)  
味方(みかた) 無茶(むちゃ) 無鉄砲(むてっぽう) 腕白(わんぱく)  
剣幕(けんまく) 兎角(とかく) 他愛ない(たあいがない) 試合の「試」  
乙女(おとめ)の「乙」 思惑(おもわく)の「惑」 仕事の「仕」  
鴨頭

日本語：吸い物に入れるユズの皮などの薬味。

◆「鴨頭」は「鴨(アフ)」を「カフ」と誤読した当て字。

『大辞泉』

中国語：ダックの頭。料理の一つ。

不憫：

日本語：[1] かわいそうなこと。気の毒なこと。また、そのさま。

〔補説〕 元来「不便」で、「不憫」「不愍」は当て字

『大辞林』

中国語に「不憫」という言葉はないが、字面では「憐憫」と正反対の意味と思われがちであるので、間違えやすいであろう。

(12) 日本語と中国語の品詞分類が違うので、同じ漢字でも中国語と日本語で根字と非根字で対応しているとは限らない。「根字」と「非根字」を兼ねる漢字も中日で対応しているとも限らない。



①一部分の漢字は「接字」と「音字」として使われる場合は「非根字」で、その他の場合「根字」である。

老化 (U) 化学 (R) 耐性 (U) 性格 (R) 基督 (U) 基本 (R) 監督 (R)

②量詞（助数詞）は数詞の後にくつつく場合は「非根字」で、他の根字とくつつく場合は根字である。

一枚 (U) 枚挙 (R) 一頭 (U) 頭数 (R) 二本 (U) 本数 (R)

③中国語で助詞か助動詞または介詞の非根字と他の場合の根字を兼ねる漢字。

美的 (U) 目的 (R) 看過 (U) 過程 (R) 可能 (U) 能力 (R)

(13) 日本語では合成語で、中国語では連語である漢字語が数多くある。

次の例が挙げられる。

①名詞＋的

意志的	意識的	意図的	印象的	鋭角的	概念的	外面的	化学的	学問的
家庭的	感覺的	感情的	觀念的	技術的	奇跡的	貴族的	義務的	經驗的
傾向的	形式的	系統的	結果的	効果的	効率的	国際的	個人的	個性的
国民的	国家的	今日の	財政的	散文的	事後的	事前的	実験的	実質的
質的	島国的	事務的	社交的	周期的	重点的	常識的	情趣的	象徴的
女性的	紳士の	心情的	技巧的	心理的	政治的	精神的	制度的	生理的
精力的	世界的	世間的	全国的	大局的	体系的	体質的	大衆的	代表的
大陸的	惰性的	男性的	弾力的	中間的	中心的	直線的	文学的	将来的
哲学的	伝奇的	天才的	道德的	動物の	特徴的	肉体的	日本の	人間的
悲劇的	表面的	病理的	物質的	物理的	文化的	平面的	方法的	暴力的
牧歌的	本質的	末期的	魅力的	民衆的	民族的	夢幻的	命令的	野心的
野性的	良心的	理論的	倫理的	類型的	例外的	歴史的		

②動詞＋的

圧倒的	營利的	演繹的	革新的	確定的	学的	過渡的	帰納的	希望的
驚異的	強制的	啓蒙的	献身的	建設的	蠱惑的	殺人的	暫定的	刺激的
試験的	自殺的	実践的	支配的	主導的	人為的	審美的	生産的	生得的
絶望的	漸進的	戦闘的	総括的	裝飾的	創造的	対比的	打算的	致命的
重疊的	統計的	独占的	独創的	突発的	破壊的	爆発的	派生的	発展的
反抗的	反射的	飛躍的	分析的	包括的	補助的	優先的	予備的	獵奇的
論証的	論理的							

③名詞・動詞＋的

記録的 教育的 決定的 組織的

④不＋形容詞か動詞

不安定	不一致	不衛生	不介入	不拡大	不確定	不完全	不干涉	不起訴
不均衡	不謹慎	不健康	不健全	不公平	不合理	不十分	不正直	不消化



不親切 不信任 不侵略 不正確 不成功 不誠実 不成立 不鮮明 不注意  
 不定期 不出来 不適應 不徹底 不統一 不同意 不動心 不透明 不特定  
 不認可 不熱心 不平等 不必要 不評判 不風流 不勉強 不滿足 不明朗  
 不愉快 不用心 不履行 不連続

(14) 三字以上の合成漢字語の分析に「根語」という言葉が使える。《汉语大词典》は“根词(根詞)”について、次のように説明している。

词汇里最原始、最简单、最基本的词，是基本词汇的核心。在根词的基础上派生出许多其他词来。汉语的根词多数是单音节的，如“人”、“山”、“火”等。

訳：語彙の中で最も原始的で、最も単純で、最も基本的な語で、基本語彙の核心である。根語をもとに、多くの言葉が生まれたのである。漢語の根語の多くは短音節で、例えば、「人」、「山」、「火」など。

筆者は「R+R」の言葉が三字以上の漢字語を構成する時、全部「根語」と呼ぶことにする。

(15) 「連合型」は「並列関係」より合理的であるので、この言葉を使ったのである。

(16) 「動賓」という呼び方は品詞の一分類である動詞という用語と文法的な働きを表す賓語をいっしょにしているので、ほかの用語と一致しないが、今それに代わる用語がないので、仕方なく使った。

(17) 「主語+述語」は一般的な語順であるが、「述語+主語」の構成なので、「主語後置型」と名付けたのである。その他に、「立春」「開花」などもこの類に属する。

(18) 日本語での意味は特に断らない限り、『広辞苑』の説明を直接引用したり、少し書き換えたりした。中国語での意味は筆者自身の言葉で説明した。

(19) 日本語で「善」「少」「小」「強」「大」などは形容詞の他動詞化と理解される場合があるが、「減少」の「減らして少なくすること。」の意味がまだ説明できるが、「減って少なくなること。」という意味は説明がつかなくなってしまう。「改善」「減少」「縮小」「増強」「増大」などの語構成への理解が分かれても、語全体の意味理解に影響が出ないが、「改正」になると、事情が違ってくる。「改正」は中国語では「V+A」の補足型と理解され、「正しく改められる」の意味を表すが、日本語では「V+V」の連合型で、「正」の意味が消え、「法律・規則・規約などの不適当な点や不備な点を改めること。」の意味を表している。

(20) 沈国威(1990)は「V+N」構造の二字漢語名詞について、「一方他動詞、それと支配的共起関係にある名詞群(即ち、対象)の組み合わせは、[V+O]と読まれやすく、構造体は、[V+N]のように動字による装定の形で名詞化することが難しいと予測される。」と唱えているが、筆者が《汉语大词典》や中国の古典文献を調べて、以下の動賓構成の名詞見つけた。

画像 画餅 成功 記事 享年 绝句 成約 課税 変体 煎药 定法 出妻 用人  
 烤鸭 焼餅 举人 连营 累卵

南京師範大学文学院のある先生に關係の問題を訊ねたところ、「中国語の古典文献に動賓



構造の名詞がもっと使われたはずだ。」と答えてくださった。

(21)「営業」のような動賓構造の同形語について、第四章 (p139) を参照されたい。

(22)「存現文」とは存在、出現、消失などを表す文を指す。

(23)「納入」の中日での意味の違いは次のとおりである。

日本語：品物や金銭を納めること。

中国語：乗せる。組入れる。抽象的な事物についていう。

(24)「請求」の中日での意味の違いは次のとおりである。

日本語：①こいもとめること。要求。

②公法上・私法上、相手方に対して一定の行為をすることを要求すること。

中国語：願う。頼む。申請。

(25)「提示」の中日での意味の違いは次のとおりである。

日本語：差し出して相手に示すこと。

中国語：ヒントを与える。暗示する。注意する。ヒント。注意。

(26)「落花流水」について詳しくは拙論の「中日同形語の『落花流水』考」を参照されたい。

(27)「失火」について、《汉语大词典》は「发生火灾。」と説明している。「火事が起こった」という意味である。火事が人為的なミスで起こったとは限らない。

「失」の意味について、『漢字源』は次のように説明している。

{動} うしなう (ウシナフ)。中に押さえこんでおくべきものを押さえきれずに、またはうっかりして外へ出してしまう。

「失火」の「失」について、中国語の辞書ではほとんど説明していない。「コントロールできない」と解釈できる。そのほかに「失言」「失笑」「失脚」「失禁」「失態」「失口」「失手」「失足」などが挙げられるが、「失脚」は中日で意味が違う。

(28)日本語の「水に入る」「教室に入る」などのような表現は中国語では“入水”“进房间”と言って、動賓構造とみなされるが、日本語では「水に」「教室に」は補語とみなされているが、ここで、中国語の文法にしたがう。

(29)「出城」は歴史的な話の中で言うが、「本城の周辺に築いた城。」を意味する。中国語では連語で、今は「都市を出る」意味を表す。日本語の「城」と中国語の“城”の意味が違う。「敵を防ぐために築いた軍事的構造物。」の意味では共通しているが、日本語では「堀をつくり石垣をめぐるなどして築いた堅固な建物。」を指し、お殿様とその家族が住むところであったが、中国語では城壁に囲まれている中は全部“城”に属し、一般人も“城”に住んでいたし、町や繁華街も入っていたので、日本のお城よりずっと広がった。

(30)拙論の「中日同形漢語の誤用分析」を参照されたい。



## 第四章 中日同形語の品詞性比較

### 1. はじめに

日本語と中国語は言語体系が違う。日本語は膠着語で、中国語は孤立語である。それは中日同形語の形態の違いをもたらしている。特に、日本語の形容詞・形容動詞、サ変動詞は屈折語尾があるのに対して、全ての中国語の言葉は屈折語尾がないのである。形態上「語形変化の体系をもつ名詞(名詞の曲用も語形変化のひとつとみなす)・動詞・形容詞の場合は、単語が統語論的にも形態論的にも形づけられている」<sup>(1)</sup>ので、日本語の漢字語の品詞性は中国語より比較的捉えやすい。一方、中国語の言葉の品詞性は形態上の特徴がないので、文法的な働きによって判断しなければならない。それは常に品詞間の揺れをともなってしまう。中国語でも日本語でも、一つの言葉が一種の品詞だけだったり、複数の品詞を兼ねたりしているので、中日同形語は、品詞性<sup>(2)</sup>が一致しているものもあるが、一致していないものもあり、複雑な対応関係をなしている。中国語母語話者が、日本語習得の時、中国語での品詞性をそのまま日本語に当てはめたら、文法形態上の誤用が生まれてくるわけである。また、品詞性が意味に関係する場合が多いので、品詞性が変われば、意味用法が大きく変わる可能性がある。中日同形語の双方の品詞性を正確に把握しなければ、意味上の誤解が生まれ、コミュニケーションに支障をきたすおそれがある。そこで、筆者は少しでも中国語母語話者の日本語学習に役立ちたいと思い、中日同形語の品詞性を比較検討したのである。

### 2. 先行研究

中日同形語の品詞性の問題は早くから取り上げられてきた。「日中同形語」の品詞の違いに関する研究は、石堅・王建康(1983)、侯仁鋒(1997)、中川正之(2005)がある。石堅・王建康(1983)は日本語での品詞性を判断してもらうという形で調査を実施し、母国語の干渉が強いという結論を出した。侯仁鋒(1997)は新聞や雑誌からいろいろな用例を集め、日中の同形語の品詞の違いを分析し、8タイプ<sup>(3)</sup>に分類した。

中川正之(2005)は石堅・王建康(1983)の研究をふまえて、中国語の形容詞が日本語で動詞になる原因を「一時的か恒常的か」「一点凝視か多点参照か」「中国語の並列と日本語の修飾」という三つの角度から考察した。

また自他動詞の角度から中日同形語の問題を取り上げる研究が最近増えつつある。五味政信など(2006)は中国語母語話者の誤用に対する分析を通して、漢語の動詞性を検討した。庵功雄(2010)は中国語母語話者に対するアンケート調査を通して、日本語の自他動詞の習得問題を検討した。

中日同形語の品詞の違いは非常に複雑な問題であるが、筆者は収集した中日同形語を徹底的に比較分析し、中国語母語話者の日本語習得の角度から、「品詞問題が起こる可能性が



低い同形語」と「品詞問題が起こる可能性が高い同形語」に分類して考察を加えていく。

### 3. 品詞問題が起こる可能性が低い同形語

品詞性が基本的に一致している中日同形語は品詞性の問題が起こらないと思われる。大きく3種類に分類できる。

#### 3.1 中日とも、単一の品詞性しか持たない名詞、副詞、接続詞

名詞<sup>(4)</sup>：学者 出版物

副詞：一一 一旦 銳意 時々刻々 隨時 漸次 全然 逐次 逐日 逐年 不日

接続詞：乃至<sup>(5)</sup>

ただし、品詞性が一致する言葉は意味が同じであるとは限らない。「一旦」「乃至」はその典型的な例である。そういう言葉の意味の違いに細心の注意を払う必要がある。

#### 3.2 中国語では動詞で、日本語では名詞とサ変動詞である言葉

①中国語では自動詞で、日本語では名詞とサ変自動詞である<sup>(6)</sup>。

安眠 萎縮 演説 凱旋 求人 苦学 出頭 衝突 勃興 療養 旅行 林立

深呼吸 四通八達 袖手傍觀 東奔西走 朝令暮改

次の言葉は中国語では自動詞だけでなく、名詞でもある。

共鳴 虚脱 結晶 血戦 決闘 行動 作文 作用 同盟 動作

「共鳴」と「結晶」の意味用法に微妙な違いがある<sup>(7)</sup>。

②中国語では他動詞で、日本語では名詞とサ変他動詞である<sup>(8)</sup>。

愛護 一掃 印刷 演出 概括 解釈 拡充 鑑賞 貫徹 吸引 凝視 薰陶 檢舉

傾注 嚴守 検討 構成 構築 公認 告訴 告発 鼓舞 散布 思索 辞退 重視

修築 祝福 受理 浄化 釀成 助長 審査 崇拜 征服 節約 扇動 創造 促進

達成 探究 彫琢 溺愛 陶冶 忍耐 發揮 反省 頒布 鞭撻 網羅 予防 予約

朗読 暗中摸索

次の言葉は中国語では他動詞だけでなく、名詞でもある。ただ、「確信」「協議」「統帥」「懸念」<sup>(9)</sup>などの名詞としての意味は日本語の名詞と大きく異なるので、注意が必要である。

意識 一覽 確信 涵養 記憶 企図 希望 協議 教訓 教授 虚構 議論 区別

訓示 經驗 警衛 懸念 幻想 建築 交易 構想 告白 顧慮 裁判 刺激 試験

刺繡 收穫 主管 縮写 主張 照会 象徵 証明 処分 設備 裝備 装置 忠告

懲罰 通知 通報 提議 提示 摘要 統帥 把握 發明 判決 表現 評論 負担

編制 包裝 報道 銘記 妄想 要求 予感 予言 礼拝

③中国語では自他動詞で、日本語では名詞とサ変自他動詞である。

移動 欧化 悔悟 解決 解散 開始 拡大 確定 加速 確立 加重 合併 完成

貫通 緩和 逆転 競争 緊縮 屈伸 具備 激化 結合 結束 決定 減少 後悔

呼吸 固定 混入 贊嘆 実現 集中 収斂 縮小 消滅 進行 震動 増加 増減



増殖 増大 損壊 損傷 堆積 中和 調剤 珍重 停止 転移 凍結 普及 分解  
分散 分離 勉強 埋蔵 摩擦 溶解 累積 連合 連絡 連発

その他に、「損耗」と「継続」は中国語で自他動詞だけでなく、名詞でもある。

### 3.3 中国語では形容詞で、日本語では名詞・形容動詞である<sup>(10)</sup>

安全 安静 偉大 遠大 艶 鋭利 円滑 旺盛 頑固 簡単 簡潔 確実 狹隘  
貴重 緊急 軽率 厳正 厳密 謙虚 顕著 広大 固陋 孤独 公正 公平 新鮮  
迅速 重大 真摯 慎重 主要 重要 親切 深刻 神秘 崇高 盛大 脆弱 重要  
精巧 誠実 繊細 鮮明 正確 正当 疎 率直 粗暴 単純 忠実 痛快 適宜  
適当 独特 特殊 透明 軟弱 柔和 濃厚 薄弱 繁華 繁雑 煩瑣 微妙 卑劣  
肥沃 貧乏 平等 風流 風流 複雑 富裕 便利 平和 平淡 密 無恥 明晰  
猛烈 勇敢 優美 優良 優秀 優雅 容易 流暢 冷静 冷淡 湿润 上上 勤勉  
好奇 有効 無効 過度 過分 過密 過激 絶妙 陳腐 高級 低級 廉価 対等  
下等 上等 同等 劣等 優等 巨額 高額 均質 薄情 多情 低調 短命 嚴格  
適度 大幅 小幅 多病 多様 同様 異様 著名 幸運 敏感 正式 年少 性急  
莫大 異常 大胆 大規模 赤裸々

次の言葉は中国語では名詞と形容詞で、日本語では名詞と形容動詞であるので、品詞上の問題が起こらないだろう。

壯観 光栄 経済 困難 必要 秘密 純情 高度

日本語では形容動詞は普通名詞を兼ねているが、形容動詞だけの言葉もある。それらも習得上問題にならないと思われる。次の例が挙げられる。

陰鬱 頑強 嚴重 柔軟 周到 真摯 尋常 切実 典雅 唐突 濃厚

## 4. 品詞問題が起こる可能性が高い同形語

品詞性が大きく異なっていたり、ともに複雑な兼類であつたりする場合、品詞性の問題が起こりやすいと思われる。以下、中国語での品詞性に沿って、4種類に分類してみた。

### 4.1 中国語では名詞である言葉

①日本語で名詞と形容動詞である。

優勢 劣勢 好評 現金

②日本語では名詞とサ変自動詞である。

位置 機能 競走 行列 決算 原因 現在 高調 高潮 紅葉 故障 婚姻 讒言  
修養 心中 炊事 誓言 正装 成約 前後 戦争 同調 伯仲 破綻 比例 由来  
正比例 反比例 新陳代謝

③日本語では名詞とサ変他動詞である。

意見 意図 科学 觀念 願望 偽証 工夫 契約 決議 見聞 口供 豪語 公約  
告示 錯覚 差別 志向 嗜好 実感 実証 指南 始末 射影 証言 新作 出納



誓約 絶唱 宣言 増幅 素描 大観 知覚 直覚 直感 提案 媒介 用意 類別  
冷遇 礼遇 論断

ただ、「是非」は日本語で副詞でもある。

④日本語では名詞とサ変自他動詞である。

合同 細工 彩色 精米 同期 二分

#### 4.2 中国語で動詞である言葉

①中国語では自動詞で、日本語では名詞と形容動詞である。

この類の言葉は少ない。「長大<sup>(11)</sup>」が挙げられる。「長大」はもともと中国語でも形容詞の用法があったが、現在は動詞としてしか使われない。

②中国語では自動詞で、日本語では名詞とサ変他動詞である。

##### a. 動賓構造である言葉

割愛 解禁 観光 看病 享楽 減額 献策 謝罪 収賄 出資 出題 出力 消毒  
除名 推理 成形 整形 制動 製版 製油 設営 宣誓 増員 増額 創業 増資  
送信 贈賄 断罪 追尾 伝動 投函 投資 抜粋 発令 分類 翻案 免職 免税  
問責 融資 録音

ただ、次の言葉は中国語では名詞でもある。

兼職 処方 定義 破門<sup>(12)</sup>

中国語では動賓構造の言葉はすでに目的語を持っているので、“決意”“调剂”“加速”“出品”“提议”“动员”“出版”等以外は、言葉全体をまた他動詞として使い、目的語を持つことが出来ない。中国語母語話者は、この類の中日同形語の中国語での自動詞の用法に慣れてきたので、日本語での他動詞の用法に注意しなければならない。

##### b. 動賓構造ではない言葉

斡旋 警備 公演 交配 再見 実習 周旋 守備 順延 照射 上場 照明 除外  
推論 説教 折半 送検 創始 仲裁 入手 漂白 分娩 弁解 弁護 弁論 防衛  
予定 雷撃 累加 合理化 自給自足 袖手傍観

次の言葉は中国語では自動詞だけでなく、名詞でもある。

工作 実験 手術 板書 冷笑

この類の言葉は中国語ではすべて自動詞で、目的語を持つことが出来ない。他動詞として、使えない原因は言葉によって違う。例えば、「警備」「守備」「防衛」などの言葉を構成する漢字が同じ目的語を持つことが出来ない。「雷撃」は中国語では「雷が落ちる」の意味であるが、日本語では「魚雷で攻撃すること」の略語である。

③中国語では自動詞で、日本語では名詞とサ変自他動詞である。

##### a. 動賓構造の言葉

加圧 開演 開会 開館 開業 解体 開店 開票 完工 記名 解毒 減圧 減員  
檢疫 減産 減税 減速 減量 作曲 取材 譲歩 署名 植樹 節水 節電 施肥  
選曲 増員 奏楽 増産 増資 送信 増税 送電 増兵 増量 組閣 脱臼 脱稿



脱水 築城 注目 点灯 投影 投稿 発信 発生 発電 発話 負傷 編曲 変形  
命名 滅菌

この類の言葉は中国語では自動詞であるが、日本語では自動詞だけでなく、他動詞としても使われる。自動詞の用法は中国語と一致しているが、他動詞として目的語を持つ用法<sup>(13)</sup>に注意が必要である。

b. 動賓構造ではない言葉

一新 飲食 運転 還元 起動 休止 決断 骨折 再生 自衛 昇華 試着 浸染  
生成 絶滅 復活 奮発 化粧 結集 破損 優先 輩出 倍增  
一元化 一体化 液化 活性化 機械化 磁化

「化」類の言葉<sup>(14)</sup>は中国語ではほとんど自動詞である。一部分の言葉は形容詞的になっている。日本語から借用した接字であるが、中国語の言語環境に土着して、品詞性が変わってしまったのである。一方、日本語では「化」類の言葉はほとんど自他両用のサ変動詞なので、中国語母語話者の誤用が起こりやすい。

④中国語では他動詞で、日本語では名詞とサ変自動詞である。

これは次の3種類に下位分類できる。

a. 日本語では普通のサ変自動詞である。

圧死 焼死 激発 控訴 辞去 出演 葬送 疎通 抽選 伝播 発覚 主演<sup>(15)</sup> 埋没

「圧死する」「焼死する」は日本語で自動詞として使われるが、中国語ではどうしても外力を感じて、“被圧死(圧死した)”“烧死了近10万人(10万人近くの人が焼死した)”のように目的語を持ったり、受身の形で使われたりする。日本語に翻訳する時、自動詞で表現しなければならないが、受身や他動詞の誤用が起こりやすい。ちなみに日本語の「圧死」に受身の意味合いが含まれている。「激発する」は日本語では「反対運動が激発する」のようにサ変自動詞として使われるが、中国語では“热情”“兴趣”“积极性”などの目的語を必要とし、日本語の「奮い立たせる」に当たる。中国語の“控訴”等の言葉も同じく目的語を持たなければならない。

b. 日本語では移動的な自動詞である。

退出 超過 通過 走破 踏破

日本語では以上の言葉は全部「を」で移動の場所を表すが、目的語の「を」と偶然一致している。

一方、中国語では移動の意味を表すのは“退出”だけである。“退出”は移動の意味を現しても他動詞として理解される。また組織や試合を脱退する意味もある。

“走破”と“踏破”は“走破鞋子”“踏破门槛”“踏破铁鞋”のように目的語が必要である。

c. 日本語で「に」を以て動作の働きかける対象を表す言葉

違反 違背 回答 解答 加盟 干涉 帰依 屈従 服従 屈服 迎合 酷似 参加  
参与 賛成 賛同 参拝 従事 就任 出席 順応 侵入 進入 精通 接触 戦勝



潜入 遭遇 対抗 挑戦 直面 通曉 追隨 追従 抵抗 適応 適合 同意 憧憬  
到達 符合 命中 盲従 流入 隣接 列席

中国語の他動詞の範囲が日本語より広いので、中国語の目的語は日本語では「を」だけでなく、「に」で表される場合が多い。“違反纪律”“干涉内政”が「規律に違反する」「内政に干涉する」と表現されるように、上述の言葉は日本語でみな「に」で動作の働きかける対象を表すが、中国語の影響で、中国語母語話者が「に」より「を」を使ってしまいうおそれがある。

また、「参拝」は、日本語での重きが「参」にあるのに対して、中国語では「拝」に重きがあるので、日本語では「神宮に参拝する」のように「に」で目的地を表すが、中国語では「神宮」を目的語として「神宮を参拝する」と表現する。

「符合する」は日本語で「に符合す」より「と符合する」のほうが多用されているので、注意が必要である。

⑤中国語では他動詞で、日本語では名詞とサ変自他動詞である。

依頼 仮託 感謝 毀損 決意 決心 散発 伸長 伸張 析出 増進 大破 反映  
汚染 回復 隔離 活用 根治 集結 振興 注意 蓄積 展開 転換 破壊 発現  
発動 噴出 変換 放出 発起 羅列 射出 断絶 超越

これらの言葉は中国語に自動詞の用法がないので、日本語の自動詞としての用法に少々抵抗があると思われる。

また、「依頼」「仮託」「注意」「感謝」などの言葉が日本語でサ変他動詞として使われるとき、往々にして「人」の対象は「に」で表し、「こと」などの対象は「を」で表すのに対して、中国語では人だけが対象になるので、中国語母語話者に「を」が使われがちである。「依頼」は、日本語では「医者に往診を依頼する」のように「人」の対象だけでなく、「こと」の対象も必要であるが、中国語では「人」しか“依赖（頼る）”の対象になれない。

また、「出産」「出品」「応酬」「成就」「汚染」は中国語で他動詞だけでなく、名詞でもある。

⑥中国語では他動詞で、日本語では名詞である。

汚辱 参考

「参考」はよく取り上げられる言葉である。「参照する」は他動詞として一般的に使われているのに、「参考」は名詞としてしか使われない。もともと日本語でも他動詞として使われたが、いつのまに「名詞」だけになって、「参考にする」「参考になる」と表現しなくならなくなった。このような用法の変化に中国語母語話者は強い抵抗を覚えるだろう。

⑦中国語では他動詞と形容詞で、日本語では名詞とサ変他動詞である。

合算 公開 講究 考究 拘束 精鍊 抽象 統一 粉碎 歴任 含蓄



この類の言葉は中国語でもともと他動詞であったが、形容詞化して、現在「他動詞と形容詞」を併せ持つようになった。形容詞としての意味を日本語に翻訳する時、注意しなければならない。例えば、“话说得很含蓄”の“含蓄”は形容詞で、「含蓄がある」の意味を表す。

⑧中国語では自他動詞である言葉。

a. 日本語では名詞とサ変自動詞である。

遺伝 運動 歓呼 感染 休養 協商 協同 解脱 減収 終止 出動 増長 大敗  
転変 変動 融合

中国語の他動詞の用法が日本語にないので、中国語母語話者がこれらの言葉を使うとき、他動詞として扱う可能性がある。

b. 日本語では名詞とサ変他動詞である。

解凍 改版 形成 上映 上演 増強 増産 批准 敷衍 幽閉 累計 冷蔵 連載  
連発 改善

これらの言葉は中国語では自動詞としても使われるので、中国語母語話者は自動詞として誤用してしまう可能性がある。

#### 4.3 中国語では形容詞である言葉

①日本語で名詞だけである

哀愁 安寧 医用 榮光 快樂 過疎 雅致 感傷 危急 偽善 機知 危篤 基本  
驚異 狂熱 矜持 虚偽 巨万 虚榮 虚無 虚妄 義勇 久遠 苦渋 軍用 倦怠  
好学 恒久 好戰 慈愛 慈善 漆黑 慈悲 常務 初級 辛酸 赤貧 絶佳 絶好  
全盛 大吉 对称 耐用 中級 忠誠 長久 長寿 長足 適時 特級 難聴 薄命  
霸道 万全 蛮勇 悲哀 美觀 微賤 僻遠 唯一 諸般 驚異 原始 驚天動地

これらの言葉は日本語では名詞だけなので、後の名詞を修飾する時、「-の」を使わなければならないが、中国語母語話者は形容動詞のように「-な」にしてしまう可能性が大きい。

②日本語で名詞とサ変動詞である

a. 名詞とサ変自動詞

⑦中国語では物事の状態や性質を表す言葉

饱满 充足 繁盛 繁茂 肥大 合格 混浊 混乱 急迫 结实 紧迫 均衡 烂熟  
曲折 特出 透彻 生动 衰弱 衰微 完备 紊乱 污浊 相似 圆熟 灼热

“结实”“合格”“衰弱”“生动”“相似”“肥大”“紊乱”“饱满”などの言葉は人にも使える。

⑧中国語では人の態度や性質や才能などを表す言葉

急進 謹慎 勤勞 傑出 謙虚 謙遜 堅忍 錯乱 執着 精練 専心 退廃・頹廢  
卓越 卓絶 鎮定 疲勞 腐敗 勇躍

⑨中国語では人の感情を表す言葉



日本語の「い形容詞」に感情形容詞の種類があるが、形容動詞には感情形容詞が入っていない。中国語では日本語のような形態上の分類がない。

懊惱 歓喜 驚愕 狂喜 驚喜 恐懼 僥倖 恐怖 狂乱 欣喜 緊張 苦惱 苦悶  
激動 激憤 亢奮・興奮 困苦 慙愧 焦燥 衝動 消沈 煩悶 憤慨 憤怒 偏執  
優越 狼狽 和睦

「緊張する」は動態的に捉えて、緊張する前の状態と暗に比較しているかもしれないが、それは日本人だけでなく、世界中の人は緊張する前の状態との比較がなければ、緊張する状態がわからないだろう。もちろん、緊張する前の状態の他に、不断の日常的な状態、一般的な人の状態も参照物になるのである。問題は「緊張する」に動作性があるかどうかにある。中国語では物事を静態的に捉える傾向がある。それに対して、日本人はある程度、物事を動態的に捉えている。動態的に捉えるというのは比較のプロセスを重んじるが、静態的に捉えるというのはプロセスより結果を優先する傾向がある。この点もある程度中日文化の違いを反映していると言えるだろう。

人の感情や気持ちなどを全部形容詞と分類するのは合理的とは思えない。中国語の感情形容詞にも動詞性が含まれているはずである。例えば、「別紧张」のような表現にはどうしても動詞性が感じられる。必ずしも“了”と一緒に動態的な変化を表すとは限らない。また、中国語の形容詞の使役用法である他動詞の用法はずっと昔から受け継がれてきた。

この類の言葉は日本語で名詞を修飾する時、「～した」や「～的な」になるものが多い。例えば、「卓越した技能」「謙遜した言い方」「憔悴した顔」「透徹した洞察力」「灼熱した論争」「急進的な」「衝動的な」「悲観的な」「楽観的な」のように表現できるのである。

また、「新生」と「老朽」は中国語で形容詞だけでなく、名詞でもある。「新生」は「新入生」の意味もあるが、「老朽」はお年寄りの謙遜した自称でもある。

b. 日本語では名詞と形動とサ変動詞である

他動詞：簡約

自動詞：軽快 卓抜 妥当 稠密 沈着 沈静 貧乏

「簡約」は中国語では形容詞だけで、「簡単である。簡略である。」「つましい。質素である。」<sup>(16)</sup>意味を表すが、「名作を簡約した全集」<sup>(17)</sup>のような「簡単に要約すること。」の意味を表す動詞としての用法がない。

中国語では「不+形容詞か動詞」はもとの形容詞や動詞の品詞性を変えることはできない。日本語では「不」がついたら、もとの言葉の品詞性を変える可能性がある。たとえば、「確定」は名詞とサ変動詞であるが、「不確定」は名詞と形容動詞になる。「規則」は名詞であるが、「不規則」は名詞と形容動詞になる。「満足」は名詞と形容動詞とサ変動詞であるが、「不満足」は名詞と形容動詞である。普通「不」がついたら、サ変動詞がなくなるが、「不自由」は逆で、もともとの「自由」は「名詞・形動」なのに、「不自由」がサ変動詞化し、名詞と形容動詞とサ変動詞を併せ持つようになった。「不自由」の品詞性



は一つの不規則な例外である。日本語で「不」で始まり、サ変動詞である言葉はもう一つある。「不足」は日本語で名詞とサ変自動詞で、中国語では自動詞と形容詞である。

「貧乏」の「貧」も「乏」も形容詞的な漢字なのに、「貧乏する」の形でサ変自動詞として使えるのも不規則な例外だろう。

c. 日本語では名詞・サ変他動詞である

多産 儉約 誇張 糊塗 主導 造作 赤熱 達観 直観 適用 樂觀

「多産」は中国語では「多作」の意味である。例えば、「他是一位多产作家」は「彼は多作な作家である」<sup>(18)</sup>を意味する。日本語の「多産」は「子や卵を多くうむこと。」と「多く産出すること。」<sup>(19)</sup>の二つの意味を持っているが、中日では意味が大きく違っている。「多産」の中国語での意味が「子や卵を多く産む」基本義から敷衍されたと思われる。

「造作」は日本語で二つの読み方がある。「ぞうさ」と読むときは名詞だけで、「ぞうさく」と読むときは名詞とサ変他動詞である。一方、中国語では“夸张”と“主导”は形容詞だけでなく、名詞でもある。

d. 日本語では名詞とサ変自他動詞である

乾燥 慷慨 固執 鎮静 徹底 悲観 卑下 猶予

「慷慨」は昔中国語でも動詞の「志を果たせないことを嘆く」意味があったが、今は形容詞の用法しか残っていない。一方、日本語ではまだサ変動詞の用法が残っていて、「政治腐敗を慷慨する」のように「社会の不義や不正を憤って嘆くこと」の意味を表している。

“猶豫(猶豫)”中国語で「事物を疑って容易に決しないさま。ぐずぐずして決めかねるさま。」を表す形容詞であったが、日本語に入って、サ変自動詞だけでなく、「ローンの支払いを少し猶予してもらえませんか」「刑の執行を猶予した」<sup>(20)</sup>のように、サ変他動詞としても使われている。

e. 中国語では形容詞と他動詞で、日本語では名詞と形容動詞である

温暖 可憐 奇怪 強固 強壯 堅固 健全 潤沢 怠慢 淡泊 端正 純潔 清潔  
清楚 壮大 疎遠 放縱 明白 明確

中国語では形容詞の他動詞化が古くからの現象である。人の外力によって形容詞の状態にさせたりする意味を表す中国語独特な用法なので、中国語母語話者が日本語を習得する時、負の転移が起こりやすいと思われる。

f. 中国語では形容詞と他動詞で、日本語では名詞とサ変動詞である

サ変自動詞：活躍 感動 苦悩 興奮 困惑 充実 動揺

サ変自他動詞：鎮静 鎮定 繁栄 勉強 迷惑 弯曲

g. 中国語では形容詞と自動詞、日本語で名詞と形容動詞である

饒舌 過敏

#### 4.4 中国語で副詞である言葉

① 日本語では名詞である

時刻 恣意(肆意) 随处(随所) 徒步 徒手



“時刻”は中国語で名詞でもある。

②日本語では名詞とサ変動詞である

a. サ変自動詞

徹夜 率先 苦心 対面 実在

「徹夜」は「徹夜で」「徹夜して」の形で後の動詞を修飾する。「率先」は「率先して」で後の動詞を修飾する。“苦心”と“対面”は中国語で名詞でもある。“实在”は中国語で形容詞でもある。

b. サ変他動詞である

強行

c. サ変自他動詞である

倍加

③日本語では名詞・形容動詞である。

不覚 不要 的確 確実 任意

“确实”“任意”は中国語では形容詞でもある。

④日本語では名詞、名詞・形容動詞、副詞である。

恰好

⑤日本語の副詞に「-に」が必要な言葉。

一概に 一時（いちじ）に 一度に 一時に 一心に

## 5. 中日同形語の品詞性の違いの要因

筆者は大量の中日同形語を比較してみた結果、お互いの品詞性の違いをもたらす要因として次の数点が挙げられる。

### 5.1 品詞性の変化

お互いの品詞性の変化が一番の要因であると考えられる。中日での変化の結果によって、「同じように変化した」「日本語での変化による違い」「中国語での変化による違い」「双方の変化による違い」に分類してみた。

①中日で同じように変化した言葉

双方の品詞性が変わっても、変わった後の品詞性が一致している言葉も少なくない。例えば、次の言葉はその例である。

a. 中国語で動詞から形容詞化し、日本語で形容動詞化した

遺憾 果斷 合法 稀有 好奇 好色 固有 失礼 自由 早熟 対等 知名 得意  
有意義 有害 有効 有名 有利 有力 露骨

日本語では「早熟」は形容動詞化しているが、「成熟」は形容動詞化していない。中国語では“早熟”も“成熟”も形容詞化している。言葉の基本義は具体的な動作性を持つ場合が多いが、比喩的抽象的な意味に使われる場合、動作性が消え、その性質が拡大され、



重んじられるようになる。「早熟」の形容動詞化から日本人も中国人と同じように事態を静態的に捉える一面を持っていることを物語っていると言える。

b. 名詞から形容動詞化

下等 高度 細心 正式 低調 低能 適度

②日本語での変化による違い

日本語では品詞性が変わっているが、中国語では変わっていないので、注意が必要である。

a. 名詞の形容動詞化

異質 陰性 強調 空腹 高価 豪気 貞節 多方面 優勢 劣勢 好評 現金

名詞の形容動詞化はその名詞のような性質を備える状態を表す。「AN」構造の言葉に中国語では形容詞で、日本語で形容動詞である言葉が少なくないが、特に日本語でその特徴が目立っている。「AN」構造の言葉は中国語ではAがNを修飾するN中心が多いが、日本語ではAに傾いている可能性が高い。例えば、“高价”は「高い値段」という名詞で、“价”に重きが置かれているが、「高価」は「値段が高いこと」という名詞と形容動詞で、「高」に重きが置かれている。

その他の言葉も中国語では形容詞の用法を持っていないので、注意が必要である。

b. 名詞の副詞化

是非

『日本国語大辞典』によれば、「是非」はもともと名詞であったが、副詞としての用法は「是非共に」の省略から来たということである。

c. 数量詞の副詞化

一層 一段

中国語では「一層」と「一段」には立体的な意味合いが持たれない。「層」は高い建物の階層を数える量詞で、二層以上になると、立体的な意味が生まれてくる。日本語で「一層」が副詞化したのは唐王之渙の《登鸛鵲樓》の詩句「欲窮千里目、更上一層樓」に由来したのではないだろうか。中国語では「前よりさらに進歩する。さらにレベル・アップする」の意味を表す時、“更上一层楼”が多用されているが、日本語では「一層」だけでそのような意味を表すようになって、更に使用範囲が拡大して、「以前にまして、程度が高まるさま」を表す副詞になったのであろう。

「一段」の「段」は中国語では「平面での区切り」の意味しか感じられない。日本語では「段」は中国語の平面的な「物事の区切り」の他に、立体的な「登降できるようにした台状のもの」のつながり。台状のもの。<sup>(21)</sup>を表すことができる。漢字の意味の添加は日本人の生活環境と深くかかわっていると思われる。階段の意味から更に「上下の等級差」を派生してきた。日本語の囲碁などの段位を表す言葉は中国語に輸入されて、一般的に使われるになった。「段位」の言葉と意味は中日で一致しているが、「級」の意味が正反対するのはユニークな現象である。



#### d. 動詞の形容動詞化

架空 杜撰 殺生 絶倫 破格

「杜撰」は中国語では動詞のままで使われているが、日本語では「人のいい加減な仕事ぶり」を表す形容動詞として多用されている。基本義から離れて、人や物事の性質を表す形容動詞化は中国語の形容詞化現象と一致している。

#### e. 自動詞の他動詞化

輩出する<sup>(22)</sup>

「輩出する」はもともと自動詞で、「才能あるすぐれた人材が次々が出る」意味を表していたが、学校教育が発達するにつれて、他動詞化して一般的な卒業生にも使われるようになった。

「骨折する」は「骨が折れる」自動詞であったが、「腕を骨折する」のように他動詞化してしまった。「骨を折る」だったら、他動性が感じられるが、「骨が折れる」には他動性が全く感じられないので、説明しにくい現象である。『明鏡国語辞典』は「外力が加わって、体の骨が折れること。」と説明しているが、おそらく「外力」を強調しているだろう。

#### f. サ変動詞の消滅

汚辱 参考 報恩

#### g. 名詞のサ変動詞化

意見 科学<sup>(23)</sup> 工夫 好調 細工 彩色 志向 心中 精米 前後

同期 同調 伯仲 由来 媒介

“伯仲”中国語で名詞であるが、『汉语大词典』の(4)の意味に“比喻事物不相上下(物事に優劣がないことを喩えて言う)。”と解釈して、次のような例を挙げている。

蜀中山水，如峨眉山，夏含霜電，碑板之所聞，崑崙之伯仲也。

晋 王羲之《与谢安书》

学穷游夏之渊源，文列班杨之伯仲。

宋 秦观《代贺王左丞启》

大抵西山兰若，碧云、香山相伯仲。

明 蒋一葵《长安客话・碧云寺》

三つの用例の中で、動詞的に捉えてもいいのは“相伯仲”だけである。そのほかに“伯仲之间”という言葉もあるが、「互いに優劣の差のない間柄。」を表す名詞である。日本語では名詞だけでは「伯仲」の比喩的な意味を表すことができないので、サ変自動詞にされたのであろう。

#### ③中国語での変化による違い

##### a. 名詞の形容詞化

中国語では形容詞化したが、もとの名詞の用法が残っている。日本語では名詞のままである言葉。

威嚴 威風 下流 感性 官僚 黄色 機械 義気 規則 規範 基本 機密 教条  
經典 虚栄 空洞 景気 芸術 形象 系統 現代 光輝 光明 重点 色情 紳士



人道 性感 精彩 誠心 正規 正義 正統 全面 痴情 体面 痴情 典型 反感  
反動 灰色 美貌 標準 風光 文明 封建 芳香 煩惱 模範 陽光 理性 和氣

b. 動詞の形容詞化

安定 一般化 衛生 遠視 合算 含蓄 完備 飢餓 協調 近視 好學 好戰 固執  
孤立 自信 失意 實用 執着 進歩 專制 尊重 耐久 達觀 致命 抽象 調和  
直觀 低落 適時 統一 投合 透徹 投入 独裁 突出 努力 入神 勇躍 超脱  
悲觀 閉塞 變態 樂觀

「孤立」「突出」は中国語で自動詞から形容詞化し、さらに他動詞化したと考えられる。

「安定」は日常的には名詞とサ変自動詞として使われているが、「理化学で物質が化学反応などによって容易に変えようとしない性質」という意味を表す時は形容動詞である。それに対して、中国語の形容詞の“安定”は普通物事の安定している状態を表す。

c. 名詞から副詞化

極端 絶頂 本能

d. 形容詞の副詞化

純粹 基本

e. 動詞から副詞化

一致 一貫 一定 肯定 努力 強行 至極 苦心 徹夜 比較

f. 形容詞の他動詞化

温暖 純潔 繁榮

g. 日本から名詞しか借用していない。

機能 決算 高潮 故障 正装 比例 正比例 新陳代謝

④中日では別々に変化した。

“亲身”は中国語では副詞化し、日本語では形容動詞化した。

中国語で“共同”はもともと他動詞であったが、副詞化して、さらに形容詞化して、他動詞の用法が消滅した。日本語では「共同」はサ変自動詞化して、「共同で」「共同して」の形で多用される。

## 5.2 中日同形語を構成する漢字の品詞性に対する意識の違い

妥当 高調 高潮 卑下 過熱 灼熱

「妥当」が日本語でサ変動詞としても使われるのは不思議である。中国語では「妥」も「当」も形容詞で、動作性がないので、「妥当」は連合型の形容詞である。『大辞泉』の「妥」の「おだやかに落ち着く。事がおさまる。」と「当」の「あてはまる。道理にかなう。」の解釈から見ると、日本人にはたぶん「妥」にも「当」にも動作性を感じただろう。

日本人は中日の漢語を構成する漢字の品詞性に対する意識の違いによって、言葉全体の品詞性が違ってくるのである。「卑下」もその典型的な例である。中国語では「卑」と「下」は「いやしい」「低い」の意味を表す形容詞であるが、日本語ではどちらも「いやしめる」



また、「へりくだる」を意味する動詞性のある漢字なので、「卑下」は日本語でサ変他動詞手使われるわけである。

「熱」という漢字の品詞性は日本語ではやや複雑である。「加熱」の「熱」は名詞で、中国語と同じであるが、「過熱」「灼熱」の「熱」と自他動詞で、中国語の形容詞と違う。それによって、「過熱」「灼熱」の全体の意味が異なっているのである。“灼热”は古代の中国語で他動詞の用法もあったが、自動詞の用法は確認できなかった。また、今中国語では“灼热”は“热”を中心にする言葉で、「焼けつくように熱い」という意味を表すが、日本語では他動詞としてはほとんど使われなくなったが、中国語と同じ意味を表す名詞と、「焼けて熱くなること。」と比喻義の「感情が非常に高ぶること。」の名詞とサ変自動詞として使われている。「過熱」も同じである。中国語で“过”は副詞的に形容詞の“热”を修飾し、“过热”は“热”を中心にする形容詞で、「熱すぎる」という意味を表す。一方、日本語では「熱」に自動詞相当の「熱くなる」と他動詞相当の「熱くする」の意味を併せ持っている。中国語では「状態や性質」を表す言葉は普通形容詞として捉え、形容詞がまた他動詞化することが出来るが、自動詞として意識されない漢字が多い。

### 5.3 日本語では漢字に新しい意味を与えた

「軽快」の形容動詞と名詞の「みがるで、すばやいさま。」「心がはずむような、軽い感じであること。」の意味が中国語と共通しているが、「病気の軽くなること。」を表す名詞とサ変動詞の用法が中国語にないので、注意が必要である。『大辞泉』の「快」に対する解釈に「病気がよくなる。」意味が載せてある。例として、「快復・快方・快癒／全快」を挙げている。これは日本語の独特な意味である。

### 5.4 日本人は一部分の漢語の基本義に忠実であるが、中国語では言葉の基本義からどんどん離れていき、抽象的な派生義が発達していた

「徹底」の中日での品詞性の違いは非常に興味深い現象である。《汉语大词典》は次のように説明している。

#### (1) 通透到底。形容深透、完全而无所遗留。

十日内，每日数度以杷彻底搅之。 北魏 贾思勰《齐民要术・作酱法》

塞迥连天雪，河深彻底冰。 唐 马戴《边将》诗

#### (2) 形容水清见底。

明湖映天光，彻底见秋色。 唐 李白《秋登巴陵望洞庭》诗

两处双溪清彻底，二子诗句清于溪。 宋 杨万里《谢曹宗臣惠〈双溪集〉》诗

“彻底”の基本義は“通透到底。”であり、日本語のほとんどの辞書では「底まで貫き通ること」と説明されている。しかし、中国語での用例を見れば、“彻底”の動作性は“彻底搅之”と“河深彻底冰”は基本義で使われているが、動詞的に使われるのではなく、後の動詞を修飾している働きをしている。正に“形容深透、完全而无所遗留。”「のこす所なく行きとどく状態」を形容しているのである。したがって、“彻底搅之”の“彻底”は「のこす所なく行きとどいて」「隅々まで」「徹底的に」「徹底して」と解釈すべきであ



るが、“河深徹底冰”の“徹底”は「河の底まで」「川の水全部」と解釈できる。(2)の“徹底見秋色”と“清徹底”は“形容水清见底。”つまり「水が底まで澄み切っている状態」を形容している。「徹」はもともと動詞の「貫きとおる」の意味があったが、「徹底」という言葉の用例から、動作性の動詞より、状態描写の形容詞に傾いているのである。一方、日本語に入った「徹底」は「貫きとおること」「のこる所なく行き届くこと」の動作性がずっと保たれている。さらに自動詞から他動詞に変わってきたのである。名詞を修飾する時は、「徹底的な」「徹底した」が、動詞を修飾する時は「徹底的に」「徹底して」が使われている。日本語では「徹」の動詞性が重んじられているので、「徹夜」「透徹」もサ変動詞として使われているのである。

#### 5.5 日本人は物事を動的に捉え、中国人は物事を静的に捉える傾向がある

「早熟」は日本語でも形容動詞化した。しかし、「晩熟」は名詞だけである。「完熟」は名詞とサ変動詞で、「完熟トマト」は「完熟したトマト」と同じ意味で、「完熟するのを待って収穫する」は将来の事について言っている。

日本語の表現に時間的な幅がある。

「熟」はもともと中国語でも動作性があったが、だんだん熟した状態を強調するようになり、動作性が失われてしまい、形容詞化してしまった。しかし、形容詞が形容詞を修飾できないので、「早熟」「晩熟」などに含まれている「熟」は動詞であるべきだ。「早熟」と「晩熟」は「形容詞＋動詞」の修飾型であるのに対して、「円熟」の構成は違い、「形容詞＋形容詞」の連合型である。

#### 5.6 日本人は物事のプロセスを重んじ、中国人はプロセスより結果を重んじる傾向がある (24)

中国人にこれらの言葉に動作性が感じられず、目の前の静止した状態しか捉えられない。「老」「衰」などに動作性がないわけではないが、変化の過程が長い、少しずつ変わっている、そのプロセスは客観的には感じにくい。

「熟」も少しずつ変化するプロセスである。成熟期に入ってから「爛熟する」「完熟する」まで実際時間的幅がある。しかし、中国人は熟した状態に焦点を当てるのである。

「完備」は物事をすべて備える動作を表し、中国語では「すべて備えた」状態から「すべて備わった」状態を表す形容詞になった。

「似る」という自動詞はふつう「似ている」という形で状態を表す。「相似する」も「互いに似ている」状態を表す。

瞬間的な動作の結果を表す言葉は変化の結果の状態が一定期間持続するが、中国語ではその状態が持続しているより、状態そのものを重んじるのである。

#### 5.7 自他動詞の違いの要因

##### ①語構成の違い



「発案」中日の語構成が違ふ。中国語では「はつ」は「起こる」という意味で、自動詞である。「案」は事件の意味である。つまり、これは主語後置の言葉である。全体としては自動詞で、「事件が発生する」という意味を表す。

日本語の「発」は他動詞的で、「出す」を意味し、「案」は「アイデア」「考え」「議案」などを意味する。全体としては、他動詞で、「(計画などを)新しく考え出すこと。」と「議案を提出すること」の二つの意味を表す。

## ②目的語の違い

日本語で動賓構成の「VNする」が他動詞用法を持つ現象について、影山(1980)、小林(2004)は、「VNする」全体が目的語を取る場合、その目的語は「VNする」の「N」の下位語であり、両者は包摂関係であると指摘している。小林(2004)はさらに、「「N」とヲ格目的語は全体・部分の関係を表す」と指摘している。張善実(2010)はそれを踏まえて、「除名する」「整形する」「保温する」などの例を挙げて、説明したうえで、更に「ヲ格目的語は「N」の行為が行われる場所を表す」と付け加えた。しかし、筆者の分析では、「除名」は所属関係を表し、「保温」は状態を表す。また「フライパンを加熱する」には、「フライパン」と「熱」には包摂関係、所属関係もなく、状態を変える類に所属するだろう。日本語では普通「熱を加える」の対象は「に」で表すが、「加熱する」となると、「を」を使わなければならない。「医療機関を受診する」「皮膚科を受診する」「専門医を受診する」などの表現は、場所より動作主を表していると思われる。つまり、「～の診察を受ける」ように理解できる。

「長大」の意味の違いの要因は中国語の多音字の“长”にある。動詞としての“zhǎng”と形容詞としての“cháng”の二種類の読み方があるので、語構成も違うのである。「動詞的根字+形容詞的根字」の場合、全体は動詞になって、「育つ。成長する。大きくなる」の意味になるが、「形容詞的根字+形容詞的根字」は「長くて大きい」という意味を表し、今の日本語意味とほとんど同じである。中国語で形容詞の意味が消えて、動詞の意味だけ残っているので、中日同形語の「長大」の意味の違いをもたらしたのである。

## 5.8 日本語では漢語の造語要素になった

中国語では独立した一品詞として使われるが、日本語では語を構成する一要素になった。

機動 国際 積極 消極 具体 倦怠

## 5.9 “介词”は中国語独特な品詞類

比较 本 朝 冲 除去 打 当 对 根据 和 经由 连 论 顺 通过 问 依据  
用 由 缘 值 作为<sup>(25)</sup>

## 5.10 中国語の一部の意味しか日本語に伝わっていない

「発覚」について見てみよう。《汉语大词典》の説明と用例<sup>(26)</sup>によれば、“发觉”はもともと自動詞としても他動詞としても使われたのである。自動詞の「悪事・陰謀などが人に知られる」という意味は日本語と全く同じであったが、中国語では受け継がれてこなかった。



#### 5.11 中国語で動詞の用法が消えたが、日本語ではまだ残っている

位置 原因 現在 婚姻 演技 誓言 行列 嗜好 修養 成約 戦争 破綻 宣言  
二分 決議

“位置”<sup>(27)</sup>“婚姻”<sup>(28)</sup>などは昔自動詞的な用法があったが、ほとんど消滅してしまった。日本語ではまだサ変自動詞として使われている。

“破綻”<sup>(29)</sup>は中国語で動詞として基本義の「服や帽子や靴などが綻びる」を表していたが、だんだん名詞化して、「ぬけめ」という意味を表すようになった。一方、日本語では「生活が破綻する」「財政が破綻する」「経営が破綻する」のように比喩的な「正常な状態が維持できなくなる」という意味を表すようになった。

#### 6. おわりに

日本語は形式を重んじる言語である。日本語を習得するとき、意味だけでなく、形式もきちんと整えなければならない。

品詞性が同じで、品詞性の問題が起こらないものでも、意味の違いに注意が必要である。とくに、日本語では漢語は基本的に名詞として意識され、兼類の場合の名詞は中国語の兼類の名詞と意味が大きく違う場合が多いので、習得の時、細心の注意を払う必要がある。

品詞性の違いは意味用法の違いに直結しているので、意味用法の相違を反映していると言える。品詞性が大きくずれている中日同形語は、意味用法の重なっている部分を除いて、大きく違っている意味用法に注意する必要がある。

中日同形語の自他動詞のずれがボイスなどに影響が出るのはいうまでもない。例えば、中国語では自他動詞で、日本語では自動詞だけの言葉は受け身と使役文の両方に誤用が起こりやすい。

言語発展の歴史は具体的な意味から抽象化し、基本義から離れていき、比喩的な意味や抽象的な意味へどんどん拡張されて、派生していく。いわゆる転義の現象である。品詞性もそれに従って変わっていく。それで、中国語では形式上形容詞化した言葉が相対的に多い。一方、日本語では中国語から入って来た言葉の意味がどんどん変えられてきたが、形式上の変化があまり伴っていないので、形式的な形容詞や形容動詞が相対的に少ないのである。村木新次郎(2004)によれば、実際日本語に形容詞的に使われている表現が多く存在している。

品詞性の変化が中日同形語の品詞性の違いの一番の要因である。品詞性の変化はもともと品詞性にずれがある言葉の品詞性、特に品詞性の兼類をさらに複雑化してしまった。その中で、特に注意が必要なのは中国語の形容詞と日本語のサ変自他動詞の用法である。中国語では形容詞である言葉が、日本語では必ずしも形容動詞ではない。中国語では物事の状態や性質、人の精神状態を表す言葉は形容詞に属するが、日本語ではほとんどサ変動詞なので、特に注意が必要である。中国語の形容詞から他動詞化した言葉や日本語の動賓構造のサ変他動詞にも注意しなければならない。



注

(1) 村木新次郎(2004)p10

(2) 日本語での品詞性の認定は主に『日本語国語大辞典』『広辞苑』『大辞林』『岩波国語辞典』『明鏡国語辞典』ベネッセ『表現読解国語辞典』『大辞泉』『講談社日中辞典』『新明解国語辞典』『プログレッシブ和英中辞典』などの辞書を参考にした。サ変動詞は「を」で目的語を持つことができる場合、他動詞と判定し、「を」で目的語を持つことが出来なければ、自動詞と判定し、「を」で目的語を持っても持たなくてもいい場合、自他両用と判定した。

中国語の辞書は主に《現代汉语词典》『講談社中日辞典』『汉语大词典』などを参考にして、認定した。

(3) 侯仁鋒(1997)は次の8タイプに分類した。

①中国語では動詞、日本語では名詞

依拠 参考 関心 犠牲 損害 習慣

②日本語では名詞のほかに動詞の用法もあるが、中国語では普通は名詞としての用法しかない

提案 見聞 工夫 用意 近道 人選

③両言語には共に名詞の用法があるが、一方日本語では動詞の用法があるのに反して、中国語では形容詞の用法

疲労 矛盾 混乱 混雑 謹慎

④中国語では形容詞或いは副詞、日本語では名詞

積極 科学 徹底 樂觀 具体 経済 合法 人道 消極 機械

⑤中国語では形容詞或いは副詞、日本語では動詞

発達 緊張 興奮 一致 腐敗 不足 乾燥 優越 充実 卓越 彎曲 一貫

⑥中国語では他動詞、日本語では自動詞

干涉 出席 着眼 注意 反対

⑦中国語では自・他動詞両用、日本語では自動詞用法のみ

発展 普及

⑧「〇然」型の同形語は中国語では副詞、日本語ではタルト形容動詞

決然 雜然 轟然 蕭然 毅然 整然 漠然 など

(4) 名詞である同形語は大きく次の2類に分類できる。

①同じ意味である名詞は次の同形語が挙げられる。

愛称 哀調 赤潮 秋 秋風 秋雨 秋草 惡事 惡手 惡臭 惡習 惡戰 惡人  
惡念 惡魔 惡夢 惡名 握力 朝露 足跡 亜種 雨傘 雨具 雨靴 網 雨  
雨露 安危 行宮 暗礁 暗室 暗夜 暗流 衣冠 異義 異議 意義 委員 遺影  
胃液 医科 医学 胃癌 異郷 偉業 遺訓 囲碁 遺稿 意向 遺骨 遺作 遺産  
胃酸 意志 医師 遺志 石橋 異種 意趣 異臭 医術 遺書 医書 威信 偉人



異性	遺制	遺跡	異說	遺體	異端	胃腸	逸事(軼事)	緯度	異同	犬	稻
命	胃病	遺風	衣服	遺物	異物	胃壁	醫藥	醫療	威力	陰莖	隱語
陰極	咽喉	印象	印章	因數	隕石	陰部	隱喻	飲料	歌	歌聲	宇宙
雨滴	雨天	右腦	右派	右邊	海	海牛	海龜	海辺	梅	右翼	羽翼
雨露	鱗	右腕	運	雲煙	運河	運氣	運勢	液晶	液体	益虫	益鳥
疫病	干支	遠因	煙雨	円環	援軍	遠近	園芸	演芸	冤罪	塩酸	円周
猿人	円錐	塩水	宴席	沿線	円卓	園長	円筒	沿道	援兵	遠方	煙霧
遠洋	遠路	桜花	王冠	奧義	王宮	王国	黄金	王子	橫線	黄土	櫻桃
王妃	奧秘	污泥	汚名	音韻	音域	音樂	音感	恩惠	恩師	温室	温床
恩情	音信	恩人	音節	溫泉	音素	音速	溫帶	音調	音符	音律	音量
外庄	海域	會員	海員	外因	海運	海外	外界	會館	外觀	會規	會期
階級	快挙	海峽	概況	海軍	外形	外徑	蚕	海港	外國	外債	快事
海事	外資	外事	外需	海獸	楷書	會場	海上	外商	概數	回数	海戰
階層	海藻	海草	會則	海中	害虫	會長	回腸	海鳥	外敵	外電	快刀
會堂	海棠	街灯	外套	街頭	海難	概念	海馬	海拔	外皮	海浜	外部
海風	外壁	會報	海防	外貌	海面	海綿	海洋	概要	概略	海流	外力
海路	回廊	概論	下院	家運	画架	画家	課外	価格	化学	夏季	下級
佳境	家業	画境	歌曲	家禽	家具	各位	學位	各界	格言	核酸	學士
學識	學者	各種	樂章	核心	學制	學籍	學說	樂隊	樂壇	各地	格調
角度	學年	學派	學費	學府	岳父	樂譜	學風	學問	學力	學歷	家訓
花莖	佳景	歌劇	下弦	下限	河口	禍根	火災	家財	佳作	下肢	歌詞
舵	過失	佳日	画室	歌手	果樹	画趣	雅趣	果汁	画集	画商	佳人
下囟	火星	火勢	家政	画聖	仮説	画題	片言	下端	花壇	學界	画壇
価値	家畜	火中	花鳥	閣下	學期	樂器	樂曲	學区	各國	活力	家庭
過程	課程	家電	河馬	蚊柱	画板	果皮	画筆	佳品	寡婦	画譜	家風
禍福	花粉	貨幣	壁紙	画法	画報	南瓜	髮型	上座	紙袋	画面	科目
貨物	火藥	蚊帳	伽藍	火力	画廊	肝炎	眼科	眼球	環境	奸計	眼光
監獄	冠詞	漢詩	幹事	漢字	眼疾	患者	環狀	閑職	飲心	慣性	関税
岩石	幹線	艦船	元祖	間奏	感想	甘草	肝臟	寒帶	元旦	館長	艦長
官邸	艦艇	眼底	卷頭	寒梅	甲板	完膚	寒風	眼福	卷末	寒流	含量
顏料	慣例	氣圧	議案	議員	器械	規格	氣管	奇觀	季刊	器官	危機
疑義	氣球	企業	戲曲	基金	器具	奇遇	期限	起源	氣候	技巧	奇才
奇策	棋士	騎士	技師	儀式	記者	旗手	騎手	基準	悌心	奇數	氣勢
奇跡	議席	季節	基礎	議題	北風	北国	疑團	基地	機長	議長	龜甲
吉兆	汽艇	規程	汽笛	起点	基点	疑点	帰途	軌道	忌日	絹	氣囊



技能	棋譜	棋風	器物	騎兵	規模	氣泡	奇峰	技法	氣脈	偽名	疑問	規約
客船	脚本	脚下	逆境	逆光	杞憂	嗅覺	球菌	球形	球莖	球體	宮廷	宮殿
牛痘	牛肉	牛馬	旧版	吸盤	急病	教案	胸囿	教員	協會	仰角	凶器	狹義
教義	胸襟	教具	境遇	強豪	強國	峽谷	強者	強弱	凶手	鄉愁	強震	業績
凶彈	境地	胸椎	教程	強敵	教徒	鄉土	享年	教派	共犯	教父	胸部	狂風
強風	教鞭	業務	經文	恐竜	橋梁	魚介	巨艦	漁業	極限	極地	極致	曲調
極点	局面	魚群	漁港	巨資	漁場	巨人	巨星	魚網	魚雷	霧	氣流	氣力
帰路	近影	銀河	近海	金塊	金額	銀器	金魚	近況	近郊	金鉞	銀鉞	禽獸
禁書	近親	金星	金錢	金属	銀杏	金髮	銀髮	銀幕	金融	近隣	菌類	区域
空氣	空隙	寓言	偶数	偶像	草地	草木	草原	孔雀	苦汁	口紅	苦衷	屈辱
句読	苦難	熊	組曲	雲	蜘蛛	苦樂	黑髮	黑雲	黑土	黑貂	黑豆	歛
勲章	經緯	敬意	景觀	刑期	契機	警句	刑具	敬語	螢光	溪谷	形式	敬称
輕傷	警鐘	刑場	形狀	係数	形勢	輕装	形体	形態	頸椎	警笛	經度	鷄肉
刑罰	經費	刑法	警報	警務	輕油	溪流	系列	毛蟹	毛皮	袈裟	景色	血圧
血液	血縁	結核	血管	血氣	血痕	血腫	血漿	血色	血清	結石	血栓	結腸
血沈	血統	血糖	血肉	血尿	血便	結膜	血脈	血淚	血路	仮病	毛虫	煙
堅果	懸河	見解	圈外	嫌疑	權限	乾坤	建材	劍術	肩章	憲章	謙称	件数
權勢	憲政	圈内	鍵盤	劍法	拳法	憲法	權利	權力	恋人	光圧	高圧	好意
行為	厚意	皇位	校医	光陰	公益	公園	厚恩	恒温	高温	効果	校歌	高架
公海	郊外	広角	甲殻	光学	好感	高官	辜丸	鋼管	校規	広義	厚誼	後宮
工業	鉞業	航空	高空	校訓	工芸	高見	光源	荒原	高原	口腔	後項	黄砂
公債	功罪	鋼材	鉞産	高山	鉞山	公使	口実	後者	校舍	口臭	公衆	鉞床
工場	厚情	公職	香水	降水	硬水	洪水	攻勢	後世	恒星	功績	鉞石	口舌
光線	高僧	抗体	光沢	紅茶	行程	航程	鋼鉄	好天	紅土	硬度	喉頭	坑道
校内	効能	光波	紅梅	鋼板	公費	後部	鉞物	高峰	攻防	興亡	公民	公務
肛門	校門	綱要	公理	功利	効率	綱領	香炉	高論	港湾	蟋蟀	古画	湖岸
顧客	故郷	国運	国益	国王	黒煙	国技	国号	国策	国事	酷暑	国情	黒人
国粋	国政	国籍	国葬	穀倉	国鳥	国土	国道	国内	黒板	国賓	国宝	国法
国防	国民	国名	穀物	国力	心得	心得	小魚	小雨	孤兒	胡椒	湖心	個人
湖水	個数	個性	戸籍	古跡	弧線	固体	個体	古代	国花	国家	国歌	国会
国旗	国境	小鼓	骨肉	湖底	個展	古都	孤島	小鳥	粉薬	琥珀	湖畔	古墳
古木	枯木	小麦	米	米粒	湖面	顧問	根莖	根源	根号	痕跡	昆虫	
魂魄	婚礼	差異	菜園	災禍	災害	才氣	細菌	歲月	債券	債權	最後	最初
才女	細則	才知(才智)	才能	細胞	歳末	債務	差額	砂丘	砂糖	茶道	索引	昨晚
作品	昨夜	策略	酒	酒糟	左舷	鎖骨	瑣事	殺氣			蛹	左脳



左派	左辺	砂礫	慘禍	傘下	贊歌・讚歌	山河	三角	山岳	產業	珊瑚	散剂
慘事	贊辞(讚辞)		算式	算術	慘状	山色	酸性	山村	山地	山中	山頂
酸度	栈道	山道	產品	產婦	山腹	產物	散文	酸味	山脈	山野	山林
山麓	詩歌	死因	塩水	潮水	市価	四海	死角	視角	視覺	資格	史学
士氣	四季	死期	色感	色弱	色素	色調	色魔	色盲	子宮	詩学	史観
詩興	色欲	資金	詩句	資源	詩稿	死罪	資產	四肢	私事	紙質	詩境
使者	詩集	史書	私情	詩情	私心	指針	私人	詩人	指数	市況	死者
姿勢	雌性	史跡	使節	支線	視線	始祖	子孫	肢体	紫檀	市政	死生
支柱	市長	思潮	室溫	質感	漆器	濕氣	濕原	桎梏	詩壇	紫竹	七彩
疾風	支点	視点	老舖	私物	私憤	濕文	紙幣	至宝	濕疹	湿度	室內
清水	使命	四面	老舖	私物	私憤	詩文	紙幣	至宝	濕疹	濕度	島
斜線	車窓	車体	射程	車内	斜辺	斜面	斜陽	社交	瀉剂	謝辞	車種
主因	周圍	收益	秋季	臭氣	宗教	終曲	終局	終極	修辭	秋日	終日
愁色	秋水	習性	秋霜	習俗	醜態	終点	周年	周波	修辭	秋日	秋色
週辺	週末	主義	祝辞	淑女	宿命	主權	主語	種子	修辭	秋日	醜聞
主食	酒色	酒税	酒席	主題	手段	主調	首都	主任	修辭	秋日	首相
主婦	手法	主峰	主謀	主脈	主流	酒量	酒類	種類	主犯	趣旨	主賓
春秋	春色	春風	春分	春眠	駿馬	春雷	春蘭	枝葉	主腦	酒杯	瞬間
商機	勝機	商業	証券	証拠	症候	商号	称号	小国	棕櫚	春画	春季
証書	少数	小数	小説	章節	商船	商戰	肖像	消息	勝算	硝煙	商家
商人	少年	樟腦	勝敗	商標	商品	菖蒲	商法	商務	商店	少女	少将
書架	書画	初期	私欲	職員	食塩	食指	触手	職種	裝束	焦点	焦土
食品	植物	食物	食欲	緒言	書齋	初秋	初春	処暑	正面	少量	初夏
觸覚	触感	織機	職權	書店	初冬	勝地	所得	初版	食堂	觸媒	初段
白旗	白帆	私利	史料	資料	飼料	視力	白馬	真意	初診	書籍	白髮
真価	深海	神学	新館	信義	神技	鍼灸	新居	心境	庶民	書名	唇音
親權	深交	信号	深山	新車	真珠	深秋	新春	信條	真因	深淵	心血
神仙	真相	心臓	身体	新茶	身長	信徒	深度	進度	真空	神經	親戚
新版	新品	深部	新風	振幅	神仏	身辺	新芽	新藥	心情	神職	新派
神靈	新郎	神話	水圧	水位	水域	水運	水温	西瓜	神童	新年	新森
水禽	水銀	水源	水彩	水産	水質	水車	水腫	水鳥	心理	神力	森林
水勢	彗星	水仙	垂線	水草	水槽	醉態	水中	水面	醉漢	水球	水郷
水稻	隧道	水分	水兵	水泡	水疱	睡魔	睡眠	数值	水晶	水深	水星
水力	推力	睡蓮	水路	数学	数字	数式	趨勢	青雲	水底	水田	水痘
炭火	性愛	誠意	西域	声域	成員	成因	星雲	精液	水滴	水利	水量
									数理	数量	数列
									数量	数量	涼風
									数量	数量	成果



盛夏	聖火	政界	盛會	性格	聲樂	世紀	正義	盛況	政局	生計	西經	政經
政見	政權	成語	精巧	政策	成算	精子	政治	性質	青春	性狀	性情	政情
正數	整數	成績	聖跡	聖戰	生前	聖人	生態	聲帶	靜態	聖地	聲調	性徵
政敵	盛典	晴天	聖典	制度	精度	政黨	正道	青銅	西南	精肉	青年	性能
性病	製品	政府	西部	生物	靜物	正文	性別	政變	生母	聖母	西方	製法
聲望	西北	正本	製本	生命	聲名	姓名	盛名	正門	西洋	性欲	生理	勢力
精力	政令	西曆	蒸籠	世界	石英	石材	脊椎	石塔	赤道	責任	石碑	石仏
石油	脊梁	世事	世情	石灰	石器	石窟	雪溪	雪景	雪原	石膏	拙稿	節操
雪中	節分	切片	纖維	船員	戰火	戰果	戰艦	戰術	戰場	仙境	戰況	戰局
扇形	鮮血	戰後	戰車	船主	船首	選集	仙術	戰術	戰術	扇子	戰績	戰線
戰前	先祖	船體	船隊	戰端	戰地	船長	先哲	尖塔	鮮肉	仙女	仙人	船舶
戰犯	船尾	旋風	戰法	扇面	仙藥	戰乱	旋律	戰略	染料	戰力	先例	草案
創意	騷音	總額	早期	壯舉	双肩	草原	倉庫	草稿	霜降	早婚	總裁	早春
創傷	總數	草體	壯年	雙璧	雙方	草木	總量	總論	總和	速度	側面	粗鋼
祖國	底力	素材	措辭	訴狀	祖先	足下	祖父	祖母	微風	村長	田	他意
體育	體液	體溫	大火	大會	體格	對岸	大魚	胎教	大局	大軍	大計	體形
體系	體型	隊形	大權	隊伍	大國	對策	胎兒	大志	大使	大樹	大衆	體臭
體重	對數	態勢	體積	大雪	體操	體長	隊長	泰斗	體內	胎盤	堆肥	台風
大麻	體毛	大洋	太陽	大陸	體力	隊列	多寡	宝物	竹竿	他國	多年	担架
單個	短期	胆汁	炭素	短波	胆力	治安	地位	地域	知音	地下	地価	地核
地殼	地學	地球	地峽	地區	畜產	竹林	地形	地溝	知識	地質	地勢	地帶
父親	秩序	知能(智能)	地表	乳房	地名	虫害	中央	中期	忠言	中性	紐帶	紐帶
中部	中腹	廚房	晝夜	潮位	聽覺	長期	兆候	徵候	鳥獸	朝夕	潮汐	影像
朝廷	頂點	長波	跳馬	潮流	張力	聽力	鳥類	直線	直腸	直径	地理	梅雨
冰柱	鶴	劍	低音	低溫	低空	帝國	貞操	堤防	底面	提要	定理	定論
敵意	適溫	敵手	敵情	敵陣	手下	手相	哲學	鐵管	鐵器	敵機	鐵橋	鐵拳
鉄鉞	鉄索	鉄則	鉄塔	鉄道	鉄板	鉄壁	哲理	店員	天下	天涯	典拠	天空
天候	天国	天才	天災	天使	篆字	店主	天壽	天職	天性	典籍	天體	天敵
天道	天女	天分	天賦	店舖	天窓	天文	典禮	轉炉	天理	灯火	等価	冬瓜
冬季	黨紀	陶器	等級	東經	陶芸	当月	刀劍	唐詩	闔志	冬至	當時	當日
灯心	黨籍	灯台	當地	凍土	東南	党派	頭髮	頭部	糖分	東方	東北	頭目
東洋	灯籠	遠山	特技	特産	特使	特色	特性	特徵	德望	特例	図書	特価
特級	特權	特効	徒弟	賭場	徒步	塗料	内因	内海	内外	内閣	内情	内心
内政	内戰	内臟	内部	内壁	内容	内乱	内陸	苗木	中指	梨	茄子	夏草
夏蚕	夏日	鍋	生魚	生水	鉛	難関	南極	軟膏	南国	軟骨	難事	難色
軟水	南端	難度	南部	南風	南方	南北	難民	苦瓜	肉	肉眼	肉牛	肉体



肉彈	日常	日夜	日記	日光	日照	日食	日程	乳液	乳癌	乳業	乳劑	乳酸
乳頭	乳房	尿	尿意	尿酸	尿道	任期	人稱	人情	人數	任務	貓	熱血
熱源	熱帶	熱量	粘土	粘液	年鑑	年限	年號	年數	粘性	年代	年度	粘土
年內	年表	粘膜	年末	年利	燃料	年輪	年齡	腦炎	農家	農學	農業	農具
農耕	野兔	腦漿	農場	農村	濃淡	囊中	濃度	腦波	農民	濃霧	農藥	能力
野火	野蒜	狼煙	廢案	敗因	肺炎	胚芽	肺癌	敗軍	胚珠	敗色	廢水	胚胎
胚乳	肺病	廢品	廢物	背面	肺葉	鋼	白衣	白雲	白菜	白人	白癬	白晝
白梅	白髮	薄冰	薄片	霸權	梯子	蜂蜜	波長	白骨	鼻息	鼻毛	花園	花束
鼻血	花卉	母親	破片	春蚕	波浪	範圍	半円	版面	半旗	半徑	版權	半身
半數	帆船	範疇	斑點	版圖	半島	半年	犯人	伴侶	凡例	判例	皮下	皮革
秘境	悲劇	秘訣	被告	秘史	比重	翡翠	脾臟	筆順	筆者	筆跡	筆致	人質
火花	雲雀	皮膚	碑文	秘法	秘方	曾孫	飛沫	百科	百貨	費用	水河	評語
標語	標高	冰山	標識	表情	表層	表象	冰點	冰囊	表皮	比率	肥料	廣場
品格	貧血	品行	品種	品性	頻度	貧民	品名	品目	風壓	風雨	風雲	風向
風速	風潮	風土	風波	夫婦	風物	風力	風鈴	風浪	福音	副業	副詞	服飾
副食	腹痛	伏兵	副本	福利	負號	符號	富豪	夫妻	腐臭	婦女	夫人	負數
付図(附図)	付則(附則)	付則(附則)	付則(附則)	付則(附則)	付則(附則)	付則(附則)	付則(附則)	付則(附則)	付則(附則)	付則(附則)	付則(附則)	付則(附則)
兵役	陛下	兵器	平日	平地	兵法	平民	平面	壁面	糸瓜	蛇	偏見	變種
鳳凰	砲火	法學	寶器	法規	寶玉	方形	包莖	寶劍	寶庫	方向	方式	報酬
疱疹	法人	方針	法制	寶石	法則	砲台	砲彈	法廷	法典	寶刀	寶塔	豐年
抱負	方法	法網	寶物	法律	法令	北緯	北端	北部	步調	北極	弊端	步兵
本意	本義	本日	本土	本部	魔王	魔界	間數	牧場	魔境	魔窟	枕木	魔手
街角	末期	末技	末梢	末尾	窓口	魔法	繼父	繼母	眉毛	魔力	滿員	滿腔
滿身	滿面	滿目	味覺	右腕	右側	水垢	水草	水鳥	水辺	蜜月	密室	蜜蜂
密林	南風	土產	妙案	妙計	妙策	妙趣	明星	妙味	妙齡	未來	魅力	民意
民間	民權	民事	民衆	民情	民族	民俗	民謠	夢幻	明暗	名醫	名園	名義
迷宮	名曲	明月	名言	名作	名產	名山	名稱	名勝	名人	名聲	明文	名目
盟友	名利	雌蕊	瑪瑙	面前	猛威	猛禽	猛虎	網狀	毛髮	毛筆	網膜	木材
木星	木馬	木板	木版	目標	木片	目錄	模型	文字	木管	雙手	門下	門戶
門前	門派	野外	夜間	野牛	藥液	藥劑	藥酒	藥草	藥品	詠文	夜景	野獸
夜色	野性	野草	野鳥	藥餌	藥効	夜半	誘因	勇氣	勇士	勇姿	雄姿	友情
友人	郵政	融點	雄弁	雪國	雪道	雪山	油脂	油井	油田	洋傘	容器	用具
用語	溶劑	葉酸	要旨	容姿	幼兒	洋酒	要衝	要職	養父	養母	容積	要素
用地	要地	幼虫	腰椎	要點	用途	幼年	用品	養父	養母	羊毛	要領	容量
用例	夜風	余暇	浴室	欲望	余罪	余震	余生	夜空	余地	予兆	余波	余力
樂園	落日	駱駝	裸體	喇叭	欄干	亂世	來意	雷雨	來客	來賓	落差	亂麻



利益 理科 利害 力学 力作 力量 陸軍 陸地 陸路 利潤 立夏 立秋 立春  
 立冬 理念 理由 流域 流感 硫酸 流水 流星 流速 流体 流彈 流派 柳眉  
 領域 良緣 領海 兩側 兩極 領空 獵犬 良港 兩國 領事 兩者 領袖 良心  
 兩性 兩端 領土 療法 良藥 旅客 旅館 綠茶 旅情 旅費 林業 隣国 倫理  
 類型 零下 例会 冷眼 禮儀 靈柩 靈魂 荔枝 冷水 禮節 例題 零度 礼服  
 黎明 靈藥 歷史 歷程 歷年 曆法 烈火 列強 列国 烈日 列車 列伝 列島  
 連邦(聯邦) 連盟(聯盟) 老眼 牢獄 老人 老年 勞力 路上 露台 肋骨  
 路程 路頭 路傍 論拋 論旨 論集 論題 論壇 論調 論点 論文 和音 和声

話題 和服

亞寒帶 愛國心 亞熱帶 暗紅色 安全灯 胃潰瘍 胃下垂 一部分 医務室 印象派  
 運動会 運動場 閱覽室 遠距離 円周率 円錐形 円錐体 凹面鏡 大舞台 音樂家  
 溫度計 海王星 戒嚴令 外国語 外国人 海水浴 外祖父 外祖母 回帰線 核彈頭  
 核反応 火口湖 火山灰 火成岩 火葬場 加速度 価値観 下半身 仮分数 上半期  
 火藥庫 過勞死 管弦樂 幹細胞 活性炭 活断層 下半期 関節炎 感染症 感嘆詞  
 鑑定書 乾電池 氣圧計 起重機 气象台 規則性 器楽曲 啄木鳥 議定書 記念碑  
 揮発油 疑問詞 客観性 吸血鬼 休止符 救世主 急先鋒 教育学 教科書 狂犬病  
 共産党 強心剤 狂想曲 協奏曲 夾竹桃 橋頭堡 強力粉 共和国 虚栄心 魚介類  
 銀河系 近視眼 近似値 輕音楽 輕金属 蛍光灯 輕工業 經濟界 經濟学 頸動脈  
 血小板 決定論 血糖値 結膜炎 檢察官 腱鞘炎 遣唐使 顕微鏡 健忘症 高圧線  
 降圧剤 口蓋垂 甲殻類 高気圧 交響樂 工芸品 高血圧 硬口蓋 考古学 高山病  
 甲状腺 公証人 降水量 更年期 公倍数 購買力 攻防戦 公約数 股関節 古戰場  
 国境線 小道具 小麦粉 金剛石 最高潮 最高峰 最上級 最前線 最低限 催眠術  
 三角巾 三角形 三角州(三角洲) 三原色 珊瑚礁 三重唱 三重奏 酸性雨 参政権  
 散文詩 三輪車 紫外線 死火山 試金石 四重唱 四重奏 思春期 視神經 私生活  
 自然界 自然数 司法権 資本家 社会性 社交性 秋海棠 衆議院 宗教学 修辭学  
 羞恥心 修道院 周波数 宿命論 手工業 主体性 手榴彈 小宇宙 小学生 衝擊波  
 猩紅熱 硝酸塩 小市民 小冊子 小数点 肖像権 松竹梅 鍾乳石 鍾乳洞 消費者  
 消費税 食道癌 職業病 植物園 植物学 植物油 所得税 進化論 親近感 真空管  
 神經痛 新建材 新生兒 新生代 新世界 新体操 新大陸 心電図 真分数 心理学  
 森林浴 水銀灯 水産業 水蒸気 水晶体 推進器 水成岩 吹奏樂 水族館 水平線  
 水墨画 水溶液 声楽曲 正義感 性教育 制空権 星条旗 青少年 精神病 生石灰  
 正方形 生命線 生物学 生物界 生理学 世界観 責任感 絶対値 染色体 占星術  
 千分比 千里眼 双球菌 曾祖父 曾祖母 総領事 祖父母 体温計 対角線 太極拳  
 大企業 大使館 大西洋 太平洋 太陽系 太陽暦 多角形 託児所 多面体 短距離  
 単細胞 探照灯 炭疽菌 炭疽病 蛋白質 蒲公英 地下室 地下水 蓄電池 地平線  
 致命傷 中間色 中距離 中心地 超音速 長距離 超短波 長方形 著作権 低血圧



丁字路	伝染病	天然痘	天文学	天文台	展览会	等圧線	頭蓋骨	等高線	陶磁器
糖尿病	特殊鋼	図書館	図書室	特効薬	凸面鏡	内分泌	南極圈	二元論	二重唱
二重奏	日用品	日光浴	乳酸菌	乳製品	乳白色	尿毒症	人情味	熱効率	熱帶魚
年月日	年齢層	農閑期	農機具	脳梗塞	農作物	脳出血	脳震盪	肺活量	肺結核
敗血症	排水量	白内障	博物館	博覧会	破傷風	薄荷油	白血球	白血病	発動機
繁華街	反抗期	反射鏡	半身像	汎神論	泌尿器	百分比	避雷針	副作用	不夜城
腐葉土	平方根	平面鏡	平面図	偏頭痛	偏西風	変奏曲	扁桃腺	編年体	扁平足
保育園	法医学	方解石	放射線	方程式	保健所	保護色	北極圈	摩擦音	魔術師
摩天楼	慢性病	右半身	水芭蕉	未知数	南半球	民俗学	民族学	無精卵	無理数
冥王星	免罪符	猛禽類	野心家	夜盲症	唯物論	唯心論	優越感	有機体	有機物
有神論	優生学	優等生	有理数	葉緑素	裸体画	理事会	立脚点	流線形	流線型
領空権	領事館	立法権	倫理学	類人猿	冷水浴	靈長類			
安全装置	安全地帯	安全保障	印象主義	運動神経	液体燃料	黄金時代	黄金分割		
黄色人種	音響効果	温室栽培	海外旅行	階級闘争	外国資本	海底火山	街頭演説		
海浜公園	課外活動	化学工業	化学肥料	化学変化	化学薬品	化学療法	各種学校		
学生運動	加工貿易	火災保険	化石燃料	家庭環境	家庭教師	貨幣価値	感覺器官		
管弦楽曲	器械体操	技術革命	北回帰線	喜怒哀楽	共產主義	教条主義	行政処分		
行政訴訟	共同宣言	共同戦線	虚無主義	金融機関	金融資本	空襲警報	空中楼阁		
軍事基地	経営戦略	計画経済	蛍光塗料	経済大国	経済封鎖	形式主義	刑事責任		
芸術作品	啓蒙思想	血清療法	洪水警報	血縁関係	高温殺菌	恒温動物	光学器械		
高額紙幣	交換条件	交感神経	工業用地	航空母艦	巧言令色	甲骨文字	鉱産資源		
高山植物	合成皮革	交通安全	交通事故	功利主義	国際社会	国粋主義	国立公園		
個人主義	固体燃料	国会議員	固定観念	固定資産	細胞分裂	作戦計画	砂漠地帯		
三角関係	産業革命	参考文献	山川草木	三位一体	子子孫孫	市場調査	自然科学		
自然環境	自然主義	執行機関	指導原理	資本主義	社会科学	社会事業	社会主義		
社会保障	車間距離	写真主義	自由行動	宗教活動	宗教改革	宗教団体	宗教法人		
秋霜烈日	種子植物	首脳会談	守秘義務	春夏秋冬	消化器官	消化不良	象形文字		
少数民族	上昇気流	象徴主義	賞味期限	職業意識	食物繊維	触覚器官	初等教育		
人海戦術	真空地帯	神経衰弱	神経繊維	身体言語	信託銀行	神秘主義	靱皮繊維		
心理小説	水産資源	水上公園	推理小説	水力発電	生産過程	精神衛生	精神鑑定		
精神分析	生存競争	正当防衛	生命保険	生理作用	世界記録	世界銀行	脊椎動物		
石器時代	楔形文字	選挙制度	千軍万馬	千言万語	千手観音	潜在意識	千載一遇		
千姿万態	測量器械	体外受精	大気汚染	大衆文学	対症療法	耐用年数	多重人格		
地下資源	地質時代	地方銀行	中産階級	中小企業	抽象芸術	中枢神経	聴覚器官		
通俗小説	帝国主義	鉄器時代	電子音楽	伝統工芸	天然染料	動脈硬化	徒手体操		
軟体動物	日常会話	日常生活	日照時間	尿道結石	認知科学	脳下垂体	発声器官		



皮下脂肪	皮革製品	被選挙権	筆跡鑑定	必要条件	飛沫感染	百科全書	表意文字
表音文字	不快指数	付加価値	物価指数	物理変化	物理療法	文芸思潮	平均寿命
変温動物	扁桃腺炎	封建時代	封建制度	法治国家	飽和溶液	北斗七星	保護貿易
末梢神経	南回帰線	民主主義	民俗楽器	民族主義	無機化学	無産階級	無痛分娩
毛細血管	木管楽器	藥物中毒	唯美主義	唯物史観	有機化学	有価証券	有機化学
有効期限	有産階級	養老保険	利害関係	利己主義	理想主義	利他主義	立憲政治
立憲政体	立法機関	流体力学	量子力学	緑化運動	理論体系	臨床医学	冷血動物
歴史小説	連鎖反応						

海洋性気候	火山性地震	完全失業率	旧石器時代	教育委員会	光学顕微鏡
国家公務員	最小公倍数	最大公約数	最恵国待遇	最小公倍数	最大公約数
産業廃棄物	市場占有率	秋季運動会	食品成分表	食品添加物	新石器時代
青銅器時代	大陸性気候	多年生植物	鳥獣保護区	電子顕微鏡	偏光顕微鏡
放射性物質	放射性元素	無政府主義	唯物弁証法	有機化合物	流行性感冒
連立方程式	核不拡散条約				

②意味用法に違いがある名詞は次の同形語が挙げられる。

餡	脚	鎖	課	牙	嘴	車	女	県	他	虫	娘	餅	床	舅	姑
愛情	愛人	赤字	赤身	悪意	悪運	悪報	圧力	網点	案件	暗号	医院	委曲			
意思	椅子	入口	陰影	院長	因縁	羽毛	英文	遠景	縁故	園丁	大船	大麦			
大雪	屋上	晩稻	汚水	白粉	王朝	王道	大男	大女	面影	音響	外角	会計			
外交	会所	海嘯	外傷	怪人	外線	階段	外地	街道	怪物	快報	外面	外輪			
火気	餓鬼	家業	学院	学芸	格式	學術	学生	学長	学徒	隔壁	学齡	河岸			
瑕疵	家事	果実	貨車	家人	家族	課題	歌壇	脚氣	学校	家内	花瓶	下部			
下風	上期	歌謡	空手	借方	眼下	漢語	観衆	感情	感触	喊声	閑節	眼前			
眼底	寒天	観点	幹部	顔面	眼目	閑話	機械	機関	機器	奇形	喜劇	気孔			
記号	技工	器材	汽車	基軸	技術	氣象	鬼神	汽水	貴族	機体	奇談	基調			
義父	義母	期末	気味	客車	球技	球場	球速	紀要	儀容	境界	強権	教室			
狂人	兄弟	教壇	胸中	強度	教務	曲芸	局長	局部	規律	器量	岐路	金庫			
近代	空車	苦役	功德	句法	功力	黒幕	形骸	警官	景気	警察	刑事	形跡			
境内	鶏頭	頸部	景物	閨房	經理	毛色	原価	現場	濃茶	公安	香煙	甲乙			
硬貨	公害	口角	公館	校紀	工具	口径	光景	高校	港口	公差	講師	公式			
巧手	好手	後輩	公憤	香油	国勢	心地	古城	骨子	後手	講師	公傷	交情			
抗戦	校長	工程	後頭	後年	口碑	項目	蝙蝠	香油	効用	行李	国語	国書			
故事	小銭	小包	婚期	魂胆	罪過	最近	妻子	材料	祭典	作風	作物	作家			
雑種	作法	左翼	産業	山水	山荘	潮気	時候	色相	四時	資質	子女	事情			
事跡	姿態	実情	質量	師弟	死水	支部	滋味	市民	事務	死命	下期	謝意			
社会	車間	車庫	写真	社長	車道	邪道	秀才	宗旨	衆人	重鎮	重任	宗派			



主幹	熟語	宿舍	手芸	手工	主人	主席	主体	首尾	首班	趣味	主力	手腕
春光	生涯	正月	正気	将軍	情事	小節	商談	情緒	証人	情報	鐘楼	書記
職能	職務	食糧	助手	所長	序列	支流	辞令	白帶	白酒	白水	新案	新顔
人家	心肝	心願	心機	心悸	新規	神経	震源	心事	人種	新書	心神	信心
新人	薪水	心頭	神道	真皮	新聞	新米	親友	真理	心靈	水性	水道	数詞
砂場	頭上	頭腦	水路	性感	正眼	生魚	制式	政府	成分	歳暮	生理	精霊
施主	世代	舌頭	前景	前言	全校	全店	戦車	先生	船頭	善人	前年	先輩
煎餅	線路	箏曲	総体	相貌	俗語	足跡	素材	素質	外表	祖父	祖母	大過
大河	体格	大気	大慶	大作	体質	大将	対象	体制	耐性	態度	高潮	宝船
単位	单身	立場	暖気	短見	団長	短文	痴漢	畜生	地点	地步	地方	茶室
中学	中心	調子	聴衆	中盤	長者	通夜	手足	低圧	体裁	程度	底辺	手形
手柄	手紙	手筋	手勢	鉄骨	鉄条	鉄人	鉄棒	鉄腕	手袋	天気	電機	天狗
天井	天職	天地	典範	天日	伝票	答案	党員	当局	道具	東西	同輩	棟梁
遠見	土方	徳育	特技	土地	途中	毒気	内角	内線	内地	鍋底	難題	難点
肉質	日報	人間	人参	熱気	熱線	熱度	熱湯	熱風	念頭	年頭	野花	場合
背景	白紙	白線	春雨	反骨	班長	半天	版本	反面	彼岸	秘書	火種	左手
筆頭	人手	百年	病根	拍子	標的	標本	表面	平手	品位	品質	風雨	風格
風紀	風景	風采	風趣	風俗	風潮	風貌	風味	幅員	服装	節目	風情	二手
文化	文書	平価	劈頭	辺境	法語	芳心	泡沫	芳名	方面	法文	補語	本科
本館	本家	本校	本性	本職	本体	本国	本職	本店	本文	本身	本命	本領
前句	巻紙	孫子	魔術	末日	末代	末端	真名	麻薬	漫画	満車	饅頭	満場
万年	漫遊	見方	右手	密度	名案	妙手	命運	名家	名画	名句	名詞	名門
面目	猛火	目前	木工	物種	模様	文句	問題	薬罐(薬缶)	薬種	薬物	薬味	
野菜	野心	幽霊	床板	床上	床下	要員	妖精	容貌	用量	浴場	余熱	力士
力量	裏面	流量	良家	糧食	両手	靈感	冷氣	靈気	冷戦	零点	霊堂	烈士
老公	老婆	路線	話頭	和風	腕力							
一年生	運動員	海岸線	可能性	強行軍	金字塔	警戒線	計算機	化粧室	後遺症			
好材料	奨学金	小人物	小児科	政治家	大人物	中学生	低気圧	特派員	反作用			
半導体	平行線	野心家	路線図									

外交辞令 高校教師 工程管理 高等学校 個人主義 女性問題

(5)「乃至」は同じく語彙的な接続関係を表すが、意味が全然違う。

日本語では二つの意味がある。

①数・階級・種類などを示すときに上と下との限界を示して、中間を略すのに使う語。

…から…にかけて。「3人—5人」

②または。あるいは。「金—銀」

《現代汉语词典》は“甚至”を使い、説明している。



他的发明，引起了全国乃至国际上的重视。

《现代汉语词典》

彼の発明は全国ひいては世界中から重視されるようになった。

彼の発明は全国から引いては全世界から注目されるようになった。

病孩儿的不幸，引起了全省～全国人民的关注／

病氣の子供の不幸な話は，全省のひいては全国の人々の関心を集めた。

講談社『中日辞典』

## (6) 自動詞の言葉

①中国語では自動詞で、日本語では名詞とサ変自動詞である

暗合	安息	安眠	畏縮	萎縮	違約	引退	隱遁	隱忍	雲集	永訣	永別	永眠
壞死	越境	越冬	遠征	演説	横溢	横臥	横行	応戦	応訴	応対	開会	開戦
会戦	凱旋	回遊	開腹	開門	会話	覚醒	格闘	下降	化合	化膿	歌舞	下問
換氣	關係	感激	完結	感光	感嘆	閑談	感応	感奮	環流	関連	企及	帰郷
帰国	起算	寄宿	帰省	帰属	揮毫	起伏	起毛	逆流	求愛	休憩	吸血	躬行
求婚	吸湿	求職	求人	休戦	休息	休庭	休眠	仰臥	凝集	共生	共存	凝滯
驚嘆	狂奔	举手	居住	拳証	拳兵	起立	禁煙	禁欲	苦学	苦闘	傾斜	痙攣
激戦	激変	下山	下車	結審	決戦	決裂	献花	減刑	献血	顕現	建国	献身
減退	幻滅	講演	硬化	航海	号泣	行軍	航行	交差	交際	交錯	交渉	亢進
行進	更生	交接	交戦	抗争	梗塞	後退	膠着	拘泥	公転	好転	叩頭	交尾
合流	号令	講話	講和	呼应	呼号	枯死	混雜	昏睡	混戦	西下	再会	再婚
在職	在世	在籍	在任	錯綜	挫折	雜居	雜談	酸化	散会	惨死	参戦	残存
散髮	惨敗	散步	散乱	残留	死去	質疑	止血	死傷	自首	辞職	自生	自薦
自嘲	失火	失業	失禁	失血	失言	失効	失踪	失笑	失神	失速	失恋	自転
死亡	自滅	謝恩	雀躍	遮光	捨身	射精	充溢	集会	就業	終結	充血	就寝
従属	充電	襲来	熟睡	受刑	授精	受精	出芽	出撃	出現	出国	出場	出征
出廷	出頭	出馬	出発	出兵	出沒	受難	受命	狩猟	巡回	循環	竣工	巡航
殉死	殉職	蠢動	昇華	昇級	焼香	昇降	消失	乗車	常住	上昇	乗船	勝訴
上訴	昇段	消長	昇天	衝突	蒸発	勝利	食言	贖罪	除湿	助力	自立	自律
進化	呻吟	進軍	滲出	進水	進退	進駐	振動	心服	尽力	辛勞	推移	垂涎
衰退	垂範	衰亡	生育	製塩	生活	生還	逝去	盛行	静坐	生息	成長	生長
静養	絶縁	絶交	雪辱	絶食	絶望	絶命	戦死	洗車	前進	潜水	宣戦	善戦
遷都	戦闘	潜伏	相違	増益	相応	相関	相克	相似	増収	早世	叢生	相對
早退	争闘	造反	造林	即位	側臥	齟齬	存在	退位	退役	対応	退化	退学
退却	対局	対決	対峙	対質	代謝	退場	退職	対陣	退廷	胎動	退歩	対立
滞留	妥協	蛇行	墮胎	脱落	多発	団結	探鉱	断交	誕生	断線	嘆息	着床
着陸	注水	中毒	跳躍	凋落	直通	直立	通関	通行	通航	通商	通信	通風
通用	停車	抵触	停職	挺身	挺進	停戦	停船	停滯	停電	低迷	低落	溺死



撤退 撤兵 転院 転化 転学 轉身 伝染 投球 同居 投稿 投降 投宿 登場  
 投身 陶醉 当選 逃走 闘争 登頂 投票 答弁 逃亡 瞠目 到来 倒立 渡海  
 読図 独立 吐血 登山 突起 独居 突進 突発 内応 南下 軟化 南進 入会  
 入館 入庫 入港 入校 入山 入室 入場 入選 入団 入党 入門 入浴 敗訴  
 発覚 発言 噴飯 変異 変遷 萌芽 奉公 咆哮 放水 放電 飽和 保温 北上  
 北進 歩行 勃起 勃興 没落 哺乳 奔走 邁進 磨滅 摩耗 密集 滅亡 面談  
 猛進 盲進 妄動 躍進 躍動 游泳 遊説 遊牧 輸血 養生 夭折 来訪 来臨  
 落後 落成 落選 落馬 落下 離婚 離散 離職 立論 離任 理髮 離別 留意  
 留学 隆起 流行 流産 流失 流出 流通 流動 留任 凌駕 量刑 療養 旅行  
 臨場 輪廻 林立 類似 流浪 連動 老化 劳作 漏水 漏電 労働 露営 論戦  
 和解 過労死 深呼吸 軟着陸

四通八達 袖手傍観 晴耕雨読 東奔西走 朝令暮改 独断専行

- (7) 中国語では“共鸣”の基本義は自動詞であるが、比喩的な意味は名詞だけである。日本語では比喩的な意味である「他人の考えや行動などに心から同感すること」を表す場合、サ変自動詞として多用される。

中国語では“結晶”の基本義は自動詞であるが、比喩的な意味は名詞だけである。日本語では基本義も比喩義（例：「努力が結晶した」）もサ変自動詞として使われる。

- (8) 中国語では他動詞で、日本語では名詞とサ変他動詞である同形語は以下の言葉がある。

愛護 愛好 愛惜 愛読 愛撫 愛用 圧縮 圧倒 圧迫 暗記 暗殺 暗算 暗示  
 安置 按摩 遺棄 維持 遺失 移植 移送 意識 遺留 慰勞 引見 印刷 隠匿  
 引用 飲用 運営 運送 運用 閲読 閲覧 援引 嚙下 演出 援助 演奏 延長  
 援用 謳歌 押送 殴打 嘔吐 応用 音訳 改革 概括 概観 解雇 回顧 開墾  
 概算 解釈 回収 懐柔 解除 改正 開設 解説 改選 改組 回想 改造 開拓  
 解読 開発 改変 改編 解放 解剖 改良 拡充 学習 革新 確信 拡張 獲得  
 確認 攪拌 確保 加工 仮設 架設 下達 割譲 合唱 渴望 感化 灌溉 管轄  
 喚起 歓迎 看護 刊行 勧告 観察 監視 甘受 鑑賞 観賞 勘定 管制 歓送  
 観測 感知 鑑定 貫徹 監督 看破 鑑別 玩味 勧誘 含有 観覧 管理 監理  
 記載 記述 起訴 起草 寄贈 偽造 期待 規定 記入 帰納 虐待 吸引 救援  
 救護 吸収 救出 救助 吸入 起用 強化 供給 強攻 教唆 凝視 享受 凝縮  
 供出 強制 矯正 強打 強調 脅迫 強迫 共有 享有 共用 許可 挙行 拒絶  
 曲解 記録 禁止 空襲 驅使 驅除 驅逐 驅動 区分 具有 供養 愚弄 薰陶  
 訓練 敬愛 経営 計算 計測 携帯 傾注 敬重 傾聴 啓発 敬慕 計量 撃砕  
 撃退 撃沈 撃破 激励 結成 牽引 兼営 検閲 嫌悪 兼任 研究 検挙 厳禁  
 検査 検索 検察 堅持 顕示 堅守 厳守 研修 検出 献上 牽制 建設 厳選  
 建造 限定 検討 兼任 研磨 減免 勾引 更改 交換 考查 考察 絞殺 行使  
 公示 口授 口述 考証 高唱 更新 構成 更正 校正 公選 公訴 構築 公認



購入	公布	交付	拷問	拘留	考慮	護衛	誤解	告訴	告知	告發	克服	克復
誇示	固守	誤診	誤信	鼓吹	護送	鼓舞	誤認	雇用	誤用	懇請	根絕	建立
猜疑	採掘	裁決	採取	採集	催促	裁斷	採納	栽培	採用	採錄	削減	削除
策動	詐取	查収	殺害	刷新	察知	殺戮	查問	左右	參觀	懺悔	斬殺	產出
算出	贊助	參照	蚕食	散布	使役	支援	指揮	識別	施行	思考	試行	思索
視察	刺殺	指示	支持	試射	死守	自習	自修	支出	刺傷	自選	視聽	試聽
執行	實行	實施	叱責	實踐	指定	指導	指摘	支配	自費	出版	思慕	
指名	試問	自問	釈放	借用	謝絕	遮斷	惹起	遮蔽	赦免	襲擊	重視	收受
收集	修飾	修正	修繕	收藏	修築	充當	習得	收納	修復	收容	重用	修理
蹂躪	修練	收錄	祝賀	縮減	肅清	熟知	熟讀	祝福	守護	主宰	接受	取得
受理	樹立	巡視	潤色	準備	使用	飼養	試用	私用	掌握	消化	淨化	傷害
召喚	償還	召還	賞玩	稱贊	召集	招集	詳述	招請	釀成	釀造	招待	承諾
招致	承認	笑納	消費	招聘	消耗	省略	涉獵	獎勵	囑託	處決	處置	助長
處罰	處理	侵害	審議	信仰	審查	斟酌	申請	新設	診斷	信任	審判	侵犯
信奉	審問	尋問	信賴	審理	推舉	推計	推察	推算	推進	推薦	吹奏	推測
推断	推定	崇拜	聲援	靜觀	請求	制裁	制作	生產	清算	制止	正視	齊唱
精製	精選	清掃	製造	靜聽	制定	征討	精讀	征服	制約	整理	析出	世襲
切開	設計	席卷	節減	切削	接種	攝取	接受	接收	切除	節制	接待	切斷
設置	折衷	設定	切望	說明	節約	設立	選舉	占拠	選考	宣告	選出	洗淨
選拔	選定	宣傳	扇動	選拔	占有	占用	占領	增援	憎惡	總括	送還	創刊
想起	創建	搜查	搜索	創作	掃除	喪失	操縱	創出	總稱	裝飾	創設	增設
想像	創造	爭奪	總動員	增補	贈与	創立	促進	促成	測定	速讀	束縛	測量
狙擊	阻止	組織	咀嚼	租借	組成	尊敬	忖度	尊重	體驗	體現	帶出	對照
對比	代表	逮捕	代理	打開	兌換	奪回	奪還	奪取	達成	打倒	打破	拿捕
彈劾	探求	探究	探索	探測	探知	斷定	担当	担任	探訪	置換	中止	注視
注射	抽出	中傷	鑄造	注入	寵愛	鳥瞰	調教	調查	聽取	徵收	徵集	嘲笑
調製	調整	調節	彫琢	調停	眺望	重用	徵用	調理	直視	直射	直訊	貯藏
直轄	治療	鎮壓	陳述	珍藏	陳列	追憶	追加	追究	追求	追擊	追想	追贈
追徵	追悼	追認	痛感	通觀	痛擊	痛恨	通讀	提起	提供	締結	偵察	提出
提唱	訂正	溺愛	撤回	撤去	添加	轉嫁	電解	伝授	伝承	転送	伝達	転売
展望	投下	統括	統轄	統計	登載	搭載	洞察	透視	投射	統制	透析	統率
淘汰	倒置	統治	導入	討伐	盜伐	陶冶	盜用	登録	討論	誹解	吐露	內藏
軟禁	認可	認識	認証	忍耐	認知	認定	任命	任用	熱愛	熱唱	捏造	濃縮
納入	廢棄	配給	拝見	配合	排除	廢除	賠償	排斥	排泄	配送	配置	拝読
配備	培養	迫害	剥奪	爆破	派遣	把持	發揮	發給	發掘	發行	發射	發送
發表	發布	發揚	挽回	搬出	反省	搬送	判斷	判定	搬入	販賣	頒布	判別



反問	美化	否決	否定	非難	否認	批判	批評	誹謗	罷免	評估	評議	表示
標示	描写	表彰	評定	剽竊	表白	標榜	表明	披露	封鎖	封殺	諷刺	俯瞰
復元	複写	輻射	複製	付設	布置	侮辱	物色	扶養	分割	噴射	粉飾	分析
分担	分断	分配	分泌	睥睨	平定	蔑視	变革	返還	變更	編纂	編修	編集
鞭撻	偏重	編入	包圍	放映	包括	包含	傍觀	放棄	忘却	防禦	望見	防護
縫合	報告	謀殺	縫製	放置	傍聽	冒瀆	放任	防備	放牧	訪問	包容	放流
捕獲	保管	補給	補強	墨守	撲滅	保護	保持	保釈	保守	補習	補充	募集
補助	保証	保障	補償	捕食	保全	舖裝	捕捉	補足	保存	沒收	保有	保留
翻訳	翻弄	埋設	埋葬	抹殺	滿載	密談	密封	無視	夢想	明察	命令	免除
猛攻	盲信	網羅	模擬	目擊	默讀	默認	默許	模倣	扼殺	約束	揶揄	誘拐
優待	誘導	誘發	憂慮	誘惑	輸出	輸送	輸入	養育	擁護	養護	養殖	養成
擁立	予期	抑止	抑制	予見	予報	予防	予約	予告	予想	予測	予知	礼讃
濫用	冷却	勵行	歷訪	列举	連結	連呼	朗讀	浪費	論述	論証	論說	歪曲

(9)『講談社中日辞典』の“确信”“协议”“统帅”“悬念”などの名詞としての意味に関する説明と用例は次のとおりである。

确信 quèxìn [名] 確かな情報。確実な消息。

有了确信我就告诉你／確かな情報が入ったら、すぐに知らせます。『中日辞典』

协议 xiéyì [名] 合意。取り決め。

双方就有关合作项目达成协议／双方が協力プロジェクトに関して合意した。

签署了互派专家的协议／専門家の相互派遣についての合意書に署名した。

统帅 tǒngshuài [名] 総帥。最高司令官。

三军统帅／陸・海・空三軍の総帥。

悬念 xuánniàn [名] (小説や映画などで感じる) スリル。サスペンス。

(10) 中国語では形容詞で、日本語では名詞・形容動詞である同形語は以下の言葉がある。

曖昧	惡辣	安逸	安靜	安全	安寧	安穩	意外	異常	偉大	一律	一般	慇懃
陰險	陰湿	永久	銳利	婉曲	円滑	円熟	遠大	円満	艷麗	旺盛	橫暴	穩健
温厚	温順	温暖	穩当	穩便	温和	魁偉	快活	快速	瑰麗	晦渋	快適	果敢
火急	確實	苛酷・苛刻	果断	華麗	華美	簡易	寬闊	頑強	頑愚	簡潔	頑固	
閑散	閑靜	寬大	簡單	簡便	緩慢	簡明	簡要	簡略	寒冷	奇異	危急	危險
貴重	奇特	希薄・稀薄	機敏	奇妙	急速	狹隘	凶惡	狹小	強健	強固	強韌	
強大	凶暴・狂暴	巨大	虚偽	虚弱	均一	緊急	均等	勤勉	緊密	空虚	苦澁	
敬虔	輕率	輕薄	輕微	輕便	輕妙	激烈・劇烈	潔白	陰惡	謙虛	嚴重	嚴肅	
嚴正	顯著	嚴密	玄妙	賢明	儉約	險要	堅牢	高遠	豪華	狡猾	高潔	豪奢
公正	豪壯	豪爽	高大	広大	広汎・広範	幸福	公平	豪放	傲慢	巧妙	豪勇	
滑稽	孤独	固陋	懇切	細緻	細密	殘酷	散漫	子細・仔細	湿润	質素	質朴	
弱小	洒脱	醜惡	重大	周到	秀拔	周密	重要	秀麗	純潔	純真	純粹	順当



純朴	淳朴	主要	詳細	正直	冗長	親愛	深奧	新奇	辛苦	深刻	真摯	真実
絶妙	神聖	親切	新鮮	迅速	深長	慎重	深沈	神秘	親密	辛辣	崇高	精鋭
凄艶	正確	性急	精巧	精細	凄惨・悽惨	誠実	静寂	脆弱	静粛	清純	正常	
清楚	正大	精緻	精微	静謐	精密	精妙	晴朗	拙劣	盛大	正当	專一	專横
纖細	淺薄	鮮明	善良	壯健	莊嚴	莊重	蒼白	壯美	壯麗	壯烈	粗惡	粗大
率直	素朴	粗暴	粗放	粗野	粗略	尊嚴	怠惰	対等	太平・泰平	懦弱	(懦弱)	
单一	單純	端麗	稚拙	緻密	忠実	忠誠	稠密	忠勇	沈勇	珍奇	沈毅	沈静
沈痛	痛快	痛切	通俗	低俗	丁重・鄭重	適宜	的中・適中	適當	天真	同一		
透明	凜猛	特異	特殊	独特	特別	突然	軟弱	柔弱	柔和	年少	寧静	熱烈
濃艶	濃厚	濃密	薄弱	莫大	繁華	煩瑣	繁雜	煩雜	繁多	繁忙	悲哀	卑怯
微細	悲慘	微弱	微小	微少	卑賤	微賤	悲壯	卑俗	悲痛	非凡	微妙	美妙
病弱	平等	肥沃	非礼	美麗	卑劣	貧困	貧弱	敏捷	頻繁	貧乏	風雅	風流
富貴	富強	複雜	富裕	文弱	平安	平易	平穩	平静	平淡	平坦	平凡	平和
便利	豐艶	豐潤	芳醇	豐饒	豐滿	朴实	朴直	朴訥	凡俗	凡庸	明細	明白
明快	明晰・明哲	明媚	明朗	綿密	蒙昧	猛烈	野蠻	雄偉	憂鬱	優雅	勇敢	
悠久	雄健	雄渾	優秀	勇壯	雄大	優美	勇猛	優良	容易	妖艷	幼弱	幼稚
磊落	良好	吝嗇	流暢	流麗	冷酷	冷靜	冷淡	靈妙	廉潔	廉直	矮小	和平

(11)『講談社中日辞典』は“長大”について次のように説明している。

長大 zhǎngdà [動] 育つ。成長する。大きくなる。

我是在北京～的／私は北京で育った。

～了做什么？／大きくなったら何になるの。

(12)『講談社中日辞典』は“兼職”“处方”“破门”について次のように説明している。

兼職 jiān//zhí

[動] 兼職する。非常勤で働く。アルバイトをする。

他还在别的公司～／彼は別の会社でもアルバイトをしている。

[名] 非常勤の職。兼務。アルバイト。

辞去～专搞教学／兼務はやめて、授業に専念する。

处方 chǔfāng

[動] 処方する。

[名] 処方。処方箋(しよほうせん)。

开～／処方箋を出す。

破门 pòmén [動]

1 ドアを打ち破る。

～而入／ドアを破って入る。

2 〈宗〉破門する。

3 〈体〉(サッカーなどでシュートした球が)ゴールに入る。



(13) 日本語の動賓型の「VN する」の他動詞用法はもっと詳しく研究をする必要があるが、これからの研究課題にしたい。

(14) 「-化」について、五味政信ほか(2006)は次のように指摘している。

「~化」は中国語では日本語よりもはるかに意味の幅が広く、日本語母語話者の感覚では、「~化」は動名詞、「~的」はナ形容詞と考えられているものが、「~的」が名詞の連体修飾を表す中国語の母語話者の感覚では、「~化」は形容詞の意味までを覆う可能性があるということである。この点は、日本語を母語とし、中国語がわからない日本語教師が押さえておかなければならない「勘どころ」(黄・井上 2005)の一つであると思われる。 p8

(15) 「発覚」は日本語では「不正が発覚する」のようにサ変自動詞で、マイナ斯的な意味しか表さないが、中国語では「(あることに)気付いた」という中性的な意味を表す他動詞である。例えば、

到了车站，他才发觉没带钱包／駅に着いてはじめて彼は財布を持ってこなかったことに気付いた。 講談社『中日辞典』

「主演」は中国語では他動詞だけでなく、名詞でもある。例えば、

主演 zhǔyǎn

〔動〕主演する。

他~过好几部电影／彼はいくつもの映画で主役を演じたことがある。

〔名〕主演。主演俳優。

《牡丹亭》的主演童丹是潘凤霞之女。

コーパス

筆者訳：『牡丹亭』の主演俳優童丹は潘鳳霞の娘である。

(16) 『講談社中日辞典』の説明である。

(17) 『大辞泉』の用例である。

(18) 『講談社中日辞典』の用例である。

(19) 『明鏡国語辞典』の説明である。

(20) 『プログレッシブ和英中辞典』の用例である。

(21) 『大辞泉』の漢字の「段」に関する説明である。

(22) 「輩出」の用法について、林四郎(1981)は「漢字基底語考」で次のように指摘している。

「輩出」という語がある。「出」の「でる」は明らかだが、「輩」は何か、現在では確たる意味が感じられないのではあるまいか。元来は、百台の車を意味したそうで、多数のものが相並んでやって来るように、続々と出て来るのが輩出らしいが、現在は、必ずしもそういう意味で用いられてはいない。ある地方からただ一人の偉人が出ても、その地方は人材を輩出したことになるであろう。 p25

(23) 「科学」のサ変動詞化について、『大辞泉』は次のように説明している。

「科学する心」とサ変動詞に使用したのは昭和 15 年(1940)第二次近衛内閣の文相橋田邦彦が最初という。おかしい日本語として問題になった。



(24) この論点は宋協毅の『「始・続・終」を表す類似補助動詞及び関連の補助動詞の研究—日本語の「過程重視」の視点から』という博士論文からも証明されている。

(25) これらの言葉は中国語で介詞以外の品詞も兼ねているが、ここで介詞としての意味に絞って、日本語での意味と比較を行う。介詞の意味に対応する日本語訳は講談社『中日辞典』を、日本語での意味は『岩波国語辞典』の一部を引用した。

中国語	日本語の訳語	日本語で意味
比较	に比べて。より。	《名・ス他》 比べてみる。比べあわせること。
本	〔書〕 …に基づいて。	《造・名》 かきもの。書物。書籍。
比	に比べて。…よりも。	《造・名》 同類のもの。たぐい。なかま。
朝	に向かつて。に。	夜明けからしばらくの間。
对	…に向かつて。…へ。…に。	二つそろって1組になっているもの。そろい。ペア。
除去	…のほか。…以外。	《名・ス他》 (邪魔なもの・余計なものを) 除き去ること。
打	(起点を表す) …から。…より。 (経過する地点を表す) を通って。	「ダース」の当て字。
当	〔介〕 …に対して。…に向かつて。 (事の起きた時間や場所を表し) ちょうど…に。…で。	《造・名》 この。その。こちらの。
根据	〔介〕 …に基づく。…による。	①もとになる理由。よりどころ。 ②目的遂行にいる物資を備え、支援する基地。根城。
和	〔介〕 …と(…する)。…に対して(…する)。…に向かつて(…する)。…に比べ(…である)。	《造・名》 互いに気が合う。なかよくする。争わない。 《名》 二つ以上の数を加えて得た結果。
经由	…を経由する。	《名・ス自》 経て行くこと。ある所に行くのに他の場所を通して行くこと。また、ある事を行うのに、中間の機関を通ずること。
连	〔介〕 …も加えて。含めて。一緒に。	つづいたもの、編んだものを数える語。
论	① (量詞とともに用いて) …に基づいて。 ② …の面では。…について言うと。	《造・名》 意見。見解。
顺	…に沿って。…のついでに。	《造・名》 次第。秩序のある道すじ。
通过	…を通じて。…によって。	《名・ス自》 通り過ぎること。 ⑦止まらずにある場所を通り過ぎること。 ⑧さわりなく通ってしまうこと。パスすること。
同	① (動作の対象あるいは関係する対	前にあげたものと同じものを繰り返す場合に用



	象を示す) …と。…に。 ② (比較する対象を示す) …と。	いる。その。
問	…に向かって。…に対して。	疑いについてたずねる。といただきます。とう。とい。
依据	…に基づいて。…に依拠して。	『名・ス自』よりどころ。よりどころとすること。
用	(手段を表す) …で。…を用いて。	
由	(動作が経る路線や場所を表す) …から。…より。 (起点を表す) …から。…より。 (動作の主体を表す) …により (…される)。…が (…する)。 (根拠・出所を表す) …により。…に基づき。	①物事の関係づけ。 ⑦いわれ。由来。事情。①由緒 (ゆいしよ)。⑦手段。すべ。②理由。原因。「事の一をたずねる」 ②事の様子。 ⑦《具体的な内容を表す (指示する) 語句を受け》… とのこと。…だそうで。 ①述べた内容。
缘	…に沿って。…によって。 …ゆえに。…のために。	①つづきあい。たよりにする。てがかりにする。関係。 ②肉親や婚姻の関係。つづきあい。男女の結ばれ方。 ③《造・名》〔仏〕原因をたすけて結果を生じさせる作用。直接的原因 (= 因) に対して間接的原因。まわりあわせ。
値	ちょうど…に際して。…に当たって。	あたひ あたひ【価・値】 ①ねだん。代金。②ねうち。価値。③数学で、文字や式などの表す数量が数字で示されたもの。論理学では、数値に限らず、変項の指すもの。 ね【値】 (売り買いの) ねだん。
作为	[介] …として。…の身として。	さくい【作為】『名・ス自』①ことさら手を加えること。つくりごと。こしらえごと。 ②〔法律〕人の行為のうち、積極的な挙動。例、金を払う、仕事をする、人を殺すなど。

(26) 《汉语大词典》は“发觉”について、次のように説明している。

(1) 发现, 觉察。

彭离骄悍, 无人君礼, 昏暮私与其奴、亡命少年数十人行剽杀人, 取财物以为好。所杀发觉者百余人, 国皆知之, 莫敢夜行。 《史记・梁孝王世家》

于是作沈命法, 曰: ‘羣盗起不发觉, 发觉而弗捕满品者, 二千石以下至小吏主者皆死。’ 《汉书・酷吏传・咸宣》

用钱货铜, 事可寻检, 直由纠察不精, 致使立制以来发觉者寡。 《通典・食货九》

我道是甚么秘事给你发觉, 原来你说的是蔓云! 《孽海花》第四回



敌人已经发觉了他们，好几挺机枪一齐横扫过来。 魏巍《东方》第三部第四章

(2) 被发现觉察；暴露，败露。

赵相贯高等事发觉，夷三族。 《史记·高祖本纪》

是岁淮南、衡山王谋反，发觉，皆自杀。 《汉书·五行志中之下》

布与卓侍婢私通，恐事发觉，心不自安。 《三国志·魏志·吕布传》

咸通四年，萧倣杂文榜中，数人有故，放榜后发觉，责授蕲州刺史主司。

五代 王定保《唐摭言·主司失意》

钱海山，邑绅之豪横者也。以盗案发觉，破家客死。 清严有禧《漱华随笔·钱海山》

(3) 告发；揭发。

梁王闻其义出于袁盎诸大臣所，怨望，使人来杀袁盎……视其剑，新冶。问长安中削厉工，工曰：‘梁郎某子来治此剑。’以此知而发觉之，发使者捕逐之。

《史记·梁孝王世家褚少孙论》

日者覃怀有过籍之赋，使吾百姓无聊生于下，非珩等为吾发觉，则吾终不得闻东人之疾苦矣。

唐 元稹《韦珩京兆府美原县令》

那申家踪迹可疑，身子常不在家，又不做生理，却如此暴富。我们只是查不着他的实踪迹，又怕他兇暴，所以不敢发觉。

《初刻拍案惊奇》卷十九

(27) 《汉语大词典》の“位置”の(1)と(2)は動詞の用法である。

(1) 谓品评人称，分别高下。

(子弼)有风格，善自位置。 《魏书·穆子弼传》

(2) 布置；安排；处置。

晁无咎閒居济州金乡，葺东臯归去来堂，楼观堂亭，位置极潇洒。

宋 陈鹄《耆旧续闻》卷三

至成化五年己丑科读卷，则兵部尚书兼翰林学士直内阁商辂居吏部尚书崔恭之前……

而位置如此，则以阁体重也。

明 沈德符《野获编·内阁一·阁部列衔》

我们试想那是怎样的痛苦，与位置罪人的囚狱有没有两样的地方？

李大钊《五一纪念日于现在中国劳动界的意义》

(3) 所处地位或地方。

位置不敢乱后先，列坐宛如师弟子。

清 孙枝蔚《题方尔止四壬子图》诗

贝汉廷一跃而起，到海图室查明难船失事位置。

柯岩《船长》

(4) 特指职位。

她希望能够找到一个小学教员的位置。

杨沫《青春之歌》第一部第三章

(28) 《汉语大词典》の“婚姻”の(1)は動詞の用法である。

(1) 男女结为夫妻；嫁娶。

茧紬缣练者，婚姻之嘉饰也。

汉 桓宽《盐铁论·散不足》

后月一日，可合婚姻。

唐 牛肃《纪闻·季攸》

婚姻是爱的结束，也是爱的尝试，也是爱的起头！

老舍《二马》第四段八



(29) 《汉语大词典》の“破绽”の(3)は動詞の用法である。

(3) 开裂；绽开。

戚戚复戚戚，白头残兵向人泣。短衣破绽露两肘，自说行年今七十。

元成廷珪《戚戚行》

那姑娘站在墓前，把提琴弹了几声，刚好弹了几声，梅花儿都已破绽。

郭沫若《瓶》诗之十六



## 第五章 中日同根語について

### 1. はじめに

筆者はここ数年来の中国と日本での「同根語」に関する研究論文を考察したうえで、中国と日本の間に存在する、欧米の言語に見られない違う概念の「中日同根語」を「中日両国語にある同じ起源を持っている漢字語」と定義してみた。そして、現存する両国の辞典、辞書にとどまらず、中国の古典文献を検索し、考証したうえで、漢字語の起源により、大きく、中国起源の中日同根語と日本起源の中日同根語に二分し、さらに、文字の形、語義、語用の異同により下位分類を試みた。中日同根語の字形・語形と語義が時代と環境により大きく変化していること、用法の中で、特に品詞性が大きく相違していることがわかった。

### 2. 本研究の目的

中日同形語の研究が盛んに行われてきた。その研究が深まるにつれて、「同根語」の角度から中日言語を比較する研究が増えている。しかし、「同根語」の定義があいまいだったりしているので、関係の研究者や日本語学習者に混乱を招きかねない。それで、筆者は少しでも中国の日本語学習者などに役立とうと思い、「中日同根語」の研究に取り組んでいるのである。

### 3. 先行研究

近年来、日本と中国で「同根語」に関する研究が増えている。以下に日本での「同根語」研究と中国での同根語研究について考察していく。

#### 3.1 日本での「同根語」研究

ここ数年『日本語教育』などに「同根語」に関する論文が3点掲載された。「同根語」という用語が一体何の意味で使われているのか、その使い方が厳密であるのか、それぞれについて詳しく分析していく。

邱學瑾(2003)<sup>(1)</sup>は日本語漢字単語の習得に関する論文の中で最初に「同根語」を取り上げたが、次の問題点がある。

①「同根語」の定義がはっきりしない。日本語漢語と中国語漢語との語源関係を定義に含めていない。

「同根語」について、邱學瑾(2003)は、本文で「Cognates, 2言語間で語源が同じ、形態・音韻・意味が類似している単語」とであると説明している。

一方では、論文の最後に次の注をつけた。

日・中2言語は同族言語ではないが、日本語には中国語から数多くの漢字熟語が取り入れられたので、両言語間において、形態及び意味が同じ漢字2字熟語（例えば、規則／kisoku／－規則／gueitzer／）が多く存在する。本研究では、日本語と中国語の訳



語どうして、中国語の訳語と形態が同じ日本語漢字熟語を同根語と定義する。また中国語の訳語と形態が異なる日本語漢字熟語（例えば、財布/saifu/一錢包/chyanbau/、財布は中国語では非単語である）を非同根語とする。

邱學瑾(2003)の言っている「同根語」と「非同根語」は原語と訳語を比較したレベルの概念であり、「日本語漢字熟語」が中国語の訳語の「源」であるという意味が読み取れる。

確かに、明治時代以降、日本語から中国語に逆輸入された漢語がたくさんある。その日本人の造った和製漢語が現在の中国語漢語の「源」であると言えるが、しかし、「日本語には中国語から数多くの漢字熟語が取り入れられた」から、日本語の中に存在している数多くの漢語の源は中国語だったのである。「同根語」が双方の源を含めて指す概念であるべきなので、邱學瑾(2003)の定義は「同根語」の範囲を狭めてしまった。

②「訳語」を使うのは適切ではない。

『大辞林』では、「訳語」について、「翻訳する時にあてられる語。一般にはある国語を他の国語に訳した語をいうが、一国語の中で古語を現代語に直した語をいうこともある。」と説明してある。

ふつう別の言葉を搜したり、新しく造ったりして、翻訳をするのであるが、その言葉をそのまま変えずに使うのは翻訳とは言えない。「借用」というのが普通である。

③論文に挙げた「実験用」の言葉にも問題がある。

「実験1で日本語能力試験の出題基準の2級語彙リストに基づき、96語の熟語が選定された」が、論文に「過程(課程)」「電灯(伝統)」「部分(身分)」「満足(親戚)」という例しか載せていないが、作者によれば、ターゲット語の同根語は「課程」「伝統」「身分」「親戚」<sup>②</sup>を指している。

しかし、この4つの漢語は全部もともと中国にあり、日本に伝わった言葉なので、日本語に対する訳語ではないわけである。したがって、この4つの漢語は全部邱學瑾(2003)の「同根語」の定義に合わない。

④論文の「同根語」の英語表現が統一されていない。副題では「The comparison of cognates and non-cognates between Japanese-Chinese」を使っているが、キーワードでは「cognate status」を使っている。

邱俞瑗(2007)<sup>③</sup>は論文で「同根語」と「非同根語」の定義には全く触れていない。参考文献に邱學瑾(2003)の論文を挙げているので、たぶんその定義にしたがっただろう。

実験用の言葉の選択にも問題がある。邱俞瑗(2007)は実験で同根語として「椅子」、「木綿」、「法則」、「黒板」、「運河」、「熱心」、「日記」、「台風」、「神社」、「安心」を、非同根語として、「茶碗」、「無地」、「煙突」、「能率」、「風船」、「屋上」、「人形」、「世話」、「案内」、「興味」を用いた。しかし、「同根語」の「椅子」、「木綿」、「法則」、「運河」、「熱心」、「日記」、「安心」、「黒板」、「神社」、非同根語の「興味」は中国では古くから使われてきた。ただ、「神社」は中日で意味が明らかに違う。「安心」の意味も現代中国語でずいぶん変わり、その代りに「放心」がよく使われるようになった。「黒板」は昔「黒い板」を指したが、現在



教室で使われているチョークを書くための道具を指すのが普通である。「台風」の用例は《雪月梅》<sup>(4)</sup>第四十七回に確認できた。

原来这毛海峰本是飘洋大客，极有胆勇，因遭台风坏了船只，逃得性命，流入贼中，原非本意，今见官军整肃，将士英雄，因劝汪直不听，想仗此妖术谅难成事，当夜扮作乡民悄悄逝去，竟不知所之。

作者陳朗が清乾隆四十年（1775 年）に自序を書いたので、小説《雪月梅》も同じ時期に完成されたと思われる。したがって「台風」という言葉は中国に語源があると判断できる。

蔡鳳香・松見法男（2009）<sup>(5)</sup>は論文の本文で「中国語と日本語は、2 言語間で漢字形態が類似する翻訳同義語（以下では、これを同根語とする）が多く存在するため、中国語を L1 とする学習者では、日本語を学習する際に L1 による負の影響を受けることが否めない。」と述べているが、注で「同根語は本来、言語学的に同一語族の言語間（例：ドイツ語と英語）で使用される。中国語と日本語は、同族言語ではないので、厳密には同根語は存在しないといえる。しかし、両言語には、形態が類似し意味がほぼ同じという単語が多数存在することから、近年の研究では、そのような特徴をもつ単語を同根語として扱っている。本研究も、この研究動向にしたがった。」と説明している。

中国語と日本語の両言語に、形態が類似し意味がほぼ同じ（同じでない言葉も数多くある）である漢字の言葉は普通同形語として、扱われている。新たに「同根語」で命名する目的と根拠を明確にしなければならない。そうでなければ、同じ研究対象を別の名前で呼ぶと、日本語学習者に混乱を起こすだけだ。

「同根語」について、筆者が日本の言語学の書籍や辞典をいろいろ調べてみたが、確認できなかった。「同根の語」は『大辞林』と『集英社国語辞典』に「同根」の用例として使われているのが確認できた。「同根の語」は「同じ起源を持つ言葉」を意味していると判断できる。

「同根」を「解説に含む」でインターネットの『大辞林』<sup>(6)</sup>を調べたら、「えら・く」と「あからめ」の 2 例が見つかった。「えら・く」の〔補説〕に「「えらえらに」の「えら」と同根。」「あからめ」の〔補説〕に「「あから」は「別(あか)る」と同根か。」と書いてある。つまり、「えら・く」と「えらえらに」は同根語、「あからめ」と「別(あか)る」は同根語であることを意味している。

インターネットで「同根語」を検索したら、フリー百科事典『ウィキペディア』<sup>(7)</sup>(Wikipedia)』に次のように説明してある。

系統関係が想定される複数の言語において、類似した意味内容で用いられる（あるいは用いられていた）形態的に類似した単語のこと。言語の系統関係を探るうえでの手がかりとして重視される。

一部分の研究論文に「同根語」が使われているが、西洋の言語学者の文献を引用するにとどまっている。たとえば、三宅恭子がシリーズ論文<sup>(8)</sup>で「同根語」「非同根語」という言



葉を取り上げたが、意味や定義について、確認できなかった。

### 3.2 中国での同根語研究

「同根語」に対する研究が中国で最近盛んになってきた。次に主に三つの論文での「同根語」の意味について考察していきたい。

唐瑛(2002)<sup>(9)</sup>が論文の初めに次のように述べた。

汉语词汇里边的同根词恐怕没有哪一个能够与玉相比。光《汉语大词典》里的以玉为词根的词，词组就多达 1268 个。这是一个庞大的以玉为词根的词汇类聚。

漢語語彙の中の同根語はおそらく「玉」と比較できるものが他にない。『汉语大词典』に収録されている「玉」を語根とする単語、連語は 1268 個に上る。これは「玉」を語根とする膨大な語彙集団である。(筆者訳)

唐瑛(2002)が論文で「同根語」についての定義に触れなかったが、文脈から「同じ語根を持っている語彙集団である」を意味していると理解できる。

王盛婷(2006)<sup>(10)</sup>は埋葬用語の同根語を「埋葬方式を表す同根語」、「埋葬風俗を表す同根語」、「墓室及び墓地建築を表す同根語」、「埋葬道具と埋葬物品」の四種類に分類して、考察したが、「同根語」の定義に触れていない。

王盛婷(2006)は論文で、「埋葬方式を表す同根語」の語根として、「陵」、「墳」、「塋」、「兆」、「壟」を、「埋葬風俗を表す同根語」の語根として、「樹」、「婦」、「改」、「遷」、「徙」、「合」、「祔」を、「墓室及び墓地建築を表す同根語」の語根として、「道」、「碑」、「表」を、「埋葬道具と埋葬物品」の語根として、「棺」、「柩」をそれぞれ挙げたことから、王盛婷(2006)の「同根語」の意味は唐瑛(2002)と同じであると判断できる。

孫玉文(2007)<sup>(11)</sup>も同根語の定義について触れなかったが、前後の文脈からみれば、語源の角度から「同根語」の概念を使っていることが分かる。

孫玉文(2007)はまず「同根词必须音同音近，义同义近义通（訳：同根語は音が同じだったり近かったりし、意味が同じだったり近かったり通じたりしなければならない）」と同根語の条件を挙げ、それから、同根語に派生関係のある原始語と派生語の関係を論じた。

同根词中，尽管绝大多数成员是构词产生的，滋生词是由原始词派生出来的，但是我们 是今之识古，面对的是同根词滋生的结果。从理论上讲，一组一组的同根词，既有原始词和滋生词并存于后世的现象，也有原始词或滋生词的任一方在后世消失的现象。

同根語の大部分が言葉の構成によって生まれたものであり、派生語が原始語から派生したのであるにもかかわらず、私たちは、今の時代にあって、古代の言葉を研究するとき、同根派生語という結果に直面している。理論上から言えば、ひと組ひと組の同根語は、原始語と派生語が後世に併存する現象もあれば、原始語か派生語のどちらかが消えてしまった現象もある。(筆者訳)

原始語が必ずしも先に消滅するとは限らないことを説明した。さらに、同根語である二つの言葉の相互関係を次のように分類した。

假定有两个词是同根词，他们的关系有三种可能：一是甲词是原始词，乙词是派生词；



二是乙词是原始词，甲词是派生词；三是甲乙两词都是滋生词，它们的原始词消失了，甲乙两词之间不存在直接的滋生关系。

仮に甲乙という二つの言葉が同根語であるとする。その相互関係は三つの可能性がある：(一) 甲は原始語であり、乙は派生語である；(二) 乙は原始語であり、甲は派生語である；(三) 甲乙とも派生語であり、それらの原始語が消えてしまい、相互間に直接の派生関係が存在しない。

「同根語」は中国語では「同根词」という。《汉语大词典》に「同根词」が収録されて、「在同一语种中词根相同、意义相似的词（訳：同じ言語の中にある根字が同じで、意味が類似している言葉である）。」と説明してある。

“互动百科<sup>(12)</sup>”では「含有同一个词根的词聚合在一起形成同根词（訳：同じ根字を持っている言葉が集まり、同根語を形成する）。」と説明してある。

以上をまとめてみると、中国での「同根語」の意味は大きく二つに分けられる。つまり、「同じ根字を持つ言葉の集団」と「同じ起源を持つ言葉のグループ」である。

#### 4. 中日同根語

中日同根語も「同じ根字を持つ言葉の集団」と「同じ起源を持つ言葉のグループ」の二種類に分けられる。同じ根字を持つ言葉の集団はおびただしい数にのぼり、それぞれの比較研究は非常に有意義な作業であるが、本研究は同じ起源を持つ言葉に絞る。したがって、本稿では中日同根語を「中国語と日本語の二つの言語体系にある、同じ起源を持つ漢字語のグループである」と定義する。

中日同根語はその起源により、中国起源の同根語と日本起源の同根語に分類できる。

##### 4.1 中国起源の中日同根語

中国起源の中日同根語とは中国で誕生し、日本に伝来後、中日両国でどちらか一方か双方が、字形・語形、意味、用法などにおいて、変化が見られた言葉である。

###### 4.1.1 字形や語形が違う言葉

###### 4.1.1.1 字形の違い

中日漢字の字形<sup>(13)</sup>について、林玉恵(2002)が台湾で使われている漢字と日本語の漢字の字形を詳しく比較して、分類した。ここで張麟声(2009)<sup>(14)</sup>の「作文語彙に見られる母語の転移」に挙げられた例を見てみたい。

日本語	外国	毎月	漢字	音楽	練習	散歩	毎週	天気	洗濯
中国語	外国	每月	汉字	音乐	练习	散步	每周	天气	洗涤

上に挙げられた言葉の字形をよく比較すれば、その違いがはっきりわかる。「外国」と「外国」、「毎月」と「毎月」が「表記上まったく同じものである」とは言えない。中国語の繁体字の「漢」「樂」「練」が日本語で「漢」「楽」「練」に簡略化されたので、「繁体字が使用されているもの」とは言えない。中国語の「歩」は繁体字を使っているが、日本語の「歩」は異体字を使っている。日本語の「週」は繁体字を使っているが、中国語では「周」に簡



略化された。今の中国語の「天」は日本語の「天」と決して同じではない。日本語の「天」は『康熙字典』の「天」と字形が同じであるが、中国では現代文字改革によって、字形は上の線が短くなった。論文では中国語の「天」が日本語と同じ「天」になっている。「洗濯」と「洗滌」は違う言葉で、同形語として扱うのはどうかと思う。「洗滌」は中国語でまだよく使われているが、「洗濯」はほとんど使われなくなった。そして「暴発」と「爆發」が日本語で同じ言葉ではない。

日本語の専門家でさえ間違いやすいほど、中日漢字の字形が大きく違っているので、日本語学習者の習得時の難度が想像に難くない。

#### 4.1.1.2 語形の違い

同じ起源であっても、語の形が大きく変わってしまう場合が多い。語形の変化が四字複合語によく表れているので、「邯鄲の歩み」「竜頭蛇尾」「塞翁が馬」「漁夫の利」について見てみよう。

「邯鄲の歩み」は中国語では“邯鄲学歩”という成語が常用されている。“邯鄲之歩”は昔使われていたが、現在成語として使われていない。そして、“学邯鄲之歩”“效邯鄲之歩”“放邯鄲之歩”“不免邯鄲之歩”“不得邯鄲之歩”“非复邯鄲之歩”<sup>(15)</sup>のように、古典の用例には動詞が欠かせなかった。

「竜頭蛇尾」の意味として、中国語では今“虎头蛇尾”が使われている。“龙头蛇尾”は中国の古典の仏教に関する書籍に多く使われた。《汉语大词典》によると、最も早い“龙头蛇尾”の用例は“元・康进之《李逵负荆》第二折：‘这厮敢狗行狼心，虎头蛇尾。’”である。なぜ「竜」が「虎」に変わったのか、まだわからないが、「竜」と「虎」が同じく「英雄」や「豪傑」を指すので、置き換えができたのだろう。「竜」は想像上のものであるのに対して、虎は中国に実在する動物で、実感が伴うのだろう。筆者の推測であるが、この変化は絵画に関係しているのではないか。中国の画家がよく虎を描いた。最初はものすごい勢いで虎の頭を描いたが、虎の尻尾がうまく描けなくて、蛇の尾に似てしまった。そのような物語から“虎头蛇尾”が誕生した可能性がある。

「塞翁が馬」に対して、中国語に“塞翁失马”“塞翁之马”“塞翁得马”がある。“塞翁之马”には動詞が入っていないが、“塞翁失马”“塞翁得马”には動詞が入っている。一つの名詞より、「主語＋述語＋目的語」の構成はバランスがいいし、理解しやすいので、“塞翁失马”が日常生活でよく使われているのである。

“漁翁得利”“漁翁之利”が日本語に入って、どうして「漁夫の利」に変わったのか、よくわからないが、どうも「翁」は年寄りのイメージが強いので、気に入らないのだろう。“左顾右盼”が日本語で「右顧左盼」になっている。日常生活で「左から右へ」の順番で事を行う場合が多いが、「右から左へ」という可能性もある。しかし中国語には“右顧左盼”という言葉がない。

以上で述べたように、中国で起源した言葉は日本に入って、字形だけでなく、語形が大きく変わったり一部の語しか伝わらなかったりするものが少なくない。



#### 4.1.2 意味に違いが見られる同根語

意味に違いが見られる中国起源の中日同根語を三種類に分類してみた。

##### 4.1.2.1 日本に一部の意味しか伝わっていない同根語

次の言葉が挙げられる。

敷衍 湯 牽引 日程 生理 時事 投機 図書 分析 作者 身分

「敷衍」について詳しく見て行こう。

『大辞林』に二つの意味が載っている。

[1] おしひろげること。展開すること。

[2] 意義・意味をおしひろめて説明すること。また、わかりやすく詳しく説明すること。

《汉语大词典》に次の四つの意味が載っている。

(1) 散布蔓延；传播。(2) 铺陈发挥。(3) 表面应酬，虚与应付。(4) 勉强维持。

中国語では最初の意味は「竹は成長力が強く、周りにどんどん蔓延していく」であった。そこから、「仁徳を伝播する」、「押し広めて説明する、展開してわかりやすく詳しく説明する」意味に発展した。「誇張したりしてでたらめに意味を押し広めて説明する」ところから、「いいかげんにあしらう」「お茶を濁す」「おざなりにする」という意味が生まれたのだろうと推測できる。今中国語では「いいかげんにする」の意味が一般的に使われている。昔の意味がほとんど消えてしまった。

「湯」は日本語で「水を煮えたたせて熱くしたもの」「入浴するため、あたためた水。」「温泉」などの意味で使われているが、中国語でそれ以外に「スープ」の意味がある。唐・王建の《新嫁娘》<sup>(16)</sup>という詩に詠まれた「湯」が「スープ」を意味している。

三日入厨下，洗手作羹汤。未谙姑食性，先遣小姑尝。

花嫁が嫁いで3日目、厨房に入り、手を洗い、羹とスープを作った。姑の味の好みを知らないの、先に義妹に飲んでもらった。(筆者訳)

現在中国語では「スープ」の意味が一般的である。日本語に「熱湯」という言葉があるが、日本語を知らない中国人はきっと「熱湯」を中国語の「热汤」つまり「熱いスープ」と理解してしまうだろう。日本へ観光に来る中国人が増える一方である。ホテルや旅館で「熱湯」という言葉に出会う可能性が大きい。中国語との意味の違いを知らなければ、とんでもない誤解が生じかねない。

##### 4.1.2.2 意味に変化が見られる中日同根語

漢字が中国で誕生して、数千年の歴史をたどってきた。一部分の言葉が中国でもともとの意味で使われてきたが、日本に入ったら、意味に変化が現れた。

次の言葉を例として挙げられる。

日本語	鴨	猿	野菜	痴漢	唱歌	囑託	疎通	注意	審判	勉強
中国語	鸭	猿	野菜	痴汉	唱歌	嘱托	疏通	注意	审判	勉強

「鴨」は日本語で「野生の水鳥」を指すが、養殖のものは「家鴨（あひる）」という。中



国語では“鴨”は普通人工養殖のものを指す。野生の「鴨」は「野」をつけて「野鴨」と言わなければならない。ちなみに、最近「鴨」に「男娼」の意味が加わった。時代とともに、言葉の意味が変化していることが分かる。

次に“猿”について詳しく見て行こう。

《現代汉语词典》では“猿”について、次のように説明してある。

猿:哺乳動物, 外形像猴而大, 種類很多, 没有頬嚢和尾巴, 有的特征跟人类很相似, 生活在森林中。如猩猩和长臂猿。

哺乳動物。外形は「猴」に似て、種類が多い。頬袋と尻尾がない。一部の特徴が人間に似て、森の中に生息する。チンパンジーや手長猿など。(筆者訳)

中国語での“猿猴”は“猿”と“猴”を別々に指している。“猿”はチンパンジー、ゴリラ、手長猿などを指す。“猴”は「日本猿 (ニホンザル)」「天狗猿 (テングザル)」「尾長猿 (オナガザル)」などを指す。日本語では「猿猴」を使い分けずに、全部「猿」と呼ぶ。おそらく中国の「猿」のような動物が日本に生息していなかったからだろう。

「野菜」は、日中学者たちが中日同形語か中日言葉の違いについて述べる時、よく取り上げる言葉であるが、日本語では「食用に育てた植物」<sup>(17)</sup>を指し、「野生」の意味がなくなった。中国語では「野生の食用できる植物」<sup>(18)</sup>を指し、広い野原でもいろいろとれるので、日本語の「山菜」とは限らない。したがって、中国語の「野菜」の意味を日本語で表現しようと思っても、対応する言葉がないので、ずいぶん悩まされる人が少なくない。

「痴漢」という言葉は日本のいろいろなところで見かける。中国語では「愚かな人」と「真摯な人」の意味であるが、日本語では「愚かな男」より、「電車の中や夜道などで、女性にみだらないたずらをする男」の意味がよく使われている。中国にいる日本語学習者は「痴漢」という言葉に出会うチャンスが少ないが、日本に来たら、「痴漢」の意味に戸惑う人が少なくないだろう。

#### 4.1.2.3 中国古代の意味が使われなくなったり、狭まったり、新しい意味が加わったりする中日同根語

特に日本で新しい意味が誕生し、逆に中国に伝来して、定着した言葉が少なくない。次の言葉が挙げられる。

日本語	温床	私立	具体	科目	予算	左翼	演繹	組織	遺伝
中国語	温床	私立	具体	科目	预算	左翼	演绎	组织	遗传
日本語	異物	分子	調整	表象	景気	大気	代表	幹事	広場
中国語	异物	分子	调整	表象	景气	大气	代表	干事	广场
日本語	金額	金牌	経済	精神	経験	巨頭	巨星	命題	暖流
中国語	金额	金牌	经济	精神	经验	巨额	巨星	命题	暖流
日本語	評価	結果	索引	実在	質量	写真	修辞	主権	情景
中国語	评价	结果	索引	实在	质量	写真	修辞	主权	情景



日本語	衝動	設計	絶対	選挙	旗手	前衛	社会	昇華	系統
中国語	冲动	设计	绝对	选举	旗手	前卫	社会	升华	系统
日本語	元素	入口	出口	保険	信託	主体	美化	理性	民主
中国語	元素	入口	出口	保险	信托	主体	美化	理性	民主
日本語	素質	同情	民法	柔道	水準	品位	相称		
中国語	素质	同情	民法	柔道	水准	品味	相称		

まず「温床」について見て行こう。《汉语大词典》によれば、もともとは“旧时对父母的一种孝行：冬天卧床使之温暖后，再让父母上床就寝（昔親孝行の一つ：寒い冬にさきに寝て、ベッドと布団を温めてから、両親に就寝してもらう）。”という意味であった。“床”は中国語で「ベッド」を意味する。「温床」は「V+N」の動賓構造であった。その意味はすでに中国で消滅した。日本で「わら・落ち葉などの有機物の発酵熱や電熱などを利用して土の温度を高めた苗床」とその比喩的な意味の「ある傾向や風潮が育つのに都合のよい環境」の意味が新たに生まれて、中国に逆輸入されて、一般的に使われるようになった。

“私立”は、中国語で「許可を得ずにこっそり設立する」意味であったが、「個人や法人で設立・経営する」という意味が日本で生まれて、中国語に入ったのである。日本の私立学校・大学などは決して国公立に引けを取らないが、中国では「私立学校・大学」の歴史がまだ浅いので、国公立との格差が大きい。

#### 4.1.3 語用に違いがある同根語

##### 4.1.3.1 品詞の違いがある言葉

中国語と日本語の言語体系では、語に対する理解が違ったり、分類も違う。品詞の属性が大きく違う言葉も少なくない。それは中国の日本語学習者の誤用につながる大きな要因の一つであろう。

品詞の違う中国起源の中日同根語は数が多いが、紙幅の関係で次の言葉を挙げる。

言葉（日本語／中国語）	中国語	日本語
明確／明确	形・他動	名・形動
輩出／辈出	自動	名・サ変自他動
適用／适用	形	名・サ変他動
暴行／暴行	名	名・サ変自他動
紅葉／红叶	名	名・サ変自動
波動／波动	名・自動	名

“輩出”は中国語で自動詞のままで、「優れた人材や英雄が次々と出てくる。」意味を表しているが、日本語ではサ変他動詞として多用されるようになった。『広辞苑』は「続々とつらなり出ること。多く、才能あるすぐれた人材にいう。」と自動詞として扱っているが、「が輩出」と「を輩出」で全文検索したら、「が輩出」は16例、「を輩出」が31例ヒットした。他動詞の使い方が自動詞よりずっと多いことが分かる。また、「が輩出」の例の中で、



人だけでなく、「類似の物語が輩出」「唯物論的存在論等が輩出し」のような人以外のものも主語になれる。

#### 4.1.3.2 語義と品詞の違いがないが、語用に違いがある言葉

ここで「再会」と「防備」の2例を挙げる。

「再会」は中国語で「将来いつかまた会う」という意味か、「また会いましょう」というあいさつとして使われることが多い。過去形の「再会した」の意味は《左伝》の“再会而盟，以显昭明。”があるが、ほかに用例が確認されていない。日本語では「三〇年ぶりに再会した友」<sup>(19)</sup>のように「再会した」もよく使われる。

「防備」の使い方は中日で微妙な違いがある。「外敵や災害に対してそなえをする」意味では同じであるが、中国語では、防備の対象が人や災害、人の攻撃などに限り、「港湾」「辺境」などが対象にならない。それらを対象とする場合、むしろ「防衛」を使った方が適切である。そして、中国語では、後に目的語が来ないで「防备」で文を終わることもできる。日本語では「辺境を防備する」<sup>(20)</sup>「国境を防備する」<sup>(21)</sup>「港湾などの防備」<sup>(22)</sup>「ウェブ情報漏洩から重要コンテンツを防備する」<sup>(23)</sup>などのように、守られる対象が目的語になる場合が少なくない。しかし、「日本を防備する」という表現は誤解を招きかねない。

(1) われわれのシステムは日本を防備するようには構築されていない。<sup>(24)</sup>

日本人は「日本を守る」という意味で使っているつもりだが、中国人は「日本に警戒心を持ち、再び侵略してくるのを防ぐ」と理解してしまうだろう。こういう表現が要注意であることは言うまでもない。

#### 4.1.3.3 「V+N」で構成される複合語

中国語から日本語に入った複合語の中に「V+N」で構成される複合語が数多くある。中国語で「動詞＋目的語」で、自動詞として使われることが多い。日本語では自他動詞として使われる場合が少なくない。

日本語の辞書やインターネットで次のような例を集められた。

- (2) 条約を締約する (『大辞林』)
- (3) 架橋工事を施工する (『大辞林』)
- (4) 運送会社を営業する (『大辞林』)
- (5) 建築物を解体する (『大辞泉』)
- (6) 同盟を締約する (『大辞泉』)
- (7) 支店を開店する (『大辞林』)
- (8) 野球を観戦する (『大辞林』) (『大辞泉』)<sup>(25)</sup>
- (9) 太平洋を航海する (『大辞林』) (『大辞泉』)<sup>(25)</sup>
- (10) 両眼を失明した (『講談社日中辞典』)
- (11) ライトを点灯する (『大辞林』)
- (12) 過半数を得票できない (山陽新聞)<sup>(26)</sup>
- (13) 宇都宮城へ入城する当時の様子を華々しく再現した。 (朝日新聞)<sup>(27)</sup>



(14) 予備校に入校する (『大辞泉』)

(15) 参謀本部の連中が～に乗船してきた。(『講談社日中辞典』)

(16) 自分の所で自家用の電力を発電すること。(『大辞林』)<sup>(28)</sup>

中国人から見ると、複合語の中に動詞が含まれているので、また動詞をつけると、重なる表現になるのではないか、と思われるが、日本語ではむしろその動詞的な要素を無視し、名詞として、動詞と連語を構成する傾向がある。例えば：「被害を受ける」<sup>(29)</sup>「念仏を唱える」<sup>(30)</sup>「寓意を含む」<sup>(31)</sup>などで、「被」と「受」、「念」と「唱」、「寓」と「含」はそれぞれ同じ意味を表す。中国語ではそれぞれ“被害・受害”“念佛”“寓意”だけで意味が十分に表せるので、中国の日本語の学習者はそれらの表現に違和感を覚えるだろう。

#### 4.1.3.4 中国語の離合詞

中国語の一部の複合語の構造が日本語ほど密接ではない。あいだに別の言葉を挿入できる。これは中国語の言葉の独特な現象である。「動詞＋名詞」の語構成が多い。

中国語	出血	辞职	读书	发言	翻案	干杯	革命	兼职	结婚
日本語	出血	辞職	読書	発言	翻案	乾杯	革命	兼職	結婚
中国語	尽力	救命	绝食	离婚	理发	留学	冒险	起草	起床
日本語	尽力	救命	絶食	離婚	理髮	留学	冒険	起草	起床
中国語	求婚	求人	散步	伤心	退步	征兵			
日本語	求婚	求人	散歩	傷心	退歩	徴兵			

#### 4.1.4 仏教に由来する同根語

仏教が中国に伝来した時、翻訳作業は欠かせなかった。梵語を音訳したり、意識の漢語を造ったりしたのにずいぶん苦労した。その中で「根」を含む言葉がかなり多い。

中国語	慧根	眼根	五根	根机	根性	上根	身根	定根	钝根
日本語	慧根	眼根	五根	根機	根性	上根	身根	定根	鈍根
中国語	耳根	心根	性根	念根	善根	命根	利根	六根	男根
日本語	耳根	心根	性根	念根	善根	命根	利根	六根	男根
中国語	讲师	讲坛	修行	宗教	佛灭	念佛			
日本語	講師	講壇	修行	宗教	仏滅	念仏			

「宗教」はもともと仏教だけを指した言葉であった。「仏滅」は「仏滅度」の省略である。中国での用例は「仏滅」が少なかったが、「仏滅度」の用例<sup>(32)</sup>は古典書籍に多く確認できた。「滅度」について“灭烦恼，度苦海。涅槃的意译。”と《汉语大词典》に説明してある。「煩惱をなくし、苦しみの海から解脱する」つまり「涅槃する」意味である。日本語に入って、「六曜の一。すべてに凶であるとする日。仏滅日。」という意味が生まれて、日常生活で使われるようになった。

仏教は私たちの生活にすっかり根をおろしている。中国では今無宗教の人が多いが、しかし無意識のうちに、仏教の影響を受けている人が少なくない。仏教用語も同じように日



常生活でよく使われているが、仏教に由来する言葉であると意識されないものが意外に多い。

## 5. 日本に起源した中日同根語

日本で誕生して、中国に伝わった後、どちらか一方に字形、語義、語用に変化がある言葉のグループを「日本に起源した中日同根語」という。

明治維新後、洋学を日本に紹介しようとして、大量の訳語を必要とした。中国から伝来した言葉に新しい意味をつけて訳語にしたほかに、漢字・漢語の意味と形を用いて、多くの新語を造った。それらの言葉はまた中国に輸入され、よく使われ、日本に起源した中日同根語の大部分を占めている。

筆者は次の基準に基づき、日本に起源した中日同根語であるかどうかを判断した。

- (ア) 日本の文献にはっきりと根拠を示しているもの。
- (イ) 中国の《汉语大词典》にその言葉あるいはその言葉に関する古典の用例が収録されていないもの。
- (ウ) 明治維新以前の中国の古典文献に用例が確認されていないもの。
- (エ) 現在でも中国で使われているもの。

### 5.1 書き方、意味用法が全く同じである言葉

日本の造った漢語に、現在の中日両国で書き方、意味用法の全く同じである言葉が数多くある。しかし、同根語とは言えない。発音の問題は別として、同根語には書き方、語義、語用のいずれかに何らかの変化がなければならないからである。次の言葉が挙げられる。

出廷 催眠 短波 公立 公民 否定 副食 概念 固体 光年 国立 化学 幻灯  
基地 巨匠 美感 蜜月 年度 硼酸 旋律 汽笛 前提 商法 少尉 社交 失恋  
素材 素描 随員 体操 体育 系列 学位 消防 要素 液体 哲学 政党 指数  
仲裁 作品 高潮 内幕 小夜曲 二重奏 内分泌 修辞学 大前提 小前提  
清教徒 探照灯 消火栓

それらの言葉は日本語学習者にとって最も習得しやすいので、どんな言葉があるか、整理して、抜き出すことはけっして無意味な作業ではないと思う。

### 5.2 文字の形に違いがある言葉

漢字の形に多少の違いが確認できた言葉は次に挙げられる。

日本語	版画	半径	半旗	標語	表決	動産
中国語	版画	半径	半旗	标语	表决	动产
日本語	場合	立場	简单	单纯	電報	電車
中国語	场合	立场	简单	单纯	电报	电车
日本語	電波	電話	電流	定義	動力	動脈
中国語	电波	电话	电流	定义	动力	动脉



日本語	動態	動議	動員	反感	反射	不動産
中国語	动态	动议	动员	反感	反射	不动产
日本語	催眠術	簡單化	単行本	蛋白質	導火線	動力学
中国語	催眠术	简单化	单行本	蛋白质	导火线	动力学
日本語	汎神論	高利貸し	仮分数	流線型	交響楽	推進器
中国語	泛神论	高利贷	假分数	流线型	交响乐	推进器
日本語	教科書	真空管	所得税	航空母艦	交感神経	新陳代謝
中国語	教科书	真空管	所得税	航空母舰	交感神经	新陈代谢

### 5.3 中国語にあった複合語を使い、造られた新しい言葉

明治時代は、中国の 2 字複合語を使って、新しく造られた言葉が少なくない。以下の例が挙げられる。

牽引力 牽引車 駆逐艦 軍需品 人力車 入場券 生理学 生活費 人生観 世界観  
統計学 社会学 下水道 処女作 剰余価値 正当防衛 形而上学 自然淘汰  
人身攻撃 文学作品 流行性感冒

上の造語に含まれている「牽引」「駆逐」「軍需」「人力」「入場」「整理」「生活」「人生」「世界」「統計」「社会」「下水」「処女」「余剰」「価値」「正当」「防衛」「形而上」「自然」「淘汰」「人身」「攻撃」「文学」「流行」「感冒」はもともと中国にあった言葉である。

### 5.4 日本人の造った言葉は日本で現在漢字の表記が使われていないあるいはあまり使われないが、中国でよく使われている

次の言葉が挙げられる。

中国語	天鵝絨	瓦斯	混凝土	咖啡	基督	基督教
日本語	天鵝絨	瓦斯	混凝土	咖啡	基督	基督教
読み方	ビロード	ガス	コンクリート	コーヒー	キリスト	キリストきょう

### 5.5 意味に違いが見られる言葉

日本で造られた言葉が中国語に入って、意味が変化したものも少なくない。意味の違いが確認できた言葉として、次の例が挙げられる。

日本語	観点	背景	前線	投影	低調	見習	攻守同盟	紳士協定
中国語	观点	背景	前线	投影	低调	见习	攻守同盟	绅士协定
日本語	公安	支部	組閣	波長	借方	出発点	代言人	新聞記者
中国語	公安	支部	组阁	波长	借方	出发点	代言人	新闻记者

「観点」はもともと日本語で「物事を考察・判断するときの立場」の意味だったが、中国語に入り、“从一定的立场或角度出发, 对事物或问题所持的看法<sup>(33)</sup> (ある立場や角度からの、物事や問題に対する見方・考え方)” という意味に変わった。

「攻守同盟」は「二国以上の国が協力して、第三国に対する攻撃や防御を行うために締



結した軍事同盟」を意味するが、中国語では、それ以外に「結託した犯罪者が捕まっても仲間をかばおうとして裏切らないこと」というマイナス的な意味が加わった。今この意味が常用されている。

#### 5.6 語用に違いがある同根語（主に品詞性の違いがある言葉）

日本起源の中日同根語は品詞性などの用法において、かなりの違いを確認できた。以下の語例が挙げられる。

言葉（日本語／中国語）	日本語	中国語
抽象／抽象	名・サ変他動	他動・形
活躍／活跃	名・サ変自動	形・自他動
肯定／肯定	名・サ変他動	自他動・形・副
否定／否定	名・サ変他動	他動・形
内在／内在	名・サ変自動	形
外在／外在	名・サ変自動	形
直接／直接	名・サ変自動・副	形
直観／直观	名・サ変他動	形・名
重点／重点	名	名・形・副
原則／原则	名	名・副

### 6. おわりに

以上「同じ起源をもつ」中日同根語について述べてきた。その中日同根語を大きく「中国起源の同根語」と「日本起源の同根語」に二分し、さらに、字形・語形、語義、用法などにより下位分類した。字形・語形と語義が時代と環境により大きく変化すること、語用の中で、特に品詞性が大きく相違することがわかった。

字形語形、意味、用法が全く同じ言葉が最も習得しやすい。それらはまさに「同形同義語」である。中日同根語の字形と語形が大きく違っているものが多い。字形と語形は言語の基本なので、その教育を徹底する必要がある。中日同根語の意味用法に大きな違いが見られる。それらを明確にして、日本語学習者に知ってもらい、より正しく日本語の漢字語を理解したり、応用したりしてもらえ。

中日両国の一部の書籍や辞書の漢語の語源の説明にはまだ議論する余地がある。中国人も日本語からの外来漢語について知らない人が少なくない。語源と歴史的変遷、文化的な背景がわかれば、知識が広められるし、言葉の習得も面白くなり、言葉に対する理解が深められる。

### 注

- (1) 邱學瑾(2003)「台湾人日本語学習者における日本語漢字熟語の処理過程:日・中 2 言語間の同根語と非同根語の比較」『広島大学大学院教育学研究科紀要第二部, 文化教育開発



- 関連領域』51号, pp. 357-365.
- (2) 邱學瑾(2003)と邱俞瑗(2007)の挙げたすべての漢語について、《汉语大词典》や《中国古籍全录》などを調べて、確認した。
- (3) 邱俞瑗(2007)「台湾人日本語学習者における日本語単語の聴覚的認知——同根語・非同根語・ひらがな単語・カタカナ単語の比較——」『日本語教育』132号, pp. 108-117.
- (4) 中国古籍全录 <http://guji.artx.cn/article/31833.html>
- (5) 蔡鳳香・松見法男(2009)「中国語を母語とする上級日本語学習者における日本語漢字単語の処理過程——同根語と非同根語を用いた言語間プライミング法による検討——」『日本語教育』141号 pp. 14-24.
- (6) <http://dic.yahoo.co.jp/guide/jj02/>
- (7) <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%90%8C%E6%A0%B9%E8%AA%9E>
- (8) 三宅恭子のシリーズ論文は次の3点である。
- (2002)「言語による心的辞書構造の違い」『ことばの科学』15号, pp. 159-178.
- (2003)「バイリンガルにおける概念の活性化と文化的要因」『ことばの科学』16号, pp. 67-86.
- (2005)「バイリンガル記憶表象研究:定義上のあるいは方法論的課題の検討」『国際開発研究フォーラム』29号, pp. 47-59.
- (9) 唐瑛(2002)〈同根词“玉”文化考察〉《四川师范学院学报(哲学社会科学版)》第04期, pp. 9-11
- (10) 王盛婷(2006)〈试说汉魏六朝碑同根葬词〉《西华师范大学学报(哲学社会科学版)》第02期, pp. 85-89
- (11) 孫玉文(2007)〈上古汉语词缀构拟析评(上)〉《汉江大学学报(人文科学版)》第26卷第3期, pp. 39-46
- (12) <http://www.hudong.com/wiki/%E5%90%8C%E6%A0%B9%E8%AF%8D>
- (13) 中国大陸と日本の漢字の字形について、拙論の「中日漢字の字形比較研究」を参照。
- (14) 張麟声(2009)「作文語彙に見られる母語の転移——中国語話者による漢語語彙の転移を中心に(特集 作文教育のための語彙研究)」『日本語教育』140号, pp. 59-69
- (15) <http://guji.artx.cn/search.asp?main=%BA%AA%B5%A6%D6%AE%B2%BD&xm1=1>
- (16) 『全唐诗』巻301-22 中華書局, 1979
- (17) 『大辞林』の「野菜」の説明による。以下、注をつけなければ、言葉の意味の説明は全部『大辞林』による。
- (18) 筆者の言葉。
- (19) 松村明(1998)監修『大辞泉』増補・新装版 小学館
- (20) 『大辞泉』に載っている「蝦夷管領」の項目の説明による。
- (21) 『大辞泉』の「防備」の用例による。
- (22) 『大辞泉』に載っている「浮(き)砲台」の項目の説明による。



- (23) <http://japan.zdnet.com/paper/story/0,3800075931,10381260,00.htm>
- (24) <http://www.sankei.co.jp/seiron/wnews/0703/opi2.html>
- (25) 『大辞林』と『大辞泉』に同じ用例が出ている。
- (26) <http://www.sanyo.oni.co.jp/newsk/2009/09/08/20090908010011761.html>
- (27) 「朝日新聞」2008年10月20日朝刊 栃木全県・1地方
- (28) 『大辞林』に載っている「自家発電」の項目の説明による。
- (29) 『大辞林』と『大辞泉』の「凍害」の項目の説明に使われている。
- (30) 『大辞林』の「念仏」の用例による。
- (31) 『大辞泉』の「寓意」の用例に「寓意を含んだ絵」がある。
- (32) <http://guji.artx.cn/search.asp?main=%B7%F0%C3%F0%B6%C8&xm1=1>
- (33) 《汉语大词典》の“观点”の項目の説明による。



## 第六章 中日同形語と受身

### 1. はじめに

日本語と中国語の受動文<sup>(1)</sup>に関する研究が多くの研究者によって盛んになされてきている。それぞれの研究が深められるにつれて、受動文の日中対照研究も増えてきた。しかし、中島悦子(2007)が指摘したように、「日本語と中国語との対照研究の分野においては、いまだその研究が十分になされているとはいえず、不明な点も多い。」例えば、中日同形語のサ変動詞の受身に関する研究成果はまだ確認されていない。

そこで、本稿はヴォイスの受身の角度から中日同形語を比較してみたい。

### 2. 先行研究

受動文の日中対照研究として、中島悦子(2007)と飯嶋美知子(2007)が挙げられる。

中島悦子(2007)は、「受身と日中対照」で志賀直哉の『暗夜行路』とその訳本の《暗夜行路》(漓江出版社 1985)を受身の日中対照の資料として、日本語の直接受身文、間接受身文、自動詞の受身などに対応する中国語表現を取り上げ、日中両語を対照した。中島悦子(2007)は日本語の直接受身文と対応する中国語表現を「“被”受身文」、「他動詞能動文」、「無対応」、「自動詞文」、「語彙的受身」の5類に分類し、日本語の和語の動詞(例えば、叱る、死ぬ、握る、怨む、打つ、傷つける、与える…)を中心に、日中の受身の比較を展開した。

飯嶋美知子(2007)は、論説文の受動文を「直接受身」と「内容の受身」に大きく二分した上で、「直接受身」をさらに「動作主不明」と「動作主あり」の2類に分類した。そして、「動作主不明」の中国語への訳され方を、「“被”構文」、「語彙レベルの受動文」、「意味上の受動文」、主語の明記されている能動文(「能動文1」)、主語が省略されている能動文(「能動文2」)、「存現文」、「“是～的”文」、「慣用表現・固定表現」、「意識」の9パターンに、「動作主あり」の中国語への訳され方を、「“被”構文」、「語彙レベルの受動文」、「意味上の受動文」、「能動文1」、「能動文2」、「存現文」、「“是～的”文」、「意識」の8パターンに下位分類し、詳しく考察した。

### 3. 日本語の中日同形語の受動文に対応する中国語表現

#### 3.1 講談社『日中辞典』で受身形と受身の意味で使われた中日同形語

筆者は講談社『日中辞典』のCD-ROMを使い、「され」というキーワードで検索した結果、1387件の例文が見つかった。その中から、中日同形語を含んでいる509の受動文<sup>(2)</sup>を抽出して統計した結果、310の中日同形語が受身形と受身の意味で使用されていることがわかった。以下、五十音図順で使用頻度によって分類し、表1に整理した。



表 1

頻度 数	中日同形語	語彙 数	受動 文数
1	压倒 威嚇 移送 移入 依頼 運轉 解決 回航 開始 解釈 開設 改訂 解任 開発 回避 開封 開放 拡大 隔絶 課税 還元 刊行 完成 完備 緩和 記載 逆転 求婚 凝縮 供出 強制 強迫 強要 挙行 議論 駆逐 敬愛 計算 揭示 保留 撃沈 決定 結党 検出 厳選 建造 降格 拘禁 攻撃 公告 絞殺 公示 交渉 更新 公布 護衛 告訴 告発 護送 混入 建立 彩色 削減 削除 詐取 殺害 惨殺 算出 算定 刺激 試験 実行 実施 執筆 射殺 惹起 邪魔 遮蔽 収監 重視 収集 修正 収蔵 收容 蹂躪 収録 種別 樹立 順延 潤色 上映 召還 召集 消毒殺菌 承認 招聘 証明 省略 触発 囑望 囑目 処刑 処罰 処方 除名 信仰 侵犯 信頼 推挙 吹奏 水葬 寸断 生産 精選 製造 説教 設計 設定 節約 選定 選任 選抜 創建 増進 創設 増発 装備 増幅 創立 束縛 阻止 組織 尊敬 代表 達成 弾劾 蓄積 中止 注射 中断 注目 徴集 彫琢 徴用 嘲弄 珍重 陳列 追徴 締結 適用 電解 展示 転用 投影 投下 討議 凍結 搭載 同情 淘汰 導入 盗用 毒殺 独占 内臓 軟禁 二等分 認定 任命 悩殺 媒介 配合 排出 配属 迫害 発刊 発掘 発行 破門 反映 判断 判定 反対 販売 頒布 批評 罷免 描写 封印 封鎖 賦与 分断 分割 分配 分類 閉鎖 併称 返還 変更 編纂 包囲 包含 放置 報道 補強 保釈 保存 保証 翻刻 埋葬 密封 命名 免職 黙認 約束 誘拐 猶予 輸入 養育 流露 陵辱 冷遇 轢断 連結	224	224
2	愛 印刷 汚染 解放 隔離 加工 感化 歓迎 救出 起用 啓発 検挙 催促 質問 支配 遮断 祝福 出題 出版 授与 上演 召喚 処分 審議 診断 占領 断定 展開 爆破 発令 批判 評価 編入 放映 忙殺 放出 没収 利用	38	76
3	延期 改正 確認 加算 許可 形成 懸念 構成 拘束 誤解 採用 施行 釈放 選出 提出 暴露 派遣 翻弄 抹殺 免除 予想	21	63
4	延長 期待 指摘 指名 宣告 洗練 注意 剥奪 否決 非難 保障 目撃 優先 要求	14	56
5	解雇 公開 支持 指定 請求 設置 配置	7	35
6	左右 破壊	2	12
7	起訴 発表	2	14
9	禁止	1	9
20	逮捕	1	20
合計		310	509



以上の中日同形語を構成する文字数を見ると、1文字の「愛」、3文字の「二等分」、4文字の「消毒殺菌」を除いて、ほかは全部2文字の複合語であることがわかる。

### 3.2 上述した日本語の中日同形語の受動文に対応する中国語表現

日本語の509の受動文は全部直接受動文であるので、本稿は直接受動文を中心に考察していく。間接受動文の中日対照研究は別の機会に譲る。

サ変動詞としてはほとんど他動詞<sup>(3)</sup>と自他動詞であるが、「同情」「説教」「反対」のような「に」で対象を表せる自動詞<sup>(4)</sup>も直接受動文が構築できる。

筆者は509の受身文に対応する中国語の訳文を詳しく分析し、中国語への訳され方によって、大きく「受動文」、「能動文」、「無対応文」に分類して表2にした。

「受動文」はさらに「“被”構文」と「意味上の受動文」に下位分類し、「意味上の受動文」をさらに「“被”以外の受身マーカー構文」と「非情物主語＋自動詞構文」に下位分類した。

「能動文」はさらに「動作主不明」と「動作主あり」の2類に分類した。

「無対応文」はさらに「意識文」、「存現文」、「“是～的”文」、「使役文」などに分類した。

表2

訳文の分類			訳文数
受動文	“被”構文		176
	意味上の受動文	“被”以外の受身マーカー構文	76
		非情物主語＋自動詞構文	74
能動文	動作主不明		57
	動作主あり		52
無対応文	意識文		44
	存現文		6
	“是～的”文		11
	使役文		4
	形容詞文・ほか		9

「意味上の受動文」である「非情物主語＋自動詞構文」は中国語ではあまり受動文として意識されないのので、本当に受動文と言える訳文は「“被”構文」と「“被”以外の受身マーカー構文」で、その数は252で全体の半分にも満たない。

中国語で受動文が構築でき、日本語で受動文が構築できない言葉(詳細後述)は若干あるが、全体的には中国語より日本語のほうが受動文が多用されているといえよう。



### 3.2.1 受動文

「“被” 構文」は多くの方に論じられてきたので、ここでは主に「意味上の受動文」について詳しく考察していく。「意味上の受動文」は「“被” 以外の受身マーカー構文」と「非情物主語＋自動詞構文」に再分類できる。

#### 3.2.1.1 “被” 以外の受身マーカー構文

「“被” 以外の受身マーカー構文」は中島悦子(2007)で「語彙的受身」と、飯嶋美知子(2007)で「語彙レベルの受動文」と呼ばれているが、受身の意味を表す自動詞も語彙に属するので、筆者はそのような呼び方を避けたのである。

次の表3のように、“被” 以外の受身マーカーが使われている。

表 3

受身マーカー	受動文数
“受” “受到”	44
“遭” “遭到” “遭遇”	9
“得” “得到”	7
“经” “经过”	5
“由”	5
“获” “获得”	2
“挨”	1
“赢得”	1
“在……中”	1
“在……下”	1

“被” 以外の受身マーカーとして、“让” “叫” “给” “由” が挙げられるが、訳文では“让” “叫” “给” が確認できなかった。“让” “叫” “给” は話し言葉で使われるからであろう。“被” “让” “叫” “给” “由” は介詞として受動文に使われるので、受身マーカーとして認められているが、“受” “经” “得” “遭” “挨” などはまだ動詞を保ったまま、介詞化していない。しかし、“经” “经过” の受身マーカーの働きはすでに屈哨兵(2008)によって証明された。屈哨兵(2008)は“经” “经过” のような言葉を“可能被标” と名づけた。筆者は“受” “经” “得” “遭” “挨” などを「準受身マーカー」と呼ぶことにする。

“获” “获得” “赢得” “在……中” “在……下” などにも受身の可能性が含まれているので、「意味上の受動文」に分類したのである。「準受身マーカー」の類に入れるのは無理があるが、便宜上、そのように分類したのである。

次に、上述した受動文と訳文をそれぞれ1例ずつ取り上げる。

- (1) 契約の当事者は締結した契約に拘束される／契約的当事人受所订契约的约束。
- (2) 校則に違反した生徒は厳しく処罰される／违反校规的学生将受到严厉处罚。
- (3) 騒乱罪で逮捕される／疑涉骚乱罪而遭逮捕。



- (4) 提案は 38 票対 45 票で否決された／那个提案以 38 票对 45 票遭到了否决。
- (5) 頭越しに交渉された／遭遇“越顶外交”。
- (6) 当店ではこのブランドのバッグがシンプルで飽きのこないデザインで幅広い層から支持されています／在我们店，这个牌子的提包设计简朴大方久用不膩，深得消费者的信赖。
- (7) 情報はまだ確認されていない／这个消息还没得到证实。
- (8) 内容が不適切と判断されるメッセージは無警告で削除されます／经判断认为内容不合适的留言，将被无警告删除。
- (9) 水道水は塩素で消毒殺菌されている／自来水已经过氯气消毒杀菌。
- (10) 委員会は 5 人の委員によって構成されている／委员会由五个委员组成。
- (11) 救助されたとき彼はまだかすかに息があった／刚获救时他还有微弱的呼吸。
- (12) 法案は原案どおり承認された／法案按原案获得了批准。
- (13) 注意された生徒はむっとした顔で教師を睨み返した／挨了训的学生不服气地回瞪了教师一眼。
- (14) 廉直な人柄で周囲から尊敬されている／为人廉洁正直赢得周围人的尊重。
- (15) 2 人は両親や友人から祝福されて結婚した／他俩在父母和朋友的祝福中结婚了。
- (16) 首相は身辺警護の SP に護衛されて会議に出席した／首相在贴身保镖的护卫下出席了会议。

### 3.2.1.2 非情物主語＋自動詞構文

「非情物主語＋自動詞構文」は中島悦子(2007)で「自動詞文」と、飯嶋美知子(2007)で「意味上の受動文」と呼ばれているが、「意味上の受動文」の外延はもっと広いと思われる。

「非情物主語＋自動詞構文」の「自動詞」は表面上他動詞のように見えるが、自動詞の使い方も成立している。中国語ではもともと動詞は自他の区別がはっきりしないのである。むしろ自他の意識がないほうが自由に言葉を駆使できる。

訳文の中に使われた「延期」「延長」「解決」「開始」「決定」「更新」「増加」「蓄積」「中断」などが日本語でも自他両用サ変動詞であるので、まったく問題にならない。

一方では、「開放」「上映」「形成」「出版」「実施」「増強」などの言葉は中国語では自他両用であるが、日本語では他動詞の使い方しかないので、中国語から日本語に翻訳される際、中国人には受動文がやや使われにくい。

## 3.3 能動文

能動文は「動作主不明」と「動作主あり」に分類した。

### 3.3.1 動作主不明

(17) 雑念がわいて思考が邪魔される／产生了杂念，影响了思考。

(18) 面接では、英会話の能力が試験される／面试时要测验英语会话能力。

(17) の受動文は動作主が全くわからないといってもいい。(18) の受動文は常識から、動作主が「試験官」であることが推測できる。訳文には動作主が訳されていない。



### 3.3.2 動作主あり

動作主が受動文で「に」「から」「によって」などで表される場合、すぐに判断できる。例えば、

(19) ガイドに過分の謝礼を要求された／导游索取过多的报酬。

(20) 友人から本を返すよう催促された／我朋友催促我还书。

(21) 大臣の発言によって大論争が惹起された／大臣的讲话引起了一场大论战。

文脈によって、受動文に潜んでいる動作主を探し出して、訳される場合もある。次の例を見よう。

(22) 料理に適度な酸味があると食欲が増進される／菜中带有一点儿酸味更能增加食欲。

(23) 災害時に自衛隊の戦闘糧食が被災者に供出された／在灾害发生时自卫队把他们的携带粮提供给了灾民。

(24) あいつの約束はいつも空手形で実行されたことがない／他总是开空头支票，从来没有兑现过。

(22)の能動文として「酸味のある料理が食欲を増進する」と判断できる。「料理」が能動文の主語なので、動作主である。(23)(24)の動作主は受動文では所有者の形で現れたのである。

受動文で空間を表す場所が動作主として抽象的な名詞に訳された能動文も少なくない。例えば、

(25) うちの市にもようやく児童相談所が開設された／我市也终于设立了儿童咨询所。

(26) この文集には卒業生の思いが凝縮されている／这本文集凝聚了全体毕业生的情怀。

(27) この国では多量の鉄が生産される／这个国家生产大量的铁。

(25)の「うちの市」、(26)の「この文集」、(27)の「この国」は訳文では意味が変えられてしまった。

次の「場所」と「主語」を兼ねる文はユニークな現象といえよう。

(28) この作品には、作者自身の内面がたぶんに投影されている／这个作品中，大量映衬了作者的内心世界。

(29) 日記には書き手の真情が流露されている／日记中流露出作者的真情。

(30) この一言にはいろいろな意味が包含されている／这一句话里包含着很多意思。

次の受動文の「の間で」「間に」も空間と主語両方を表している。

(31) 警官と犯人との間で銃撃戦が展開された／警察与罪犯之间展开了枪击战。

(32) 両国間に講和条約が締結された／两国间签署了媾和条约。

もとの受動文に動作主が現れていないが、文脈から推測して、動作主を付け加えた訳文も少なくない。

(33) 行員たちはピストルで威嚇された／歹徒用手枪威胁银行工作人员。

(34) この新技術は景気回復の起爆剤として期待されている／人们期待着这项新技术能带动经济复苏。



(35) 石油危機の再来が懸念されている／人们担心会再次发生石油危机。

(33) は一般的な常識から動作主が“歹徒”であることが推測できる。(34)、(35) は大勢の人の「期待」と「懸念」を表しているので、“人们”と訳されたのである。

### 3.3.3 目的語の前置

受動文を能動文に翻訳するとき、“对”“把”などをもって目的語を動詞の前に前置させるのも訳文の特徴の一つといえよう。

(36) カンニングをした者は嚴重に処分される／对考试作弊者严加惩罚。

(37) 新人賞作家の第2作は評論家から手厳しく批評された／对于获得新人奖的作家的第二部作品，评论家给予了毫不留情的批评。

(38) 利益は株主に分配される／把盈利分配给股东。

### 3.4 無対応文

「無対応文」はさらに「意識文」「存現文」「“是～的”文」「使役文」「形容詞文・ほか」に下位分類できる。「意識文」「存現文」「“是～的”文」「使役文」は他の研究者によく論じられてきたので、ここで「形容詞文・ほか」だけ取り上げる。

「形容詞文」とは訳文の述語が形容詞である文のことである。次の例を見よう。

(39) 洗練された文章／洗练的文章。

(40) この就業規則は全社員に適用される／这个就业规则适用于所有的员工。

(41) 歩行者は車より優先されるべきだ／行人应该比汽车优先。

日本語では(39)の「洗練」と(40)の「適用」は名詞・サ変他動詞で、(41)の「優先」は名詞・サ変自他動詞であるが、中国語では現在全部形容詞として使われているので、訳文で形容詞に訳されたわけである。

そのほか、中国語では名詞で、日本語で名詞・サ変他動詞である中日同形語も少なくない。(42)の「彩色」は代表的な例である。

(42) 美しく彩色された陶器／美丽彩色的陶器。

### 3.5 訳文における中日同形語の使用率

509 の受動文と、対応する中国語への訳文を比較し、統計した結果、日本語の受動文と訳文に両方使用された中日同形語が139 あること、日本語の受動文と対応する中日同形語を使用した訳文は226 あることがわかった。以下、使用頻度により、五十音図順で表4にした。

表4

頻度 数	中日同形語	語彙 数	受動 文数
1	解決 開始 開発 開放 確認 隔離 完成 緩和 記載 求婚 起用 強制 強迫 举行 擊沈 決定 厳選 建造 攻撃 交渉 更新 護衛 彩色 催促 採用 削減 惨殺 実施 重視 収蔵 上映 上演 消毒殺菌 省略 觸発 処罰 信仰 侵犯	104	104



	信賴 推挙 吹奏 水葬 生産 精選 製造 設計 設置 設定 選出 洗練 創建 束縛 阻止 尊敬 代表 弾劾 蓄積 中断 注目 徴集 徴用 嘲弄 陳列 追徴 適用 電解 展示 転用 投下 凍結 同情 淘汰 盗用 独占 軟禁 任命 排出 配置 迫害 爆破 暴露 派遣 発掘 発行 反映 反対 判断 批判 罷免 封鎖 賦与 分割 分配 包囲 包含 保釈 保存 密封 命名 免職 予想 流露 轢断		
2	汚染 加工 感化 歓迎 救出 啓発 指名 釈放 祝福 出版 審議 診断 断定 展開 剥奪 評価 没収	17	34
3	延期 期待 形成 提出 否決 優先	6	18
4	延長 公開 支持 指定 保障 目撃	6	24
5	解雇 禁止 破壊 発表	4	20
7	起訴	1	7
19	逮捕	1	19
合計		139	226

以上統計した訳文での中日同形語の使用数と日本語受動文での中国語の使用数を用いて、使用語数の比率を算出できる。

使用語数の比率：  $139 \div 310 = 44.8\%$

また中日同形語が使用された訳文の数と日本語受動文の数を用いて、使用文数の比率を算出できる。

使用文数の比率：  $226 \div 509 = 44.4\%$

訳文での中日同形語の使用は全部適切であるとは限らないし、他の未使用の中日同形語が適切な訳語として使われる可能性もないわけではないが、訳文での中日同形語の使用語数の比率も使用文数の比率も45%を下回っている。半分ぐらいの中日同形語は意味用法などにずれがあり、対応していないことを反映した。

### 3.6 訳文に中日同形語が使用されなかった要因

訳文に使われなかった言葉の意味用法などを比較し、次の4類に分類した。

#### ①意味用法にほとんどずれがなく、そのまま訳文で使える言葉

その例として、次のものが挙げられる。

威嚇 解釈 開設 拡大 隔絶 逆転 凝縮 駆逐 検出 誤解 催促 殺害  
刺激 実行 支配 収監 収集 蹂躪 順延 設置 中止 締結 判断 非難  
報道 誘拐

#### ②意味にずれがある言葉

愛 依頼 破門 改正 回航 解放 供出 懸念 検挙 拘束 告訴 建立  
質問 樹立 召喚 請求 宣告 注意 配合 放置 翻弄 約束 猶予 輸入  
要求 陵辱



### ③品詞性にずれがある言葉

a. 中国語では自動詞で、日本語では名詞・サ変他動詞である。

寸断 運転 併称 結党 執筆 出題 除名 免職 課税 発令 分類

b. 中国語では名詞で、日本語では名詞・サ変他動詞である。

懸念 邪魔 処方 増幅 媒介 種別 二等分

c. 中国語では形容詞で、日本語では名詞・サ変自他動詞である。

完備

### ④日本語でよく使われているが、中国語であまり使わなくなった言葉

解任 開封 刊行 絞殺 削除 指摘 討議 封印 閉鎖

上述した②③④が中国語への訳文に関係の中日同形語が使われなかった要因といえよう。

## 4. 中日同形語の受動文を構築する可能性の比較

上述の内容から、中日同形語は意味、品詞性、文化の差異などによって受動文を構築する機能が必ずしも一致していないことがわかる。以下、「中日とも受動文を構築できる言葉」「中日とも受動文を構築できない言葉」「日本語で受動文を構築できるが、中国語で受動文を構築できない言葉」「中国語で受動文を構築できるが、日本語では受動文を構築できない言葉」の4類に分類して、考察していく。

### 4.1 中日とも受動文が構築できる中日同形語

中日とも受動文が構築できる中日同形語は以下の6類に分類できる。

①中国語では他動詞で、日本語では名詞・サ変他動詞である言葉

中国語に受動文より能動文が多用される傾向があることは多くの研究者によって明らかにされたが、大部分の中日同形語の他動詞が受動文を構築できる点では対応している。

講談社『日中辞典』から抽出した310の中日同形語に中日とも他動詞である言葉がたくさん含まれている。次の例が挙げられる。

記載 建造 更新 削減 重視 省略 製造 設計 束縛 尊敬 凍結 淘汰

②中国語では自他動詞で、日本語では名詞・サ変自他動詞である言葉

中日とも自他動詞として使える同形語も少なくない。次に挙げられる同形語の中で、「開始」「後悔」「増進」「流露」以外の言葉は全部受動文を構築できる。

移動 延期 延長 解決 解散 開始 拡大 確定 加速 完成 呼吸 継続

決定 結合 結束 減少 後悔 実現 集中 縮小 消耗 増加 増進 注意

転移 展開 暴露 普及 埋蔵 流露 連絡

「開始」「後悔」「増進」「流露」の四つの言葉を“被开始”“被后悔”“被增进”“被流露”をもって北京大学漢語言語学センターがオンラインで公開しているコーパス(以下「コーパス」と省略する)で検索したが、用例が見つからなかった。受動文が作られにくいことがわかる。



③中国語では自動詞で、日本語では名詞・サ変他動詞である言葉

一部の「動賓」構成の同形語は中国語で自動詞として使われるが、日本語のように目的語を持って能動文を構築することができない。しかし、受動文は成立する。たとえば、次の同形語が挙げられる。

解体 消毒 分類 除名 免職 課税

(43) 按厂规厂法, 这3名女工将被除名。

(コーパス)

工場の規定によって、3人の女子工員が除名されることになった。(筆者訳)

“除名女工”のように目的語を持つことができないが、“把女工除名”のように、介詞“把”“对”をもって対象を動詞の前に前置させることができる。上述した同形語は“把某物解体”、“把某人免职”、“对某物消毒”、“对某物课税”、“对(或把)某物分类”のように表現できる。

6つの同形語の中で「課税」だけ対象が中国語と違う。

(44) 給与收入が103万円を超えると所得税が課税される。／工资的年收超过103万元, 要征收所得税。

(『日中辞典』)

日本語では「課税する」目的語が「所得税」のような「税」である。「課税する」対象物は「に」で表される。例えば、

(45) 輸入品に課税する／对进口商品征税。(筆者訳)

(『大辞泉』)

④中国語では他動詞で、日本語では名詞・サ変自動詞である言葉

次の同形語は中国語では他動詞として使われ、動詞の後に直接目的語を持つことができるが、日本語で「に」を用いて、動作の対象を表すことができる自動詞として扱われている。しかし、他動詞と同じように直接受動文が構築できる。次の例が挙げられる。

影響 抗議 賛成 抵抗 同意 同情 反抗 反对 服従 報復

(46) 年轻的女人也需要被同情。

(コーパス)

若い女性も同情される必要がある。(筆者訳)

⑤中国語では形容詞・他動詞で、日本語ではサ変自他動詞である言葉

(47) 这严峻的气氛也许能被缓和下来。

(コーパス)

この険しい雰囲気はやわらげられるかもしれない。(筆者訳)

⑥中国語では名詞・形容詞・他動詞で、日本語では名詞・他動詞である言葉

「誇張」という言葉は中国語で他動詞として使われるとき、能動文で使われにくい。受動文で使われるほうが自然である。

(48) 事实有可能被夸张。

(コーパス)

事実が誇張されたおそれがある。(筆者訳)

#### 4.2 中日とも受動文が構築できない同形語

中日とも受動文を構築できない同形語はなかなか探しにくい。また受動文を構築できるかどうか判断するのも非常に難しい。

現在「忍耐」しか見つかっていない。受身の「忍耐される」と“被忍耐”の使い方が確



認されていないので、「忍耐」は受動文を構築できない可能性が高いと思われる。

#### 4.3 日本語では受動文が構築できるが、中国語では受動文が構築できない同形語

これはさらに次の4類に分類できる。

##### ①中国語では他動詞で、日本語では名詞・サ変他動詞である言葉

演出 交渉 惹起 潤色 象徴 締結 内蔵 養成

以上の言葉に“被”つけて、コーパスで検索したが、1例も見つからなかった。また、日常生活で受身の形で使われにくい。

(49)「源氏物語」に象徴される平安中期の宮廷文化を育んだ。 (『朝日新聞』)

孕育了以《源氏物語》为代表的平安中期的宫廷文化。(筆者訳)

##### ②中国語では自動詞で、日本語では名詞・サ変他動詞である言葉

運転 営業 結党 執筆 推理 寸断 出題 併称 発令

「運転」「寸断」「併称」はもともと中国語で自動詞として使われたが、日本語に入って他動詞に変えられて、受身の用法を持つようになったのである。

「営業」「結党」「執筆」「推理」「出題」「発令」はみな「動賓」構造の言葉である。「動賓」構成の複合語は中国語でほとんど自動詞として使われる。“动员”“关心”のような他動詞は多くない。これらの複合語にすでに目的語が含まれているので、中国語では更に別の目的語を持つのは難しいからであろう。しかし、日本語では全部目的語を持つことができるし、受動文も構築できる。

(50)この電車は10分間隔で運転されている／这条线的电车每隔十分钟开一趟。

(『日中辞典』)

(51)この小説は1998年に執筆され、同年冬に出版された／这部小说1998年开始写，在那年冬天出版的。(『日中辞典』)

(52)水害で交通が寸断された／由于水灾，造成交通多处阻断。(『日中辞典』)

(53)梅雨前線の発達に伴い東海地方に警報が発令された／随着梅雨前锋的迅速发展，东海地区发布了大雨洪水警报。(『日中辞典』)

##### ③中国語では名詞で、日本語では名詞・サ変他動詞である言葉

次の同形語は中国語では名詞として使われているので、受動文を構築できないが、日本語では他動詞なので、受動文を構築できる。

意味 含意 契約 懸念 邪魔 種別 処方 信用 増幅 二等分 媒介

“処方”“信用”は中国語で動詞としての使い方があったが、今は消えてしまった。“意味”<sup>(5)</sup>は中国語で動詞として使われるとき、あとに「着」をつけなければならない。その他の言葉も名詞の使い方しかない。

(54)電流が真空管内で増幅される／电流在电子管内增强。(『日中辞典』)

(55)国内生产总值增幅超过10%。(コーパス)

GDPの増加幅が10%を超えた。(筆者訳)

##### ④中国語では形容詞で、日本語では名詞・サ変他動詞かサ変自他動詞である言葉



完備 洗練 鎮静 鎮定 徹底 特定 悲観 優先 適用

上の「優先」以外の言葉は中国の古代で動詞としての使い方があったが、だんだん動詞から形容詞化して、定着してしまった。日本語ではまだその動作性が保たれているので、動詞として使われているのである。

(56) 文章结构紧凑, 文字洗练 / 文章は構成が緊密で、表現が洗練されている。

(『中日辞典』)

(56)のように、これらの言葉は中国語から日本語に翻訳されるとき、受動文が使用されなければならない。誤用が生じやすい言葉群であるといえよう。

#### 4.4 中国語では受動文が構築できるが、日本語では受動文が構築できない同形語

この類の同形語はさらに次の5類に分類できる。

①中国語では他動詞か自他動詞で、日本語では名詞・サ変自動詞である言葉

この類の同形語は次の例が挙げられる。

他動詞：懷疑 激怒 交代 鼓動 葬送 超過 通過 伝播 発覚 発現

自他動詞：感染 感動 消滅 接触 重複 伝染 突撃 突出 燃焼 発展 分裂

(57) 市民们被激怒了。(コーパス) / 市民が憤慨した。(筆者訳)

「激怒」は中国語では他動詞で、「怒らせる」の意味を表すが、日本語では自動詞で、「激しく怒る」意味である。日本語で個別的に「激怒される」が「迷惑の受身」の意味で使われる可能性がある。

(58) 大家被他的话感动了 / みんなは彼の話に感動した。(『中日辞典』)

中国語では「感動」は自他動詞なので、「被感动」が使えるが、日本語では自動詞なので、訳文では「感動した」になったのである。

②中国語では他動詞か自他動詞で、日本語では名詞である言葉

この類の例として次の同形語が挙げられる。

压制 運輸 危害 犠牲 参考 収入 需要 想念 損害 損失 打撃 迷信

(59) 冒着被打击报复危险挺身而出。(コーパス)

打撃を受け報復される危険を買って出た。(筆者訳)

(60) 只有政府撤销派兵决定才能避免更多的生命被牺牲。(コーパス)

政府が派兵決定を撤回しなければ、更なる多くの人の犠牲が避けられない。

(筆者訳)

これらの言葉の受身は中国語から日本語に翻訳されるとき、「～される」に訳されがちなので、注意が必要である。

③中国語では形容詞・他動詞で、日本語では名詞・形容動詞である言葉

中国語は形容詞の他動詞化が一つの特徴である。次の同形語は中国語では形容詞と他動詞であるが、日本語では名詞と形容動詞である。

温暖 可憐 疎遠 怠慢 豊富 明確 模糊

これらの言葉は中国語で全部“被”をつけて受動文を構築できるが、日本語ではサ変動



詞ではないので、受動文が成立しない。中国語から日本語に翻訳するとき、形容動詞を使ったり意識したりしなければならない。

(61) 欧洲人一直被疏远。 (コーパス)

ヨーロッパ人はずっと疎遠にされていた。 (筆者訳)

(62) 道德标准被模糊和颠倒。 (コーパス)

道德の基準が曖昧にされたり逆さまにされたりしてしまった。(筆者訳)

④中国語では形容詞・他動詞で、日本語では名詞・サ変自動詞である言葉  
この類の同形語は、「充実」「満足」「迷惑」「彎曲」が挙げられる。中国語では他動詞としても使われ、受動文が構築できる。例えば、

(63) 当这些需求被满足时, 客人就感到是受到了尊重。 (コーパス)

これらのニーズが満たされたとき、お客様は尊重されていると思うようになる。(筆者訳)

⑤中国語では形容詞・他動詞で、日本語では名詞・サ変自他動詞である言葉  
この類の同形語は少ないが、「勉強」が挙げられる。

日本語では「勉強される」は尊敬の意味を表しているが、受身の意味で使用された例がまだ確認されていない。中国語では受動文が構築できる。例えば、

(64) 不喜欢勉强别人,也不喜欢被勉强! (百度网)

人に無理強いすることも無理強いされることも好きではない。(筆者訳)

## 5. おわりに

本稿は講談社『日中辞典』に出た中日同形語の受動文を抽出して、対応する中国語の訳文を細かく分析して、訳文を大きく「受動文」「能動文」「無対応文」に分類した。訳文の半数以上が受動文の形式を取っていない。訳文の受動文では“被”以外の受身マーカーとして、“由”が使用されたが、話し言葉で使われる“让”“叫”“给”は訳文では確認できなかった。書き言葉を重んじる傾向がうかがわれる。そして「準受身マーカー」である“获”“获得”“赢得”及び“在……中”“在……下”などの表現に受身が含意されていることがわかった。「能動文」では動作主が多様であること、無対応文では「使役文」「形容詞文」なども可能であること、また訳文で使われた中日同形語の数が全体の半分にも満たなかった原因が中日同形語の語義のずれ、品詞性の不一致、言語環境の変化及び訳者自身などにあることがわかった。更に研究対象を中日同形語全体に広げ、中日同形語の品詞性に基づいて、双方の受動文を構築する可能性を比較検討した結果、その実態が非常に複雑であること、中日とも一部分の他動詞で受動文を構築できないこと、中国語の一部分の「動賓」構造の自動詞で受動文を構築できることがわかった。



## 注

- (1) 日本語の“被动句”に「受動文」と「受身文」の2種の言い方があるが、筆者は「受動文」を使うようにしている。
- (2) 全く同じ文や長い文に含まれた短い文を除外した。
- (3) 「忙殺」の「殺」は「意味を強めるための助辞」で、「殺す」意味ではない。「忙殺」は「非常に忙しい」という意味で、他動詞ではない。『岩波国語辞典』では「《多く「一される」の形で使って》非常に忙しいこと。仕事などに追いまくられること。」と説明している。意味の説明と使い方が矛盾していることがわかる。これは村木新次郎に「みかけだけの受動文」と呼ばれている。「悩殺」も同じである。
- (4) 森田良行が「影響する」のような「ニ」格を取る自動詞の受身を「自動詞による直接受身」と呼んでいる。筆者はその説に従う。
- (5) 『中国語常用動詞例解辞典』には“意味着”が一つの言葉として収録されている。

## 例文出典

『中日辞典』(CD-ROM 付き), 相原茂, 講談社 (2010)

『日中辞典』(CD-ROM 付き), 相原茂, 講談社 (2006)

『大辞泉』増補・新装版, 小学館『大辞泉』編集部, 小学館, (1998)

『朝日新聞』, 2011年02月25日, 夕刊

<http://www.baidu.com/s?bs=%B1%BB%BE%AD%C0%FA&f=8&wd=%B1%BB%C3%E3%C7%BF>

コーパス : [http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl\\_corpus/search?dir=xiandai](http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/search?dir=xiandai)



## 第七章 時空を表す中日同形語

### 1. はじめに

中国語と日本語には、時空を表したり、時空と関係したりしている「中日同形語」の数が少なくない。それらの言葉は中国語で使われる場合と日本語で使われる場合、意味や用法に微妙な違いがあるので、中国の日本語学習者にとっては習得上の難点の一つである。またその違いによって中日両国の人々の交流も妨げられてしまうおそれがある。そこで、少しでも中国語話者の日本語習得と中日両国の人々のスムーズな交流に役立つように、時空に関する中日同形語を比較研究したのである。

### 2. 先行研究

時間を表す「日中同形語」<sup>(1)</sup>に関する研究論文は王蜀豫(1997)がある。王蜀豫(1997)では時間を表す「日中同形語」の意味用法の異同の比較が不十分であるし、現在すでに使われていない言葉や意味も挙げられている。また、時空を表す中日同形語の研究論文がまだ確認されていない。

### 3. 時空に関する中日同形語の分類

時空に関する中日同形語を、時空の意味、時空との関係、品詞性などにより「時間を表す言葉」「空間を表す言葉」「時空を表す言葉」「中国語では時間、日本語では空間を表す言葉」「中国語では空間、日本語では時間を表す言葉」「一方だけが時間だけと関係のある言葉」「一方だけが空間だけと関係のある言葉」「時間的なずれがある言葉」「空間的なずれがある言葉」「時空に関する中日同形語の品詞性」の10種類に分類してみた。

次にそれぞれ語例をあげながら考察していく。

#### 3.1 時間を表す中日同形語

中日とも時間を表し、意味に微妙な違いがある言葉<sup>(2)</sup>は次の例が挙げられる。

後天 後年 後日 婚期 時候 従前 従来 前日 前年 即日 晩期 末日 末代

##### (1) 後天

日本語<sup>(3)</sup>：生まれてから後に身につくこと。

中国語<sup>(4)</sup>：①日本語と同じである。②あさって。

##### (2) 後年

日本語：話者が話している時点より後の年。

中国語：再来年。

##### (3) 後日

日本語：その日よりあとの日。ある出来事よりもあとの日。

中国語：あさって。「現在よりもあとの日。これから先。今後。」の意味があつたが、今



は使われなくなった。

(4) 婚期

日本語：結婚するのに適した年頃。結婚をするのにふさわしい年ごろ。結婚適齢期。

中国語：婚礼の期日。

中国語では古くから使われてきた言葉であるが、日本語では『日本国語大辞典』によると、「Puberty」から翻訳された言葉であるらしい。

(5) 時候

日本語：四季それぞれの気候・天候。

中国語：①（長さとしての）時間。②（ある特定の）時・時刻。

日本語の意味は中国語の古代の最初の意味で、今は使われなくなった。

(6) 従前

日本語では「従来」と同じく「これまで」という意味を表し、現在は昔と変わることなく同じ状態が続いているが、中国語では「昔」という意味を表し、「今は昔とずいぶん変わった」という意味を含んでいる。

(7) 従来

中日とも「以前から今まで」「これまで」の意味を表すが、中国語では副詞で、否定文に多用される。肯定文にも用いられるが、修飾できる後の文は動詞文や形容詞文や主述文でなければならない。単独の動詞や形容詞を修飾できない。日本語では名詞で、副詞的に用いられる時もあり、肯定文に多用されている。

(8) 前日

日本語：話者が話している時点より前の日。

中国語：おととい。

(9) 前年

日本語：話者が話している時点より前の年。

中国語：おとし。

(10) 即日

日本語では話者にとって、過去のことについても未来のことについても一般的なことも使えるので、時間的な制約がないが、中国語では話者がある事を話している日にちは事の起こる日と同じでなければならない。

(11) 晩期

日本語：① 終わりに近い時期。末期。② 晩年の時期。

中国語：ある時代、あるプロセス、ある人の人生の最後の段階。末期。後期。

今特に「ある病気の末期」を指す。日本語では「病気の最後の段階」を表す場合、「晩期」より「末期」が多用されている。

(12) 末日

日本語：最後の日。物事の終わる日。特に、月の最後の日。



中国語：キリスト教でいう「最後の1日」から「世界の最期の日」「人が死亡する日」「物事が滅亡する日」へ意味が拡張された。日本語の「月の最後の日」という意味がない。

(13) 末代

日本語：① 死んだ後の世。後世。② すえの世。末世。末法。

中国語：ある王朝の最後の君主。日本語の①の意味もあったが、今は使われなくなった。

3.2 空間を表す中日同形語

中日とも空間を表し、意味に微妙な違いがある言葉は次の例が挙げられる。

一面 空車 境内 車庫 頭上 前面 当地 背面 幅員 満車 満床 裏面

(14) 一面

日本語：① (ア) 物体の一つの面。(イ) 物事のある側面。事態の一方の面。

② ある場所全体。そのあたりといったい。

③新聞の第一ページ。

④鏡・硯(すずり)・碁盤・将棋盤など平たいものひとつ。

⑤ (副詞的に用いる) 一方では。他方からみると。半面。

⑥ 初めて会うこと。一度だけの面会。

中国語：[名]① (物体の) 一側面。一面。② (物事の) 一方面。一部門。

講談社『中日辞典』

③同じ顔。④初めて会うこと。一度だけの面会。

(筆者)

[副] (多く「一面…一面…」の形で) …する一方で。…しながら…する。

講談社『中日辞典』

[数量] 鏡・旗の一つ。

(筆者)

中国語では、日本語の②③⑤の意味がないが、④と重なっているものがあるが、硯・碁盤などを数えるには使われない。

(15) 空車 (くうしゃ)

日本語：①営業用の車で、人や貨物をのせていないもの。特に、タクシーにいう。

②駐車場に空きがあること。

(筆者)

中国語：日本語の①と同じである。

(16) 境内

日本語：境界より内側。特に、神社や寺院の仕切りの内側。

中国語：国境の内側。

(17) 車庫

日本語：汽車・電車・自動車などの車両を収容するための建物、または場所。

中国語：電車や自動車などの車両を入れておく建物。中国語では建物がない駐車スペースだけの場合「車位」という。



(18) 頭上

日本語：頭の上。「頭上」は頭を指す場合もあるが、「髪の毛」が「頭上」の意味に含まれていないようである。

中国語：①頭の表面；②髪の毛；③頭の上；④「敲诈」「降临」「轮到」「栽赃」などの言葉と一緒に使い、よくないことが発生したり押し付けられたりする意味を表す。

「頭上」の中国語での意味は日本語よりずっと多く、「頭の上」より「頭」の意味が多用されている。

(19) 前面

具体的な空間を表す場合は同じであるが、抽象的な空間を表す場合、違いがある。日本語では「福祉問題を前面に押し出す（把福利问题放在首位）」のように使われ、「他のものに優先する」意味を表すが、中国語では「序列的に前にある空間や位置」と「文章や話などのすでに述べた前の部分」を表す。

(20) 当地

日本語：（自分が今いる）この土地。この地方。当所。

中国語：話題で取り上げられた場所。事件が発生した場所。土地。地元。話者が今いるとは限らない。

(21) 背面

日本語：①後ろの方。後ろの側。②物事の表面にあらわれない別の面。

中国語：物事の裏側。「紙」などに多用される。日本語の②の抽象的な意味がない。

(22) 幅員

日本語：道路・橋・船などの横の長さ。

中国語：国土や領土などの広さ。

(23) 満車

日本語：駐車場などで、車の収容能力が限界に達したこと。

中国語：車にいっぱい人や物が入っている状態。

(24) 満床

日本語：病院に空いている病床がないこと。

中国語：ベッドいっぱいになにかが散らかっている状態。

(25) 裏面

日本語：①物の裏の面。裏側。

②物事の表面に現れない部分。一般には知られていない事柄。内幕。

中国語：ある物事の中。具体的なものにも抽象的なものにも使われる。

3.3 時空を表す中日同形語

中日両方かどちらか一方が時空を表す中日同形語の例として次の言葉が挙げられる。

最近 前後 前途 直前 当面 馬上 目前



(26) 眼前

日本語：目の前。まのあたり。目前。

中国語：①目の前。眼前。②目下。現在。当面。

もともと空間を表す言葉は意味が拡張されて、時間の意味をも表すようになった。

(27) 最近

中国語では時間を表す場合、複合語として成立するが、空間の「(距離が) いちばん近い」意味を表す場合、複合語ではなく、連語に属する。

(28) 前後

日本語：①(空間や位置的に)物のまえとうしろ。

②(時間的に)ある事柄のさきとあと。

③物事や出来事のあとさきの状況・事情。

④年代・時間・年齢や、数量を表す語などに付いて、それにごく近いことを表す。ぐらい。ごろ。内外。

⑤順序が逆になること。

⑥間を置かず物事が行われること。また、起こること。相前後すること。

中国語：①(ある時間の)前後。ころ。

②(時間としての始めから終わりまでをさす)前後。

③(あるものの)前と後ろ。

中国語の“前后”には日本語の④⑤⑥の意味用法がない。

(29) 前途

日本語：①目的地までの道のり。ゆくさき。②これからさき。将来。

中国語：前途。将来の見込み。

中国語でもともと「目的地までの道のり。ゆくさき。」を表したが、今は時間的な意味だけを表すようになった。

(30) 直前

日本語：①(時間的に)事の起こるすぐまえ。②(空間的に)あるもののすぐまえ。

中国語：空間と関係があり、「前に突き進む」意味を表が、「勇往直前」「一往直前」「奋勇直前」「勇猛直前」など四字複合語の一部として使われている。

(31) 当面

日本語：①(名)スル目の前に存在すること。今、直面していること。

②(副)今のところ。さしあたり。

中国語：副詞。面と向かって。じかに。

(32) 馬上

日本語：馬の上。

中国語：①馬の上。②すぐに。さっそく。

中国語では「馬の上」の意味を表す場合、複合語として成立していない。



(33) 目前

日本語では時空を表すが、中国語では時間だけを表す。

3.4 中国語では時間、日本語では空間を表す言葉

(34) 眼下

日本語：見おろした所。

中国語：目下。当面。

日本語ではまだ空間的な意味を保っているが、中国語では時間的な意味に変わった。

3.5 中国語では空間、日本語では時間を表す言葉

(35) 言下

日本語：相手が言い終わったすぐあと。言い終わるか終わらないうち。

中国語：『汉语大词典』に収録されている例のように、かつては日本語と同じ意味を表したが、今は使われなくなった。単独ではなく、「言下之意」のように複合語の一部として使われる。「言下之意」は「その言葉に含まれている意味」という意味を表す。

3.6 一方だけが時間と関係のある言葉

快報 仮設 命中 首班 老婆 老废物 望見 看過 漂着

(36) 快報

日本語：喜ばしい知らせ。よい知らせ。うれしい知らせ。朗報。

中国語：速報。

(37) 仮設

日本語：①ある期間だけ臨時に設置すること。

②想像によって物・場面などを作り出してみること。

③〔専門〕 数「假定(かてい)[3]」に同じ。〔哲学字彙〕

中国語：①假定する。仮に…とする。

②（文学作品などで）フィクションとして描く。

③（科学上の）假定。仮説。

(38) 看過

日本語：「気にとめないでしてしまう」と言う意味を表す。

中国語：「動詞＋過（経験を表す助詞）」で「したことがある」という意味を表す。

(39) 首班

日本語：第一位の席次。特に内閣の総理大臣。

中国語：始発の（飛行機、列車、船など）。「首」は「一番初めの」、「班」は「運航する列車、飛行機、船」などを数えるときの助数詞。

(40) 漂着

日本語：針路または推進手段を失い、目的地以外の土地へ流されてたどりつくこと。

中国語：漂っている。浮いている。



中国語では「着」は助詞で、動作の結果・状態の持続を表し、「ている」「である」にあたる。日本語では「着」は複合動詞の後項として用いられ、「行きつくこと」か「衣服などを身につけること」の意味である。

(41) 望見

中国語：見る事が出来た。見えた。「見」は知覚動詞の結果補語として用いられる。

日本語：遠くから眺め見ること。遠くをながめること。

(42) 命中

日本語：ねらったものに当たること。的中。

中国語：①日本語と同じである。

②運命の中。単独で使われず、「命中注定（運命づけられている）」を構成する一部分として使われる。

(43) 老婆

日本語：年をとった女性。老女。

中国語：[口]（自分や他者の）妻。女房。家内。

(44) 老废物

日本語：生体内で生成された代謝産物で生体にとって不必要となったもの。二酸化炭素・尿素・尿酸・クレアチニンなどの含窒素有機物、種々の有機酸・無機塩などで、呼吸・尿・汗・糞便などに混じって排出される。

中国語：年をとった、役に立たない人を皮肉った言い方。

### 3.7 一方だけが空間と関係のある言葉

一片 外傷 隔壁 向上 身上 手心 冒頭

(45) 一片

日本語：①たった一枚。ひとひら。②大きなものから切り取られた一部分。ひとかけら。

③わずかばかり。ほんの少し。

中国語：①一枚。ひとひら。②一面（の）。見渡す限り（の）。

③満場の。その場にいる人全員に行き渡る。④満腔（の）。胸いっぱい（の）。

日本語の③の意味が中国語の④と正反対なので、「一片の誠意」は間違えられやすいだろう。「一片の誠意」は日本語では「わずかの誠意」の意味で、打ち消しと一緒に使われるが、中国語では「満腔の誠意」の意味なので、要注意である。

(46) 外傷

日本語：外力によってうけた傷(きず)。切り傷・打撲傷・火傷(やけど)など。骨折や内臓破裂も含む。けが。

中国語：体の外側に受けた怪我。内部の怪我は「内傷」という。

(47) 隔壁

日本語：間をへだてる壁。しきり。

中国語：壁一つ隔てた隣。隣家。隣人。



(48) 向上

日本語：よりよい方向、すぐれた状態に向かうこと。

中国語：①動詞。よりよい方向、すぐれた状態に向かう。

②連語。上に向かって。上を向いて。

(49) 身上

中国語では「身」の意味で、「上」は接尾字で、具体的な意味がない。まだ空間と関係しているが、日本語では「しんしょう」と「しんじょう」の二通りの読み方があり、意味は空間と関係がなくなった。

(50) 手心

日本語：相手や事情に応じて適当に扱うこと。事情を考慮して普通よりゆるやかな扱いをすること。手加減。

中国語：①手のひら。たなごころ。②支配下。手中。

(51) 冒頭<sup>(5)</sup>

日本語：文章・談話のはじめ。また、一般に物事のはじめ。

中国語：①表面に出てくる。②（端数のあることを表す）超える。上回る。

日本語の意味が古代の中国で使われたが、今使われなくなった。

### 3.8 時間的なずれがある言葉

好球 再会 再見 用量 予防戦争

(52) 好球

日本語：野球で、打者が打つのにいいたま。

中国語：（球技で）ナイスボール。（野球で）ストライク。

中国語では「打った後のボール」を指しているのに対して、日本語では「打つ前のボール」を指している。日本語では野球にしか使われないが、中国語ではすべての球技について使われる。

(53) 再会

日本語：長く別れ別れになっていた人どうしが、再びめぐりあうこと。

中国語：[挨拶] さようなら。また会いましょう。

日本語では「すでに会った」ことにも「将来会う」ことにも使えるが、中国語では別れるときのあいさつで、将来の動作しか表すことができません。

(54) 再見

日本語：同じものをもう一度見ること。また、もう一度見いだすこと。

中国語：[挨拶] さようなら。また会いましょう。

日本語では「再見した」のように過去のことにも使えるが、中国語では分かれるときのあいさつで、将来の動作しか表すことができません。

(55) 用量

日本語：用いるべき量。特に、薬を投与する場合用いる量。通例、一回量・一日量など



で表す。

中国語：辞書に収録されていないが、用いた量にも使われる。

### (56) 予防戦争

日本語：仮想敵国が自国を攻撃する前に、あるいは自国よりも強力になって有利な開戦条件を整える前に、これを予防するために先制して起こす戦争。

中国語：戦争を予防する。

## 3.9 空間的な違いがある言葉

遠投 環視 出頭 上場 進出 出口 念頭

### (57) 遠投

日本語：遠くへ投げること。野球用語。

中国語：遠いところから投げる。バスケットボールの用語。ロングシュート。

### (58) 環視

日本語：多くの者が取り囲んで見ること。単独で使われないで「衆人環視」を構成する一部分として使われる。

中国語：周りを見回す。日本語の意味用法もあったが、現在使われなくなった。

### (59) 出頭

日本語：官庁などの呼び出しを受けて出かけること。

中国語：①日の目を見る。(苦境から)脱する。②表に立つ。顔を出す。

③(ある数量に)余る。端数が出る。

### (60) 上場

日本語：①物件が証券取引所または商品取引所における売買取引の対象とされること。

②劇などを上演すること。

「上」は他動詞で、「上げる」「出す」の意味である。「場」は「取引場」か「劇場」の意味である。

中国語：(役者や選手が)登場する。出場する。入場する。

「上」は自動詞で、「上がる」「出る」の意味である。「場」は「ステージ」「舞台」「試合などを行う運動場」の意味である。

### (61) 進出

日本語：①新しい分野に発展して出ること。②進み出ること。前進すること。

中国語：①出入りする。②金銭が出入りする。

日本語の「進」と「出」は類義を表すが、中国語では「進」と「出」は反対の意味を表す。

### (62) 出口

日本語：外へ出る口。

中国語：①言葉が口を出る。②(船が)港を出る。③輸出する④出口

中国語では「口」は「くち」の意味が基本である。「港」は「港口」と呼ばれるので、「船



が港を出る」ことを「出口」と表現するのである。また対外貿易は明の時代海路を通して、盛んに行われてきたので、「出口」に「輸出」の意味が生まれたのであろう。

(63) 念頭

日本語：心のうち。頭の中。

中国語：考え。思い。意図。心づもり。

日本語は「念のある場所」である「頭」か「心」に重きがあるが、中国語は「頭」が接尾字で、「念」に重きがある。

3.10 時空に関する中日同形語の品詞性

中国語では漢字語は様々な品詞になれるが、日本語では基本的には名詞である。時空に関する中日同形語の品詞性の対応関係は非常に複雑であるが、次のように細かく分類してみた。

①中日とも名詞である。

沿線 屋外 屋内 基地 軌道 空中 室外 室内 東西 南北

②日本語では名詞とサ変動詞であるが、中国語では名詞である。

高下 前後 首尾 終始（中国語で使わなくなった）指南 始末 北面

③中国語で名詞と動詞で、日本語では名詞とサ変動詞である。

左右 上下（じょうげ）

④中国語では動詞で、日本語では名詞とサ変動詞である。

遠征

⑤中国語では名詞と動詞であるが、日本語では名詞だけである。

千古 百年

⑥中国語では自他動詞であるが、日本語では自動詞である。

隔絶

⑦中国語では他動詞であるが、日本語では名詞・サ変自動詞である。

遠隔

日本語では「遠隔」が名詞として多用されているが、他の漢語と一緒に 4 字複合語を構成する場合が多い。

⑧中国語では形容詞であるが、日本語では名詞・形容動詞である。

永久 遠大 巨大

⑨中国語では形容詞であるが、日本語では名詞である。

遠視 近視 空前 久遠 恒久 適時

⑩中国語では名詞・形容詞であるが、日本語では名詞である。

片面 空洞 現代

⑪中国語では形容詞であるが、日本語では名詞・サ変自動詞である。

一貫

⑫中国語では名詞・介詞であるが、日本語では名詞である。



距離

⑬中国語では副詞であるが、日本語では名詞・形容動詞である。

永遠

⑭中国語では副詞であるが、日本語では名詞である。

従来

⑮中国語では複合語ではないが、日本語では複合語である。

僅差 僅少 最高 最短 最長 最低 浮上

#### 4. おわりに

以上の考察を通して、時間・空間・時空を表す中日同形語の意味用法が大きく違っていること、それらの品詞性の対応関係が複雑であることが分かった。日本語では複合語として成立しても中国語では独立できなかったり 4 字複合語を構成する一部であったり、連語であったりする言葉も少なくない。

時空を表す中日同形語の意味用法と品詞性の違いをもたらした要因として次のことが考えられる。

(1) 漢字の意味の多様性と強い造語力。

一つの漢字に多くの意味が含まれているので、漢字と感じが結合したら、さまざまに理解できるのである。例えば「一」は「ひとつ」も「いっぱいだ」「満ちている状態」も表すことができるので、「一面」「一片」の意味が違ってきたのである。

(2) 日本語で中国語の古代の意味が保たれているが、中国語で意味用法が消えたり変わったりしてしまったからである。

(3) 日本語では漢字に新しい意味が加えられた。

「裏」は中国語では「内」「中」の意味を表すが、日本語では「うら」の意味が加えられた。それによって、中日では「裏面」の意味が違ってしまったのである。

(4) 言語環境が違う。

言葉が必要によって生まれるのである。言葉が人々の生活文化そのものである。漢字語の構成もその意味用法も人びとの生活環境によって異なってくる。

「向上」「隔壁」「老婆」「老废物」「予防戦争」「遠投」「上場」「進出」「念頭」「好球」など構成も意味も大きく違っている言葉は中日の言語環境の違いをよく物語っている。

#### 注

(1) 中日両言語間にある同形語に対する呼び方はいろいろあるが、筆者は中日同形語を使うことにしている。

(2) 「昨日」「去年」「海外」のような同義同形語について意味用法の比較では取り上げていないが、品詞性の比較で一部分の例を取り上げた。



- (3) 日本語の意味は基本的に『大辞林』に従っているが、一部分の言葉に関する解釈は自分の理解で書き直した。
- (4) 中国語での意味は基本的に《汉语大词典》、《现代汉语词典》、講談社『中日辞典』などを参考にまとめてしたのである。一部分の言葉は辞書に収録されていないので、自分の理解で解釈したのである。
- (5) 《汉语大词典》の“冒头(冒頭)”の(1)の意味から、日本語の「冒頭」の意味が中国語から伝来したことがわかる。

(1) 指文章或讲话的开头部分。

柴作亦佳，特未免唐人所谓冒黎《淮西碑》

犹欠冒头不得之戏耳。 宋 岳珂《桯史·范碑诗跋》

予谓词曲中开场一折，即古文之冒头，时文之破题，务使开门见山。

清 李渔《闲情偶寄·词曲下·格局》

先说过一大篇冒头，然后引入本题。 鲁迅《彷徨·孤独者》

(2) 冒尖，露出苗头。

新生事物一冒头，就大力扶植。

《人民日报》1964. 4. 24

一方面，横加干涉的现象尚未绝迹；另一方面，任其自流的情况也在冒头。

《人民日报》1981. 1. 21



## 第八章 中日同形語と数量詞

### 1. はじめに

“数量詞”<sup>(1)</sup>とは物事の数や動作の回数などを表す“数詞”+“量詞”(日本語で普通「助数詞」と呼ばれている)の複合語である。日本語の助数詞の数は500個ぐらい<sup>(2)</sup>あるのに対して、中国語の常用「量詞」は600個ぐらい<sup>(3)</sup>に達する。その中で、重なっている<sup>(4)</sup>のは次の量詞である。

位 行 具 群 号 座 次 児 巡 丈 条 場 陣 台 代 題 団 段 度 道  
日 年 倍 尾 秒 部 文 枚 幕 名 面 目 夜 葉 里 流 輪 列 連 把  
課 架 顆 回 角 画 缶 季 期 脚 客 球 級 局 曲 斤 句 戸 個 口  
項 歳 冊 種 首 株 周 升 床 寸 隻 節 戰 艘 層 双 着 挺 張 対  
通 手 滴 点 頭 套 棟 等 派 杯 拍 発 匹 筆 票 分 封 幅 片 辺  
遍 歩 本 光年 周年  
枝 串 口 組 声 包 粒 壺 箱 針 袋 節

これらの量詞と数詞からなる数量詞は(両国で簡略化された字形の問題を考慮に入れない)全部中日同形語の範疇に入る。また漢数字とアラビア数字の両方を同形語として扱う。量詞の数は限られているが、数詞は限りないので、数量詞としての中日同形語も限りがない。

### 2. 先行研究

数量詞が日本語学習者を悩ます問題であることは多くの研究者に注目されてきた。張麟声(1983)は『日本語教育辞典』に挙げられた二十五の助数詞を例に、中日助数詞の構造と機能を比較した。中川正之・李浚哲(1992)は主に中国語母語話者の「一」を含む数量詞の過剰使用問題や名詞の複数や個と類などについて検討した。中国語母語話者の「一」を含む数量詞の過剰使用問題が中野洋(1997)にも指摘されている。趙曉曦(2006)は中国語の量詞と日本語の助数詞の定義の相違点や「一」+量詞の中日での意味を比較し、名詞の「類」と「例」の問題と数量詞、名詞の「特定」と「不特定」の問題と数量詞を考察したうえで、認知の視点から量詞の役割を分析した。しかし、管見の限り、中日同形語の視点から中日数量詞の異同を比較する論文はまだ確認されていない。

### 3. 数量詞と中日同形語

中国語母語話者としての日本語学習者にとって、「群、号、題、秒、夜、流、列、回、局、曲、歳、冊、株、寸、滴、票、光年、周年、針、袋」などの量詞を含む数量詞は全く問題がないと言ってもいい。例えば、次の例文<sup>(5)</sup>の中での数量詞は誤解が生じにくいと思われる。



(1) 現職候補者に 1 票<sup>(6)</sup> を投じた／我给现任候选人投了 一票。

(2) 大学生らしい 一群／一群 大学生打扮的人。

(3) 火は平屋 1 棟を焼いた／大火烧掉了 一栋 平房。

(4) 每秒 50 回の振動／每秒 振动 50 次。

(5) 祖母は 80 歳 だが、かくしゃくとしている／我祖母到了 80 岁 还是挺硬朗的。

(6) 開校 100 周年 記念の行事／纪念建校 100 周年 的活动。

(1)～(6) の中の数量詞は中日で同じ意味用法<sup>(7)</sup> なので、問題が起こらないと思われる。しかし、次の例を見よう。

(7) タバコ、1 箱 1000 円にすべき／香烟应该提价到一千日元 一包。

「1 箱」は「一箱」と意味が大きく違っている。タバコが入る「箱」として、中国語ではどうしても「段ボール箱」をイメージする。「段ボール箱いっぱい入っているタバコは 1000 円」と理解したら、とんでもない誤解になってしまう。「箱」は「木や厚紙などを材料にして、物を入れておくために、各面を囲った器。」を意味し、「段ボール箱」のような大きなものも「宝石箱」のような小さいものも指すことができるので、中国語の「箱」と違うのである。また中国語で言う「一箱宝石」「一箱珠宝」の「一箱」と日本語の「宝石箱」は月とすっぽんと言えるであろう。「箱」のような中日での意味用法が大きく違う量詞がたくさんある。以下中日同形語としての数量詞を詳しく比較していく。

### 3.1 中国語の「一」＋量詞の意味

張麟声は《我的祖国》という歌の歌詞「一条大河波浪宽，风吹稻花香两岸」の日訳について、次のように述べた。

ありふれた歌詞に「一条大河波浪宽，风吹稻花香两岸」というのがあるが、これを日本語に「一本の大河、波浪はゆるやかで……」と訳して、その「一本」が不自然だと言われて、がっかりしてしまうようなことがよくある。

なぜがっかりしたのか説明されていないが、中国人として、数量詞が入らなければ、何か物足りない感じがしてならないのである。中国語の数量詞は数量を明確に表すほかに、ある意味を付け加えたり、修辭的な働きを持ったりしている。この歌詞では「一条」は「兩岸」に対して使われ、対句のようになっている。また「一条」は細長いイメージを伴っているので、「一本の細長く、川幅の広い大きな川」は非常に壮大なスケールを意味しているが、もし、「一条」がなければ、細長いイメージなどが消えてしまう。また「一本」に訳されても、その味わいが違い、音韻的な美しさもなくなってしまう。

(8) 夜空に満月が明るく輝いている／一轮皎洁的圆月 挂在夜空。

“一轮”は「丸い月」を修飾して、その「丸い」イメージを強めるばかりでなく、音韻的にも美しさを感じられる。

(9) 電車で上品な老婦人と隣り合わせた／电车上我旁边坐了一位气质高雅的老太太。

“一位”に尊敬の意味が込められている。



### 3.2 「数詞＋名詞」の言葉

中国語の数量詞は白話文が普及する前にほとんど「数詞＋名詞」の形であったが、今も一部分の言葉はそうのように使える。例えば、“一技之长（一芸に秀でる）”の“一技”“总统会见三国大使（大統領が3か国の大使と会見する）”の“三国”はそのような使い方である。そのほかに、中日とも使われている言葉は「一命、一夜、一子」「二月、二流、二重唱、二勝、二等、二号、二価、二元、二項、二審、二列、二心」「三軍、三原色、三者」「五官、五感、五経、五行、五指、五色、五臟六腑」「二十歳、三十六計」「百害、百獸、百戦」「千里、千金、千鈞、千軍、千載、千慮」「万国、万歳、万事、万難、万人、万能、万物、万里」などがあるが、“五官”と「五官」の意味が違う。「五官」は「仏教にいう五根から出た語」で、「五感を生ずる五つの感覚器官。眼（視覚）・耳（聴覚）・鼻（嗅覚）・舌（味覚）・皮膚（触覚）をいう。」<sup>(8)</sup>“五官”は目・耳・鼻・口・舌の五つの感覚器官を指し、広くは“五官端正”のように「目鼻立ち」「顔つき」もいう。

### 3.3 数量詞の使い方の違い

#### 3.3.1 日本語での「一」＋量詞の省略

日本語では「一＋〇」の数量詞がよく省略されるが、特に修飾語がついている場合、省略されやすいが、中国語では省略できない。「一」などの数量詞が入らなければ、中国語では具体的な数量が分からなくなり、表現が厳密ではなくなる可能性が大きい。このような文脈上のずれがあるので、中国語母語話者にとって一つの壁である。次の例文<sup>(9)</sup>を見てみよう。

(10) いい知らせをもらった／得到一个好消息。

(11) 天井にハエがとまっている／天花板上落着一只苍蝇。

(12) あの家では獐猛なイヌを飼っている／那个家养着一条凶猛的狗。

(13) 庭に大きな石がでんと据えてあった／院子里沉甸甸地放着一块大石头。

(14) 地震で学校の外壁に罅割れができた／因为地震学校的墙上裂了一条大缝。

(15) 昨夜、近所のスナックで警察の手入れがあったらしい／听说昨晚警察搜查了这附近的一家小酒馆。

(10)の「いい知らせ」は日本語では普通「一つ」を指すが、中国語では“好消息”は「一つ」とは限らないので、“得到好消息”だけでは数が分からなくなってしまう。したがって、“一个”をつけなければならない。(10)～(15)の文は前後の文脈がなければ、中国人は「数量」が「一」であるとの理解に戸惑う人が多いだろう。

#### 3.3.2 数量の意味が含まれている日本語表現

日本語の数量表現は漢数字とは限らない。外来語だったり和語だったりする数量の意味が含まれている言葉や表現も少なくない。「ワン、ツー、…テン」「ペア」「ダース」「初、ラスト」「倍増」「つがい」などが挙げられる。

(16) ペアのセーター／情侣毛衣。

(17) つり合いのとれたカップル／很般配的一对儿。



(18) 父とツーショットの写真を撮る／拍与父亲二人照。

(19) 搭載メモリを倍增した新モデル／内部存储器的容量增加了一倍的新款。

(20) 冬の湿原でつがいのツルが鳴き交わしている／冬季的湿地上有一对仙鹤在对鸣。

(21) 「第3の男」のラストシーンは心に残る名場面だ／电影《第三个人》的最后一个镜头是令人难以忘怀的场面。

### 3.3.3 中国語での数量詞の不使用

中国語での「一＋量詞」の多用がしばしば指摘されているが、日本語で数量詞が使われ、中国語で使われない<sup>(10)</sup>場合もある。次の例を見てみよう。

(22) 大山鳴動して、鼠ねずみ一匹／雷声大雨点小／虎头蛇尾。

(23) どさ回りの一座／在地方巡回演出的剧团。

(24) 一部の農村にまだ土葬の風習が残っている／农村的部分地区还保留着土葬的习俗。

(25) 指一本差させない／不容许人干涉。

(26) 二度とうちの敷居をまたぐな／不许再登我家门

(27) 石の上にも三年／只要功夫深，铁杵磨成针。

(28) 傍目（おかめ）八目／当局者迷，旁观者清。

(29) 七重のひざを八重に折って頼む／低声下气地恳求。

(30) かわいさ余って憎さ百倍／爱之切则恨之深／爱有多深恨就有多深。

(31) 三面記事／（报刊的）社会版面。

(32) その事件は一面のトップを飾った／那个事件登在头版头条。

(33) 万人向けのデザイン／面向大众的设计。

(34) 顾此失彼／一方に気を取られ他方がおろそかになる。

(35) 分秒必争／一刻を争わなければならない。

(22)、(27)、(28)、(29)、(30)などの数量詞の入っている日本語慣用句は中国語に直訳できないので、意識によって数量詞が使わなくなったのである。(23)の「一座」、(24)の「一部」は数量詞というより、名詞の使い方、(26)と(27)は打消しと一緒に使われている。(31)と(32)は新聞に特定された意味で、(34)と(35)は中国語の簡潔な表現が日本語に翻訳されたとき、数量詞が使われたのである。

中日の数量を含む言葉や表現がたくさんあるが、意識される場合、数量詞の使用にずれが出てくるわけである。

### 3.3.4 意識による数量詞の増加

日本語で数量詞が使われない慣用表現や使われにくい表現が、中国語に意識されたとき、数量詞を使って初めて生き活きとした表現になる場合が少なくない。次の例は全部この類に属する。

(36) うそも方便／不说真话有时也是一种权宜之计。

(37) 女三人寄れば姦ましい／三个女人一台戏。

(38) どんぐりの背比べ／半斤八两。



(39)時は金なり／一寸光阴一寸金。

(40)茫洋たる大草原／一望无际的大草原。

(41)あの人は怒り上戸だ／他三杯酒下肚就要发火。

(42)おたがいに譲り合う／双方各自退让一步。

(43)頭から湯気を立てて怒る／气得七窍生烟。

(44)思わずかっとなって相手をなぐってしまった／不由得火冒三丈，动手打了对方。

(45)しつこく催促したあげく，やっと相手は重い腰をあげた／经过三番五次的催促，对方总算行动起来了。

(46)この機関車の模型は鉄道ファンにとっては生唾ものだ／这种机车的模型对铁路迷来说简直是垂涎三尺。

### 3.4 中国語での意味用法が多くかったり使用範囲が広がったりする数量詞

基本的な意味が同じであるが、中国語で使われる対象が多く、使用範囲が広い数量詞の同形語として、「一顆」「一糸」「一種」「一陣」「一場」などが挙げられる。

「顆」は「ルビー」「宝石」などの小さいもの・粒状のものを数える点では共通しているが、中国語では“星”“卫星”“子弹”“痣”“心”などを数えるのにも用いられる。

(47)犯人は目元に大きなほくろがあった／犯人的眼睛周围有一顆很大的黑痣。

(48)保持一顆好奇心(作例)／常に好奇心を持つ。(筆者訳)

“一丝”は“一丝不挂”“一丝不乱”が日本語の「一糸まとわず」「一糸乱れず」と同じであるが、その他に、“笑容”“微笑”“焦虑”“担忧”“愁容”“云彩”“希望”などを修飾することができる。

“一种”と「一種」は基本的には同じであるが、中国語では抽象的な名詞を修飾する時、日本語より多用される<sup>(11)</sup>。例えば、「この文章には一種の味わいがある」「一種独得のこだわり」「彼の考え方は一種独得だ」「一種異様なムード」などのように「どことなく他と異なっていること。」を意味する。

「一枝」は「ひとえだ」と読まれ、花・実・葉などがついた枝を雅語的に数える数量詞であるが、中国語では“烟(タバコ)”“猎枪(猟銃)”“毛笔(筆)”などの細長いものを数えるとき使われる。

「一場」は「栄華は一場の夢」「一場の春夢」「一場の演説」ぐらいにしか使われないが、“一场”は日本語よりずっと多く使われている。“场”は“cháng”と“chǎng”の二つの読み方がある。“cháng”と読む場合、(1)“大雨、暴雨、雪、暴风雪、台风”などの自然現象や災害、“辩论、论战、大战、小冲突、持久战、恶斗、攻坚战、混战、风波、血战、斗争”などの社会的活動、“车祸、事故、灾难、悲剧、悲喜剧、大病、麻烦、虚惊、误会”などの災難や思いがけないことを始まりから終わりまでを一つの顛末として数える。“chǎng”と読まれる場合、コンサートなどの公演、映画の上映、サッカーやバスケットボールなどのスポーツの試合、各種の試験など、特定の場所で行う催しの始めから終わりまでを一つと数える。また、動量詞として、“高兴一场”“欢喜一场”“大干一场”“大闹



一場”のように動詞の後について行為の一区切りを表す。

「一陣」は「一陣の風」「一陣の驟雨」ぐらいにしか使われないが、中国語では人が感じた、しばらくの間続いた“歌声、掌声、鼾声、马蹄声、敲门声、脚步声、吵闹声”などの音や声、“剧痛、头昏、心酸、绞痛、昏眩、烘热、发热”などの体の調子、“骚乱”“摇晃”などの様子を表す。名量詞と動量詞を兼ねている。

「一頭」は「一頭地を抜く」の「頭一つ」の意味以外に、馬・牛・羊・豚など獣類を数える数量詞として使われる。「一头」は数量詞の他に、副詞と名詞の使い方もある。数量詞の場合、「一头」は牛・羊・豚などを数えるのに使われるが、馬には使われない。馬を数えるとき、「匹」という専有量詞が使われる。名詞の場合、「一方の先。一端。片方」「頭一つ分ほどの高さ」のほかに、「頭いっぱい」の意味を表す。「一头白发(白髪だらけ)」「出一头汗(頭に大汗をかく)」の「一头」はその例である。副詞の場合、「ながら」「突然。ぱったりと」「すばやく。さっと」「いきなり頭から」などの意味を表す。

### 3.5 動量詞と名量詞

中国語で“量詞”は“動量詞”と“名量詞”に分類されているが、日本語ではそのような分類がなされていない。「个」「张」などのように、名詞を修飾するものは「名量詞」、「回」「顿」などのように、動詞を修飾するものは「動量詞」と呼ばれている。中日で動量詞と名量詞の違いがある同形語は次のものが挙げられる。

一步 一番 一通 一把 一脚 一眼 一架

日本語の「一步」は動量詞だけであるが、中国語の“一步”動量詞だけでなく、“走了一步好棋(好手を指した)”“一步机枪(一挺の機関銃)”のように名量詞としても使われる。

「一番」は「最初。第一。」「一度。一回。特に、歌舞などの一曲。碁・将棋などの一局。相撲の一勝負。」などの意味を表す名詞と数量詞の他に、副詞として「こころみに。まず一度。」と「最も。甚だしく。この上もなく。」の意味を表している。「一番」は“安慰、打点、打量、端量、翻、烘染、激辩、较量、开导、埋怨、劝说、羞辱、妆饰”を修飾する動量詞として多用され、「一通り」「ひとしきり」の意味を表し、“话、事业、景象、情趣、曲折、盛情、工夫、苦功、周折”を修飾する名量詞としても使われるが、日本語に翻訳されにくい。

「一通」は日本語では名量詞だけで、「手紙、電子メール、メモ、祝電、ファックス」「証明書」「通知表」などを数えるのに使われる。「一通」は昔手紙などを数える名量詞として使われたが、今は動量詞だけで、“忙了一通”“吃喝一通”“乱写了一通”のようにマイナス的な表現に傾き、「一通り」の意味を表す。

「一把」は「ねぎ」「薪」「小松菜」「線香」「そうめん」「稻束」など人間の片手で握った程度の太さの束を数える名量詞だけであるが、「一把」は名量詞と動量詞を兼ねている。名量詞として、日本語の意味の他に、“手枪(ピストル)”“椅子(椅子)”“锁(錠)”“勺子(スプーン)”“菜刀(包丁)”など「取っ手や柄のあるもの」や“沙子



(砂)” “花生米(ピーナッツ)” “药(薬)” など「一握り」の量を表す。動量詞として「一掴み」の具体的な動作や“帮了他一把(彼に手を貸した。ちょっと彼を手伝った)”のような抽象的な意味、“玩一把”のような「一回」の意味などを表すことができる。

「一脚」は椅子・机・肘掛けなどの脚のある家具を数える名量詞であるが、中国語では主に“踢一脚” “踹一脚” “踩一脚” “他一脚” などのように脚を使う一回の動作を表す動量詞である。“踩了一脚泥”の“一脚”は「脚全体」「脚いっぱい」の意味である。

「一架」は衣桁や棚などを数える名量詞である。中国語では飛行機を数えるとき以外は名量詞としてあまり使われない。動量詞としては“吵一架” “打了一架”のように「喧嘩」などのよくない意味に使われる。“吵一架” “打了一架”は“吵架” “打架”のような離合詞に数量詞が挿入されたと考えられる。

「一眼」は「一つの眼。片方の眼。」と「かため。独眼。隻眼。」を意味する名詞であるが、中国語では“一眼井” “一眼清泉”のように「井戸」や「泉」を数える名量詞と、“瞥一眼” “瞪一眼” “看一眼” などのように「一目」の意味を表す動量詞、そして、“一眼荒凉” “一眼惨状”のような「見渡す限り」の意味を表す使い方がある。

### 3.6 日本語の数量詞の意味用法が中国語より多い

#### 3.6.1 数える対象が多い

「本」は日本語で最もよく使われている量詞と言える。中国語では“一边种几本大芭蕉。” “二十本葱”のように植物を数える量詞として使われたことがあるが、今は“两本书” “一本账”のように本やノートなどを数える量詞だけとして使われている。しかし、「本」は日本語で、「鉛筆」「傘」「紐」「樹木」「ベルト」「缶ジュース」「ビール」「橋」「トンネル」などの細長い物の他に、「相手につながった電話」「運行する電車」「サッカーのシュート」「論文」「映画」「コンピューターやゲームのソフトウェア」などを数えるのにも使われる。

中国語の“一杯”は「お茶」「コーヒー」「ビール」「お酒」などの飲み物にしか使われないが、日本語では意味用法が中国語よりずっと多い。①さかずきだけでなく、「ラーメン1杯も食べられない」「小さじ1杯の砂糖」のように、茶碗や匙などに満ちる分量をも表す。②少し酒を飲むこと。③一定の容器・場所などにもものが満ちているさま。④ある限りを尽くして限度に達するさま。ありたけ。⑤イカ・カニや船などの1個。「一杯」は数量詞だけでなく、「広場いっぱいの人」「腹いっぱい」「時間いっぱい」「精いっぱい」などは副詞的に、また接尾語のようにも用いられる。ただ、表記は平仮名が多用されている。

“一叶”は「一枚の葉」と「葉のような小舟」を数えるとき使われるが、「一葉」はまた「名刺」「葉書」「写真」「色紙」「短冊」などの薄いものを数えるのに用いられる。

“挺”は中国語で「機関銃」を数える以外に使われないが、日本語では「算盤」「挟」「包丁」「蠟燭」「鋤」「鋏」「鋸」「梯子」「琵琶」「人力車」「墨」「砥石」などに広く使われている。



### 3.6.2 序数詞を兼ねる

日本語で直接序数詞の意味を表し、等級・順番・程度を表せる数量詞<sup>(12)</sup>が少なくないが、中国語では普通“第”を付ける必要がある。例えば、次の例を見てみよう。

(49) マラソンで 1 着 になった／在长跑比赛中我得了第一名。

(50) 首位から一気に 4 位 に陥落した／排名从第一名一下子下降到第四名。

(51) 友人は地元出身の強みをいかに発揮して 一位 で当選した／我的朋友充分发挥了是本地人的优势以首位 当选。

(52) ドーピングが発覚し、2 位 の選手が繰り上がって金メダルを獲得した／由于金牌得主被发现服用药物，第二名 被提上来获得金牌。

(53) タイガースは 8 回 に 2 点追加して逆転勝利した／老虎队在第八局又得两分，转败为胜赢了这场比赛。

(49) の「着」は日本語で誕生した新しい意味で、「1 着」は「一番早く到着すること。第一位」を意味するが、中国語では囲碁や将棋の一手を指す。「マラソン」を“长跑比赛”と訳するのは厳密ではない。(50) ～ (52) の「4 位」「一位」「2 位」は等級・順番の「第 4 位」「第一位」「第 2 位」の意味を表すが、中国語では“位”は人を数えるときの尊敬のない方で、日本語で「名」に当たる。(53) の「8 回」は「8 回目」「第 8 回」の意味で、中国語では、“8 回”は「8 回全部」を指す。

その他に、日本語で「一人称」「二人称」「三人称」と言語行動に参加する人を指しているが、中国語ではどれも“第”を付けなければならない。

### 3.6.3 名詞を兼ねる

日本語で物事の数を数える他に、名詞として、物事を指すことができる数量詞が少なくない。例えば、「件」「部」「年」「代」などの量詞はそのような使い方をする。次の例文を見てみよう。

(54) この一件 についてどのように考えますか／这件事 你是怎么想的呢？

(55) 1 件の巨大プロジェクト／一个 巨型项目。

(56) 今日の交通事故は 4 件 だった／今天出了四起 交通事故。

(55) (56) の「1 件」「4 件」は数量詞で、プロジェクトと交通事故の数を数えるが、(54) は「ある事柄や事件」を意味する名詞である。

(57) あまり長い文章は掲載時に 一部 カットされることがある／一些过长的文章在登载时可能被删掉一部分。

(58) 契約書はふつう 2 部 作成する／一般合同要备有两份。

(59) 原本から 一部 転写した／从原件上转抄了一部分。

(58) の「2 部」は数量詞で、契約書の数を数えるが、(57) の「一部」は「一部分」の意味を表す名詞である。(59) の「原本から一部転写した」は理解の分かれるところである。「転写」は「文章、絵、図などをそのまま他に写し取ること。」意味なので、一部分ではなく、「全体を写しとる」と考えられる。したがって、訳文は誤解してしまったと言える。



(60) 3年に上がると勉強が難しくなる／升到三年级功课会变得难一些。

(61) 3年契約, 年俸1億で契約更改した／以三年为期, 年薪1亿日元的条件更新了契约。

(60)の「3年」は「三年生」の意味で、(61)の「3年」は「3年間」を表す数量詞である。

(62) 三代続いてはじめて江戸っ子といえる／从祖父那辈起一直生活在东京才能称为老东京。

(63) うちの祖母は明治・大正・昭和の3代を生き抜いた／我祖母经历过明治、大正和昭和三个年代。

(64) 一代で財産を築き上げる／只一代就把财富积累起来了。

(65) この絵は一代の傑作だ／这幅画是一代杰作。

(62)の「三代」、(63)の「3代」、(64)の「一代」は全部数量詞である。(62)の「三代」は「三代」を表す、(63)の「3代」は「三つの時代」を表す。「一代」は「家や事業を興したり継いだりして主となっている間。」「ある一つの時代。当代。」「人の一生。一生涯。」などの意味があるので、やや複雑になる。(64)の「一代」は分かりやすいが、(65)「一代」は「ある一つの時代。」か「人の一生。」か戸惑ってしまうだろう。訳文は“一代杰作”をそのまま使っているが、「一つの時代」と理解しているようである。しかし、一つの時代に優れた画家の優れた作品が数えきれないほどあるかもしれないので、「一つの時代の傑作」と理解するのは適切ではなことが分かる。正確には“毕生的杰作”と訳すべきであろう。

「世紀」は量詞を使わずに「一世紀」「二世紀」のように、「世紀」そのものを使って数える。中国語では“数詞+世紀”は普通時間の点を表すが、時間の長さを表す場合、“数詞+个+世紀”で表す。日本語では「数詞+世紀」は両方の意味を表せる。

#### 3.6.4 副詞やサ変動詞を兼ねる

日本語で「一段」「一層」が副詞化したが、中国語ではまだ数量詞としてしか使われない。また中国語の“一层”は厚さの度合いが曖昧なので、日本語ではほとんど省略されたり使われなかったりする。例えば、

(66) おしろいをべたべたと塗りたくった女／涂了厚厚一层白粉的女人。

(67) アオウミガメの生態は謎なぞのベールに包まれている／大海龟的生态被蒙上了二层神秘的面纱。

“分”は動詞の意味用法があるので、“三分天下”と“三等分任意角”の“三分”と“三等分”は他動詞として使えるのである。しかし、中国語にはこのように使える数量詞が限られている。日本語では「二分」「一周」などがサ変動詞としても使われる。例えば、

(68) 月は地球のまわりを約27日で一周する／月亮绕地球一周大约要27天。

(69) グラウンドを5周する／绕操场跑五圈。

(70) サッカーは野球と人気を二分している／足球和棒球将人们的喜好一分为二。

(71) 改憲問題は長年国論を二分してきた／修改宪法的问题长期以来舆论分成了两派。



### 3.6.5 読み方が多い数量詞

日本語で二種類以上の読み方を持っている数量詞も少なくない。例えば、「一口」は「いっこう」「いっく」「ひとくち」の三種類があり、「一節」は「いっせつ」と「ひとふし」の二種類がある。

「一口」は「いっく」と読むとき、「一つのくち。転じて、人ひとり、また生き物1匹。」と「釜など口のあいている器物や刀剣などの1個。」を意味するが、「いっこう」は「一つの口。同じ口。」「人ひとり。」「ひとくちに飲食すること。また、一度に物をいうこと。」「一人の言説。」「刀剣・器物を数える語。」などの意味を表すので、「いっく」は「いっこう」の意味に含まれていると言ってもいい。ただ「一口同音」は「いっくどうおん」としか読まない。「いっこう」はまた「釣鐘」「ふいご」「釜」「盃」「壺」「土瓶」などを数える。「ひとくち」は動量詞として物を口に入れたり口から出したりする回数を数えるほかに、「銀行口座」「寄付」「保険」などの単位としても用いられる。

“一口”は動量詞の他に、“他说一口流利的北京话(彼はなかなか流暢な北京語を話す)” “一口假牙(総入れ歯)” などのように「口から出ることば全部」「口に満ちる」の意味を表す。また、副詞として、“一口回绝(きっぱり断る)” “一口答应(二つ返事で承諾する)” “一口咬定(言下に言い切る)” のように、「きっぱりと」「言下に」の意味を表す。

「一節」は「いっせつ」と読むとき、「文章・音楽などの一くぎり。」と「プロ野球などで、試合日程の一くぎり。」の二つの意味を表すが、「ひとふし」と読む場合、「竹・木・草などのふし一つ。」「一つの点。一つの事。一つの折。」「音楽の一調子、また、一曲。歌謡の一くさり。」の他に、鮪、鰹の「片身」を背と腹に分けたものをも指す。日本独特なものである「鰹節」は「ひとふし」である。“一节”は「文章・音楽などの一くぎり。」の他に、「授業の時限」「列車の車両」「スポーツの試合のピリオド」を数えるのに用いられる。

### 3.7 お互いに別の使い方がある

“枚”は中国語で“邮票”“信封”“指纹”“巧克力”“徽章”“金币”“金牌”“奖章”“勋章”“古钱”“中国结”などの薄いものを数えるほかに、“武器”“炸弹”“火箭”“导弹”“氢弹”“手榴弹”“手雷”などの武器、“蓝宝石”“戒指”“钻戒”“金手镯”“舍利”“恐龙蛋化石”“大枣”“印章”“铁钉”などの円いものや円い面を持っているものをも数える。「枚」が「切手」「コイン」「メダル」のような平面的な薄いものを数える点は中国語と同じであるが、数えられる平面的な薄いものが“枚”よりずっと多い。例えば、「原稿、ポスター、紙、名刺、葉書、写真、チケット、切符、ラベル、クレジットカード、ハンカチ、タオル、手ぬぐい、掛け布団、敷布団、マットレス、毛布、シャツ、皿、レコード、CD、DVD、木の葉」「平目や鯛など薄い魚」、「鰹の開きなどの干物」、「かまぼこ」、「お餅」、「田圃、田畑」、「ざる蕎麦」、「下ろされた魚」などが挙げられる。



「一道」は数量詞だけで、普通「一つの道。」「一芸。」「(光や煙などの)ひとすじ。」などの意味を表すが、「1都1道2府43県」のように「一つの道(どう)」つまり「北海道」を指す使い方もある。「一道」は数量詞のほかに、副詞の使い方もある。数量詞の時、「辺、菜、彩虹、城墙、堤、缝、风景线、工序、沟、光、河、界线、泪痕、裂缝、裂纹、浓眉、门槛、命令、墙、亮光、瀑布、缺口、山梁、闪电、闪光、伤疤、伤口、手续、题、湾、阳光、旨令、皱纹、竹篱笆」などの細長いものを数える。副詞としては「一緒に」の意味を表す。

“一身”と「一身」は「一つのからだ」の意味を共有しているが、用法が違う。日本語では「責任を一身に背負う」「人気と好意を一身に集める」などのように「責任」「人気」「好意」「関心」「注目」など多くの言葉を動詞の対象に取ることができるが、中国語では“集国家的-切重要职务于一身”のように、「権力」「機能」ぐらいしか対象にしない。日本語の「一身」は別に「一身をささげる」のように「その人のすべて」の意味を持っているが、中国語の“一身”は「体中。全身。」「(衣服の)揃い」「一人。独り身。」などの意味がある。

「一面」と“一面”は「鏡」「太鼓」を数える数量詞と「一つの側面。一方。一方面。」「一度の面会。」の名詞の場合は意味が共通しているが、数量詞としてもそれぞれ別に数えられるものがある。「一面」は「硯」「扇、团扇」「囲碁や将棋の盤」「顔を覆う面」「琴や琵琶などの楽器」「大型テレビ画面やモニターやソーラー時計など」を数えるのに使われる。“一面”は各種の“旗帜”“墙”“盾牌”“写字板”“黑板”“奖牌”などを数えるのに使われる。名詞の場合、「一面」は他に「面の全体。あたりいっぱい。」「新聞の第1面」の意味があるのに対して、“一面”は“独当一面”のように「(物事の)一方面。一部門。」の意味がある。“一面”はまた副詞として“一面…一面…”の形で、「…する一方で。…しながら…する」の意味を表せる。

「4名様一組で旅行にご招待」と「電池一組」では「一組」は“一組”と意味用法がほとんど同じであるが、大部分の用法が共通していない。例えば、“两个人一組”と表現してもいいが、「大安の日には20組以上が挙式」「毎年2万組の夫婦が離婚」「先着30組に飲み物サービス」のような夫婦などのペアに使いにくい。“一对”が使われるのは一般的である。また、中国語では「少人数のグループ」を表すが、クラスの意味は表せない。例えば、

(72) 全班分成三个组／クラス全体を三つのグループに分ける。

(72)の“全班分成三个组”の“组”は「グループ」と訳さなければならない。日本語の「組」は学校で使われる場合、中国語の“班”に当たるからである。

日本語では「セット」の意味で、「5枚の座布団」「掛け布団2枚と敷布団2枚」「和食器5個」「洋食器6皿」などは「一組」と数えるのであるが、中国語では“一组图片”“一组简讯”“一组漫画”“一组节目”“一组歌曲”などのように三つ以上のものから成っている者のセットを指す。



「一片」は「いっぺん」と「ひとひら」の二つの読み方があるが、「いっぺん」の意味が「ひとひら」の意味を含んでいて、①「ひとひら。ひときれ。」と②「少しばかり。わずか。」の意味を表す。②の場合、打消しとかかり、完全な否定を表す。「一片」は三つの意味がある。(1) 葉やパンや木の葉などの薄いものを数え、「一錠」「一切れ」「一枚」などに当たる。(2) 広い範囲の地面や水面などを数え、「一面の」「見渡すかぎりの」の意味を表す。(3) 景色・音・言葉・気持ちなどを数え、「に満ちている」意味を表す。

「一条」の「前途に一条の活路を見いだす」のような「細長いものの一本。ひとすじ。」の意味と「第一条第3項」のような「箇条書のひとくぐり」の意味は中国語と共通しているが、「一条の煙（一縷煙）」「一条の理がある」「一条の光」のいい方は中国語で使われない。「一条煙」はタバコ10個が入る「一カートン」を意味する。「一条」にまた「話が倒産の一条に及ぶ」のように「話題として取り上げられる、ある一つの出来事。…のこと。…の件。」を表せるが、その意味用法は中国語の“一条”にない。ただ中国語で細長いものを数えるとき、いろいろなものに使われる<sup>(13)</sup>。日本語の「一本」に当たる。

「一張」と「一张」は張ってあるものを数える点では共通しているが、共に数えられるものは「琴」と「弓」だけである。「一張」はその他に、「太鼓」「提灯」「和傘」「蚊帳」を数えるのに用いられるが、中国語ではそれぞれ“一面鼓”“一盞灯笼”“一把日式傘”“一頂蚊帳”と表現する。中国語の“一张”<sup>(14)</sup>は「ベッド」「テーブル」「椅子」「碁盤」などの面が張ってあるもの、「網」「顔」「紙」「紙で作られた薄いもの」など「張る」と関係のあるものを数えるのに用いられる。

“一幅”と「一幅」は書画の掛け物・軸物・絵画一般・レリーフなどを数える点では一致しているが、中国語では他に、“地图（地図）”“口号（スローガン）”“插图（挿し絵）”“漫画（まんが）”また“蓝图（青写真）”のような言葉を数えるのにも使える。

(73) 一幅地图 / 1枚の地図。

(74) 一幅标语 / （壁などに張る）スローガン 1枚。

(75) 加一幅插图 / 挿し絵を 1点入れる。

(76) 一幅漫画 / 一枚の漫画。

(77) 描绘一幅蓝图 / 一つの青写真を描く。

### 3.8 意味用法が違う数量詞

「一双」は「屏風」「手袋」などのペアにしか使われないが、“一双”は“眼睛”“鞋”“手”“翅膀”などペアになっているものに使われる。“屏風”のペアは“一对”と言い、“手套”のペアは“一副”と言う。

日本語の「一团」は「（群集の）ひとかたまり。一群。また、一つの仲間。」を意味し、人に使われるのである。“一团”はかたまりとなったものを意味したり、全体的にある状態にあることを比喩的に表現したりする。例えば、

(78) 屋内一团漆黑，让人辨不出东南西北 / 室内は真っ暗で方角が分からない。



「一籠」と「一箎」はずいぶん違う。「籠」は「竹や籐とう・藺い・柳・針金などの線状のもので編んだり組んだりした器物。」を指し、一見中国語の「箎」と変わらないようであるが、広辞苑の写真とスーパーでの実物を見れば、日本語での「籠」はほとんど蓋がなく、密閉されていないのである。野菜や果物や貝など籠に入れられるものは全部「籠」で数えられる。一方、中国語では「箎」と言えば、必ず蓋がついて、密閉されなければならない。「蒸籠」が代表的なものである。饅頭や小籠包などを数えるのに「箎」を用いる。その他、家禽類などを運ぶとき「鉄箎」などを使い、その数量を「箎」で数えることがある。

「一艘」と「一艘」はともに船を数える数量詞であるが、日本語では帆掛け船など小型舟を数えるのに使われ、中国語では大きな船を数えるのに用いられる。古代の中国語では小さい船にも使われたが、大きな船に多用されたのである。今は「航空母艦」「軍艦」「客輪」「輪船」「油輪」など大きな船だけを数えるようになった。

「一串」と「一串」は串に刺したものを数える意味が同じであるが、日本語で串に刺すものは「団子」「鰻の蒲焼」などの食物に限るが、中国語では「一串项链（一連のネックレス）」「一串珍珠（一連の真珠）」「一串脚印（一筋の足跡）」「一串葡萄（一房のブドウ）」「一串铜钱（一さしの銅銭）」「一串钥匙（一連の鍵）」「一串子弹（連発される弾丸）」「一串鞭炮（一連の爆竹）」「一串糖葫芦（竹串に刺したサンザシやナツメ、カイドウなどの実）」など具体的なもののだけでなく、「一串问题（一連の問題）」のような抽象的なものにも用いられる。

日本語では「座」は「祭神・坐像（仏像）」「里神楽などで、曲の数」「高山」「星座」などを数える語として用いられる。「一座」は「第1の上席。上座。」「同じ座にすわること。同座。同席。」「その座席全体の人。満座。」「能役者・俳優・芸人などの一団体。」などの意味があるが、中国語ほど常用されていないし、多用されていない。中国語では「座」で数えられるもの<sup>(15)</sup>は基本的には「動けなく安泰である」「落ち着いている」「威勢がある」意味が込められている。後に高い山をも数えるようになったのである。

「一連」は「軍隊の中隊の番号」の他に、副詞として「一連干了五个小时（ぶっ続けに5時間働いた）」「一連刮了两天大风（2日続けて大風が吹いた）」のように「立て続けに」「ぶっ続けに（で）」「連続して」の意味を表す。「一連」は「一連の事件」のように「ひとつながりになっていること。」と、「目刺し、高野豆腐、鎖、真珠のネックレス、干し柿、昆布」などの「ひとつながりになっているもの」を表すのに用いられる。

「一具」は「一具身分不明の尸体（身元不明の死体）」「一具完整的恐龙化石（完全な恐竜の化石）」のように「尸体」「恐龙化石」などにしか用いられないが、日本語では「一具」は「火箸、背広、鎧、狩衣、袴、巾着、装束、印籠、輿、数珠、櫛、鞍、駕籠」などの「器具・衣服・甲冑などの一組。ひとそろい。一式。」を表す。

「一抹」は「一抹の不安」のように使われ、「ほんの少し。ほんのわずかなこと。」の意味を表すが、中国語の「一丝」に当たるが、「一抹」は文学的な雅語で、「一抹月光」



“一抹夕阳” “一抹阳光” “一抹微风” “一抹红晕” などのように「一筋の」「ほのかな」の意味を表す。

「名」と“名”は中日とも人を数えるのに使われるが、日本語では丁寧な言い方で、尊敬の意味が込められているので、中国語の“位”に当たる。中国語では“名”は中性的な量詞で、数えられる人の範囲が日本語よりずっと広い。例えば、“学者” “优秀的教师” などはもちろん、“嫌疑犯” “犯人” “奸细” “贼将” “贼党” “恶霸” “通缉犯” “凶手” “恐怖分子” などにも使われる。また他人だけでなく、“从小立志要当一名建筑师” のように、将来の自分にも用いられる。

“升”は容積の単位で、ずっと昔から使われてきたが、中国の辞書に古代の具体的な容積の数字は示されていない。今は西洋の容積単位に合わせて、“一升”は「1 リットル」を表す。一方、日本語では「尺貫法で、容積を表す単位。一升は一〇合で、約一・八リットル。」を指すので、中国語と違うのである。

“斤”の表す重さは時代によって違う。“半斤八両”から分かるように、800 グラムを指す時期もあったが、現代に入って、西洋のキログラムに合わせて、500 グラムに規定されたのである。日本語ではまだ使われる場合によって、重さの意味が違う。「二斤の牛肉」の場合、「一斤」は「約六〇〇グラム」であるが、食パンの塊を数えるとき、一斤は「三五〇～四〇〇グラム」である。

“一里”は古代では“300 歩”か“360 歩”を指していたが、今は西洋のキロメートルに合わせて、500 メートルに変えられた。日本語では「一里」は「3927.27 メートル」を指すので、中国語と異なっているのである。

「十二支」は「暦法で、子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥の称。中国で十二宮のおのおのに獣をあてたのに基づくという。すなわち、子は鼠、丑は牛、寅は虎、卯は兎、辰は竜、巳は蛇、午は馬、未は羊、申は猿、酉は鶏、戌は犬、亥は猪。そのおのおのを時刻および方角の名とする。」を指し、中国語で“十二生肖”と言う。中国語で“十二支”は数量詞で、“日本有十二支职业棒球队”のようにスポーツのチームを数えるのに使われる。

「三冠王」は「野球で、1 シーズンに打率・打点・本塁打数の三部門の成績がいずれも 1 位となった打者。勝率・勝利数・防御率がいずれも 1 位になった投手をいうこともある。」と「特定の分野の三部門で、定められた期間内に 1 位となった人。」の二つの意味を表し、野球や囲碁などの分野の個人にしか使われないが、中国語では“三冠王”は囲碁やスポーツ全般の個人、団体チーム（特にサッカーチーム）に用いられる。

#### 4. 中国語の“个”と日本語の「個」「つ」

中国語で“个”は最もよく使われている量詞である。何傑（2008）は“‘个’是一个特殊的量词，就其应用范围而言，有人称它为万能量词。（“个”は一つの特殊な量詞で、その応用範囲について言えば、万能量詞と呼ぶ人もいる。）” “爸爸、老师、坏蛋、罪犯、



児童”<sup>(16)</sup>のような人、“本子、花瓶、小刀、软盘”のようなもの、“竹子、草籽、藤萝、芦苇”のような植物、“猴子、狗熊、乌龟、娃娃鱼”のような動物、“闪电、雷鸣、山洪、地震”のような自然現象、“理想、追求、主意、条款”のような抽象的なもの、専用の量詞がない名詞はほとんど“个”で数えられるが、これらの例は日本語でほとんど「個」で数えることができない。

日本語の「個」と比べて、中国語の“个”は使用範囲が遥かに広い。日本語で中国語と同じく「個」で数えられる名詞は次のとおりである。

みかん 西瓜 柿 リンゴ レモン 梅干し 種子 分子 化合物 電極 塩素 電子  
陽子 中性子 分子 原子 原子核 素粒子 細胞 恒星 衛星 鼎 穴 障害物  
車輪 軸輪 珠 うす 鈴 円盤 輪 環 ローラー マイクロフォン キー チップ  
コイン メダル ボール 分隊 師団連隊 中隊 大隊 商品 茶碗 卵 パン 肺臓  
リンパ節 駒 さいころ 石 基石 弾丸 貝殻 葉緑体 楽器 印鑑 音 和音  
拍子 区画 点 文字 小黒点 尾紋 斑紋 空き缶 台風 数 数値 座標 実数  
数量 IP アドレス 煩悩 物権 前提 国家 人間 人格 行為 要素 社会現象

日本語では「個」は「煩悩」「前提」「要素」などの抽象名詞に使えるが、その数は非常に少ないし、「一個の国家機関」「一個の人間の価値」「一個の独立した人間」「一個の人格」「一個の全体を形作る」「一個の社会現象」などのように改まった場合の強調的な表現や堅い書き言葉としてしか使われない。日本語で台風を数えるとき、「台風は通年30個発生する」のように「個」を使うが、中国語では“个”より、“场、次”などの量詞が多用される。

日本語で「個」が使われ、中国語で他の専用量詞が使われる例は少ないが、次のものが挙げられる。

犯罪 罪 戦闘 辺 水濠 骨 軟骨 胸骨 椎骨 白い花 小花 石けん

日本語で「個」で数えるもの<sup>(17)</sup>はほとんど「つ」でも数えることができます。中国語で“个”で数えられるものの多くは日本語で「つ」で数えられる<sup>(18)</sup>。

「星」「細菌」などの同形語を数える量詞の比較は簡単にできるが、同形語ではない場合、一つの言葉が多数の訳語に対応しているので、数量詞の比較が非常に複雑になってしまう。例えば、中国語の“摆设”は日本語に訳すと、「置物」「飾り物」などの訳語が使えるが、しかし、「置物」と「飾り物」の量詞はそれぞれ「個、点」と「つ、点」なので、微妙に違っている。また“错误”は「ミス」「過ち」「間違い」などに訳せるが、「ミス」と「過ち」は「つ」「度」で数えるが、「間違い」は「つ」と「個」で数えられる。逆に日本語から中国語に訳された時も同じような問題が起こる。中日数量詞の比較の難しさがここにもある。

中国語で“个”で数えられ、日本語の訳語に「個」も「つ」も使われない言葉<sup>(19)</sup>も多い。中国語で“个”の他に、別の量詞も使えるが、ここで問題にしないことにする。( )内は訳語と量詞で、「/」で区分している。例えば、



扳子 (スパナ/本 レンチ/丁・本) 报社 (新聞社/社) ヒ首 (短剣・匕首/本)  
招牌 (看板<sup>(20)</sup>/枚・面) 照相机 (カメラ/台・点) 证件 (証明書/通・枚)

中国語の“扳子”は日本語で種類によって、訳語が違い、数える量詞も違う。「スパナ」は「本」で数えるが、「レンチ」は「丁」も「本」も使える。“证件”は普通「証明書」と訳されているが、“证件”は一枚の紙ではなく、一冊の小さいノートのようなもので、「証明書」では訳しきれないと思われる。

中国語では“个”はほとんど何でも数えられるが、日本語に対応する訳語がなかったり、もともと日本語で数えられなかったりする言葉もある。次のような例が挙げられる。

安排 按语 暗礁 布告 差距 创举 胆子 担子 关头 郊区 农村 奇闻 蛀虫

“安排”は中国語で、「手配する。手はずを整える。段取りをつける。計画する」などの意味を表す動詞であるが、“一个安排”になると、日本語に翻訳しにくくなってしまう。

“创举”は日本語で「創造的な試み」で、一つしかないもので、数える必要がない。“奇闻”は日本語で「奇聞」「珍聞」で、話題に上る際、それしかないもので、数える必要もない。“郊区”“农村”はもともと可算名詞ではないが、“一个”の修飾を受けると、「ある」という不特定の意味を表す。“暗礁”“布告”などは普通日本語では数えないし、“差距”“胆子”“关头”などの抽象的な言葉は数えようがないが、中国語で“一个”の修飾を受けられる。“蛀虫”に当たる日本語がないので、「木・衣類・本・穀物などにつく虫の総称」と意識されるしかない。中国語でさらに「組織の内部にあって全体を害する人」という比喩的な意味もあるので、“一个蛀虫”は日本語に訳しにくい。

## 5. おわりに

中国語の常用「量詞」は日本語よりずっと多いが、中日同形語としての数量詞が少なくない。

中国語母語話者の「一」を含む数量詞の過剰使用の一要因は中日文脈に対する理解の違いである。日本語の文脈に「一」が含まれている点を学習者にしっかりと理解してもらう必要がある。

日本語の数量表現は漢数字の他に、外来語や和語など言葉の数が多いし、表現形式も豊富である。日本語の数量詞の入る慣用句などの表現が中国語に意識されたとき、訳文に数量詞が使われない場合が少なくない。逆に中国語の簡潔な表現が日本語に訳される時、訳文に数量詞が増やされる可能性もある。

中日数量詞は基本的な意味が同じであるが、使われる対象が全く違ったり、どちらか一方が他方より意味用法が多かったり使用範囲が広がったりしているので、複雑な対応関係をなしている。一つ一つの意味用法の違いを明確にして、学習者に理解してもらい、しっかり把握してもらうしかない。特に日本語では名詞や序数詞やサ変動詞を兼ねたりしている数量詞の用法に注意が必要である。また中国語で多用される動量詞、日本語に対応する



訳語がない言葉、もともと日本語で数えられない言葉にも、中国語で量詞が使われるので、日本語に訳すとき、意識するしかない。

## 注

- (1) 中国語では品詞は一般的に“名词、动词、形容词、数词、量词、代词、副词、介词、连词、助词、感叹词、拟声词”の十二種類に分類されている。日本語では品詞の分類は中国語と違う。以下『国語学研究辞典』と『国語学辞典』及び『国語学大辞典』の「数詞」や「数量詞」に関する説明を引用する。

「五つ」「四枚」などの数詞は事物の数量を表す語と合わせて数量詞と呼ばれることもある。また、数詞という用語は、例えば「四枚」では、助数詞「枚」の前に現れる「四」を指すのに使われる場合もある。「五冊」「五メートル」のような数量詞は、数詞（「五」と序数詞「冊」「メートル」から構成されている。『国語学研究辞典』  
数詞 体言の一種。数によって、数量や順序を表わす語。西洋文典に numeral という品詞があるので、明治以来独立の一品詞として、あるいは名詞の一部として説かれたが、近來は独立させないのが普通である。『国語学辞典』

数詞：西洋文法でいう numeral の訳語であろうが、日本文法で数詞という用語が一般に使われたのは大槻文彦の『広日本文典』以後という。狭義では、数の概念を表現する語であって、英語の one, two, three や日本語の「イチ」「ニ」「サン」などがこれにあたる。広義には、事物の数量的側面を表現するもので、「ヒトリ」「二年」「三冊」などである。『国語学大辞典』

- (2) 飯田朝子(2004)の『数え方の辞典』による。

- (3) 何杰(2008)の統計によれば、“现代汉语常用量词有 600 多个。”

- (4) 日本語独特な助数詞や名詞か名詞の一部分を助数詞にするものとして次の例が挙げられる。

握 案 基 機 軒 鍵 限 時間 時限 膳 坪 艇 便 俵・羽

雨 岳 河川 規定 項目 个体 作品 樹 床 体 段落 单位 段階 店舗 度数  
日本語にない量詞として次のものが挙げられる。

中国語独特な量詞は次のものが挙げられる。

帮 丛 出 处 撮 沓 洞 垛 簇 顶 顿 杆 秆 根 钩 股 挂 盒 伙 剂  
届 棵 孔 篮 溜 路 络 排 盆 起 圈 天 趟 贴 擦 窠 坑 批 捆 所  
套 挑 洼 弯 丸 汪 窝 旬 盏 支 炷 幢 宗

- (5) 本稿の例文は出典を明示しない限り、全部『講談社日中辞典』と『講談社中日辞典』から引用している。

- (6) 数量詞などについている下線は全部筆者が引いたものである。

- (7) 意味用法が同じである数量詞を含む言葉と例文はまた次のものが挙げられる。



三重唱 三重奏 四季 四肢 四分音符 四面体 五線譜 六面体 六角形 八角形  
三周年 高3 3分の2

3画の字／三画的字。

3次方程式の解法／三次方程的解法。

原液を水で3倍にうすめて用いる／将原液用水兑成三倍后使用。

三角関係を清算する／了结三角关系。

五穀豊穰を祈祷する／祈祷五谷丰登。

小数点以下を四捨五入する／小数点以下四舍五入。

教団は現在では5派に分流している／这个宗教团体现在分成了五派。

次のページへ3行送りになります／把这三行移到下一页。

明日は気温が3度ほど上がるでしょう／明天气温会高三度左右。

医師はその子の脚の傷を3針縫った／医生给那个孩子脚上的伤口缝了三针。

世界の3大宗教は仏教・キリスト教・イスラム教だ／世界三大宗教是佛教、基督教、伊斯兰教。

憲法第9条／宪法第九条。

契約書の第8条／合同书的第八条。

この全集は第3巻が欠けている／这部全集缺了第三卷。

この劇の第3幕は格別感動的だった／这个戏第三幕特别感动人。

契約書第二条第一項、同じく第四項に基づく／依据合同第二条第一项及同条第四项。

(8)『広辞苑』の「五官」に関する説明を引用した。

(9) 日本語では数量詞が使われていないが、中国語訳で数量詞が増やされた例として、また次のものが挙げられる。

原稿を複写しておく／把原稿复印一份。

壁に絵がかけてある／墙上挂着一张画儿。

大きな魚を釣り上げた／钓上来一条大鱼。

トラックが子どもを轢いた／卡车轧了一个孩子。

昨日服を新調した／昨天新做了一件〔套〕衣服。

東西に大きな道路が走っている／东西向有一条大道。

ゆうべ変な夢を見た／昨天夜里我做了一个古怪的梦。

学校への通り道に本屋がある／上学的路上有一家书店。

眺めのいい部屋をお願いします／我想要一间风景好的房间。

大きなコイがばしゃんと跳ねた／一条大鲤鱼吧唧一声跃出水面。

クラスの男の子にあだ名をつけた／给一个同班男生起了个外号

ハエが1匹部屋の中を飛び回っている／一只苍蝇在房间里飞来飞去。

副業として喫茶店を経営している／作为第二职业，我经营着一个咖啡店。

どかんとものすごい音がして破片が飛び散った／轰地一声巨响，碎片四下纷飞。



デッドヒートの末、ドイツチームが優勝した／经过一场激烈竞争，德国队获得了大奖。  
大型の台風だったが、我が家は大した被害もなくすんだ／尽管是一场巨大台风，但我家没受到什么灾害。

旁边就是一条商业街，买东西极其方便／すぐそばが商店街だから，買い物はとても便利だ。

趣味と特技を生かして有意義な老後を送る／充分发挥自己的兴趣和特长，度过一个有意义的晚年。

長女の誕生はわが家にとっては特筆すべき大事件であった／大女儿的出生对我们家来说是一件值得大书特书的事情。

(10) その他に中国語で数量詞が使われない例文は次のものがある。

二の腕／上臂。

二枚目／美男子；小生。

三枚目／丑角。

三下り半／休书。

なくて七癖／什么人都多少有点儿毛病。

子は三界の首枷／孩子是永远的累赘。

いま私は一身の栄達など考える余裕はない／我现在没有余力考虑自己的前程。

あいつはだれでも舌先三寸で言いくるめる／他对谁都花言巧语，蒙骗人

両チームともに一步も譲らず鏖迫り合いを演じた／两队互不相让，展开了一场激战。

あの俳優の演技は一点の非の打ちどころもない／那个男演员的演技没有丝毫可以挑剔的地方。

家財道具を二束三文で売り払った／廉价抛售掉了所有的家具。

憤慨した被害者が相手方に談じ込む一幕もあり事態は紛糾した／事情越闹越大，被激怒的受害者甚至站出来向对方提出抗议。

英語では私は王さんに一旦も二目も置いている／论英语我很佩服小王。

もう二度とあの人に会えないと思うと悲しい／想到再也见不到他就感到十分难过。

妻はこれに懲りてもう二度と株には手を出さないだろう／妻子炒股吃够了亏，谅她再不敢炒了吧。

(11) 趙曉曦(2006)は「種」、「品目」、「項目」のような中国語の種類量詞に相当する助数詞が存在している。しかし、「一种滋味」(味わい)、「一种感情」(感情)、「一种思想」(思想)、「一种情緒」(情緒)など抽象名詞の前に使われていない。」と述べているが、「一種の味わい」「一種の思想」「一種の雰囲気」など抽象的な名詞にも使われるが、中国語ほど多用されない。例えば、次の各文では日本語に「一種」が使われていないが、中国語の訳文で“一种”が使われている。

奇異な感じがする／有一种奇异的感觉。

運動した後は爽やかな気分になる／运动后有一种轻松的爽快感。



そんなことはまったく贅沢な悩みだ／这种烦恼可真是一种奢侈。

ふと猜疑心が頭を擡げてきた／忽然一种疑念油然而升。

あの画家はどこか人を寄せ付けない雰囲気をもっている／那个画家给人一种难以接近的感觉。

話を聞いているうちに遣り場のない怒りがこみ上げてきた／听着听着一种无从发泄的愤怒涌上了心头

- (12)「第六感」「第六卷」「第一位」「第一回」などの序数を表す言葉は中日でほとんど同じである。日本語の「第六感」の意味を表す言葉にまた「勘」がある。

勘をはたらかす／调动第六感。

妻は動物的な勘の持ち主だ／妻子的第六感很强。

また中国語で「第」がつかなくても序数を表す数量詞もある。次の例がある。

まもなく空港の第2期工事が起工される／机场二期工程即将开工。

- (13)中国語で“一条”で数えられるものとして次の言葉がある。

①細長いもの

裤子 裙子 床单 毯子 被子 被面 被里 棉被 毛毯 项链 毛巾 围巾 领带  
肥皂 香烟 绳子 带子 口袋 麻袋 板凳 扁担 鞭子 电线 黄瓜 丝瓜 苦瓜  
船 渔船 游船 游艇 帆船 滑梯 灯丝 波浪 大坝 根须 彩虹 长长的影子  
缝儿 裂缝 裂纹 口子 轨迹 裂痕 条幅 横幅 火山口  
山脉 峡谷 海岭 长堤 海峡 山岭 裂谷 小径 街 路 马路 公路 山间小路  
铁路 小巷 胡同 弄堂 走廊 隧道 林荫大道 交通要道 跑道 柏油路 退路  
死路 高速公路 弯路 大动脉 血路 生路 盘山公路 旅游线路 地下铁道 轨道  
河流 河 江 沟 渠 水渠 小溪 运河 港湾 支流 瀑布 冰川 护城河  
横线 直线 白线 曲线 线段 航线 平行线 铅垂线 分数线 分界线 健康热线  
直飞航线 高压电线 生产线 产业链 国际日期变更线 火红的铁流 长长的“火龙”  
输水管道 水管 海底电缆 光缆 光带 玉带 红绸带 降水带 低压槽降雨带  
传送带 林带 绿化带 带状的“绿色走廊” 缓冲地带 沙障 绿色屏障竹篱笆  
鱼 鳄鱼 金鱼 鲇鱼 河豚鱼 泥鳅 蚯蚓 长虫 蛇 龙 尾巴 狗 狼

②人体

长龙 汉子 光棍 人命 性命 胳膊 腿 肋骨 血管 舌头 辫子 眉毛 皱纹  
好嗓子 心 视线 伤痕 鼻涕

③抽象的な事物。

计策 妙计 路线 意见 建议 罪状 新闻 消息 标语 短信 广告 捷径 出路  
死路 求学之路 新思路 人生道路 鸿沟 谜语 经验 标准 纽带 线索 证据  
法案 刑法 规定 规矩 措施 指示 纪律 禁令 规律 定律 真理 定理 原理  
原则 理由

- (14)中国語で“张”で数えるものは以下に並べておく。



床 吊床 椅子 桌子 小圆桌 饭桌 写字台 棋盘 网 蛛网 脸

紙などの薄いものを数え、日本語の「枚」に当たる。

紙 报纸 白纸 糖纸 纸条 废纸 告示 表 元素周期表 地质年代表 地图 画  
古画 风景画 照片 合影 集体照 名片 5 块 纸币 票 火车票 电影票 邮票  
入场券 支票 欠帐单 高中毕业证 毕业文凭 资格证明书 奖状 羊皮 竹帘 圆盘  
磁盘 唱片 专辑 VCD 光碟 银行卡

(15) “座”で数えられるのは次のものである。

①山林、島嶼など自然界のものに用いる。

火山 名山 山冈 高土丘 峻岭 高峰 险峰 森林 园林 大岛 小岛 半岛 海岛  
暗礁 山洞 深坑 金矿 矿山

②町、村、学校、工場などが密集している場所に用いる。

城市 城堡 池城 城廓 孤城 村镇 村寨 村庄 避暑山庄 工厂

③各種の建物に用いる。

建筑物 宫殿 公馆 别墅 剧院 旅馆 茅庵 大宅院 寺庙 古庙 古刹 古寺  
土地庙 观 龙王庙 观音堂 祠堂 关 草堂 破窑 洞府 牢 花园 亭子 凉亭  
桥梁 小桥 独木桥 浮桥 水库 房子 楼房 高楼 楼阁 大厦 摩天大楼 电台  
酒楼 酒肆 茶馆 当铺 饭店 牌坊 坟墓 军营 阵势 要塞 营寨 营盘 发电站

④石碑、塔、彫刻像、鐘、炉、大砲などに用いる。

石碑 纪念碑 佛塔 宝塔 高塔 铜像 塑像 佛像 石雕 玉佛 浮屠 神龛 大钟  
铁炉 高炉大炮 重炮 古鼎 门楼 界牌 牌楼 石牌坊 丰碑 牌额 障壁 闸  
关隘 井 台 炮台 戏台 高台 擂台 点将台 琴台 神坛 大圆门 宫门 敞厅

(16) 中国語で“个”は人を数えるときも幅広く使われる。例えば、一人しかいない「パパ」

「ママ」「市長」などにも使われ、省略できない場合が多い。“个”で数えられる人である名詞は次の例が挙げられる。

阿姨 爸爸 班长 班子 帮手 榜样 保育员 保姆 博士 部长 乘客 大臣 大夫  
代表 导演 敌人 店员 董事 儿女 恩人 房东 飞行员 妇女 干部 歌手 歌星  
工人 姑娘 观众 官员 海员 和尚 记者 教员 警察 客人 劳动力 老师 烈士  
领袖 流氓 律师 盲人 模范 牧民 奶奶 难民 男人 女人 偶像 朋友 骗子  
强盗 婆婆 仆人 侨胞 侨民 亲戚 傻子 师傅 士兵 市民 市长 孙子 同学  
同志 外宾 委员 文人 媳妇 先生 仙女 选民 学生 医生 移民 游人 贼  
战士 助手 总统 总理 祖先 祖母 罪犯 作家 作者

(17) 中日とも“个”（「個」）で数えられる物体は次のものがある。ただ、他の量詞でも数えられるが、ここで問題にしない。（ ）内は中国語に対する日訳である。

把手（取っ手）包子（饅頭）杯子（グラス、コップ） 刀片（剃刀の刃） 灯（電灯）  
灯泡（電球）笛子（笛） 纽扣电池（ボタン型電池）冬瓜（冬瓜）  
背包（背囊、リュックサック） 冰淇淋（アイスクリーム） 病毒（ウイルス）



草帽 (麦わら帽子) 耳机 (イヤホン) 钢盔 (鉄帽、戦闘用ヘルメット) 缸 (かめ)  
 鼓 (太鼓) 罐头 (缶詰、本瓶詰め) 花盆 (植木鉢) 徽章 (バッジ) 馒头 (マントー)  
 金鱼缸 (金魚鉢) 雷 (雷) 梨 (梨) 凉鞋 (サンダル) 手铐 (手錠)  
 萝卜 (かぶ、ラディッシュ) 南瓜 (南瓜) 闹钟 (目覚まし時計) 暖瓶 (魔法瓶、ポット)  
 盘子 (皿) 乒乓球 (ピンポン玉、卓球ボール) 容器 (容器) 塞子 (栓) 筛子 (ふるい)  
 手表 (腕時計) 手镯 (腕輪、ブレスレット) 刷子 (ブラシ) 水泵 (水汲みポンプ)  
 坛子 (つぼ、かめ) 桶 (おけ) 土豆 (ジャガイモ) 西红柿 (トマト) 椅子 (椅子)  
 枣儿 (ナツメ) 炸弹 (爆弾) 枕头 (枕) 磁铁 (マグネット磁石)  
 宝贝 (宝物) 标本 (標本) 茶壶 (急須) 窗 (窓) 符号 (符号) 锅 (鍋) 核桃 (くるみ)  
 疙瘩 (出来物、はれもの、しこり) 壶 (ポット、やかん、急須) 箩筐 (箬、かご)  
 扣子、钮扣 (ボタン) 篮子 (籠) 礼物 (贈り物、プレゼント) 莲子 (蓮の実)  
 零件 (部品) 脑子 (脳) 脑袋 (頭) 盆 (ボウル、鉢、洗面器) 软件 (ソフトウェア)  
 桃子 (桃) 图章 (判、印鑑) 玩具 (おもちゃ) 细菌 (細菌) 星 (星) 眼睛 (目)  
 样品 (サンプル、見本) 肿瘤 (腫瘍) 足球 (サッカーボール)  
 (18) 中国語で“个”で数えられ、日本語で「個」が使えず、「つ」が使える言葉  
 安慰 (慰め) 暗语 (隠語、合い言葉) 案子 (事件) 奥秘 (はかりがたいなぞ)  
 疤 (きず、傷跡) 把柄 (弱み、弱点) 办法 (方法) 办公室 (事務室) 宝库 (宝庫)  
 堡垒 (とりで) 报告 (報告) 抱负 (抱負) 悲剧 (悲劇) 备忘录 (備忘録) 背景 (背景)  
 本事 (能力、技量、腕、能力、技量) 本性 (本性) 比赛 (試合) 比喻 (比喻)  
 弊病 (弊害、悪弊、デメリット、欠点) 壁橱 (クローゼット) 标兵 (模範、手本)  
 标签 (ラベル) 标题 (表題、タイトル、見出し) 标准 (規格、基準、標準) 表情 (表情)  
 部队 (部隊) 菜园 (菜園) 菜单 (メニュー) 草稿 (草稿) 厕所 (トイレ) 側面 (側面)  
 插曲 (エピソード、挿話) 长处 (長所) 常识 (常識) 车站 (駅、バス停) 称号 (称号)  
 成分・成份 (成分) 城市 (都市) 传统 (伝統) 词・词语 (ワード) 大海 (海)  
 岛 (島) 地方 (ところ、場所) 典型 (典型) 定理 (定理) 东西 (もの)  
 队伍 (軍隊・部隊、隊列、集団) 耳朵 (耳) 防线 (防御線) 废墟 (廃墟)  
 标点符号 (句読点) 概念 (概念) 工程 (工事、プロジェクト) 产业 (産業)  
 公式 (公式) 公园 (公園) 公司 (会社) 功能 (機能、技能)  
 关口 (関所、関、正念場) 观点 (見方、見解、観点) 国籍 (国籍) 含义 (意味)  
 花镜 (老眼鏡) 花篮 (花籠) 花招 (術策) 会议 (会議) 祸 (災い、災難) 基地 (基地)  
 机会 (機会、チャンス) 机构 (機構、仕組み、メカニズム、組織、団体) 机密 (機密)  
 机关 (機関、官庁、役所、しかけ、装置、計略、策略) 计划 (計画) 肩膀 (肩)  
 焦点 (焦点) 教室 (教室) 经验 (経験) 俱乐部 (サークル) 看法 (見方、考え)  
 空白 (空白) 口袋 (ポケット) 口号 (スローガン) 口子 (傷口、裂け目、割れ目)  
 矿井 (立坑) 困难 (困難) 礼堂 (講堂、ホール) 理由 (理由) 立交桥 (立体交差)  
 脸盆 (洗面器) 路线 (路線) 论点 (論点) 码头 (波止場、埠頭)



毛病 (故障、誤り、失敗、欠点、癖、病気) 矛盾 (矛盾) 门市部 (販売店) 梦 (夢)  
 面孔 (顔つき) 民族 (民族) 名称 (名称) 名字 (姓名、名前、名称) 命令 (命令)  
 目标 (目標) 目录 (目録) 牧场 (牧場) 难关 (難関) 派别 (分派、流派、派閥)  
 派出所 (交番) 奇迹 (奇跡) 企业 (企業) 癖好 (癖) 坡 (坂)  
 窍门 (秘訣、こつ、勘どころ) 情况 (状況) 曲子 (曲) 拳头 (こぶし、げんこつ)  
 任务 (任務) 森林 (森) 山谷 (谷) 商标 (銘柄) 声音 (音、声、音声) 时间 (時間)  
 事业 (事業) 嗜好 (道楽) 思想 (思想) 设备 (設備) 提纲 (要綱、レジュメ)  
 题目 (題目、テーマ) 体系 (体系) 条件 (条件) 庭院 (庭) 团体 (団体)  
 托儿所 (託児所) 图案 (図案) 危险 (危険) 危害 (危害) 文件夹 (フォルダ)  
 问题 (問題) 武器 (武器) 舞蹈 (踊り、舞踏、舞踊、ダンス) 误差 (誤差) 席位 (議席)  
 习惯 (習慣、慣習) 喜事 (めでたい事、慶事) 夏季 (夏、夏季) 消息 (ニュース、情報)  
 协定 (協定) 心 (心) 信箱 (郵便ポスト、郵便受け、メールボックス)  
 研讨会 (シンポジウム) 演说 (演説) 宴会 (宴会) 谚语 (ことわざ) 样子 (様子)  
 钥匙 (鍵) 野心 (野心) 仪式 (儀式) 义务 (義務) 议案 (議案) 意见 (意見)  
 意思 (意思) 因素 (要素、要因) 影子 (影) 鱼网 (漁網) 园林 (園林) 原则 (原則)  
 障碍 (障害) 争议 (争議) 政策 (政策) 政府 (政府) 政权 (政権) 职务 (職務)  
 志愿 (志、抱負、願望) 制度 (制度) 职业 (職業) 主张 (主張) 准则 (準則)  
 葬礼 (葬儀) 字母 (アルファベット、ローマ字) 总结 (総括) 祖国 (祖国) 真理 (真理)  
 招待会 (歓迎会、レセプション) 阵地 (陣地) 阵营 (陣営) 座右铭 (座右の銘)  
 (19) 中国語で“个”で数えられ、日本語の訳語に「個」も「つ」も使われない言葉  
 板 (板／枚) 刨子 (かんな／挺・丁) 爆竹・鞭炮 (爆竹／本) 碑 (石碑／基)  
 被子 (布団／枚・組・重ね) 被套 (布団カバー／枚) 本子 (ノート／冊)  
 壁画 (壁画／面・枚・点) 鞭子 (鞭／本) 辫子 (おさげ／本) 便条 (メモ／枚・片)  
 标语 (スローガン／言・言・句) 冰箱 (冷蔵庫／台) 宾馆 (ホテル／軒・棟・棟)  
 博物馆 (博物館／軒・館) 彩旗 (彩色旗・五色の旗／枚・本) 餐车 (食堂車／両)  
 餐厅 (料理店・レストラン／軒・店舗・店) 仓库 (倉庫／棟・棟・戸前) 苍蝇 (蠅／匹)  
 草图 (下書き・略図・下絵／枚) 叉子 (フォーク／本) 茶馆 (茶屋／軒・店)  
 蝉 (セミ／匹) 铲子 (シャベル・スコップ／本) 场面 (場面・シーン／カット・幕)  
 车厢 (列車の車両／両) 尺 (物差し／本) 翅膀 (翅・羽／枚・本・片) 翼／翼・枚)  
 抽屉 (引き出し／杯・段・本) 橱窗 (ショーウィンドー／面) 处方 (処方箋／通・枚)  
 传单 (ビラ／枚) 窗帘 (カーテン／枚・点・張・張り) 床 (ベッド／台・床)  
 锤子 (金槌・ハンマー／挺・丁・本) 答案 (答え・解答・答案／枚) 大雁 (雁／羽)  
 大学 (大学／校・大学) 大衣 (外套／着 オーバーコート／着・枚)  
 担架 (担架／台・本) 单据 (伝票・領収書／枚・通) 掸子 (はたき／本) 刀 (刃物／本)  
 导弹 (ミサイル／発・基) 电车 (電車／両・台・本) 电影 (映画／本・作・作品)  
 碉堡 (トーチカ／基) 雕塑 (彫像／体・軀・口) 钉子 (釘／本) 动物 (動物／匹・頭)



斗笠（笠／枚・蓋） 毒蛇（毒蛇／匹・本） 鵝（鵝鳥／羽） 蛾子（ガ／匹）  
 鰐魚（鰐／匹・頭） 蚊子（蚊／匹） 稿子（原稿／枚・本・点） 胳膊（腕／本）  
 工厂（工場／軒・棟・棟・箇所） 狗（犬／匹・頭） 拐棍（ステッキ・杖／本）  
 汉字（漢字／文字・字） 黑板（黑板／枚・面） 猴子（猿／匹・頭） 狐狸（狐／匹）  
 蝴蝶（蝶／匹・頭・羽） 花瓣（花びら／枚・片・片） 机床（工作機械・旋盤／台）  
 鸡（鶏／羽） 轿车（乗用車／台） 空调（エアコン／台・基） 孔雀（孔雀／羽）  
 喇叭（ラッパ／本 拡声器／台） 老虎（虎／頭） 老鼠（鼠／匹）  
 帘子（すだれ・カーテン／枚） 链子（チェーン／本 鎖／本・連）  
 楼房（ビル／棟・軒・本） 炉子（ストーブ・こんろ／台） 轮船（汽船／隻・艘）  
 骆驼（駱駝／頭） 马达（モーター／基・台） 谜语（なぞなぞ／問） 庙（廟／基・宇）  
 民歌（民謡／曲） 蘑菇（キノコ／本・株・枚） 墓（お墓／基） 鸟（鳥／羽・匹）  
 拍子（ラケット・ハエたたき／本） 螃蟹（蟹／匹） 琵琶（琵琶／面） 瓶子（空き瓶／本）  
 铺子・商店（商店／軒・店・店舗） 尸体（死骸・死体／体） 水库（ダム／基・箇所）  
 商场（デパート／軒／店／店舗 スーパーマーケット／軒・店） 水塔（給水塔／基）  
 隧道（トンネル／本・箇所） 宿舍（宿舍／軒・棟・棟） 塑像（塑像／体）  
 台灯（電気スタンド／台・灯） 加油站（ガソリンスタンド／軒・店）  
 梯子（梯子／台・本・挺） 亭子（東屋／軒・棟・宇） 兔子（兎／匹・羽）  
 文件（文書／通・枚・部 書類／枚・部・綴り） 洗衣机（洗濯機／台）  
 喜鹊（カササギ／羽） 虾（エビ／匹・尾・本） 学校（学校／校） 鸭子（アヒル／匹）  
 牙刷（歯ブラシ／本） 牙齿（歯／本） 燕子（燕／羽・匹） 药方（処方箋／通・枚）  
 药丸（丸薬／錠・粒） 医院（病院／軒・院） 影片（映画／本・作）  
 证书（証書・証明書／通・枚） 指头（指／本・指） 走廊（廊下／本） 座位（座席／席）  
 皱纹（しわ／筋・本） 嘴巴（びんた／回）

(20) 飯田朝子 (2004) は「立体的な看板の場合、「3面の看板」のように「面」で数えることもあります。」と説明しているが、「面」は看板の面を数える言葉で、看板を数える量詞ではない。



## 第九章 「写」のついでいる中日同形語

### 1. はじめに

中日同形語に関する研究が盛んに行われてきたが、まだまだ研究が足りない部分が多い。中日同形語の語義の違いをもたらす原因も多岐にわたっている。本稿では「写」のついでいる中日同形語の意味の違いに対する考察を通し、その違いをもたらす原因を分析した結果、その原因の一つは漢字の多義性による、つまり、多義を持っている漢字からなる漢字複合語が、意味解釈の多くの可能性をもっていることに気づかれないうまま、捉えられてきた事実があることがわかった。そのような中日同形語の意味用法と違い及びをもたらした原因を日本語学習者に教えれば、効率的な日本語の習得に寄与できると期待している。

### 2. 先行研究

中日同形語に関する研究が盛んになってきたが、しかし、「写」の同形語は、《中日两用日漢双解同形異義日語漢字词典》(1986)、『おぼえておきたい日中同形異義語 300』(1995)、《日漢同形異義語词典》(2004)などの辞書に、収録されていない。東方書店『日中同形異義語辞典』(2007)は 1400 語あまりの中日同形語を扱っているが、「写」の付いている同形語は「書写」1 語しか収録していない。

林玉恵(2001)の『日中語彙における日中同形語の比較研究』<sup>(1)</sup>、また万玲華(2004)の《中日同字詞比較研究》<sup>(2)</sup>にも「写」の付いている言葉が確認されていない。「写」のついでいる同形語に関わる言及は、今の段階では、兒島慶治(2005)の『現代若者の「写真」認識』<sup>(3)</sup>しか見つかっていない。「写」のついでいる言葉や語群に関する研究がまだない現状である。

本稿では、「写」のついでいる中日同形語に絞って、中日両国での意味用法を考察していきたい。

### 3. 中日両国の「写」に関する言葉

筆者は中国の《汉语大词典》や『日本国語大辞典』などの辞書を調べた結果、それぞれ「写」のついでいる言葉が次のようにあることがわかった。

#### 3.1 中国の「写」に関する言葉

「写」の付いている言葉について、筆者は《汉语大词典》《辞源》などの辞書に載っている言葉だけでなく、中国古典全録<sup>(4)</sup>に収録されている古典の文献を全部検索した。古典文と現代文で使われる言葉と意味の異同によって、次の 4 種類に分類してみた。

##### 3.1.1 古典文では使われたが、現代文では使われていない言葉

暗写 标写 布写 钞写 陈写 攢写 独写 敷写 副写 环写 极写 课写 口写  
隶写 摠写 漫写 摸写 披写 铺写 染写 镕写 濡写 施写 申写 舒写 输写  
擡写 淘写 陶写 填写 条写 贴写 图写 洗写 闲写 宪写 泄写 宣写 溢写  
移写 吟写 佣写 状写



写白 写诚 写傲 写放 写愤 写副 写雇 写官 写怀 写鉴 写鑑 写鞆 写录  
写策 写貌 寫妙 写目 写念 写鸟 写瓶 写染 写润 写神 写疏 写思 写似  
写撮 写拓 写望 写像 写効 写效 写泄 写心 写形 写形画 写移 写曜  
写影 写映 写忧 写韵 写载 写志 写筑 写注 写状

### 3.1.2 古典文でも現代文でも使われて、意味が変わっていない言葉

草写 仿写 绘写 刻写 临写 描写 模写 摹写 默写 繕写 题写 抒写 拓写  
填写 影写 三写易字 三写成鸟  
写本 写经 写景 写情 写述 写信 写意 写照 写字

### 3.1.3 現代文でも使われているが、意味が変わった言葉

补写 抄写 大写 复写 连写 手写 书写 特写 誊写 听写 小写 虚写 转写  
写手 写生 写实 写书 写物 写真 写着 写作

### 3.1.4 現代文に使われている新しくできた言葉

编写 采写 复写纸 改写 简写 接写 乱写 略写 密写 拼写 谱写 試写  
速写 缩写 特写 特写镜头 遠写 在写 撰写 写法 写稿 写境 写入 写生画写  
诗 写实派 写实主义 写字台 写字间

## 3.2 日本語の「写」に関する言葉

日本語に「写」の付いている言葉の数がたくさんある。一部分は中国から伝わってきた言葉で、大部分は日本人が新しく作った言葉である。その中で「写真」を含んでいる言葉の数が一番多い。

### 3.2.1 中国から日本に伝来した言葉

#### 3.2.1.1 中国の意味をそのまま使っている言葉

移写 印写 虚写 細写 手写 書写 抄写 鈔写 図写 繕写 聴写 直写 転写  
伝写 謄写 描写 模写 輪写 臨写 録写 写映 写影 写完 写経 写字 写出  
写書 写照 写情 写本 写録

#### 3.2.1.2 新しい意味を付け加えた言葉

複写 写意 写実 写真 写像

### 3.2.2 日本語にしかない言葉

映写 活写 揮写 激写 撮写 実写 摺写 淨写 書写供養 真写 正写 生写 清  
写 精写 声帯模写 千写 漸写 扇面写経 速写機 的写 電子複写機 転写紙 転  
写石版 転写版 透写 透写紙 透写台 透写本 頓写 念写 端写本 被写界深度  
被写体 筆写 表現型模写 描写音楽 描写力 一元描写 客観描写 自然描写  
心理描写 性格描写 精密描写 性欲描写 多元描写 内面描写 平面描写 複写機  
複写紙 覆写紙 模写説 模写電報 連続写像 写字生 写象 写実主義 写実小説  
新写実主義 写場 写植 写植機 写声 写生文 写生図 写調 写譜  
青写真 色写真 顔写真 記念写真 空中写真 芸術写真 顕微鏡写真 航空写真  
広告写真 高速度写真 三色写真 紫外線写真 写真家 写真館 写真師 写真測量



写真著作権 写真店 写真電報 写真銅版 写真判定 写真屋 素人写真 断層写真  
心霊写真 赤外線写真 宣伝写真 全天写真機 双眼写真 着色写真 鳥瞰写真  
手配写真 電子写真 電子写真法 電送写真 天体写真 天然色写真 陶器写真  
扉写真 日光写真 布写真 白金写真 早撮写真 針孔写真機 引伸写真 舞台写真  
報道写真 豆写真 見合写真 裸体写真 立体写真 立体写真機

### 3.2.3 お互いに借用関係のない、偶然に一致する言葉

筆者は中日両国の各種の辞書と書籍を調べ、それぞれの意味用法と用例の時代背景を比較し、分析した上で、次のような言葉はお互いに借用関係がないと判断した。

写完 写入 写法 遠写 試写 接写 縮写 速写 特写 乱写 略写

## 3.3 現在中日両国でよく使われている中日同形語

### 3.3.1 意味が同じである言葉

描写 描写力 客観描写 自然描写 心理描写 性格描写 平面描写 臨写 写経  
写実 写実主義 写実小説 新写実主義 写本

### 3.3.2 意味に違いがある言葉

誤写 試写 書写 抄写 縮写 速写 謄写 特写 複写 複写紙 写字 写出  
写照 写意 写真 写法

## 4. 「写」の意味の比較

中国の《現代汉语词典》第五版は「写」について、四つの意味<sup>(5)</sup>を並べて解釈している。

『中日辞典』第2版は「写」の意味を二つ<sup>(6)</sup>にまとめて解釈している。

日本の『大辞林』は単漢字「写」の意味を二つ<sup>(7)</sup>しか並べていない。

以上を比較して見ると、現在の中国語の「写」の意味が日本語と違っていることがはっきり分かる。しかし、どうしてこんなに大きな違いが出たのか、筆者はこの疑問を持ち、さらに調べる範囲を広げ、《新华字典》、《辞源》、《汉语大词典》、『大漢和辞典』、『日本国語大辞典』などを引いて、それぞれの「写」に関する意味解釈<sup>(8)</sup>を比較した結果、次のようなことがわかった。

(ア)「写」の中国語での意味が日本語よりずっと多い。『日本国語大辞典』の「写」に関する解釈と『大辞林』の記述とを比べてみると、似ていることがわかる。《新华字典》には九つ、《汉语大词典》には十六、『大漢和辞典』には十八、の意味が書いてある。

(イ)「写」の日本語での「まねて書く」「書きうつす」の意味は明らかに中国からの影響を受けている。

(ウ)「写」の中国語での意味変化が激しい。日本語に継承されている「まねて書く」「書きうつす」という意味は現代の中国語ではほとんど消えている。

(エ)「写真を写す」という意味が中国語にない。



## 5. 「写」のついでにある中日同形語の比較

次に意味に違いのある言葉について、詳しく考察していきたい。『大辞林』の意味にしたがい、二種類に分類した。言葉の説明や用例は、中国語は主に《現代汉语词典》、《汉语大词典》、『中日辞典』第2版から、日本語は主に『大辞林』、『大辞泉』、『日本国語大辞典』から引用している。一部の用例はインターネットで検索したものである。

### 5.1 「ありのままにうつし取る」という意味を表す言葉

誤写 実写 写意 写生 写法 写照 縮写 書写 抄写 謄写 複写 複写紙  
誤写

中国語：古代では、印刷術が発明されていなかったとき、本を読む人は伝写するしかなかった。人の本を書き写しているうちに気づかずに間違えるのもよくあることだった。今でも“三写易字”という成語がある。意味は何度も書き写しているうちに、字を間違えてしまう。晋・葛洪《抱朴子・遐览》に“故谚曰：‘书三写，鱼成鲁，虚成虎。’”と書いてある。作業はなかなか根気が要る。どんどん崩して書かれていくのは人間の心理だろうと思う。したがって、“虚成虎”は理解できるが、“鱼成鲁”は納得がいかないところである。筆者は逆ではないかと思う。実際現在のほかの複合語や成語を見ると、“鲁鱼”、“鲁鱼亥豕”、“鲁鱼帝虎”、“鲁鱼陶阴”、“亥豕鲁鱼”、“鲁鱼帝虎，鲁鱼亥豕”のように、全部“魯魚”という順番で構成されている。しかし、印刷術が発明されてから、人々は書籍を伝写しなくなった。“誤写”も現在「書き間違える」という意味を指すようになった。

日本語：文章などを写しまちがえること。「原本を一する」「一の多い写本」の用例のように、必ず元になるものがあるのは一般的である。中国語の古い意味のままを保っているのがわかる。

抄写

中国語：「照着原文写下来」つまり原文をそのまま書き写すという意味だ。書き写す対象は原文全体だったりその一部だったりだ。現在では、国語や外国語の宿題として、よく生徒に新出語や本文を抄写させるが、その場合、1回ではなく3回以上の複数回を意味している。小学校では、よく罰則として生徒に抄写させている。「抄写」の練習を通して、しっかり知識を身につけるときに用いられて、抄写させられている生徒が多いのは現状である。

例：抄写课文／本部を書き写す。

把文稿抄写清楚／原稿をきれいに清書する。

把学过的生词抄写一遍／習った単語を1回書き写す。

日本語：文章の一部を書き写すこと。日本語の意味は基本的には中国語と同じであるが、文章の全体ではなく、その一部分を限定しているところは微妙に違っている。

写意

中国語：中国画の手法の一つ。微細な描写をせず、画家自身の精神や情趣の表現に重きを置く。

日本語：①意味、内容を書き取ること。②絵画などで、形を写すことを主にしないで、被



写体の持つ内容、精神など内に秘められた美を描写すること。

#### 写実

今は中日とも「物事の実際の姿を、ありのままに、絵や文章などにうつし出すこと」という意味を表す。『表現読解国語辞典』<sup>(9)</sup>は次のように説明している。

二〇世紀に入りピカソらによってキュビズムや構造主義などが推し進められると、絵画は見たものをありのままに写実することから完全に解放された。(1) 中国の古典では、実際の形態をそのまま写すという意味で用いられた。その場合、外面を写しとる、という意味に限って使われることが多かった。(2) 明治二〇年代中ごろ、文学・美術の領域で、描かれた対称を〈迫真性〉を指し示す語として用いられるようになった。この時、西洋の芸術論を背景として、〈表面的な形にとどまらず、その内実までも写しとる〉という意味に変化した。

ただ、現代中国語では名詞としてしか使われない。日本語の「現代風俗を克明に一する」のような、動詞としての使い方はない。

#### 写出

中国語も日本語も「文章で描写し、表現すること」という意味を表すが、ただ中国語では「絵をかき上げる」という意味もある。『日本国語大辞典』に収録されている黄庭堅の『次韻子瞻子由題憩寂図詩』『李侯有句不肯吐、淡墨写出無声詩』の「写出」の意味はまさにそれに当たる。

#### 写照

日本語の「実際の姿や形を写しとること。また、写しとったもの。肖像画。」という意味は中国の古い意味である。現代中国語では物事の特徴や真髓をよくとらえた描写か形容表現という意味で使われているのはほとんどである。

例：“无风三尺土，有雨一街泥”，这就是旧北京街道的真实写照。／「風がなければ土が三尺積もるが、雨が降れば、泥だらけになる」、これこそ、古い北京の本当の姿だった。

百花盛开春色满园是今日文坛的写照。／百花咲き乱れて満園の春というのは今日の文壇の有様といえよう。

#### 写生

中国語：景色や事物のありさまを見たままに写し取る。そのこと。絵にだけしか使わない。

日本語：[名] (スル) 景色や事物のありさまを見たままに写し取ること。絵のほかに、短歌・俳句・文章についてもいう。スケッチ。ベネッセ『表現読解国語辞典』は次のように説明している。

「写生」は、明治初期に西洋絵画でいうスケッチの意になった。なお、正岡子規は、明治二十七年ごろから、文芸作品一般の創作態度として「写生」を主張し、特に短歌と俳句の革新を行った。その背景には、「写生」を重視する西洋流の美術教育を受けた画家、中村不折との交流があったといわれている。』<sup>(10)</sup>



日本語での使用範囲が中国より広いことがわかる。

#### 縮写

中国語：長い言葉や文章を短く縮めて書く。「写」は「書く」意味である。

①動詞・名詞。略語を作る。略語。略称。特にローマ字表記の略称をさす場合もある。固有名詞に使われる場合が多い。

例：缩写签名 / 略式署名

②動詞。原文や原作に忠実で、テーマや主旨を変えずに、小説や文章などを短く書き直す。要約する。

例：缩写本 / ダイジェスト本

本文由长篇通讯缩写而成 / この文章は長いリポートを要約したものだ

日本語：「原図をページ内に収まるように一する」「図面を一する」の用例のように、図などをもとの大きさよりも小さく縮めて写すこと。また、そのもの。

#### 書写

中国語：動詞。昔は「書き写す」の意味をもったが、今では「書く」という意味しか持っていない。

例：书写标语 / スローガンを書く

书写工具 / 書く道具

字迹书写工整 / 筆跡が整っている

日本語：二つの意味がある。①は中国語の古代の意味と同じである。②は日本語独特の意味である。

①（古くは「しょじゃ」とも）書き写すこと。多く、文献や経文を一字一字書き写して同じものを作ることをいう。

例：要領を云って、参考文献を書写してくる仕事である。

②小学校・中学校の国語科の科目の一つ。字を正確に速く美しく書くことを学習する。従来の「書き方」「習字」にあたるもので、昭和三三年（一九五八）の学習指導要領で改訂。四つの言語活動のうち「書くこと」が作文と書写に分けられる。

#### 複写

中国語：現在では、日本語の「複写」の「用紙の間にカーボン紙をはさんで書くなどして、同一書類を2通以上作る」という意味しか使わないが、古代では、さまざまな意味が合ったらしい。①同じ書籍などを一部書き写す。《四库全书总目提要》卷一百三十七「改赐名曰《永乐大典》。并命复写一部，鋟诸梓，以永乐七年十月讫工，后以工费浩繁而罢。」②前の動作に続き、また何かを書く。《绘芳录》第四回“小儒电不推逊，叫人取过笔砚，先写‘送春训’三字，复写起句”《西游记传》第七回“佛祖复写六个金字‘唵嘛呢叭呢吽’，叫阿傩、迦叶贴在山顶头上。”③また像を鑄造する。《太平广记》卷第一百一十四“精勤艰苦，又三十年，事费复备，则又复写像焉。”④また憂いを晴らす。陆游の詩句“千里江山入倚楼，高吟聊复写吾忧。”（《陆游诗全集》卷四）と蘇東坡の詩句“有鱼无鱼何足道，驾言聊复写我忧。”



（《苏东坡全集》正文・卷六・诗九十九首）は詩經の“驾言出遊，以写我忧”という出典を利用して、憂いを除くという意味を表している。

日本語：『大辞泉』には次の三つの意味が並べてある。①写してあるものをもとにして、もう一度写すこと。「古い記念写真を一する」②用紙の間にカーボン紙をはさんで書くなどして、同一書類を2通以上作ること。また、そのもの。③複写機を用いて文書・図表などを原本どおりに写し取ること。また、写し取ったもの。コピー。「書類を一して配る」①の意味は中国語の古典とも違う。中国語の古典では、書いたものを書き写すという意味だけで、日本語のもう一度写すという用例が確認されていないので、その意味がないと判断できる。現代の中国語では、②の意味しか使われていない。③の意味がまったくないので、日本語のこの意味は間違えやすい。

#### 複写紙

中国語：カーボン紙だけを指す。

日本語：中国語より意味がずっと多い。日本国語大辞典に次の三つの意味が書いてある。①書類作成などで、用紙の間にはさんで写しをとるのに用いる紙。カーボン紙。②原図を透写したり、複写したりするときに用いる薄い半透明の紙。透写紙。トレーシングペーパー。③複写機を使って書類などを複写するときに用いる紙。コピー紙。②の意味は「覆写紙」と表記したほうがわかりやすいかもしれない。この言葉から日本人の書き写す様子を想像することができる。③の意味は「複写」の③の意味と一致している。

## 5.2 「物の像をスクリーンやフィルムに現し出す」という意味を表す言葉

写真 試写 接写 速写 特写 連写

#### 写真

中国語：

動詞：①人の像を描く。②実際の様子を映し出して、人に見せる。

名詞：①描いた人の姿や像。最近、日本語の②の意味も台湾の小説や写真屋の進出や日本の文化などの影響で、一般に認知されるようになった。②真実の描写。事物に対する如実な描写。

日本語：①実際の様子をうつしとること。ありのままを描き出すこと。また、その像。写真。写実。②感光性物質の光化学的变化を利用して、物体の画像をつくる技術。また、その画像。一八三九年フランスのダゲールが発明。写真機のレンズを通した微量の光によってフィルム・乾板などの感光材料の上に潜像をつくらせ、これに現像・定着などの化学処理を施して陰画とし、さらにこれを印画紙に焼き付けて陽画を得る。③（一する）②にうつること。また、②をうつすこと。④（「かつどうしゃしん（活動写真）」の略）映画。

「写真」という言葉はもともと中国から日本語に入った言葉だが、江戸時代後期に日本人がこの言葉に新しい意味を与えたのだ。『日本国語大辞典』の語誌<sup>(11)</sup>の説明を参考にした。



## 試写

中国語：動詞。ためしに書く。書いてみる。“试写”という言葉は古い用例もあるが、意味が現代とぜんぜん違う。宋代の晏几道の詞《鷓鴣天》<sup>(12)</sup>では「楽器を演奏して、声を真似てみる」という意味を表す。

手拈香笺忆小莲，欲将遗恨倩谁传。归来独卧逍遥夜，梦里相逢酩酊天。

花易落，月难圆，只应花月似欢缘。秦筝算有心情在，试写离声入旧弦。

“试写”は辞書に収録されていない言葉だが、日常生活ではよく使われている。インターネットで調べたら、「试写过童话、短篇小说和诗歌（試しに童話や短編小説、詩歌を書いたことがある）」「试写钢琴曲（ピアノ曲を創作してみる）」のような用例がたくさん出てくる。

日本語：[名] (スル)映画を、一般公開に先立って、関係者や批評家などに見せるために映写すること。「新作を一する」「一会」

## 接写

中国語：[動] 続いて書く。ほかの人が書いたものの続きを書く。「接写」という言葉はまだ辞書に収録されていないが、日常的に使われている。インターネットで調べたら、たくさんの用例が出てくる。

例：根据语境，仿照划线句子，接写一句关于“成功”的话／文脈により、下線の付いている文に倣って、続いて“成功”に関する文を書きなさい。

空一格接写表题／一行を空けて、続いて表題を書く。

日本語：[名] (スル)被写体にレンズを近づけて写すこと。また、その写真。

「花を一する」

## 速写

中国語：①絵画方法のひとつ。観察対象の特徴を短い時間で迅速に描く。クロッキー。②文体の一種。スケッチ風の文体。人や物事の状況を簡潔に描写し、ただちに読者にレポートする。

日本語：[名] (スル)写真などを、すばやく写すこと。「一瞬の表情を一する」

『日本国語大辞典』で「クロッキー」を調べたら、「絵画で、全体の感じを大まかな線や陰影で短時間にえがく技法。また、その絵。鉛筆やコンテなどを用いる。英語のスケッチに相当するが、日本では小品写生をスケッチ、略画・速写画をクロッキーとわけて用いる。速写。」と書いてある。つまり、日本語での「速写」の基本的意味は中国語の①と同じである。写真をすばやく写すという意味は敷衍されたのではないかと思われる。しかし、辞書の説明は外国人学習者にとってはちょっとあいまいすぎるのではないか。

## 特写

中国語：①新闻报道的一种体裁。以文艺手法写所报道的人物，再现场景和气氛，使之有强烈的感染力。但要求完全符合事实，不容许虚构。亦为文学体裁报告文学的形式之一，写真人真事，可以在细节上作适当的艺术加工，但必须有高度的真实性。



字面から解釈すると、「特別に書く」という意味になる。ルポルタージュ。文芸手法で報道する人物を描写し、場面と雰囲気を再現し、読者に強い影響力を与える。事実を客観的に叙述し、フィクションしてはいけない。報告文学の一つでもあり、実在の人と実際に起きた事件を描写し、細かいところは適当に芸術加工してもいいが、高度の真実性を持たなければならない。②（映画で）クローズアップ。大写し。

日本語：特別に写真に写すこと。話題性のある対象、撮影するのが困難な対象などを、特に力を入れて写真に撮影すること。日本語の辞書には次のような用例が確認されている。

「本紙」「本誌」「実験現場を一する」

「この写真は我が社の特写である」

連写

中国語：

①字を書くとき、筆画を繋いで書く。特に草書の場合が多い。

例：草书讲究连写。(Comprehensive Chinese-English Dictionary)

草書は筆画を繋いで書くことを重んじる。

他的笔划连写的很多，我都不大认得出来。

彼の書いた字の筆画は多くつながっているので、あまり読めない。

②中国語の複合語の発音を表すアルファベットを表記するとき、それぞれの音節の間を空けずに書く。例えば、「交通线」の「拼音」は「j i ā o t ō n g x i à n」ではなく、「j i ā o t ō n g x i à n」と書くのだ。

③連続して書く。

例：连写十余封信／連続して十数通の手紙を書いた。

日本語：連続して写真を撮ること。辞書には「連写」という言葉はまだ収録されていないが、撮影の言葉としてよく使われている。

例：デジカメの性能に撮影間隔・連写速度が書かれています。

連写機能とは「シャッターボタンを押している間、連続してシャッターが切れる機能」です。多くの機種にこの連写機能が搭載されています。

## 6. 「写」の付いている中日同形語の語義の違いをもたらした原因

筆者は述べてきたように、「写」の付いている中日同形語の語義の違いをもたらした原因が三つ、あると考えられる。①中国語では「写」の意味が次々と変わってきたこと、②印刷術の発明の影響があったこと、③カメラと写真技術の発明によって言葉の概念が変わったことである。

### 6.1 中国語での「写」の意味の変遷

漢字が中国で誕生してから、その数もどんどん増え、意味もどんどん敷衍されてきた。「写」の意味も激しい変遷の歴史をたどってきたといえる。

「写」という文字の起源について、《汉语大字典》には次のように書いてある。



《説文》：“寫，置物也。从宀，鳥聲。”徐灝注箋：“古謂置物於屋下曰寫，故从宀，蓋從他處傳於此室也。”最初は物をほかの場所から部屋の中に物を運んで置くという意味だった。

《汉语大字典》に並べられたほかの意味用法は全部この基本意義から敷衍されたと思われる。②の“輸送”は基本意義とあまり変わらない。③の“傾吐；傾述”は「心の中にある思いを次々と移動させて、叙述する」と解釈できる。④の“除；去掉”は「心の中にある不愉快な思い、憂いを移動させて、除く」という意味になったのだろう。“写憂”という言葉はしばしば歴代の詩人に詠まれたのだ。

続けて見ていくと、⑤の“尽”は「心の中にある思いを全部移動させて、忠誠などを表す」と解釈できる。⑥の“书写；誊录”は「ある書籍に書いてある文字や文章を別のところに移動させて書き写す」である。⑦の“创作；写作”とは「自分の考えを外に移動させて、書き表す」ということだ。⑧の“租賃；确定某种出租或雇用关系。”という意味は借りた物を使う場合、移動させる必要がある。また、何かを借りるとき、契約を結ぶ必要がある。契約にはお互いの思いを文字化しなければならない。サインも必要だ。たぶん「借りる契約を結ぶ」という手続きを省略して表現するところからこの意味が生まれたのだろう。この意味は一般的な使い方ではない。一部の地方に限っている方言だろう。⑨の“模仿；模拟”は「あるものを自分の近くに移動して置こうとして模ったり、楽器の演奏を通して音楽や音を真似たりする」という意味が生まれたのだ。⑩の“用模型浇铸”は二つの解釈ができるかもしれない。一つは⑨から敷衍され、「ある人物の像をかたどる」という意味になったのだ。もう一つは金属を鋸かして鋳型に注ぎ、ある人物の像を鑄造するという意味になったのだ。時々「金偏+写」と書く。⑪の“忧”と⑫の“思”は詩経の“驾言出遊，以写我忧”からの誤用かもしれない。ちなみに⑪の“忧”と⑫の“思”及び⑬の“程”という意味の用例は確認されていない。

(二) xiè①の“同‘瀉’”の“傾瀉；傾注”の例として“以澮寫水”（《周禮・地官・稻人》）を挙げているが、筆者はここの“写”も“瀉”の基本義と変わらないと思う。《周禮通釋》（四七六）に「澮を以って水をのぞく」と訓読みされている。その注に『やる。はこぶ。賈疏に云う「水を瀉去す」』と説明してある。「澮」とは“田尾去水大沟”つまり田んぼの末端にある排水溝のことであるので、「澮を以って要らない水を流しておいて除く」という理解が正しいと思う。

②の“通‘卸’。把东西去掉或拿下来。”の用例として、《石鼓文》の“宮車其寫”を挙げている。《石鼓文》は唐代に発見され、造られた年代が先秦であるといわれているが、まだ謎がいっぱい隠れている。だから、それに対する研究が盛んになされている。《石鼓文》の二箇所に“寫”が使われている。《鑾車篇》の“四馬其寫”と《田車篇》の“宮車其寫”である。“宮車其寫”について、郭沫若は、“宮車與戎車對舉、當是安穩之乘車。寫字舊解作卸，余意適得其反。蓋寫有流瀉之意，《周禮》‘以澮寫水’是也。下言‘四馬其寫，六轡驚□（一文字が欠けている）’，亦言駟馬之奔馳如流水。彼如爲卸義，則與與止同意，當言亦



寫，不得言其寫矣。”<sup>(13)</sup>と解釈している。筆者も「物を卸す」という意味でこの“寫”を解釈するのはふさわしくないと思う。前述のように、郭沫若の“以澮寫水”の“寫”を“寫有流瀉之意”という解釈には賛同しかねるが、今では“四馬其寫”と“宮車其寫”を「駟馬之奔馳如流水」と解釈するよりもっといい解釈がまだ現れていない。日本の学者赤塚忠が『田車篇の考釈』で「写は、ここでは寫と同じである。寫は爽の仮字であって、美盛の意である。」と解釈している。『鑾車篇の考釈』のなかで、「写は、突または爽の仮借である。馬色の美しいさまを形容している。『詩経』韓奕篇に「四牡奕奕」とある。」解釈している。篠田幸夫も『石鼓文製作年代攷』という論文で赤塚忠の説に賛同している。筆者の考えでは、「奕奕」が二文字で現れるのは一般的で、そして、『詩経』に何回も現れているので、仮借字を使う必要がないだろう。そして、その解釈も前後の文脈に合わないのも明らかである。

明代の楊慎の《昇庵詩話（七）》に次の一節がある。

《石鼓》文：“宮車其写。”义与“卸”通。舍车解马曰写，舟车出载亦曰写。

つまり、“写”は「車馬を解き放つ」だけでなく、「舟や車に積まれたものを卸す」という意味も含んでいるのだ。この意味解釈も明らかに前後の文脈に合わない。

また、《汉语大词典》に「写鞅」という言葉が載っている。“放松轡头。谓纵马奔驰。”と説明している。つまり、馬の轡を放して馬を早く駆けさせる。用例として、三つ挙げられている。

①南朝 梁 吴均《古意》诗之三

玉鞭莲花剑，金苒流星勒。聊为路旁人，写鞅长楸北。

②唐 李白《自广平乘醉走马登城楼览古书怀》诗

扬鞭动柳色，写鞅春风生。

③唐 李濯《内人马伎赋》

始争锋于校场，遽写鞅于金埒。

この“写鞅”の“写”は馬を繋ぎとめられた縄を解き放つという意味を表している。この意味で《石鼓文》の“写”を解釈すれば、意味が通じるかもしれない。「馬の轡を放して、移動させ、出発させる」と解釈してもいいような気がする。

《石鼓文》はまだまだ研究する余地がある。

《汉语大词典》に「絵を描く」「字を書く」「書を書く」「契約をする」「文章を書く」などの意味が収録されていないが、《在线新华字典（オンライン新華字典）》には収録されている。

辞書の記述説明を総合すると、「写」の意味が多くて複雑であることがわかる。そして、その使い方も時代によって違っている。意味変化に富んでいるのは「漢字」の特徴の一つと言えよう。

## 6.2 印刷術の発明の影響

魯迅が《〈嵇康集〉跋》で“自板本盛，而人始不复写书。”と唱えている。版本が盛んに



なってから、人々が本を書き写さなくなったということだ。

《文献通考・卷一百七十四・経籍考一》に“石林叶氏曰：唐以前凡書籍皆写本，未有摹印之法，人以藏书为贵。人不多有，而藏者精於仇对，故往往皆有善本。学者以传录之艰，故其诵读亦精详。五代时，冯道始奏请官镂板印行。国朝淳化中，复以《史记》、《前》、《後汉》付有司摹印，自是书籍刊镂者益多，士大夫不复以藏书为意。学者易於得书，其诵读亦因灭裂。然板本初不是正，不无讹误，世既一以板本为正，而藏本日亡，其讹谬者遂不可正，甚可惜也。”と記録してある。

大体の意味は次の通りである。

石林葉氏が言う。「唐代以前の書籍はみな写本で、印刷の方法がなかったので、人々は本を所蔵することを尊んだ。本を持っている人も少ないし、蔵書を持っている人も念入りに校正を行うので、往々にして皆善本を持っていた。学習する人が苦勞して、書き写し、精神を集中して、朗読したり暗誦したりして、その内容に詳しいのだ。五代のとき、馮道がはじめて朝廷に版を刻み印刷を行うことを申請した。唐代淳化中、また『史記』『漢書』『後漢書』を役人に印刷させた。それから、書籍の刊行がますます多くなったので、上層の人々は書籍を所蔵する意欲がなくなった。学習者たちも本が手に入りやすいので、朗読したり暗誦したりしなくなった。しかし、版本は最初に正しい、間違いがないわけではない。世の中の人々は版本を正しいとみなし、所蔵の善本がだんだん少なくなるので、その間違いをついに正すことができないのは非常に残念である。」

印刷術の発明が書写の革命を起こしたといっても過言ではない。書籍を伝写する作業は骨が折れるので、印刷術は人々を解放したかもしれない。その印刷術も版本から活字へどんどん改善されていったので、その便利さを享受すると同時に、本を書き写さない人がどんどん増え、「写」及び「写」の付いている言葉の意味も変化したのではないか。

コンピュータ時代の今では、「写」の意味もまた、変わるかもしれない。

### 6.3 カメラと写真技術の発明の影響

19世紀にヨーロッパで誕生したカメラと写真技術がさきに日本に伝わってきたので、それを日本語で表現しようとしたときに、もともと肖像、人の画像を表す「写真」は意味として近かったので、転用され、英語の photograph という新しいものを表すのに新しい訳語を考える必要もなかった。その新しい意味がカメラと写真技術の進歩とともに、人々の間に定着したようである。上に並べられた、日本語の「写」の付いている言葉の中では写真についての言葉が一番多い。写真が人々の生活と密接な関係をもっていることがうかがえる。カメラと写真技術の発明はもう一つの言葉の革命を巻き起こしたと言えよう。

現在、デジカメの出現がまた「写真」の意味を変えてしまった。言葉の意味はまさに時代とともに変わるのだ。言葉の意味の定着する期間が短くなるのもしかたがないことだが、外国語の学習者にとってその意味の把握は難しくなるばかりではないだろうか。



## 7. おわりに

以上、中日同形語の「写」の付いている言葉の意味用法に対する比較を通して、中日双方の意味が大きく違っていること、及びその違いをもたらした歴史的な原因を明らかにした。言葉は必要に応じて誕生し、言葉の意味は環境によって違い、時代とともに変化する。

「写」の中国語での意味変遷、印刷術の発明の影響、カメラと写真技術の影響を見れば、それがよくわかる。

「写」の付いている中日同形語の意味の異同が「写」の意味に大きく左右されていることもわかった。「写」のように複合語を構成する同じ根字によって、その複合語全体の意味用法が違ってくる中日同形語はほかにもたくさんある。

## 注

(1) 林玉恵(2001)『日中語彙における日中同形語の比較研究』名古屋大学博士学位論文

(2) 《中日同字同義語比較研究》は万玲華が中国語で書いた華東師範大学博士学位論文であり、専門分野は“漢語言文字学”に属する。

(3) 兒島慶治(2005)『現代若者の「写真」認識』『日本学刊』 第9号香港日本語教育研究会編 p40-56

(4) 中国古典全録は《経庫》《史庫》《子庫》《集庫》《专题》に分けて中国歴代こせき古典善本を収録したデータベースで、ホームページは<http://guji.artx.cn/>である。

(5) 《現代漢語詞典》第5版に載っている“写”に次の四つの意味がある。(日本語訳は筆者がつけたのである) ①用筆在紙上或其他东西上做字(筆やペンなどで紙のような物に字を書く)。②写作(文章や小説などを書く)。③描写(描写する)。④绘画(絵をかく)。

(6) 『中日辞典』第2版(2003) 北京・商務印書館/小学館共同編集

『中日辞典』第2版は“写”の意味を次の二つにまとめて解釈している。

1. (字を)書く。(文章や作品を)作る。創作する。(人物や風景を)描写する。

次のようなさまざまな意味の目的語を取ることができる。①道具②場所③書体

2. 絵を描く。

(7) 松村明(2006)『大辞林』(第3版三省堂)では単漢字「写」を次のように解釈し、言葉の例を挙げている。

1 ありのままにうつし取る。「写経・写実・写生／活写・手写・書写・謄写・筆写・描写・複写・模写」

2 物の像をスクリーンやフィルムに現し出す。「写真／映写・試写」

(8) 《新华字典》(<http://tool.httpcn.com/Html/Zi/21/PWAZXVXVRNUYCQRNRN.shtml>)には九つの意味が書いてある。

【動】①本义：移置；放置②输送③倾吐，倾诉；抒发④传抄地书写(汉以前只用“书”，汉以后“书”与“写”并用)⑤抄写⑥仿效；描绘⑦画⑧写作，创作⑨签订

《辞源》には六つの意味が書いてある。



①移置。以此注彼。②宣洩，排除。③解，脱。④用筆作字。⑤描摹，抄録⑥鎔鑄。

《汉语大词典》は“写”の発音によって、次のように説明している。

(一) xiě①移置；放置②輸送③傾吐；傾述④除；去掉⑤盡⑥書寫；誊錄⑦創作；寫作

⑧租賃；確定某種出租或雇用關係。⑨模仿；模擬。⑩用模型澆鑄⑪憂⑫思⑬程

(二) xiè①同“瀉”。②通“卸”。③用同“泄”。

『大漢和辭典』大きく三つに分けて説明している。

(一) ①うつす ㊦ おきかへる。 ㊧ のぞく。 ㊨ はらふ。 ㊩ やる。はこぶ。そそぐ。 ㊪ ならふ。まなぶ。 ㊫ かたどる。 ㊬ かきうつす。謄鈔する。

チ ㊭ がく。摹畫。②はく。③つくす。④うれへる。⑤おもふ。⑥(現) ㊦ 書く。

㊧ 舟車を雇ふ。 ㊨ 番頭 ㊩ 記入する。 ㊪ 漏らす。

(二) とく。おろす。はなす。

(三) 水をそそぐ。

『日本国語大辞典』の解釈は『大辞林』と似ている。

#### 【写=寫】

①まねて書く。書きうつす。うつる。／書写、謄写、描写、模写、写録／写誤／影写、誤写、手写、縮写、転写、伝写、筆写、複写／写意、写音、写経、写真、写字、写実、写生、写譜／写本／

②「写真」をうつす。／映写／写植／実写、接写／写照／写場／しゃ(写)

(9) ベネッセ『表現読解国語辞典』p547

(10) ベネッセ『表現読解国語辞典』「写真」の項目 p547

(11) 『日本国語大辞典』の「写真」に関する【語誌】

①「伊京集」に「写真(シャシン) 肖像 已上二ツハ御影」と記されているように、本来は神仏や貴人などを描いた絵を指していた。江戸時代後期に、西洋の画法が蘭学者によって紹介されてからは、ありのままに描くという技法すなわち「写生」の意味でも、またその技法で描かれた絵を指すこともあった。

②江戸時代末期にありのままの姿が機械によって写された画像が舶来し、英語 photograph の訳語として、「写真」がこれに転用された。当初は「写真の絵」〔和英語林集成(初版)〕とか「写真絵」〔文明開化-初・下〕、「照画」〔英和字彙(第二版)〕ということもあったが、次第に「写真」に統一され、意味もカメラによって撮影された画像を表わすことに固定された。

①のようなサ変動詞も一時的に見られるが、写真を自分で撮影することではなく写真にうつしてもらった場合が多い。このことは、カメラが普及するまでは、「写真を撮る」が写真にうつしてもらったという一義であったことと同様である。

(12) 《晏几道词选》(宋) <http://guji.artx.cn/Article/11169.html>

(13) 徐宝贵(2008)「石鼓文字考釋」《石鼓文整理研究》下 八一六頁



## 第十章 中日同形語の誤用

### ——中国語で形容詞である中日同形語を中心に——

#### 1. はじめに

中日同形語の中で、中国語で形容詞の品詞性を持つ言葉はかなりの数に上っている。しかし、それらの形容詞は必ずしも日本語の形容動詞と対応しているわけではない。したがって、中国語話者が日本語を習得するとき、中国語の形容詞である品詞性が大きく影響することが予想される。中国語を母語とする日本語科学学生の修士論文で、「特殊」「顕著」「緊密」などの言葉はほとんど誤用が確認されていないが、「一致」「洗練」のような、中国語では形容詞で、日本語では「名・サ変」の言葉に誤用が集中している。次のような誤用例を挙げることができる。

(1) \*同じ「髪」という身体部位を用いる表現方式も一致である。

(2) \*簡潔で洗練であり、先人のさまざまな知恵の結晶である。

なぜこのような誤用が生まれたのか、中国語の形容詞がなぜ日本語で名詞やサ変動詞であるのか、中国人日本語学習者に、中国語の形容詞である中日同形語の、どんな言葉に品詞性の誤用が起こりやすいか、それらの実態に関する調査を実施し、中日同形語の品詞性の違いを引き起こす要因について考察する。

#### 2. 先行研究

中日同形語の意味用法の習得研究として、陳毓敏(2003)、加藤稔人(2005)などが挙げられる。

「日中同形語」の品詞の違いに関する研究は、石堅・王建康(1983)、侯仁鋒(1997)、中川正之(2005)がある。石堅・王建康(1983)は日本語での品詞性を判断してもらうという形で調査を実施し、母国語の干渉が強いという結論を出した。しかし、実際の応用の時、中国人の日本語学習者たちがどのように使用しているのか、どんな問題点があるのか、わからない。また、その調査から30年近く経った現在、日本語学習の環境も大きく変わった。

侯仁鋒(1997)は新聞や雑誌からいろいろな用例を集め、日中の同形語の品詞の違いを分析し、8タイプに分類した。分類の基準は明確に示されなかったし、用例の出典もはっきり示されていない。

中川正之(2005)は中国語の形容詞が日本語で動詞になる原因を「一時的か恒常的か」「一点凝視か多点参照か」「中国語の並列と日本語の修飾」の三点に求め、次のように帰結した。

中国語の形容詞が日本語でサ変動詞に変わる要因は、中国語の並列構造を日本語が修飾構造に変えてしまうという言語類型の特徴とともに日本人が何かをみるとき、他の何かをも視野に入れてしまう傾向が強いことである。<sup>(1)</sup>

確かに中国語の二字複合語に並列構造が目立っているが、並列構造は形容詞に限らず、



名詞や動詞にも多く見られる。中川正之(2005)の挙げた例の中で、“弯曲”“优秀”は形容詞で、並列構造であるが、“紧张”は形容詞であっても、並列構造ではない。“筋肉”は名詞で、“落下”“下沉”は動詞で、並列構造ではない。“低下”は複合語としては、並列構造で形容詞であるが、連語として使われる場合、「動詞＋方向動詞」の構造で、日本語の「垂れる」「低下させる」などの他動詞に当たる。“低落”と“落后”は並列構造ではなく、両方とも動詞から形容詞化し、今動詞と形容詞の二つの品詞性を持っている。

### 3. 調査の概要

#### 3.1 調査の目的と予想

中国語で形容詞である中日同形語の、日本語での品詞性との対応関係は非常に複雑である。筆者は、中国語母語話者の上級日本語学習者の、中国語で形容詞である中日同形語の使用実態を把握するために、本調査を計画し、実施した。

筆者の長年の日本語教育経験と日本語科の修士論文に見られる誤用から、中国語母語話者の上級日本語学習者の、中国語で形容詞である中日同形語の使用実態について、次の予想が立てられる。中国語で形容詞である同形同義語は、日本語で形容動詞である場合、あまり問題が起こらないが、日本語でサ変動詞である場合、誤用が起こる可能性がある。同形異義の場合、品詞性以前に語義が違っているので、中日同形語の語義の相違が分からなければ、誤用が起こってしまう可能性がある。

#### 3.2 調査対象と方法

筆者は、2010年10月に、中国10の大学<sup>(2)</sup>の日本語科の3年生以上の学部生と院生合計330人を対象に、中国語から日本語へ翻訳させる記述方式で、調査を実施した。

#### 3.3 調査語と調査文

筆者は中国語で形容詞である同形語と日本語での品詞性との対応関係によって12類<sup>(3)</sup>に分類して、それぞれの代表的な言葉を合計60選出し、調査語にした。そして、講談社『日中辞典』と講談社『中日辞典』及び北京大学漢語言語学研究中心のコーパス<sup>(4)</sup>から調査語の入っている文を50選出し、一部分の文を適当に短縮して、調査文<sup>(5)</sup>とした。

調査語は中国語で品詞を兼類する言葉もあるが、調査文での文法的な働きとして述語であったり、名詞を修飾したり、動詞を修飾したり、結果補語だったりして、全部形容詞として使われている。また、“漆黑”“清楚”“镇静”“和睦”などの同形語は日本語で使用頻度が低いですが、中国語で多用されているので、調査語に選出した。

調査語は次のとおりである。

安静	虚伪	文明	鲜明	系统	繁荣	严重	痛快	清楚	浓厚	重大	过度
圆滑	冷静	大胆	正确	迅速	严正	感伤	完备	规则	矛盾	新鲜	兴奋
唯一	充实	快乐	潜在	壮观	镇静	美观	性感	漆黑	干燥	柔软	混乱
紧迫	洗练	过热	明确	乐观	合法	最大	流畅	精彩	一致	悲观	遗憾
合理	切实	旺盛	良性	和睦	优越	重要	流畅	深刻	大量	安全	卫生



#### 4. 調査の結果

本調査を実施するに当たり、学生たちに日本語の辞書を引かせないようにした。中日同形語の意味用法が必ずしも同じではないので、調査文に含まれた中日同形語を使って翻訳しなければならないとは指定しなかった。それは回答者に回答の自由度を与えたが、さまざまな訳文が現れて、データの統計分析の難しさを増した。しかし、それこそ学生たちの日本語学習の実態を反映したと言えるだろう。

調査のデータ統計の結果を12類の分類に従い、並べていく。また中日の品詞性の違いによって、統計の項目を設けた。本調査は中国語で形容詞である中日同形語の応用実態を主目的にしているため、調査語を含む訳文を中心に考察した。「～」は調査語に対応する日本語の漢語を表す。訳文には調査語を含まない例も見られるが、それを未訳と一緒に、「対象外訳」として、基本的に考察の対象から外した。中国語の簡体字を使った訳等を「他」に分類した。

表の中で網かけをしてある数字は中日同形語を使ったあるいは含んだ言葉の正用を表す。また調査語の前の数字は調査文の番号である。

(1) 中国語では形容詞である、日本語では名詞・形容動詞である言葉

調査語	～	～で・だ	～な	～に	～の	～的	～（他）	対象外訳
1. 安静	5							325
7. 严重		4						326
8. 痛快		2	1	7				320
11. 重大			141		3	1		185
12. 过度	2		8	4	13	1		302
13. 圆滑	6	116		12			12	184
13. 冷静	1	152	7	5		5		160
14. 大胆			218	11	15	51		35
14. 正确	2	4	55	19	3	23		224
15. 迅速			17	11		9		293
16. 严正	3		98	12		10	6	201
21. 新鲜	2	169	2				18	139
39. 合法	13		13		16	171	2	115
40. 流畅			140	1	2	14	1	172
43. 遗憾			5		1		1	323
45. 旺盛	12	36	16		1	1	18	246
46. 重要		164	3					163
47. 明快	23	53	20	1		1	3	229
48. 深刻	1		153	1	8	13	4	150



49. 深刻			40	1	6	2		281
49. 大量			59		103	4		164
50. 安全	26	161	51	4	11	10		67

(2) 中国語では形容詞である、日本語では形容動詞である言葉

調査語	～	～で・だ	～な	～に	～の	～的	～(他)	対象外訳
4. 鲜明		20	4			1		305
10. 浓厚		64	2					264
32. 柔软			65		8	2		255
44. 切实				59		9		262

(3) 中国語では名詞と形容詞である、日本語では名詞と形容動詞である言葉

調査語	～	～で・だ	～な	～に	～の	～的	～(他)	対象外訳
26. 壮观	3	87	2				2	236

(4) 中国語では形容詞である、日本語では名詞である言葉

調査語	～	～で・だ	～な	～に	～の	～的	～(他)	対象外訳
2. 虚伪		23	2		4			301
17. 感伤			13	12	12	27	1	265
23. 唯一			46		218	6		60
24. 快乐			3					327
28. 美观	6	15	1					308
29. 性感		3		1			1	325
30. 漆黑								330
39. 最大			85		141			104
44. 合理	2	9	1	32		238		48
45. 良性	100		5	4	24	18		179
50. 卫生		2	103		45	67	1	112

(5) 中国語では名詞と形容詞である、日本語では名詞である言葉

調査語	～	～で・だ	～な	～に	～の	～的	～(他)	対象外訳
3. 文明	10	6	4	28	1	37	5	239
5. 系统	1	2		2	1	158	38	128
19. 规则		33		5		126	33	133
40. 精彩			3					327

(6) 中国語では形容詞と他動詞である、日本語では名詞とサ変自動詞である言葉

調査語	～している	～していた	～する	～した	～で・だ	～な・に	～的	～(他)	対象外訳
6. 繁荣	120	1	18	1	88	10	1	1	90



調査語	～し(て)	～した	～する	～で・だ	～な・に	～的	～(他)	対象外訳
24. 充実	42	21	1	186	22	9	29	20

(7) 中国語では形容詞と他動詞である、日本語では名詞と形容動詞である言葉

調査語	～で・だ	～な	～に	～の	～する	～的	～(他)	対象外訳
9. 清楚								330
37. 明确	4	40	28		5	9		244

(8) 中国語では形容詞である、日本語では名詞とサ変自動詞である言葉

調査語	～し(て)	～した	～する	～で・だ	～な	～に	～の	～さ	～的	～(他)	対象外訳
18. 完备	47		4	19	2					14	244
25. 潜在	22	1	4		6		11		102	12	172
33. 混乱	64	1	18	25	8	9	12	7	8	81	97
34. 紧迫	16	4	4		45		9		5		247
36. 过热	29	4	10	37		13	1			16	220
41. 一致	15	71	13			106	12		1	7	105
46. 优越	3	7	3		45				1		271
46. 和睦		1			14		4		5		306

(9) 中国語では名詞と形容詞である、日本語では名詞とサ変自動詞である言葉

調査語	～して	～した	～する	～で・だ	～な	～に	～の	～的	～(他)	対象外訳
20. 矛盾	62	1	24	89	9	2	5	7	5	126

(10) 中国語では形容詞と他動詞と名詞である、日本語では名詞とサ変自動詞である言葉

調査語	～し(て)	～した	～する	～で・だ	～の	～すぎて	～的	対象外訳
22. 兴奋	132	6	1	80	4	16	1	90

(11) 中国語では形容詞である、日本語では名詞とサ変他動詞である言葉

調査語	～して・た	～する	～されて・た	～で・だ	～な・に	～の	～的	～(他)	対象外訳
27. 镇静				3	1				326
35. 洗练	19		79	139	4		2	10	77
38. 乐观	13	6		45	32	2	130	19	83
42. 悲观	20	13		67	35	6	115	21	53

(12) 中国語では形容詞である、日本語では名詞とサ変他動詞である言葉

調査語	～して・た	～する	～で・だ	～な・に	～の	～的	～(他)	対象外訳
31. 干燥	15	1	94	21			3	196

## 5. 考察

以下「品詞性に違いがある同形同義語」と「同形異義語」に分けて見ていく。( ) の中



の数字は、一つだけの場合、誤用を表し (5.3.1 だけが正用の数を表す)、二つの場合は、それぞれ正用と誤用の数を表す。

### 5.1 品詞性に違いがある同形同義語

これはさらに日本語で「名詞・形容動詞である言葉」「名詞・サ変動詞である言葉」「名詞である言葉」に分けられる。

#### 5.1.1 中国語で形容詞であるが、日本語で名詞・形容動詞である言葉

大胆 (229/66)	安全 (223/40)	合法 (184/31)	新鮮 (171/20)	重要 (167/0)
冷静 (164/6)	大量 (162/4)	重大 (141/4)	流暢 (141/17)	壯観 (89/5)
明快 (74/27)	濃厚 (66/0)	柔軟 (65/10)	旺盛 (52/32)	過度 (25/3)
鮮明 (24/1)	遺憾 (5/2)			

「遺憾」を除いた言葉は、正用が誤用よりずっと多いので、この類の中日同形語の品詞性は中国人の日本語学習者にとって、あまり問題にならない。

「大量」は名詞を修飾する時、「大量な」と「大量の」がどちらも使えるので、「大量」を使った 166 訳中の 162 訳が正用に当たる。「合法」は日本語で名詞・形容動詞であるが、同時に「合法的」という形容動詞も存在しているので、「合法」の 13 と「合法的」の 171 を合わせると、正用の数は 184 になり、誤用の 31 よりずっと多い。「安全」の訳として、「安全で・だ」「安全な」「安全の」は正用、「安全に」は形容動詞の使い方としては正しいが、原文の訳として正しくないなので、誤用に数えた。「過度」は「～な」「～の」の両方が使えるので、「過度な」「過度に」「過度の」の正用を合わせると、25 になる。「遺憾」を使った訳が非常に少なかったが、対象外訳で「残念」が使われたのは 310 にも上った。「遺憾」という言葉が日本語では改まった場合にしか使われないからだろう。「残念」という言葉の意味が日本語学習者にはほぼ定着したと言える。

#### 5.1.2 中国語では形容詞で、日本語では名詞・サ変動詞である言葉

樂觀 (149/98)	悲觀 (148/129)	繁榮 (140/100)	興奮 (139/101)	潜在 (129/29)
一致 (99/126)	矛盾 (87/117)	混乱 (83/150)	充實 (64/246)	完備 (51/35)
過熱 (43/67)	緊迫 (24/59)	乾燥 (16/118)	優越 (14/45)	和睦 (1/23)

「樂觀」と「悲觀」以外の言葉は日本語で全部サ変自動詞として使われ、ほとんど「～した」か「～している」の形で中国語の形容詞と対応している。サ変動詞として使われた訳を全部正用に数えた。「乾燥」は日本語でサ変他動詞としても使われるが、基本的には自動詞よりである。「樂觀」と「悲觀」はサ変他動詞でありながら、中国語の“乐观”“悲观”とほぼ同義とみなしてもよい。「樂觀」のサ変他動詞の訳は 19 で、少なかったが、「樂觀的」の訳は 130 に上った。それも正用に数えた。「悲觀」のサ変他動詞の訳は 33 で、「悲觀的」の訳は 115 である。両者を合計して、正用が 148 になる。“潜在”のサ変動詞訳 27 と「潜在的」102 を合わせると、正用が 129 になる。「樂觀的」「悲觀的」「潜在的」はそれぞれのサ変動詞よりずっと多用されているので、中国人の日本語学習者には「樂觀」「悲觀」「潜在」を形容詞として意識している傾向が見られる。「優越」は普通サ変動詞として使われる



が、『広辞苑』で「優越的」<sup>(6)</sup>の使い方も確認できたので、「優越的」も正用に数えた。

中日同形語を使った訳の正用と誤用の数を比較すれば、“充実、緊迫、优越、和睦”などの形容動詞訳がサ変動詞訳よりずっと多いこと、「一致」「矛盾」「過熱」などの形容動詞訳がサ変動詞より少し多いことがわかる。“繁荣、兴奋、完备”の形容動詞訳がサ変動詞より少し少なく、“混乱”の形容動詞訳がサ変動詞よりずっと少ないが、かなりの数に達している。したがって、この類の中日同形語において、中国語の品詞性の影響が大きいと言えるだろう。

### 5.1.3 中国語で形容詞か名詞・形容詞で、日本語で名詞である言葉

唯一 (218/52)    最大 (141/85)    感傷 (39/26)    良性 (24/127)    漆黑 (0/0)

漢語は日本語では基本的に名詞として意識されている。「良性」について、「良性循環」をそのまま使った 100 人の訳を計算に入れると、誤用が 127 に上った。「最大」と「唯一」の誤用は正用よりずっと少ないが、かなりの数に達している。「漆黑」を使った訳はゼロだった。「漆黑」は中国語で「真っ黒だ」と「真っ暗だ」の二つの意味を表す。その訳語として、「真っ黒」を使った学生は 195 人であるのに対して、「真っ暗」を使った学生は 52 人とどまっている。中国語の影響は言うまでもないが、多くの大学で採用されている日本語の教材の影響も無視できないだろう。たとえば、『新編日語』に「まっくろ (第 3 冊 11 課)」しか出ていないし、中国語の訳として、“漆黑”が使われている。

## 5.2 同形異義語

同形異義語なので、「虚偽」「美観」「快樂」「性感」「精彩」「安静」「鎮静」「清楚」などの訳が少ないのは当然であるが、日本語での使用頻度が低い一面も反映された。以下の四類に分けられる。

### 5.2.1 日本語で名詞である言葉

合理 (238/44)    系統 (158/44)    規則 (126/71)    衛生 (67/151)

文明 (91)    虚偽 (29)    美観 (22)    快樂 (3)    性感 (5)    精彩 (3)

「合理」は名詞といっても、単独ではほとんど使われず、「合理的」「不合理」などの接辞を付けて用いられる場合が多い。正用の 238 は全部「合理的」である。中国語の形容詞の“系统”“规则”“卫生”はそれぞれ日本語の「系統的」「規則的」「衛生的」に当たるので、名詞として使われた「～の」を誤用にした。「感傷」は「～の」も「～的」も原文の意味を表すことができるので、両方とも正用にした。「虚偽の」「文明の」は文法的に正しく使われているが、意味が原文と合わないの、正用とは言えない。“快乐”の訳として、対象外の「楽しい」を使ったのは 284 にも上っている。“精彩”の対象外訳として「すばらしい」を使ったのは 292 に上っている。

### 5.2.2 日本語で形容動詞か名詞・形容動詞である言葉

深刻 a (180)    円滑 (146)    厳正 (129)    正確 (106)    切実 (68)

深刻 b (49)    迅速 (37)    痛快 (10)    安静 (5)    嚴重 (4)

「痛快」は中日で意味が重なる部分があるが、原文での意味が日本語にないので、「痛快」



を使った訳を誤用に数えた。「厳正」は中日で意味が大きく違う。中国語では“严肃正当”の意味を表すが、日本語では「厳格で公正なこと」を指す。講談社『中日辞典』でも「厳正」を使って“严正”を訳しているので、要注意である。

60 の調査語中、「深刻」だけ二回出された。「深刻 a」は調査文 48 番の“深刻”に対する訳である。「深刻 b」調査文 49 番の“深刻”に対する訳である。しかし、同じ「深刻」でも 48 番が 49 番よりずっと多く使われているのは注目すべき現象である。つまり“深刻教训”が“深刻印象”より誤用が多発している。その原因は以下の二つにあると考えられる。一つは、授業やテキストに「深い印象」が「深い教訓」より現れる可能性も頻度も高いこと、もう一つは日本語の教師が中国語の“深刻”と日本語の「深刻」の違いを説明する時、“深刻印象”が多く挙げられることである。

“严重”の訳語として、「嚴重」を使った学生は 4 人しかいないが、対象外訳の「深刻」を使ったのは 145 に上っている。正用は 143 である。つまり「嚴重」と「深刻」の使い分けが比較的浸透していると言えるだろう。“安静”の訳語として「静かに」を使った学生は 310 人にも上ったので、「静かだ」という形容動詞がよくマスターされていると言える。

### 5.2.3 日本語で名詞・サ変他動詞である言葉

洗練 (79/174) 鎮静 (4)

“洗练”を「洗練して」「洗練した」と訳した意味は原文に合わないもので、誤用に数えた。「洗練された」のような受身形で初めて中国語の意味に対応する。

### 5.2.4 中国語で形容詞・他動詞である言葉

明確 (72/14) 清楚 (0/0)

中国語には“清楚”“明确”のように形容詞と他動詞を兼ねる言葉が少なくない。調査では形容詞用法だけに絞ったので、「明確」の正用が誤用よりずっと多い。ただ誤用にサ変動詞訳が 4 例入っているのは中国語の他動詞の影響の現れであろう。“清楚”の訳として「清楚」<sup>(7)</sup>を使ったのはゼロで、その対象外訳の「はっきり」という正用は 169 である。

### 5.3 「～的」をつけた言葉

中国語の形容詞は助詞の“的”をつけて使われる場合が多い。それも日本語訳に反映されている。

#### 5.3.1 日本語に中国語の形容詞に対応する「～的」がある言葉

正しく習得できたかもしれないが、中国語の影響で「的」をつけた可能性も否定できない。

合理的 (238) 合法的 (171) 系統的 (158) 樂觀的 (130) 規則的 (126)  
悲觀的 (115) 潜在的 (102) 衛生的 (67) 感傷的 (27)

#### 5.3.2 日本語に中国語の形容詞に対応する「～的」がない言葉<sup>(8)</sup>

これは「的」の過剰使用とも言える。

大胆的 (51) 文明的 (37) 正確的 (23) 良性的 (18) 深刻的 (15) 流暢的 (14)  
嚴正的 (10) 安全的 (10) 迅速的 (9) 明確的 (9) 切實的 (9) 充實的 (9)



混乱的 (8)	矛盾的 (7)	唯一的 (6)	緊迫的 (5)	冷靜的 (5)	和睦的 (5)
大量的 (4)	柔軟的 (2)	洗練的 (2)	繁榮的 (1)	重大的 (1)	過度的 (1)
興奮的 (1)	鮮明的 (1)	一致的 (1)	旺盛的 (1)	優越的 (1)	明快的 (1)

## 6. 中国語の形容詞が日本語と品詞性が違う要因

### 6.1 中国語と日本語の形容詞の定義

中国語の形容詞について、『实用汉语语法大辞典』は次のように定義している。

【形容詞】通常指表示人或事物的形状，性质或者动作，行为，发展变化的状态的词。

訳：普通人間あるいは事物の形状・性質あるいは動作・行為・発展変化の状態を表す言葉を指す。

日本語の形容詞と形容動詞の定義について、『国語学研究事典』の説明を参照したい。

【形容詞】用言の一品詞名。(1) 客観的な事物・事柄の性質（色彩を含む）・状態を表すとともに、(2) 主観的な心に感じる感覚や感情を表す品詞。ただし、両者を明確に分けられない場合もある。

【形容動詞】用言の一品詞名。事物・事柄の性質・状態を表す品詞。意味上、形容詞と似通っているが、語尾活用が異なり、当然語源も異なっている。

上の中日形容詞の定義からわかるように、中国語の形容詞は事物の性質・形状を表す点では、日本語の形容詞・形容動詞と一致しているが、「動作・行為・発展変化の状態を表す」点は日本語と違っている。例えば、“充实、一致、完备、洗练、兴奋、紧迫”などの言葉は中国語で動作の結果の状態などを表す形容詞として扱われているのに対して、日本語ではそれらは全部「する」といっしょにサ変動詞として使われている。また“干燥、混乱、繁荣、和睦、过热”などの言葉は、中国語では動作性を持たない状態・性質を表す形容詞であるのに対して、日本語では状態の変化を表すサ変動詞として使われている。

### 6.2 中国語での動詞や名詞の形容詞化

中国語の形容詞はもともと動詞や名詞であった言葉が少なくない。張国憲(2006)は中国語での名詞と動詞の形容詞化について論じている。名詞の形容詞化の例として、“热门”“正宗”“正统”“阳光”などを、動詞の形容詞化の例として“凝固”“腐朽”などを取り上げているが、数が限られているし、言葉の歴史的な変遷を通時的に考察していない。楊華(2009)は名詞から形容詞に転化した例として“标准，道德，典型，规范，规矩，科学，……”などを挙げている。

日本語の名詞の形容詞化について、村木新次郎(2009)は「名詞に固有な(広義の)実体の意味を失い、その代償として、事物の性質・様子の意味を獲得し、形容詞化している」と指摘している。中国語の名詞の形容詞化はもっと複雑であると思われる。調査語の“规则、系统、重要、性感、精彩、壮观、大胆、美观、文明、矛盾、良性”などは名詞から形容詞化した例である。その中の「壮观」「大胆」「重要」は日本語でも形容動詞の語幹として用いられている。



日本語では漢語は基本的には名詞として扱われている。「する」をつけてはじめて動詞として成り立つ。一部の中国語で動詞から形容詞化した中日同形語は日本語でまだもとの動作性が保たれて、「する」といっしょにサ変動詞として使われているので、両者の品詞性の違いを形成してしまったのである。例えば、調査語の“洗练”について見てみよう。《汉语大词典》に次の三つの意味が書いてある。

(1) 清洗磨练。谓修身养性。(2) 提炼。(3) 简练。多形容语言, 文字, 技法, 动作, 艺术风格等。

(1) と (2) は動詞で、(3) は動作の結果の状態を表している。(1) (2) (3) の意味の変遷と用例の時代性から“洗练”という言葉の品詞性の転化がわかる。“洗练”はもともと他動詞で、日本に伝わって、「洗練する」の形で他動詞の意味を表し、「洗練された」という受身の形で現代中国語の“洗练”と同じ意味を表す。「乾燥する」「完備する」などのサ変自動詞は「乾燥した」「完備した」の形で中国語の“干燥”“完备”と対応しているので、「洗練する」と大きく異なっている。調査語の“遗憾、一致、卫生、过度、完备、兴奋、合法、合理、充实、深刻、洗练、悲观、乐观、潜在”などは動詞から形容詞化した言葉である。

## 7. おわりに

本研究は記述方式の調査データに対する分析を通して、中国語で形容詞である同形同義語が日本語で形容動詞である場合、品詞性の誤用が少ないこと、日本語で名詞だけである場合とサ変動詞である場合、品詞性の誤用が起りやすいこと、中国語で形容詞である同形異義語の誤用の実態が複雑であることが分かった。また中国語の形容詞が日本語と品詞性が違う要因は中国語と日本語の形容詞の定義の違いと中国語の動詞・名詞の形容詞化が挙げられるがわかった。

中国語の影響を克服するために、まず同形語であっても、意味用法が同じであるとは限らないという意識を持たせなければならない。日本語学習者に中日同形語の違いに気付いてもらえれば、誤用が大幅に減ると考えられる。

## 注

(1) 中川正之 (2005) 『漢語から見える世界と世間』 p162

(2) 10 の大学は華東理工大学、東南大学、広州大学、広州商学院、南京師範大学、徐州師範大学、南京工業大学、南京信息工程大学、揚州大学、南通大学である。3 年生は 57 人で、4 年生は 255 人で、5 年生は 8 人で、院生は 10 人である。

(3) 中国語で形容詞である同形語は日本語での品詞性との対応関係によって次の 12 類に分類できる。

① 中国語では形容詞で、日本語では名詞・形容動詞である言葉

重大 冷静 正確 新鮮 流暢 旺盛 重要 明快 安全 安静 嚴重 痛快



円滑 迅速 深刻 過度 合法 遺憾 大胆 大量 多様 幸運 正式 均質  
純情 多情 多病 低調 適度 著名 同様 異様 一様 盲目 敏感 細心

②中国語では形容詞で、日本語では形容動詞である言葉

濃厚 柔軟 切実 鮮明 陰鬱 典雅 唐突 頑強

③中国語では名詞・形容詞で、日本語では名詞・形容動詞である言葉。

壯観 困難 艱難 必要 秘密 健康 雄弁 低調 中庸 廉価

④中国語では形容詞である、日本語では名詞である言葉

虚偽 唯一 快樂 感傷 美観 性感 漆黒 最大 合理 良性 衛生  
哀愁 安寧 偽善 驚異 恒久 慈善 難聴 忠誠 長久 狂熱 危急

⑤中国語では名詞・形容詞である、日本語では名詞である言葉

文明 系統 規則 精彩 威風 下流 機械 規範 機密 教条 經典  
虚栄 現代 光輝 光明 紳士 人道 正統 全面 痴情 体面 典型  
美貌 標準 風光 文明 芳香 煩惱 模範 陽光 空洞 虚栄 遜色

⑥中国語では形容詞・他動詞である、日本語では名詞・サ変自動詞である言葉

繁栄 充実 激動

⑦中国語では形容詞・他動詞である、日本語では名詞・形容動詞である言葉

清楚 明確 温暖 可憐 奇怪 強固 強壯 堅固 健全 潤滑 純潔  
清潔 疎遠 怠慢 端正 淡泊 放縱 明白

⑧中国語では形容詞である、日本語では名詞・サ変自動詞である言葉

完備 潜在 混乱 緊迫 過熱 一致 優越 和睦 苦悶 傑出 謙遜  
困苦 混濁 充足 焦燥 卓越 繁茂 煩悶 肥大 疲労 飽満 練達  
歓喜 急進 驚愕 狂喜 驚喜 恐懼 恐怖 緊張 勤労 苦悩 激憤  
結実 倦怠 合格 左傾 持久 執着 消沈 衰弱 専制 善戦 造作  
相似 頹廢 達観 低迷 透徹 腐敗 憤慨 憤怒 偏執 勇躍 類似

⑨中国語では名詞・形容詞である、日本語では名詞・サ変自動詞である言葉

矛盾 衝動 分歧

矛盾 国語大辞典では形容動詞としても扱われている。

形容動詞の使い方が定着しなかった。今消えたと言ってもいい。

⑩中国語では形容詞・他動詞・名詞である、日本語では名詞・サ変自動詞である言葉

興奮

⑪中国語では形容詞である、日本語では名詞・サ変他動詞である言葉

鎮静 洗練 樂觀 悲観 適用

⑫中国語では形容詞である、日本語では名詞・サ変自他動詞である言葉

乾燥

品詞認定は辞書によって異なる場合もあるが、多数の辞書の一致しているものに従った。

例えば、「乾燥」の品詞性について、次のいくつかの辞書の扱いを並べておく。



『岩波国語辞典』: 名・ス自他

『明鏡国語辞典』: 名・自他サ変

『大辞林』: (名) スル

『大辞泉』: [名] (スル); [名・形動]

『日本国語大辞典』: [名] [形動]

『ベネッセ表現読解国語辞典』: 名詞・動詞(サ変・自他)

「乾燥」を形容動詞として扱うのは『大辞泉』と『日本国語大辞典』だけで、しかも「無味乾燥」という四字複合語の場合に限るので、「乾燥」だけは形容動詞と認めないことにした。

(4) コーパスのアドレスは [http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl\\_corpus/search?dir=xiandai](http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/search?dir=xiandai) である。

(5) 調査文と参考訳文は次の通りである。訳文は一つとは限らない。

下線で示された調査語は調査のとき、下線が付いていなかった。

1. 就寝时要保持安静。

就寝の時、静かにしてください。

就寝時に静かにしてください。

2. 这个人很虚伪。

この人はとても不誠実だ。

「不誠実」という言葉は講談社『中日辞典』の訳語ですが、意味の幅が広いので、中国語の「虚偽」に対応しているとは限らない。

3. 说话要文明。

礼儀正しく話さない (話すべきだ)。

きれいな言葉遣いをする事。

4. 他的态度十分鲜明。

彼の態度ははっきりとしている。

5. 系统学习中医理论。

系統的に漢方理論を習う (学ぶ)。

6. 物价稳定、市场繁荣。

物価も安定し (ていて)、市場も繁栄している。

7. 温室效应的后果十分严重。

温室効果の結果が非常に深刻である。

8. 没想到他答应得特别痛快。

思いがけないことに、彼は即座に承諾 (応諾・承知) してくれた (くださった)。

9. 必须把事故原因调查清楚。

事故の原因を明らかにさせなければならない。

10. 这里的人文氛围特别浓厚。

ここは文化的な雰囲気満ちている。



ここの文化的な雰囲気が（きわめて）濃厚である。

11. 经贸合作面临着重大机遇。

経済貿易の協力が重大なチャンスを迎えている。

12. 过度忧虑确实会严重地损害健康。

過度に憂慮するの（過度な憂慮）は確かにひどく健康を害する。

13. 他说话圆滑而机敏、举止沉着而冷静。

彼は話がうまくて賢いし、行動も落ち着いて冷静だ。

彼は利口で機転がきくし、振る舞いも落ち着いて冷静だ。

14. 大胆的决策、来自对信息透彻正确的分析。

大胆な決定は透徹した正しい情報分析に基づいている。

大胆な政策決定は徹底した正しい情報分析から来ている。

15. 宽带的普及推动了网上购物的迅速发展。

ブロードバンドの普及はネットショッピングの急速な発展を促進した（押し進めた）。

日本語では「迅速」は人にしか使われない。

16. 中国外交部已就这个问题发表了严正声明。

中国外交部はこの問題に関して厳正な声明を発表した。

「厳正」の意味は中国語と日本語で微妙に違う。

中国語では「厳肅で正当だ」であるが、日本語では「厳格で公正だ」という意味である。

17. 心里充满了感伤的情绪。

胸は感傷的な（感傷の）気持ちでいっぱいだ。

感傷的な気分に入っている。

18. 体育馆里各种器械很完备。

体育館にはいろいろな運動器具が完備している（充実している）。

体育館には様々な運動器具が揃っている。

19. 整个城市布局非常规则。

町並み全体が整然としている（規則正しく並んでいる）。

20. 其实我现在的心情很矛盾。

実は、今の私の気持ちが矛盾している。

21. 这里空气新鲜、光线充足。

ここは空気が新鮮で、光もたっぷりだ。

ここは空気がおいしく（うまくて）、日光が充足している。

22. 当晚我兴奋得根本无法入睡。

その晩、私は興奮して全然眠りにつくことができなかった。

23. 这里的唯一交通工具是骆驼。

ここの唯一の交通手段は駱駝だ。

24. 度过一个既充实又快乐的暑假。



- 充実した楽しい夏休みを過ごした。  
楽しく充実した夏休みを過ごした。
25. 目前的教育有许多潜在的问题。  
今日の教育に多くの問題が潜在している。  
今の教育には潜在的な問題がたくさんある。
26. 比赛场面壮观激烈、惊心动魄。  
試合の場面は壮观激烈で、はらはらさせられた。  
試合は激しくて、はらはらさせられた。  
両チームの熾烈な戦いに、はらはらさせられた。
27. 在这危急关头、他显得十分镇静。  
この危急の瀬戸際で、彼は実に沈着冷静であった。  
ピンチな時に（緊急時に）、彼は冷静に見えている。
28. 创造美观优雅的生活环境。  
きれいで優雅な（優美な）生活環境をつくる（創造する）  
優雅で美しい生活環境を作る。
29. 她、依旧显得年轻漂亮、性感迷人。  
彼女は、相変わらず若くて美しく、魅力的である（魅力に満ちている）。  
彼女は依然として若くてきれいで、セクシーに見える。
30. 田野里一片漆黑、只有几点萤火偶尔闪过。  
田畑は真っ暗で、数匹の蛍が点滅しながら通り過ぎただけである。
31. 空气平常比较干燥、容易发生森林火灾。  
空気がふだん（わりに）乾燥しているので、森林火災が起こりやすい。
32. 我踏着柔软的草地、尽情地领略着大自然的美景。  
柔らかい草を踏みながら、思う存分に自然の美しい風景を味わっている。  
美しい自然の景色を存分に楽しんでいる（満喫している）。
33. 律师收费管理混乱的确是目下比较突出的问题。  
弁護士料の杜撰な管理は今確かに突出している問題である。  
弁護士料の管理が混乱しているのは今確かに際立っている（目立った）問題である。
34. 保护大自然、维持生态平衡是当今最紧迫的问题。  
自然を守り、生態系のバランスを維持するのは当今の最も緊迫している問題である。
35. 造型洗练优美。  
造形（デザイン）が洗練されて、優美である。  
「洗練する」は他動詞で、受身の形で使われる場合が多い。
36. 近几年房地产开发过热。  
ここ数年不動産の開発が（は）過熱している。
37. 在这个问题上你应该明确表示态度。



この問題に関しては、あなたははっきりと態度を示すべきだ。

このことについて、明確な態度を示すべきだ。

38. 人们对亚洲经济增长前景更加乐观。

人々はアジア経済の先行きをもっと楽観している（楽観視している）。

人たちはアジアの経済成長をもっと楽観的に見ている。

39. 企业应该运用合法手段获取最大利润。

企業は合法的な手段を用いて最大の利益（利潤）を得る（獲得す）べきである。

40. 教授用流畅的英语、作了十分精彩的报告。

教授は流暢な英語で、すばらしい講演をした。

41. 经过长时间的辩论、大家的意见归于一致。

長時間の議論を経て、みんなの意見が一致した。

42. 许多年轻人对将来能否拿到养老金十分悲观。

多くの若者たちは将来年金がもらえるかどうかとても悲観的である。

多くの若者たちは将来年金がもらえるかどうかを悲観している。

43. 令人遗憾的是、这项技术至今没有得到推广。

残念（遺憾）なことに、この技術はまだ普及されていない（広く利用されていない）。

「遺憾なことに」「遺憾ながら」は改まった場合に使われる。政治家の言葉である。

44. 合理开发利用海洋资源、切实保护海洋生态环境。

合理的に海洋資源を開発利用し、しっかりと海洋の生態環境を守る（保護する）。

合理的に海洋資源を利用し、本腰を入れて（着実に）海洋生態環境を守る。

45. 消费和投资需求旺盛、有利于经济实现良性循环。

消費と投資の需要が旺盛で、経済の良（よい・良性的な）循環に有利である。

46. 对孩子来说、和睦的家庭比优越的经济条件更重要。

子供にとって、むつまじい家庭は優越した経済条件よりもっと大事だ（重要・大切だ）。

47. 随着明快流畅的旋律、我的思绪飘向了那遥远的地方。

明快で流暢なメロディーにつれられて（従って）、私の思いははるかな彼方へ馳せた。

明るく流暢なメロディーを聞きながら、私の思いは遙か彼方に漂っていった。

48. 盲目开发给中国在世界遗产保护方面留下了深刻教训。

盲目的な開発は世界遺産の保護において、中国に深い教訓を与えた。

無謀（無計画）な開発は中国の世界遺産保護に深い教訓を与えた。

49. 大量事实证明、越是简洁的商标越容易在人的脑海中留下深刻印象。

簡潔な商標ほど人々の脳中に残りやすいことは数多くの事実によって証明された。

50. 据世界卫生组织的调查、世界上有 70%的人口喝不到安全卫生的饮用水。

世界保健機関の調査によると、安全で衛生的な飲用水が飲めない人は世界人口の 70%

をも占めているそうだ。

(6)「優越的」は日本語でもあまり使われないが、『広辞苑』で「優越的」の使い方が次の 5



例が確認できたが、日本語学習者に「優越的」の使用を奨励しない。下線は筆者。

①上手に出る：優越的な態度をとる。

②【特権】特定の身分や階級に属する人に特別に与えられる優越的な権利。

③【不公正取引】公正な競争を阻害するおそれのある取引行為。他の業者に対する不当な差別的取扱い、拘束条件付き取引、取引における優越的地位の濫用など。

④【優位】すぐれた地位。優越的地位。上位。

⑤【我妻栄】民法学者。山形県生れ。民法を、判例を中心とした社会的現実との関連で体系化し、代表的な民法体系を構築。著「民法講義」「近代法における債権の優越的地位」など。文化勲章。(1897～1973)

(7)「清楚」という同形語は日本語でもめったに使われないし、意味も現在の中国語と違う。

日本語のテキストに日本語の語彙として現れる可能性がゼロに近いが、中国語でよく使われているので、それを正しく訳せるかどうか、「清楚」をそのまま使ってはならないことを知っているかどうか、調べたかった。

また、現代日本語の「清楚」の意味は古代中国語の“清楚”の意味の一つであったが、中国語でその意味用法が消滅してしまった。

(8)これらの言葉について筆者は『広辞苑』『岩波国語辞典』『明鏡国語辞典』を全文検索したが、用例が見つからなかったので、日本語に「～的」という言葉がないと判定したのである。たとえ個別的に使われている場合があっても、一般的な日本語の用法とは認められないので、日本語学習者にはその使用を奨励しない。



## 終章

本論は中日同形語の定義、中日同形語の語義の相違をもたらす要因、中日同形語の品詞性、中日同形語と語構成、中日同形語と関係のある中日同根語、中日同形語と受け身、中日同形語と数量詞、時空に関する中日同形語、「写」のついている中日同形語、中日同形語の誤用の10章にわたって、共時的だけでなく、できるだけ通時的に言葉の意味用法の変遷をたどったうえで、中日同形語の研究を行った。

第一章は同形語の分類と中日同形語の定義について論じた。

同形語は「言語内同形語」と「言語間同形語」に分けられる。中日同形語は中国語と日本語という二つの違う言語体系の間にある「言語間同形語」である。

中日同形語は音読みの「漢語」とは限らず、訓読み、湯桶読み、重箱読み、熟字訓、当て字などの言葉も中日同形語に属する可能性がある。また中日同形語は借用語とも限らず、偶然の一致で形成したものも少なくない。日本語で合成語であるが、中国語で連語である中日同形語も少なくない。

筆者は中日同形語を次のように定義した。

中日同形語とは、音訓の読み方・文字数・借用関係を問わず、中日両国の文字改革によりもたらされた字体の相違があっても、漢字のもとが同じである、中国語と日本語の間に存在している同形の漢字語である。

第二章は中日同形語が形成された要因と語義相違の要因について検討した。

中日同形語が形成された最大の要因はお互いの借用関係にあるが、偶然の一致や日本語での当て字の使用も無視できない。中日同形語の語義相違の要因はいろいろあるが、根本的な要因は「環境の違い」と「漢字の意味の多様性」にあると思われる。環境的な要因として、「自然環境や人文環境の違い」「政治制度の違い」「言語政策」「科学技術（例えば、デジタル技術やインターネットなど）の発展」「外来文化（特に欧米文化）の影響」などが挙げられる。

第三章は中日同形語を語構成の角度から分析した。

筆者は“字本位”理論に基づいて、漢字語を構成する漢字を「根字」と「非根字」に分け、「非根字」を接字、音字、連綿字、日本語の当て字、量詞などに下位分類した。「根字」と「根字」の結合関係により、二字複合語を「連合型」「修飾型」「主述型」「補足型」「動賓型」「主語後置型」の6種類に下位分類した。

中日同形語の語構成を分析し、分類した結果、日本語で合成語であるが、中国語では合成語でなく、連語である漢字語が少なくないこと、中日同形語の語構成と語義が密接な関係を持っていることがわかった。意味の違いをもたらす原因として、挙げられるのは語構成の違いである。中日同形語の語構成の違いをもたらす原因はいろいろあるが、漢字の語義と品詞性の多様性、漢字の造語力の違い、日本人と中国人が漢字の意味用法に対する理



解の違いや文化的な背景の違いなどが挙げられる。

これらの結果と従来の研究及び長年の日本語教育の経験から、語構成と習得の難易度の関係について次の次のように判断できる。語構成が同じで意味も同じである中日同形語はもっとも習得しやすい。構成がまったく違う中日同形語も比較的習得しやすい。二種類以上の構成をもっている中日同形語は語義の複雑さが増すので、やや習得しにくい。構成が同じで意味が違う中日同形語は習得しにくい。構成が同じで意味用法が似ている中日同形語は最も習得しにくい。

第四章は中日同形語の品詞性の異同とその要因を分析した。

中日同形語の品詞性は非常に複雑である。品詞性が同じで、品詞性の問題が起こらないものでも、意味の違いに注意する必要がある。とくに、日本語では漢語は基本的に名詞として意識されるので、兼類の場合の名詞は中国語の兼類の名詞と意味が大きく異なる場合が多いので、習得の際、細心の注意を払う必要がある。

品詞性の違いは意味用法の違いに直結しているので、意味用法の相違を反映していると言える。品詞性が大きくずれている中日同形語は、意味用法の重なっている部分を除いて、大きく異なっている意味用法に注意する必要がある。

中日同形語の自他動詞のずれがボイスなどに影響することが予想される。例えば、中国語では自他動詞で、日本語では自動詞だけの言葉は日本語の受身文と使役文の両方に誤用が起こりやすいだろう。

言語発展の歴史は具体的な意味から抽象化し、基本義から離れていき、比喩的な意味や抽象的な意味へどんどん拡張されて、派生していく。品詞性もそれに従って変わっていく。それによって、中国語では形容詞化した言葉が相対的に多いのである。一方、日本語では中国語から入って来た言葉の意味が変えられても、形式上の変化があまり伴っていないので、形式的な形容詞や形容動詞が相対的に少ないのである。

品詞性の変化が中日同形語の品詞性の違いの一番の要因である。品詞性の変化はもともと品詞性にずれがある言葉の品詞性、特に品詞性の兼類をさらに複雑化してしまった。その中で、特に注意が必要なのは中国語の形容詞とそれに対応する日本語のサ変自他動詞の使い方である。中国語では形容詞である中日同形語が、日本語では必ずしも形容動詞ではない。中国語では物事の状態や性質、人の精神状態を表す言葉は形容詞に属するが、日本語ではほとんどサ変動詞なので、日本語の品詞性の誤用が起こりやすいと思われる。中国語の形容詞から他動詞化した言葉や日本語の動賓構造のサ変他動詞にも注意しなければならない。

第五章は中日同根語について検討した。「同じ起源をもつ」中日同根語は大きく「中国起源の同根語」と「日本起源の同根語」に分けられる。同根語の字形・語形と語義が時代と環境により大きく変化し、品詞性が大きく相違する。中日同根語は大部分中日同形語と重なっているが、互いに借用関係がなく偶然の一致で形成された同根語は同根語ではないが、語形の変った同根語は同形語ではない。



中日両国の一部の書籍や辞書の漢語の起源の説明にまだ議論する余地がある。中国人も日本語からの外来漢語について知らない人が少なくない。語源と歴史的変遷、文化的な背景がわかれば、知識が広められるし、言葉の習得も面白くなり、言葉に対する理解が深められる。

第六章は「中日同形語と受身」で、中日同形語と受身文の関係を中心に考察した。講談社『日中辞典』で検索した中日同形語の受動文は対応する中国語の訳文により、大きく「受動文」「能動文」「無対応文」に分類できる。訳文の半数以上が受動文の形式を取っていないので、日本語での受動文の使用が中国語より多いことがわかった。訳文の受動文では“被”以外の受身マーカーとして、“由”が使用されたが、話し言葉で使われる“让”“叫”“给”が訳文では確認できなかった。書き言葉を重んじる傾向がうかがわれた。そして「準受身マーカー」である“获”“获得”“赢得”及び“在……中”“在……下”などの表現に受身が含意されていることがわかった。「能動文」では動作主が多様であること、無対応文では「使役文」「形容詞文」なども可能であること、また訳文で使われた中日同形語の数が全体の半分にも満たなかった原因が中日同形語の語義のずれ、品詞性の不一致、言語環境の変化及び訳者自身などにあることがわかった。更に研究対象を中日同形語全体に広げ、中日同形語の品詞性に基づいて、双方の受動文を構築する可能性を比較検討した結果、その実態が非常に複雑であること、中日とも一部分の他動詞が受動文を構築できないこと、中国語の一部分の「動賓」構成の自動詞が受動文を構築できることがわかった。

第七章は「時空を表す中日同形語」で、時間と空間に関係する中日同形語の意味用法を詳しく比較した結果、時間・空間・時空を表す中日同形語の意味用法が大きく違っているし、それらの品詞性の対応関係も複雑であることがわかった。

第八章は「中日同形語と数量詞」で、中日量詞と数量詞の意味用法の異同を比較した。中国語の常用「量詞」は日本語よりずっと多いが、中日同形語としての数量詞が少なくない。中国語母語話者の「一+〇」の数量詞の過剰使用の一要因は中日文脈に対する理解の違いである。日本語の数量表現は漢数字の他に、外来語や和語など言葉の数が多し、表現形式も豊富である。日本語の数量詞が入る慣用句などの表現は中国語に意識されるとき、数量詞が使われない場合も少なくない。逆に中国語の簡潔な表現を日本語に訳する時、数量詞が増やされる可能性もある。

中日数量詞の基本的な意味が同じであるが、使われる対象が全く違ったり、どちらか一方が他方より意味用法が多かったり使用範囲が広がったりしているので、複雑な対応関係をなしているのである。特に日本語では名詞や序数詞やサ変動詞を兼ねたりしている数量詞の使い方に注意が必要である。また中国語で多用される動量詞、日本語に対応する訳語がない言葉、もともと日本語で数えられない言葉にも量詞が使われるので、適当な日訳が難しい。

第九章は「『写』のついている中日同形語」で、「写」が中国語での意味の変遷を考察し、「写」のついている中日同形語の意味の異同を比較した。その中日同形語の意味の異同が



「写」の意味に大きく左右されている。「写」の中国語での意味変遷は印刷術の発明やカメラと写真技術の影響を強く受けた。

第十章は中国語で形容詞である中日同形語の誤用について検討した。記述方式の調査データに対する分析を通して、中国語で形容詞である同形同義語が日本語で形容動詞である場合、品詞性の誤用が少ないこと、日本語で名詞だけである場合とサ変動詞である場合、品詞性の誤用が起こりやすいこと、中国語で形容詞である同形異義語の誤用の実態が複雑であることが分かった。また中国語の形容詞が日本語と品詞性が違う要因は中国語と日本語の形容詞の定義の違いと中国語の動詞・名詞の形容詞化が挙げられる。

中国語の影響を克服するために、まず同形語であっても、意味用法が同じであるとは限らないという意識を持たせなければならない。日本語学習者に中日同形語の違いに気付いてもらえれば、誤用が大幅に減ると考えられる。



## 参考文献

日本で出版された論文と単行本：

- 相原茂ほか(1995)『中国語類義語のニュアンス』,東方書店.
- 赤塚忠(1986)『石鼓文』,明德出版社.
- 阿辻哲次(2007)『近くて遠い中国語:日本人のカンちがい』,中央公論新社.
- 荒川清秀(1978)「日中両国語における漢字」『文学論叢』第60輯 愛知大学文学会.
- 荒川清秀(1988)「複合漢語の日中比較」『日本語学』7(5), pp. 56-67.
- 荒川清秀(1997)『近代日中学術用語の形成と伝播』白帝社.
- 荒川清秀(2002)「日中漢語語基の比較」『國語學』53(1), pp. 84-96.
- 荒川清秀(2007)「日中両国語における漢語語基の意味と造語力」彭飛編『日中対照言語学研究論文集』,和泉書院.
- 荒屋勸(1983)「日中同形語」『大東文化大学紀要人文科学』21, pp. 17-29.
- 飯嶋美知子(2007)「論説文の訳文から見た受動文の日中対照研究-中国語母語話者への教育の一環として-」『早稲田大学日本語教育研究』10, pp. 17-30.
- 飯田寿子(2002)「並立関係をもつ合成語の特徴:二構成要素での結合関係を中心に」『言語科学論集』6, pp. 25-36. 東北大学大学院
- 庵功雄(2008)「漢語サ変動詞の自他に関する一考察」『一橋大学留学生センター紀要』11, pp. 47-63.
- 庵功雄(2010)「中国語話者の漢語サ変動詞の習得に関わる一要因-非対格自動詞の場合を中心に」日本語教育 146, pp. 174-181.
- 石川忠久(1997-2000)『詩経,上,中,下』(新釈漢文大系:110-112),明治書院.
- 石井正彦(1987)「漢語サ変動詞と複合動詞」『日本語学』6,明治書院.
- 一海知義(2011)『漢語の知識』第20刷改版,岩波書店.
- 李漢燮(2010)『近代漢語研究文献目録』,東京堂出版.
- 上野恵司(1989)『中国ことばの旅:中国語を知るための81章』,白帝社.
- 上野恵司,玄宜青(1992)『中国語考えるヒント』,中華書店.
- 上野恵司,魯曉琨(1995)『おぼえておきたい日中同形異義語 300』,光生館.
- 王軼群(2009)『空間表現の日中対照研究』,くろしお出版.
- 王永全・小玉新次郎(2007)『日中同形異義語辞典』,東方書店.
- 王学群(2007)『中国語の“V着”に関する研究』,白帝社.
- 王硯農,焦龐顯編著/林芳編集・監訳(1993)『中国語動詞活用辞典』,東方書店.
- 王蜀豫(1997)「日中両国語における同形語についての対照的研究:時間語彙における意味のずれを中心に」『現代社会文化研究』9, pp. 1-22.
- 王敏(2004)『「意」の文化と「情」の文化:中国における日本研究』,中央公論新社.
- 王宝平・高野繁男(2002)「日中現代漢語の層別:日中同形語にみる」『日中文化論集:神奈



- 川大学・浙江大学学術交流十周年記念:多様な角度からのアプローチ』, pp. 118-139, 神奈川大学人文学研究所編 勁草書房.
- 大井京・齋藤洋典(2009)「2言語併用者による日中同形語の意味処理における第2言語熟達度の影響」『認知心理学研究』7(1), pp. 1-8.
- 大河内康憲(1992)「日本語と中国語の同形語」大河内康憲編『日本語と中国語の対照研究 論文集(下)』所収, pp. 179-215, くろしお出版.
- 大河内康憲(1997)『中国語の諸相』, 白帝社.
- 大塚秀明(1990)「日中同形語について」『外国語教育論集』第12号 pp. 327-337, 筑波大学外国語センター.
- 岡益巳(2002)「日本経済語彙における日中両語でのずれについて」『日本語教育』113号 pp. 63-72.
- 奥野信太郎, 常石茂, 村松暎訳(1960)『児女英雄伝 上』, 平凡社.
- 奥野信太郎[ほか]訳(1961)『児女英雄伝 下 鏡花縁』, 平凡社.
- 影山太郎(1993)『文法と語形成』, ひつじ書房.
- 加藤稔人(2005)「中国語母語話者による日本語の漢語習得—他言語話者との習得過程の違い—」『日本語教育』125, pp. 96-105.
- 何宝年・池澤稔(1995)「中日における語意の異同」『北海道教育大学紀要第一部A, 人文科学編』45(2), pp. 61-69.
- 何宝年(2005)「中日同形漢語の誤用分析」『日本学論壇』第二期, pp. 76-84. 新日本文化研究会.
- 何宝年(2008)「語構成から見る中日同形語」『日本語教育学世界大会 2008 予稿集2』, pp. 15-18. 大韓日語日文学会.
- 何宝年(2008)「中日同形語の「落花流水」考」『日本学論壇』第一期, pp. 34-41, 新日本文化研究会.
- 何宝年(2009)「「写」のついている中日同形語」『言語文化』17, pp. 24-39, 愛知淑徳大学言語コミュニケーション学会.
- 何宝年(2010)「中日同根語について」『愛知淑徳大学論集—グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科篇—』第2号, pp. 19-34.
- 何宝年(2010)「中日漢字の字形比較研究」『言語文化』18, pp. 11-26, 愛知淑徳大学言語コミュニケーション学会.
- 何宝年(2010)「時空から見る中日同形語」『日本学論壇』第一期, pp. 1-12, 新日本文化研究会.
- 何宝年(2011)「語構成から見た中日同形語」『JSL 漢字学習研究会誌』3, pp. 43-50.
- 何宝年(2011)「「中日同形語」の定義」『言語文化』19, pp. 35-49, 愛知淑徳大学言語コミュニケーション学会.
- 韓非原著、本田済訳(1969)『韓非子』, 筑摩書房.



- 木村裕章(2010)「日本語と中国語における自・他動詞の対応と分類」『東亜大学紀要』11, pp. 1-21.
- 木村裕章(2004)「中国語における自動詞と他動詞の分類について」『東亜大学紀要』3, pp. 37-51.
- 邱學瑾(2003)「台湾人日本語学習者における日本語漢字熟語の処理過程:日・中2言語間の同根語と非同根語の比較」『広島大学大学院教育学研究科紀要第二部, 文化教育開発関連領域』51号, pp. 357-365.
- 邱俞瑗(2007)「台湾人日本語学習者における日本語単語の聴覚的認知——同根語・非同根語・ひらがな単語・カタカナ単語の比較——」『日本語教育』132号, pp. 108-117.
- 許羅莎(1997)「日中同形語の意味的特徴—怒り・喜び・悲しみを中心に—」『東洋大学大学院紀要』第34集, pp. 264-247, 東洋大学東洋大学院.
- 倉石武四郎(1981)『ことばと思惟と社会』, くろしお出版.
- 黒田晃代(1981)「三字漢語の語構成」『国文学会誌』16, pp. 31-39.
- 高偉建(1989)「日中同形語の対照研究」『日本学報』8号, pp. 79-102, 大阪大学.
- 高偉建(1995)「喚情的前提に関する日中同形語の対照研究:前提評価語の「評価(する)」「指摘(する)」を中心に」『現代日本語研究』2, pp. 137-154.
- 香坂順一(1983)『白話語彙の研究』, 光生館.
- 香坂順一(1983)中国語研究学習双書7『中国語の単語の話:語彙の世界』, 光生館.
- 香坂順一, 羅小東(1992)『おぼえておきたい中国語慣用語 300』, 光生館.
- 香坂順一, 羅小東(1992)『おぼえておきたい中国語成語 300』, 光生館.
- 香坂順一, 施一昕(1995)『おぼえておきたい中国語歇後語 300』, 光生館.
- 洪誠原著/森賀一恵, 橋本秀美訳(2003)『訓詁学講義:中国古語の読み方』, アルヒーフ/すずさわ書店.
- 小林英樹(2004)『現代日本語の漢語動名詞の研究』, ひつじ書房.
- 小松睦子&ことば探偵団(2004)『ものの数えかた』, 幻冬舎コミックス.
- 五味政信、今村和宏、石黒圭(2006)「日中語の品詞のズレ:二字漢語の動詞性をめぐって」『一橋大学留学生センター紀要』9, pp. 3-13.
- 顧明耀(1991)「日中同形同義語の相違点」『外国語教育論集』13, pp. 157-174.
- 小森和子・玉岡賀津雄・近藤安月子(2008)「中国語を第一言語とする日本語学習者の同形語の認知処理—同形類義語と同形異義語を対象に—」『日本語科学』23, pp. 81-94.
- 斉藤倫明・石井正彦(1997)『語構成』, ひつじ書房.
- 蔡鳳香・松見法男(2009)「中国語を母語とする上級日本語学習者における日本語漢字単語の処理過程——同根語と非同根語を用いた言語間プライミング法による検討——」『日本語教育』141号 pp. 14-24.
- 三省堂編修所編(1996)『新しい国語表記ハンドブック』第四版, 三省堂.



- 篠田幸夫(1997)「石鼓文製作年代攷:『詩経』・秦公諸器銘文との比較に於いて」『二松學舎大學論集』40, pp. 107-131, 二松學舎大學.
- 下平芳久(2004)「初級日本語教材における日中同形異義語」『愛知産業大学日本語教育研究所紀要』(1), pp. 3-15.
- 朱京偉(2003)『近代日中新語の創出と交流:人文科学と自然科学の専門語を中心に』, 白帝社.
- 朱德熙著、松村文芳・杉村博文訳(1988)『現代中国語文法研究』, 白帝社.
- 東海林万結美(2009)「日中同形語の対照研究」『帝京日本文化論集』16, pp. 173-196.
- 沈国威(1990)「[V+N] 構造の二字漢語名詞について」『国語学』160, pp. 134-124.
- 沈国威(2008)『近代日中語彙交流史:新漢語の生成と受容』改訂新版, 笠間書院.
- 石堅・王建康(1983)「日中同形語における文法的ズレ」『「日本語と中国語の対照研究」別冊』, pp. 56-82.
- 曹櫻(2003)「日中同形語について」『大阪工業大学紀要 人文社会篇』48(1), pp. 11-36.
- 莊巖(2001)「日中同形語の意味相違についての考察」『ICU 日本語教育研究センター紀要』10, pp. 67-70.
- 蘇小楠(2006)『近代日中学術用語の生成及び変遷:化学用語を中心に』, 語彙研究会.
- 曾根博隆(1988)「日中同形語に関する基礎的考察」『明治学院論叢』424, pp. 61-96.
- 竹内照夫(1971-1979)『礼記, 上, 中, 下』, 明治書院.
- 竹田治美(2005)「「日中同形類義語」について」『人間文化研究科学年報』20, pp. 335-341, 奈良女子大学大学院人間文化研究科.
- 橘純信(1994)「現代中国語における中日同形語の占める割合」『国際関係学部研究年報(日本文学)』15, pp. 101-116, 日本大学国際関係学部.
- 千葉謙悟(2010)『中国語における東西言語文化交流:近代翻訳語の創造と伝播』, 三省堂.
- 張威(1998)『結果可能表現の研究:日本語・中国語対照研究の立場から』, くろしお出版.
- 張起旺著/児玉充代訳(2001)『日本人の間違えやすい中国語』, 国書刊行会.
- 趙曉曦(2006)『「一」から見た中国語と日本語の数量表現』, 愛知淑徳大学大学院修士論文.
- 張勤(1999)『比較言語行為論:日本語と中国語を中心に』, 好文出版.
- 張志剛(2010)『語構成による漢語動詞の自他使用の予測可能性:形容詞性要素と動詞性要素からなる漢語動詞の場合』『言語社会』4, pp. 257-266, 一橋大学大学院言語社会研究科.
- 張善実(2010)「V-N 型の漢語動詞の語構成と自他」『言葉と文化』11, pp. 155-164.
- 張麟声(1983)「日中両語の序数詞」『日本語学』8月号, pp. 91-99.
- 張麟声(1995)「再び「中日両語の助数詞」について」宮地裕・敦子先生古稀記念論集刊行会編『日本語の研究』, 明治書院, pp. 445-453.
- 張麟声(2004)『日中ことばの漢ちがい』, くろしお出版.
- 張麟声(2009)「作文語彙に見られる母語の転移—中国語話者による漢語語彙の転移を中心に」『日本語教育』140, pp. 59-69.



- 陳毓敏(2003)「中国語を母語とする日本語学習者における漢語習得研究の概観—意味と用法を中心に—」『言語文化と日本語教育』2003年11月増刊特集号, pp. 96-113.
- 陳力衛(2001)『和製漢語の形成とその展開』, 汲古書院.
- 陳力衛(2008)『日本の諺・中国の諺: 両国の文化の違いを知る』, 明治書院.
- 陶芸(2006)「日中同形語「審判」、「裁判」の語史の考察」『言語文化研究』5, pp. 37-49.
- 中川正之, 李浚哲(1992年)「日中両国語における数量表現」『日本語と中国語の対照研究論文集(上)』, pp. 95-116, くろしお出版.
- 中川正之(1992)「漢語の語構成」『日本語と中国語の対照研究論文集(下)』pp. 129-144, くろしお出版.
- 中川正之(2005)『漢語からみえる世界と世間』, 岩波書店.
- 永澤済(2007)「漢語動詞の自他体系の近代から現代への変化」『日本語の研究』3(4), pp. 17-32, 日本語学会.
- 中島悦子(2007)「受身と日中対照」『日中対照研究ヴォイス: 自・他の対応・受身・使役・可能・自発』, おうふう.
- 中野洋・張建華・林翠芳(1997)「中国人学生の日本語作文調査」『国際社会における日本語についての総合研究 研究報告集』, 国立国語研究所.
- 南京中医学院編纂、島田隆司翻訳(1992)『黄帝内経素問現代語訳上』, 東洋学術出版社.
- 西川和男(1991)「現代漢語頻率詞典」からみた「日中同形語」について『関西大学文学論集』40(3), pp. 49-65.
- 西谷まり(2004)「社会科学分野で使われる日中同形異義語」『一橋大学留学生センター紀要』7, pp. 15-28.
- 日中対照言語学会(2002)『日本語と中国語のアспект』, 白帝社.
- 日中対照言語学会(2008)『日本語と中国語の可能表現』, 白帝社.
- 日本語記述文法研究会(2009)『格と構文/ヴォイス』, くろしお出版.
- 野村雅昭(1987)「複合漢語の構造」『朝倉日本語新講座1 文字表記と語構成』, 朝倉書店.
- 野村雅昭(1988)「二字漢語の構造」『日本語学』5月号, 明治書院.
- 野村雅昭(1998)「現代漢語の品詞性」『東京大学国語学研究室創設百周年記念国語研究論集』, 汲古書院.
- 野村雅昭(1998)「結合専用形態の複合字音語基」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』11, pp. 149-162.
- 野村雅昭(1999)「サ変動詞の構造」『日本語研究と日本語教育』, 明治書院.
- 野村雅昭(1999)「字音形態素考」『國語と國文學』76(5), pp. 1-10.
- 林四郎(1981)「漢字基底語考」『文藝言語研究 言語篇』巻5, pp. 23-46, 筑波大学文芸・言語学系.
- 林四郎・松岡榮志(1995)『日本の漢字・中国の漢字』, 三省堂.
- 日向敏彦(1985)「漢語サ変動詞の構造」『上智大学国文学論集』18, pp. 161-179.



- 文化庁(1972)『日本語と日本語教育 語彙編・文法編』,大蔵省印刷局.
- 文化庁(1978)『中国語と対応する漢語』,早稲田大学語学教育研究所日本語科.
- 文化庁(1983)『漢字音読語の日中対応』,大蔵省印刷局.
- 彭飛(2005)『日本語の「配慮表現」に関する研究:中国語との比較研究における諸問題』,和泉書院.
- 彭飛企画・編集(2007)『日中対照言語学研究論文集:中国語からみた日本語の特徴日本語からみた中国語の特徴』,和泉書院.
- 丸尾誠(2005)『現代中国語の空間移動表現に関する研究』,白帝社.
- 三浦昭(1984)「日本語から中国語に入った漢語の意味と用法」『日本語教育』53, pp. 102-112.
- 三宅恭子(2002)「言語による心的辞書構造の違い」『ことばの科学』15号, pp. 159-178.
- 三宅恭子(2003)「バイリンガルにおける概念の活性化と文化的要因」『ことばの科学』16号, pp. 67-86.
- 三宅恭子(2005)「バイリンガル記憶表象研究:定義上のあるいは方法論的課題の検討」『国際開発研究フォーラム』29号, pp. 47-59.
- 宮島達夫(1994)『語彙論研究』,むぎ書房.
- 宮地裕編(2005)『漢字・漢語』「日本語学」特集テーマ別ファイル5, 明治書院.
- 宮地裕編(2005)『語彙, 1, 2』「日本語学」特集テーマ別ファイル3・4, 明治書院.
- 村木新次郎(2009)「日本語の形容詞—その機能と範囲」『国文学:解釈と鑑賞』74(7), pp. 6-19.
- 村木新次郎(1991)『日本語動詞の諸相』,ひつじ書房.
- 村木新次郎(2004)「漢語の品詞性を再考する」『同志社女子大学日本語日本文学』16, pp. 1-35.
- 村田年(1998)「経済学専門用語三字漢語の語構成:専門分野導入期の日本語教育の方法を探る」『日本語と日本語教育』26, pp. 1-11.
- 村田年(1996)「経済学専門用語四字漢語の語構成—専門分野導入期の日本語教育の方法を探る」『日本語教育』91, pp. 84-95.
- 望月八十吉(1974)『中国語研究学習双書 13 中国語と日本語』,光生館.
- 守屋宏則(1978)「資料・日中同形語—その意味用法の差違—」『日本語学校論集』6, pp. 159-168, 東京外国語大学外国語学部附属日本語学校.
- 森田良行(1991)『語彙とその意味』,アルク.
- 安本真弓(2009)『現代中国語における可能表現の意味分析:可能補語を中心に』白帝社.
- 山田孝雄(1940)『國語の中に於ける漢語の研究』,寶文館.
- 楊華(2009)「中国語の形容詞と日本語の形容詞」『国文学:解釈と鑑賞』74(7), pp. 171-181.
- 楊凱榮(1989)『日本語と中国語の使役表現に関する対照研究』,くろしお出版.
- 吉田雅子(2005)「二字漢語の日中対照—「参考」「参照」を手がかりに—」『専修人文論集』77, pp. 135-158.
- 吉永尚(2008)『心理動詞と動作動詞のインターフェイス』,和泉書院.



- 余翌珍(2004) <中日同形词“褒贬义”研究> Bibliographic Citation Hiroshima interdisciplinary studies in the humanities Vol. 3, pp. 77-84.
- 李薇(2003)「現代日中同形異義語について:「遠慮」・「応酬」をめぐって」『上智大学国文学論集』36, pp. 79-96.
- 劉月華ほか、片山博美ほか訳(1988-1991)『現代中国語文法総覧, 上, 下』, くろしお出版.
- 劉徳有(2006)『日本語と中国語』, 講談社.
- 劉凡夫(1988)「日中同形語「教師」・「教員」の交渉史と語義の比較」『国語学研究』28, pp. 49-60.
- 林玉恵(2002)「日華・日漢辞典からみた日中同形語記述の問題点: 同形類義語を中心に」『世界の日本語教育 日本語教育論集』12, pp. 107-121.
- 林玉恵(2002)「調査報告 字形の誤用からみた日中同形語の干渉及びその対策——台湾人日本語学習者を中心に」『日本語教育』112号, pp. 45-54.
- 林翠芳・黄力游(2004)「日中同形異義語における誤用に関する一考察」『ポリグロシア』9, pp. 121-133.
- 盧濤(2000)『中国語における「空間動詞」の文法化研究: 日本語と英語との関連で』, 白帝社.

#### 名古屋大学博士論文

- 馮富榮(1995)『中国人の日本語構文文法学習における母語(中国語)の影響について』.
- 宋協毅(1997)『「始・続・終」を表す類似補助動詞及び関連の補助動詞の研究-日本語の過程重視の視点から』.
- 王春(1998)『日中語彙の比較語彙論的研究-基幹語彙を対象としての試み』.
- 林玉恵(2001)『日中語彙における日中同形語の比較研究』.
- 王淑琴(2002)『意味から見た語形成: 接尾辞「-的」「-化」「-性」の語基に課される制約』.

#### 日本で出版された辞書:

- 愛知大学中日大辞典編纂所(2010)『中日大辞典』第3版, 大修館書店.
- 相原茂(2010)『中日辞典』講談社.
- 相原茂(2006)『日中辞典』講談社.
- 荒屋勸(1995)『中国語常用動詞例解辞典』, 紀伊國屋書店.
- 飯田朝子(2004)『数え方の辞典』, 小学館.
- 王永全・小玉新次郎(2007)『日中同形異義語辞典』, 東方書店.
- 沖森卓也ほか(2008)『ベネッセ表現読解国語辞典』, 株式会社ベネッセコーポレーション.
- 北原保雄(2002)『明鏡国語辞典』, 大修館書店.
- 国語学会(1973)『国語学辞典』, 東京堂.
- 国語学会編(1980)『国語学大辞典』, 東京堂出版.



近藤いね子・高野フミほか(2002)『小学館プログレッシブ和英中辞典』,小学館.  
 佐藤喜代治(1977)『国語学研究事典』,明治書院.  
 柴田武、酒井憲二、倉持保男、山田明雄編集(2005)『新明解国語辞典』第六版,三省堂.  
 小学館『大辞泉』編集部(1998)『大辞泉』増補・新装版,小学館.  
 惣郷正明・飛田良文(1986)『明治のことば辞典』,東京堂出版.  
 藤堂明保・松本昭・竹田晃・加納喜光編(2007)『漢字源』,学習研究社.  
 新村出(1998)『広辞苑』第五版,岩波書店.  
 新村出(2008)『広辞苑』,岩波書店.  
 西尾実・岩淵悦太郎・水谷静夫(2000)『岩波国語辞典』第6版,岩波書店.  
 日本大辞典刊行会(1981)『日本国語大辞典』,小学館.  
 武柏索・王淑文・周国強(1995)『中国語量詞500』,東京中華書店.  
 北京・商務印書館/小学館共同編集(2003)『中日辞典』第2版,小学館.  
 松村明(1988)『大辞林』,三省堂.  
 松村明(2006)『大辞林』第三版,三省堂.  
 森岡健二(2000)『集英社国語辞典』,集英社.  
 森田良行(2007)『助詞・助動詞の辞典』,東京堂出版.  
 諸橋轍次(1984)『大漢和辞典』,大修館書店.  
 山口明穂,秋本守英(2001)『日本語文法大辞典』,明治書院.  
 山田忠雄ほか編(2005)『新明解国語辞典』,第六版.  
 李清華・大瀧幸子(1990)『中国語離合詞500』,東方書店.

中国で出版された論文と単行本:

蔡永強(2010)《汉语方位词及其概念隐喻系统》中國社会科学出版社.  
 陳夢雷(清)等編(1988-1991)《古今圖書集成医部全錄》人民衛生出版社.  
 储泽祥(2010)《汉语空间短语研究》北京大学出版社.  
 崔新梅(2009)《关联词语量词》苏州大学出版社.  
 村木新次郎(2004)「現代日本語における漢語の品詞性」《日語研究》2,商务印书馆.  
 戴德/董仲舒(漢)撰(1989)《大戴禮記》上海书店.  
 誕叟(清)(1997)《樗枰萃編》上海古籍出版社.  
 兒島慶治(2005)の「現代若者の「写真」認識」《日本学刊》第9号, pp. 40-56, 香港日本語教育研究会編.  
 房玄齡注(1989)《管子》上海古籍出版社.  
 冯梦龙編(1998)《警世通言》上海古籍出版社.  
 冯梦龙(明)改編(2001)《东周列国志》上海古籍出版社.  
 葛本儀(2001)《现代汉语词汇学》山东人民出版社.  
 葛洪(1985)《抱朴子内外篇》中华书局.



- 郭彖(1985)《睽車志》中华书局.
- 国家语言文字工作委员会标准化工作委员会(2000)《现代汉语通用字笔顺规范》语文出版社.
- 何杰(2008)《现代汉语量词研究》增编版 北京语言大学出版社.
- 何薇,林齐倩,陶家骏(2009)《介词代词》苏州大学出版社.
- 侯敏,周荐(2008)《汉语新词语, 2007》商务印书馆.
- 侯仁锋(1997)「同形語の品詞の違いについての考察」《日本学研究》6, pp. 78-88, 北京日本学研究中心.
- 李鑫荃(2006)《雍正剑侠图》中华书局.
- 李运博(2006)『中日近代词汇的交流』南开大学出版社.
- 李晓琪(2005)《现代汉语虚词讲义》北京大学出版社.
- 李月松(1998)《现代日语中的汉字研究》上海外语教育出版社.
- 凌濛初著(1998)《二刻拍案惊奇》上海古籍出版社.
- 劉春卉(2008)《現代漢語屬性範疇研究》巴蜀書社.
- 刘吉艳(2010)《汉语新词群研究》学林出版社.
- 刘乃叔,敖桂华(2004)《近义词使用区别》北京语言大学出版社.
- 刘元满(2004)《汉字在日本的文化意义研究》北京大学出版社.
- 卢英顺(2007)《现代汉语词汇学》复旦大学出版社.
- 鲁宝元(2005)『日本語と中国語の対照研究と中国語教育』华语教学出版社.
- 鲁迅(1981)《〈嵇康集〉跋》《鲁迅全集》第九卷,人民文学出版社.
- 吕叔湘(1963)《语文常谈》载《吕叔湘全集》第6卷,辽宁教育出版社 2002.
- 呂叔湘(1980)《現代漢語八百詞》商務印書館.
- 马庆株(2005)《二十世纪现代汉语语法论文精选》商务印书馆.
- 潘钧(1995)〈中日同形词词义差异原因浅析〉《日语学习与研究》3, pp. 19-23.
- 屈哨兵(2008)《现代汉语被动标记研究》华中师范大学出版社.
- 沈宇澄·周星(1998)《现代日语词汇学》上海外语教育出版社.
- 沈国威(2010)《近代中日词汇交流研究:汉字新词的创制、容受与共享》中华书局.
- 沈力,赵华敏(2009)《汉日理论语言学研究》學苑出版社.
- 宋文辉(2007)《现代汉语动结式的认知研究》北京大学出版社.
- 孫玉文(2007)〈上古汉语词缀构拟析评(上)〉《汉江大学学报(人文科学版)》第26卷第3期, pp. 39-46.
- 唐瑛(2002)〈同根词“玉”文化考察〉《四川师范学院学报(哲学社会科学版)》第04期, pp. 9-11.
- 万玲华(2004)《中日同字词比较研究》华东师范大学博士论文.
- 万献初(2004)《汉语构词论》湖北人民出版社.
- 王力(2004)《汉语史稿》中华书局.
- 王勤(2006)《汉语熟语论》山东教育出版社.
- 王盛婷(2006)〈试说汉魏六朝碑同根葬词〉《西华师范大学学报(哲学社会科学版)》



第 02 期, pp. 85-89.

王忻(2006)《中国日语学习者偏误分析》外语教学与研究出版社.

温端政·吴建生(2009)《汉语语汇学研究》商务印书馆.

温端政(2005)《汉语语汇学》商务印书馆.

文康(清)(2001)《儿女英雄传》上海古籍出版社.

吴侃(1995)《日语词汇研究》上海外语教育出版社.

無名氏(1991)《京本通俗小説等五種》江蘇古籍出版社.

吴趸人(清)(2001)《二十年目睹之怪现状》上海古籍出版社.

徐杰, 姚双云(2009)《动词与宾语问题研究》华中师范大学出版社.

徐宝贵(2008)《石鼓文字考釋》《石鼓文整理研究》下 中华书局.

徐通鏞(2008)《汉语字本位语法导论》山东教育出版社.

许威汉(2000)《二十世纪的汉语词汇学》书海出版社.

薛豹(2002)「日中対立構造語の研究——日中同形語を中心として」《日语研究》第三辑  
外语教学与研究出版社出版发行.

杨春(2004)《现代汉语中的异形词》华夏出版社.

杨德峰(2008)《日本人学汉语常见语法错误释疑》商务印书馆.

杨自俭(2008)《字本位理论与应用研究》山东教育出版社.

尹明主编(1994)《刘公案》天津古籍出版社.

翟东娜(2000)《浅析汉日同形词的褒贬色彩与社会文化因素》《日语学习与研究》第 02  
期, pp32-35.

张国宪著(2006)《现代汉语形容词功能与认知研究》商务印书馆.

张黎(2007)《日本现代汉语语法研究论文选》北京语言大学出版社.

张谊生(2004)《现代汉语副词探索》學林出版社.

张谊生(2010)《现代汉语副词分析》上海三联书店.

周荐(2006)《词汇学词典学研究》商务印书馆.

周平·陈小芬(1994)《新编日语》第 3 册上海外语教育出版社.

周筱娟(2008)《现代汉语礼貌语言研究》中国社会科学出版社.

朱京伟(2005)《日语词汇学教程》外语教学与研究出版社.

朱京伟(1999)《日造汉字词的结构分析和语义分析》《日语学习与研究》第 4 期 pp. 20-30.

朱京伟(2000)《关于日语汉字词的同音替换问题》《日语学习与研究》第 3 期 pp. 7-14.

朱京伟(2002)《从构词要素看汉语造词和日语造词》第 4 期 pp. 19-33.

朱彦(2004)《汉语复合词语义构词法研究》北京大学出版社.

庄周(1995)《庄子》北京燕山出版社.

中国語で出版された辞書:

陈高春(1989)《使用汉语语法大辞典》职工教育出版社.



汉语大词典编辑委员会, 汉语大词典编纂处编纂(1986-1994)《汉语大词典》上海辞书出版社.  
汉语大字典编辑委员会编(1986-1990)《汉语大字典》四川·湖北辞书出版社.  
黄力游·林翠芳(2004)《日汉同形异义词词典》外语教学与研究出版社.  
商务印书馆编辑部(1979)《辞源》商务印书馆.  
商务印书馆辞书研究中心(2003)《新华新词典辞典》商务印书馆.  
汪大捷·张静容(1986)《中日两用日汉双解同形异义日语汉字词典》中国农业机械出版社.  
王国璋主编(2001)《汉语褒贬义词语用法词典》华语教学出版社.  
張玉書(清)等編纂(2002)《康熙字典》漢語大詞典出版社.  
中国社会科学院语言研究所词典编辑室(2005)《现代汉语词典》第5版 商务印书馆.

インターネットサイト :

<http://cd.kdd.cc/S/1QD/>

<http://cd.kdd.cc/R/1QE/>

<http://dejikame.jp/rensy.html>

<http://dic.yahoo.co.jp/guide/jj02/>

<http://homepage2.nifty.com/B2ON/dc/rensy.htm>

<http://www.hudong.com/wiki/%E5%90%8C%E6%A0%B9%E8%AF%8D>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%90%8C%E6%A0%B9%E8%AA%9E>

<http://jw.dhu.edu.cn/dhu/502.html>

<http://www.nciku.com/search/zh/detail/>

<http://zhidao.baidu.com/question/30957793.html>

晏几道(宋)《晏几道词选》<http://guji.artx.cn/Article/11169.html>

北京大学汉语语言学研究 中心 CCL 语料库 [http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl\\_corpus/search?](http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/search?)

葛洪(晋)抱朴子·遐览》中国古籍全录 <http://guji.artx.cn/Article/9275.html>

纪昀等(清)《四库全书总目提要》<http://guji.artx.cn/Article/18506.html>

李昉《太平广记》卷第一百一十四 报应十三(崇经像)<http://guji.artx.cn/Article/27104.html>

陆游(宋)《陆游诗全集》 卷四 <http://guji.artx.cn/Article/13191.html>

吕安世《二十四史通俗演义》<http://guji.artx.cn/Article/30539.html>

马端临《文献通考卷一百七十四·经籍考一》 : <http://guji.artx.cn/Article/1509.html>

苏轼(宋)《苏轼诗全集》<http://guji.artx.cn/Article/11138.html>

楊慎(明)《昇庵詩話(七)》<http://guji.artx.cn/Article/13990.html>

杨致和《西游记传》 第七回 <http://guji.artx.cn/Article/24026.html>

竹秋氏《绘芳录》 第四回 <http://guji.artx.cn/Article/25670.html>

《新华字典》<http://tool.httpcn.com/>

中国知网 : <http://www.cnki.com.cn/>

中国古籍全录 : <http://guji.artx.cn/>



## 謝 辞

本研究を順調に進めることができ、論文を完成できたのは指導教員の山内啓介教授のご指導の賜物にほかなりませんから、山内教授に心より感謝の意を申し上げます。山内啓介教授から、丁寧かつ熱心な、厳しくもあり優しくもある学術的なご指導を賜りました。感謝の気持ちは言葉では表現できないほどです。

愛知淑徳大学で充実した留学生活を送っている間、国際交流センターや図書館などの方々にいろいろお世話になりました。心より感謝の意を申し上げます。

本研究の調査を実施するとき、中国南京、上海、南通、揚州、徐州、広州の10の大学の先生方と学生の皆さんのご協力いただきました。深く感謝の意を表わしたいです。

そして、精神的にも経済的にも支えてくれた家族に感謝します。